

ISSN 0386-6211

北海道立農試資料 第18号  
Misc. Pub. Hokkaido  
Prefect. Agric. Exp. Stn.  
No. 18, p.1-149 February, 1987

北海道立農業試験場資料 第18号

Miscellaneous Publication of Hokkaido  
Prefectural Agricultural Experiment Stations  
No. 18, February 1987

---

農作物優良品種の解説

(1978—1986)

Varieties of Field Crops in Hokkaido

(1978—1986)

---

昭和62年2月

北海道立中央農業試験場

Hokkaido Central  
Agricultural Experiment Station  
(Naganuma, Hokkaido, 069-13 Japan)

## 序

北海道農業はこの四半世紀の間に土地基盤整備、大型機械化、規模拡大が進み、最新技術の導入定着とあいまって生産性は著しく向上した。そして従来の原料供給型から総合的食糧供給型へ進路も拡幅しようとしている。

しかし、恒常的に頻発する冷湿害や作付作目の単純化が惹起する連作障害などによる生産不安定性という問題を内包しており、また、食生活の高級化、個性化に伴い消費者、実需者のニーズに合った安くて良質な食糧、加工原料の供給も大きな課題となっている。

道内の農業試験研究機関はこれらの課題や要望に応えるべく技術開発に努めているが、とりわけその中核である品種開発については初期世代での品質検定、加工適性検定、暖地利用あるいはバイオテクノロジーなど先端技術の手法による育種年限短縮等、更には民間団体との共同研究の推進により強力に取り組んできたところである。

昭和54年3月に北海道立農業試験場資料第9号として「農作物優良品種の解説(1961~1977)」を刊行してから数年を経たに過ぎないが、この間に主要農作物、特産的果樹、野菜、花卉、あるいは牧草、飼料作物等25作物について90品種が北海道の優良品種として普及に移されている。

本書はこれら品種の特性を紹介し普及に当たっての参考に供するため刊行したものである。本書の利活用が北海道農業の一層の生産性向上に役立てれば幸いである。

昭和61年11月

北海道立中央農業試験場長 森 義 雄

## はじめに

1. 登載した品種は、1978年(昭53)から1986年(昭61)の9年間に、北海道農業試験会議(成績会議)の検討を経て、北海道種苗審議会で優良品種に決定された全品種をとりあげた。その作物別の品種数はつぎのとおりである。

普通作物	44品種
特用作物	8 //
果樹	9 //
野菜	17 //
花卉	1 //
飼料作物	11 //
計	90 //

2. 付表の北海道登録品種一覧には、1985年(昭60)に定められた北海道農作物優良品種認定要領によって、登録簿に登載ずみの全品種をとりあげた。
3. 記載内容は、北海道農業試験会議で検討された資料に基づいているが、その後に変更または追加されたことが明らかにされているものは、それに従って書き改めた。
4. 記事は、後木利三前原原種農場長が執筆し、企画編集担当が各農業・畜産試験場の育種担当者の協力を得て校閲した。
5. 企画編集担当

中川 渡	砂田 喜与志	佐々木 多喜雄
三木 英一	平山 秀介	天野 義克
大橋 尚夫	村上 紀夫	田川 雅一

北海道立農業試験場資料 第18号

昭和62年2月

農作物優良品種の解説

後木利三\* 執筆

目次

I 普通作物	1
1. 水稲	
<稈種>	
(1) しまひかり (渡育214号)	1
(2) みちこがね (空育110号)	2
(3) ともひかり (空育111号)	4
(4) キタアケ (道北36号)	5
(5) ゆきひかり (空育114号)	7
<糯種>	
(6) たんねもち (上育糯381号)	8
2. 小麦	
<春播小麦>	
(1) ハルユタカ (北見春47号)	10
<秋播小麦>	
(2) チホクコムギ (北見42号)	12
3. えん麦	
(1) アキユタカ (北海21号)	13
4. とうもろこし	
<飼料用>	
(1) リザ (Liza)	14
(2) ワセミノリ (SH-250)	15
(3) ニューデント・85日 (SH-10)	16
(4) ブルータス (MTC-1)	17
(5) バッフアロー (SH-145)	17
(6) ダイヘイゲン (道交S 4号)	18
(7) RX42 (RX42)	19
(8) JX92 (JX92)	20
(9) デントン (MTC-1C)	21
(10) P3906 (P3906)	22
(11) ヒノデワセ (道交S 8号)	23
(12) P3732 (P3732)	24
(13) ロイヤルデント85 (LG 5)	25
(14) エマ (PH1201)	26

(05) ディア (PH2202) .....	27
(06) ソロ100H (TH211A) .....	28
(07) P3747 (PH3201) .....	28
<b>5. 大豆</b>	
(1) ユウヒメ (中育8号) .....	29
(2) キタホマレ (十育171号) .....	30
(3) スズヒメ (十育182号) .....	31
(4) コمامスメ (中育9号) .....	33
(5) ツルコガネ (中育14号) .....	34
(6) トカチクロ (十育184号) .....	35
(7) トヨムスメ (十育191号) .....	36
<b>6. 小豆</b>	
(1) ホッカイシロショウズ (十育93号) .....	37
(2) エリモショウズ (十育97号) .....	38
(3) ハツネショウズ (十育116号) .....	39
<b>7. 菜豆</b>	
(1) 北海金時 (十育B-32号) .....	41
(2) 改良早生大福 (中育F-1号) .....	42
(3) 丹頂金時 (十育B-50号) .....	42
<b>8. えん豆</b>	
(1) 豊緑 (北育43号) .....	43
<b>9. 馬鈴しょ</b>	
(1) ハツフブキ (北海57号) .....	45
(2) ホッカイコガネ (北海60号) .....	46
(3) コナフブキ (根育19号) .....	48
(4) トヨアカリ (北海67号) .....	49
<b>II 特用作物</b> .....	51
<b>1. てん菜</b>	
(1) モノミドリ (T1021) .....	51
(2) ハイラーベ (HKE-48) .....	52
(3) モノヒカリ (北海41号) .....	53
(4) モノホート (HKE-20) .....	54
(5) ノバヒル (Novahill) .....	56
(6) ダイヒル (Dihill) .....	57
(7) モノエース (Kawe J137) .....	58
<b>2. はっか</b>	
(1) ほくと (北海J20号) .....	59

III 果 樹	60
1. リンゴ	
(1) ハックナイン (HAC 9)	60
(2) きたかみ (盛岡15号)	61
(3) つがる (背り2号)	62
2. ナシ	
(1) 北甘 (14号)	63
(2) 北豊 (77号)	64
3. ブドウ	
(1) ミュラー トルガウ (Muller-Thurgau)	65
(2) セイベル 5279 (Seibel 5279)	66
(3) セイベル 13053 (Seibel 13053)	66
(4) ツバイゲルトレーベ (Zweigeltrebe)	67
IV 野 菜	68
1. キャベツ	
(1) 金系201号 (金系201号)	68
(2) 北ひかり (北ひかり)	69
(3) スピードボール (スピードボール)	69
(4) アーリーボール (アーリーボール)	70
(5) デリシャス (デリシャス)	71
(6) 初秋穫 (初秋穫)	71
2. ダイコン	
(1) 天春 (天春)	72
(2) 耐病総太り (耐病総太り)	73
3. アスパラガス	
(1) 北海100 (優勢系統)	74
4. タマネギ	
(1) フラヌイ (月交1号)	75
(2) 月輪 (試交4701)	76
(3) ひぐま	76
(4) そらち黄 (札幌黄: 岩見沢系)	77
(5) せきほく (北見交3号)	78
(6) 北もみじ	79
(7) レオ	80
(8) ツキヒカリ (月交7号)	81
V 花 卉	83
1. 花ゆり	
(1) コタンの月 (5226)	83

VI 飼料作物	85
1. アカクローバ	
(1) ハヤキタ (ジャンボ)	85
(2) ハミドリ4n	86
2. アルサイククローバ	
(1) テトラ (Tetra 4n)	87
(2) エルモ (Ermo Øtofte)	87
3. アルファルファ	
(1) キタワカバ (月系0201)	88
(2) サイトーション (Citation)	89
(3) リユテス (Lutèce)	90
4. チモシー	
(1) クンプウ (北見11号)	91
(2) ホクセン (ホクセン2号A)	93
5. メドーフェスク	
(1) バンディ (Bundy)	94
6. ハイブリッドライグラス	
(1) テトリライト (Tetrelite)	95

北海道登録品種特性一覧表

付 北海道農作物優良品種認定要領

- 前北海道立中央農業試験場原種農場長

# I 普通作物

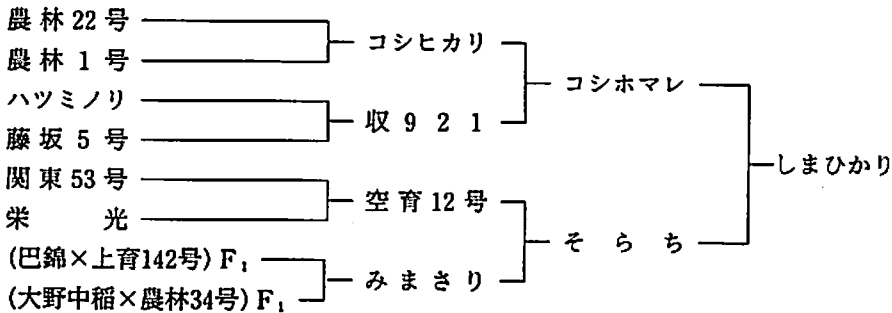
## 1. 水 稻

〈梗 種〉

(1) しまひかり (旧系統名 渡育214号)

登録番号：(北海道) 水稻北海道うち第28号：(種苗法) 第324号

来歴 本品種は、1969年(昭44)に北海道立道南農業試験場において、「北陸77号」(のちの  
コシホマレ)を母、「そらち」を父として人工交配を行い育成したもので、1975年(昭50)より  
「渡系5012」、1978年(昭53)以降「渡育214号」の系統名で各種の試験を行い、1981年(昭56)  
に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 稈長は「マツマエ」なみの中、穂長は中、粒着はやや密で穂数型である。
2. ふ先色は黄白で芒はなく、脱粒性は難である。
3. 梗種で、玄米の形は「巴まさり」に類似し中、大きさはやや小で、千粒重は「マツマエ」より軽い。粒色、光沢および心白の程度は「マツマエ」とほぼ同じであるが、腹白は「マツマエ」よりやや多く、玄米の外観品質は「マツマエ」より若干劣る。搗精歩留まりは「マツマエ」より僅かに低く、精白米の透明度も「マツマエ」よりやや劣るが、白度は同程度である。
4. 初期生育は良い。出穂期は「マツマエ」より早く、穂揃性は良好。成熟期も「マツマエ」よりやや早く、晩生の早に属し、登熟性も良好である。
5. 耐倒伏性は中～やや強、いもち病抵抗性はやや強～強、障害型耐冷性はやや弱である。
6. 収量は平年では「マツマエ」なみで、「巴まさり」よりやや多収である。
7. 米粉および炊飯の物理、化学的特性は「巴まさり」よりまさり、食味は「巴まさり」なみ～ややまさる。

栽培適地と奨励態度 渡島支庁管内の中部以南および桧山支庁管内南部で、「マツマエ」の一部におきかえる。また栽培上の注意は「巴まさり」に準じてよいが、障害型耐冷性がやや弱であるため、育苗、施肥、水管理等についてはこの欠点をカバーするよう留意する。



試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (#/m <sup>2</sup> )	玄米収 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
道南農試	成苗	しまひかり	8.4	9.21	70	17.4	439	456	92	21.3	2上上	1975~ 1980
道南農試	成苗	マツマエ	8.7	9.28	74	18.0	399	493	100	23.0	2上中	1975~ 1980
	稚苗	しまひかり	8.6	9.21	65	16.5	604	400	92	20.3	1下中	1976~ 1980
マツマエ		8.7	9.25	67	16.4	490	436	100	22.3	1下中		
中央農試	成苗	しまひかり	8.8	10.4	68	19.3	521	478	97	20.7	2上	1978~ 1980
		マツマエ	8.10	10.6	69	19.3	529	492	100	22.5	3上	
原原圃農場	"	しまひかり	8.2	9.26	68	19.8	474	610	98	21.5	2中	1978~ 1980
		マツマエ	8.6	10.4	67	19.5	486	623	100	23.1	2中	
北海道農試	稚苗	しまひかり	8.9	10.6	63	15.7	485	436	82	22.3	1下	
		マツマエ	"	10.5	62	15.1	475	529	100	24.0	2上	

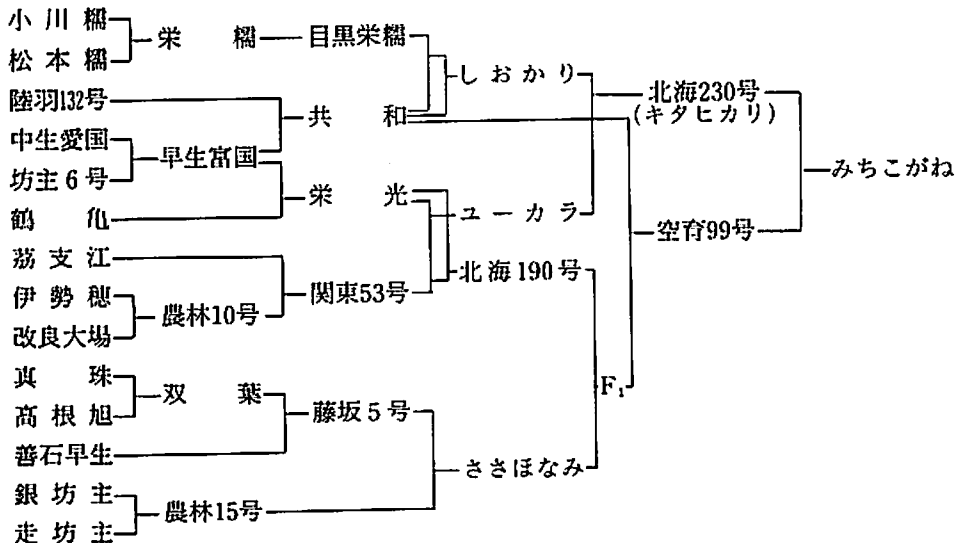
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-11 (1981).

(2) みちこがね (旧系統名 空育110号)

登録番号: (北海道) 水稻北海道うるち第29号: (種苗法) 第331号

来歴 本品種は, 1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場において, 「空育99号」を母, 「北海230号」(のちのキタヒカリ)を父として人工交配を行い育成したもので, 1977年(昭52)より「空系52133」, 1979年(昭54)以降「空育110号」の系統名で各種の試験を行い, 1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 苗の葉幅は「イシカリ」に類似するが、葉色はやや濃い。出穂始めから成熟期にかけて上部葉は立ち気味で、止葉は直立する。

2. 稈長および穂長は「キタヒカリ」よりやや短かく、粒着はやや密で偏穂数型である。
3. ふ色ならびにふ先色は黄白で、芒はなく、脱粒性は難である。
4. 梗種で、玄米の形状は「キタヒカリ」に類似し、大きさは中であるが、千粒重は「キタヒカリ」よりやや軽い。粒色は薄い飴色を呈し、光沢は良く、腹白、心白は「キタヒカリ」より少なく、外観品質は「キタヒカリ」なみである。搗精歩留まりは「イシカリ」「キタヒカリ」なみで、精白米の白度は「キタヒカリ」よりやや劣るが、透明度は「キタヒカリ」と同程度である。
5. 出穂期は「キタヒカリ」と同じ中生の中、成熟期も「キタヒカリ」とほぼ同じで中生に属するが年次や場所によりこれより2～3日遅れることがある。
6. 障害型冷害に対しては「イシカリ」よりやや強く、やや強～強と判定され、いもち病耐病性は中で「キタヒカリ」にややまさり、耐倒伏性は「イシカリ」なみの強である。割扱は「イシカリ」より少なく「キタヒカリ」なみ、葉鞘褐変は「キタヒカリ」より少ない。
7. 収量はほぼ「イシカリ」なみで、「キタヒカリ」よりまさる。
8. 食味はほぼ「キタヒカリ」なみで、「イシカリ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 石狩、空知、後志、胆振、日高支庁および上川支庁管内中央部の中生種地帯で、「イシカリ」「ともゆたか」「キタヒカリ」などに配合して栽培する。また栽培上の注意は「イシカリ」に準ずるが、出穂遅延を避けるため中苗以上の苗を使用する。なお試験の結果、1983年(昭58)に栽培適地として、渡島と桧山支庁管内の北部が追加された。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
中央農試	成苗	みちこがね	8. 8	10. 3	65	17.1	463	476	108	22.2	2上	1977,
		キタヒカリ	8. 8	10. 3	63	17.9	466	440	100	22.7	2中	1979～
		イシカリ	8. 6	10. 1	61	18.5	418	436	99	23.3	2下	1981
	中苗	みちこがね	8.10	10. 7	63	16.4	577	531	103	22.1	2上	1979～ 1981
		キタヒカリ	8.10	10. 6	65	17.4	625	515	100	22.2	2中	
		イシカリ	8. 8	10. 6	63	17.9	526	529	103	23.2	2下	
上川農試	成苗	みちこがね	8. 4	9.30	64	16.2	477	565	101	21.6	1下	1979～ 1981
		キタヒカリ	8. 4	9.26	62	16.3	503	557	100	22.0	2中上	
		イシカリ	8. 1	9.26	61	17.0	475	605	109	22.5	2中	
原原種農場	成苗	みちこがね	8. 2	9.29	56	15.9	395	451	100	22.8	2中	1979～ 1981
		キタヒカリ	8. 4	9.28	58	17.5	445	451	100	23.0	2中下	
		イシカリ	7.31	9.27	57	17.1	430	466	103	23.4	3中	

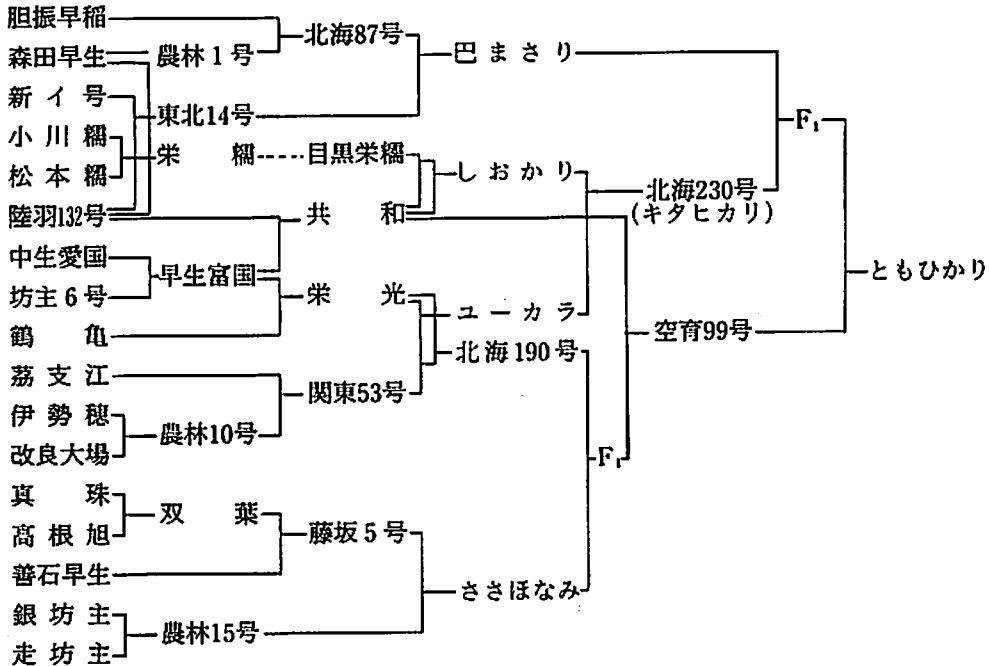
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、3—7 (1982)。  
 2) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、22—23 (1983)。  
 3) 和田定、等、北海道立農試集報、50、98—108 (1983)。

(3) ともひかり (旧系統名 空育111号)

登録番号：(北海道) 水稻北海道うるち第30号；(種苗法) 第591号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場において、「北海230号(のちのキタヒカリ)×巴まさり」F<sub>1</sub>を母、「空育99号」を父として人工交配を行い育成したもので、1978年(昭53)より「空系53101」、1980年(昭55)以降「空育111号」の系統名で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 幼苗期の葉色や草状は「イシカリ」に類似し、分けつ初期から後期にかけての葉色は「キタヒカリ」よりやや濃く、草状は「キタヒカリ」に類似するが、株は閉じ気味である。

2. 上部葉は立ち、とくに止葉は直立状となる。また登熟が進むにつれて下葉の枯れ上がりはやや多くなる傾向がある。
3. 稈長、穂長は「イシカリ」なみ～やや短い。穂揃性は比較的良く、穂数は「イシカリ」よりやや多いが、「ともゆたか」より少ない。粒着はやや密で偏穂数型である。
4. ふ色、ふ先色は黄色で、芒はなく、脱粒性は難である。
5. 粳種で、玄米の形は「キタヒカリ」に類似し、粒大は「キタヒカリ」よりやや小さい。粒色はやや淡い胎色を呈し、光沢は良く、外観品質は「キタヒカリ」なみである。搗精歩留まりは「イシカリ」「キタヒカリ」なみで、白米の白度や透明度も「キタヒカリ」なみである。
6. 出穂期は「イシカリ」より約2日早く、早生の晩に属し、成熟期も「イシカリ」より5日前後早い早生の晩に属するが、年次や場所により出穂期が遅れ、それに伴って成熟期も遅れる傾向がある。
7. 障害型冷害に対しては「イシカリ」なみのやや強、葉いもち、穂いもち病に対する耐病性は中で「イシカリ」よりやや劣る。耐倒伏性はやや強で「イシカリ」よりやや劣り、割粃の発生は「イシカリ」より少なく「ともゆたか」なみ～やや少ない。褐変初発生は「イシカリ」

なみ〜やや多いが、玄米の着色はこれより少ない。

8. 収量は「イシカリ」なみ〜やや劣るが、「キタヒカリ」よりまさる

9. 食味は「キタヒカリ」なみで、「イシカリ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 道央地帯（空知，石狩，後志，胆振，上川，留萌）で「イシカリ」「ともゆたか」の一部におきかえる。また栽培に当たっては生育遅延回避のため中苗以上の苗を使用し，標準栽植密度（25株/㎡）以上とするとともに，いもち病の被害を避けるため多肥栽培を避け，適期防除を行う。なお栽培適地として，1985年（昭60）に渡島と檜山の北部及び日高が追加された。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
中央農試	成苗	ともひかり	8.5	9.28	58	17.6	482	442	97	21.5	2中上	1980~ 1982
		イシカリ	8.7	10.1	62	18.5	455	457	100	23.5	2下	
		ともゆたか	8.6	10.1	60	17.7	573	492	108	23.2	3上	
	中苗	ともひかり	8.6	9.29	60	17.7	536	486	96	21.5	2上	1980~ 1982
		イシカリ	8.8	10.4	63	18.1	508	507	100	23.1	3上	
		ともゆたか	8.7	10.3	61	17.3	635	538	106	23.3	3上	
上川農試	成苗	ともひかり	8.2	9.22	63	18.0	495	605	100	21.8	1下	1980~ 1982
		イシカリ	8.2	9.24	61	17.5	478	608	100	23.1	2中上	
		ともゆたか	8.2	9.24	61	16.9	585	623	102	23.2	2上	
原原種農場	成苗	ともひかり	7.31	9.27	55	17.3	482	483	103	22.2	2中上	1980~ 1982
		イシカリ	8.1	9.28	56	17.1	431	468	100	24.0	3中下	
		ともゆたか	8.1	9.29	55	16.4	535	537	115	24.0	2下	

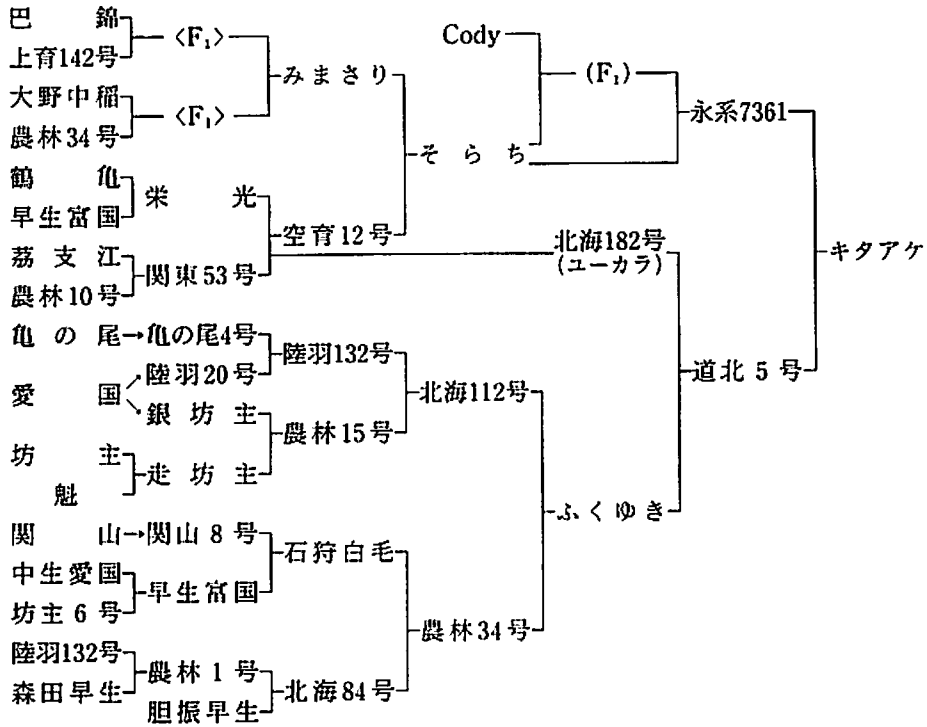
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編，昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項，1—6（1983）。  
 2) 北海道農務部編，昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項，3—6（1985）。  
 3) 和田定，等，北海道立農試集報，50，109—119（1983）。

(4) キタアケ（旧系統名 道北36号）

登録番号：（北海道）水稲北海道うるち第31号；（農水省）水稲農林268号；（種苗法）第594号

来歴 本品種は，1974年（昭49）に北海道立上川農業試験場において，「永系7361」を母，「道北5号」を父として人工交配を行い育成したもので，1978年（昭53）より「永系7864」，1980年（昭55）以降「道北36号」の系統名で各種の試験を行い，1983年（昭58）に優良（奨励）品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 幼苗期の葉色は「しおかり」に類似してやや濃く、草状も「しおかり」に類似する。

2. 稈長，穂長は「しおかり」より短く，「はやこがね」なみ。穂数は「しおかり」より多い多けつ型で，草型は穂数型，粒着はやや中である。

3. ふ色，ふ光色は黄白であるが「しおかり」よりやや淡い。稀に極く短い芒を有し，脱粒性は難である。

4. 稈種で，玄米の形は「しおかり」より良いが，「イシカリ」より円く，粒大はやや大で「しおかり」より大きい。粒色は「しおかり」より淡い飴色を呈し，光沢があり，腹白粒が発現しやすいが外観品質は「しおかり」よりまさり「イシカリ」なみである。搗精歩留まりは「しおかり」よりややまさり，白米の白度，透明度はいずれも「しおかり」よりまさる。

5. 出穂期は「しおかり」よりやや早く，成熟期は「しおかり」なみで，出穂期，成熟期とも早生の晩に属する。登熟性は「しおかり」よりやや劣る。

6. 障害型耐冷性は「はやこがね」なみの強。葉いもちに対しては「しおかり」なみの中，穂いもちには「しおかり」よりやや弱いが中～やや強である。耐倒伏性は強に属し，割刈の発生は「しおかり」と同程度で少ない。

7. 収量は「しおかり」よりまさり，「イシカリ」なみの多収を示る。

8. 食味は「イシカリ」よりまさり，「しおかり」なみ～ややまさるが，「キタヒカリ」よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道北，道東（上川北部，網走，十勝）の基幹品種とし，「しおかり」やその他の品種におきかえる。また道央（上川，空知，石狩，後志，胆振，日高）で偏東風の影響の大きい地帯や山間部で早生の配合品種とする。栽培に当たっては，健苗育成と適期移植につとめ，多肥栽培は避け適期収穫を励行する。また冷害回避のための深水灌漑や，いもち病の

適期防除にも留意する。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上川農試	成苗	キタアケ しおかり	7.30	9.21	58	15.0	574	551	103	22.9	1下	1979～ 1982
			8. 3	9.23	72	16.1	516	534	100	20.1	2中	
北見農試	中苗	キタアケ はやこがね	8. 4	9.23	60	13.4	609	462	100	21.8	2中	1980～ 1982
			8. 1	9.22	57	14.0	664	463	100	19.8	2中	
中央農試	成苗	キタアケ イシカリ	8. 6	9.29	60	16.2	527	480	105	23.4	2中下	"
			8. 7	10. 1	62	18.5	455	457	100	23.5	2下	
原原種農場	成苗	キタアケ イシカリ	8. 1	9.27	54	14.9	506	519	111	23.8	2中	"
			8. 1	9.28	56	17.1	431	468	100	24.0	3下	
北海道農試	成苗	キタアケ イシカリ	8. 6	9.30	64	15.2	467	461	118	22.2	2中	1981～ 1982
			8. 7	9.28	64	17.2	419	391	100	22.4	外	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編. 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項. 6-14 (1983).

#### (5) ゆきひかり (旧系統名 空育114号)

登録番号: (北海道) 水稲北海道うち第33号: (種苗法) 第936号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場において、「北海230号(のちのキタヒカリ)×巴まさり」を母、「空育99号」を父として人工交配を行い育成したもので、1979年(昭54)より「空系53098」、1981年(昭56)以降「空育114号」の系統名で各種の試験を行い、1984(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。(なお本品種は「ともひかり」と同じ組合せから育成したものであるため、系譜は省略する)

特性概要 1. 幼苗期の草丈は短く、草状は「みちこがね」に類似し、葉色は「ともゆたか」より濃い。

2. 出穂期～穂揃期の上部葉は立ち、とくに止葉は直立状となる。

3. 稈長は「キタヒカリ」とほぼ同じで、穂長は「キタヒカリ」より長く、穂揃性は比較的良好である。穂数は「キタヒカリ」なみで、「ともゆたか」より少ない。粒着密度は中で「キタヒカリ」よりやや疎い。

4. ふ色、ふ先色は黄白で、短芒(2cm以下)を中程度(約20%)有し、脱粒性は難である。

5. 梗種で、玄米の形、大きさ、色ならびに外観品質などは「ともひかり」とほぼ同じ。搗精歩留まりは「キタヒカリ」なみで、白米の白度や透明度も「キタヒカリ」なみである。出穂期は中生の早に属し、「ともゆたか」とほぼ同じで、「キタヒカリ」より2～3日早い。成熟期は「ともゆたか」や「キタヒカリ」とほぼ同じであるが年次や場所により出穂期、成熟期とも遅れることがある。

7. 障害型冷害に対しては「ともゆたか」や「キタヒカリ」より強く、強に判定される。葉い

もち、穂もち病に対する耐病性は共に中で、「キタヒカリ」よりやや強い。耐倒伏性は中で、「ともゆたか」より劣る。

8. 葉鞘褐変ならびに靱褐変の発生は「ともゆたか」「キタヒカリ」より少なく、着色米の発生も少ない。割穂の発生は「ともゆたか」より少なく、「キタヒカリ」のみである。

9. 収量は「ともゆたか」よりやや劣るが、「キタヒカリ」より多収である。

10. アミロース含有率は「キタヒカリ」より低く、アミログラム特性値は「キタヒカリ」を上まわる。その他の食味特性も「キタヒカリ」よりすぐれ、食味は「キタヒカリ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 道央（空知，石狩，後志，日高，胆振ならびに上川と留萌の中南部）ならびに道南の北部（渡島と檜山の北部）地帯で「ともゆたか」「キタヒカリ」の一部におきかえる。また栽培に当っては、耐倒伏性や登熟性がやや劣るので多肥栽培は避け、初期茎数の確保と登熟向上を図るため中苗以上の苗を用い、植付本数は25株/m<sup>2</sup>の基準密度を守って栽培する。なお試験の結果、1986年（昭61）に栽培適地として、渡島，檜山支庁の南部が追加された。

試験場名	苗の 種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
中央農試	成苗	ゆきひかり	8.10	10.3*	63	18.5	460	480	111	21.6	2中	1979~ 1983
		キタヒカリ	8.13	10.4*	64	17.9	494	432	100	22.5	2中	
		ともゆたか	8.9	10.1*	61	18.0	579	476	110	23.2	3中	
	中苗	ゆきひかり	8.14	10.5*	68	19.3	552	493	115	21.3	2中	1981~ 1983
		キタヒカリ	8.17	10.5*	67	16.9	550	428	100	21.8	2下	
		ともゆたか	8.13	10.4*	65	18.4	605	478	112	22.9	3中	
上川農試	中苗	ゆきひかり	8.11	10.4	72	17.1	593	533	107	21.4	2上	1981~ 1983
		キタヒカリ	8.11	9.29	70	15.2	606	497	100	22.3	2中	
		ともゆたか	8.8	9.27	64	15.7	707	545	110	22.7	2中	
原原稲農場	成苗	ゆきひかり	8.7	10.4	61	17.9	419	517	100	22.5	2中	1981~ 1983
		キタヒカリ	8.10	10.4	63	18.1	441	515	100	23.4	2中	
		ともゆたか	8.6	10.2	58	16.9	493	540	105	24.2	2下	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。\* : 1983年は成熟期に達せず除外した平均である。

- 参照 1) 北海道農務部編，昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項，1—6（1984）。  
 2) 北海道農務部編，昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項，3—5（1986）。  
 3) 和田定，等，北海道立農試集報，54，57—70（1986）。

#### < 編 種 >

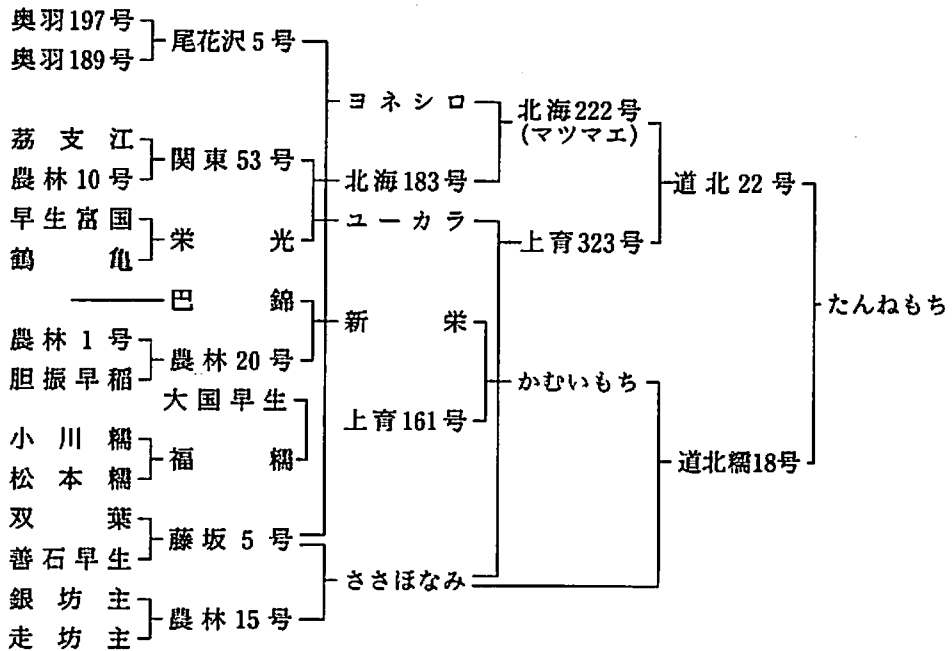
#### (6) たんねもち (旧系統名 上育糯381号)

登録番号：(北海道) 水稲北海道もち第32号；(種苗法) 第593号

来歴 本品種は，1974年（昭49）に北海道立上川農業試験場において，「道北22号」を母，「道北糯18号」を父として人工交配を行い育成したもので，1978年（昭53）より「永系78396」，1980

年(昭55)以降「上育糯381号」の系統名で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。

なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性の概要
1. 幼苗期の葉色は「かむいもち」よりやや淡く、草丈の伸長程度は「かむいもち」よりまさり、葉身の先端はやや垂れ下がる。出穂期前後の葉身は立ち気味で草姿は良い。また登熟が進んでも下葉が葉鞘の枯死は少ない。
  2. 稈長は「かむいもち」より短く、穂長は「かむいもち」より長い。穂数は「かむいもち」より少なく、草型は偏穂数型、粒着は「かむいもち」より密である。
  3. ふ色、ふ先色は黄白、芒は少なく極短で、脱粒性は難である。
  4. 糯種で、玄米の形は「かむいもち」よりやや長く、粒大は中で「かむいもち」より大きい。玄米品質は「かむいもち」よりまさり、とくに白度は明らかに良好である。搗精歩留まりは「かむいもち」なみで、白米の白度は「かむいもち」よりまさる。
  5. 出穂期は「かむいもち」より約5日早い早生の晩に属し、成熟期は「かむいもち」なみ～やや早い。
  6. 障害型冷害に対しては「かむいもち」なみのやや強、遅延型冷害には「かむいもち」よりやや強い。葉いもちに対してはやや強で「かむいもち」より強く、穂いもちに対しては「かむいもち」なみの中である。耐倒伏性はやや強～強で「かむいもち」よりまさり、割穂の発生は「かむいもち」より少ない。
  7. 収量は「かむいもち」より明らかに多いが、低収量水準では「かむいもち」に近くなることがある。
  8. 食味および加工適性は「かむいもち」よりまさり、「おんねもち」とほぼ同じと判断される。
- 栽培適地と奨励態度 上川および留萌支庁管内の中南部、空知、石狩、後志、胆振、日高の各支庁、渡島および桧山支庁の北部、ならびにこれらに準ずる地帯で「かむいもち」におきか



える。また栽培に当たっては、登熟遅延回避のため多肥栽培は避け、必要穂数確保のため適正な栽培密度にするよう努める。なお試験の結果、栽培適地として1984年(昭59)に上川北部、留萌北部および十勝全域、1985年(昭60)に網走管内が追加されたが、成苗を用い、熟期を早めることが前提である。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					俵長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上川農試	成苗	たんねもち かむいもち	7.29	9.24	60	16.7	464	581	118	20.7	2下	1978～ 1982
			8.3	9.26	70	15.4	482	493	100	20.0	3上	
中央農試	成苗	たんねもち かむいもち	8.8	9.30	63	17.9	438	470	103	21.3	3上	1981～ 1982
			8.10	10.4	69	16.2	523	456	100	20.2	3中	
原原種農場	成苗	たんねもち かむいもち	7.31	9.29	59	16.6	435	542	104	21.4	3上	1980～ 1982
			8.4	9.30	66	16.3	520	523	100	20.4	3中	
北見農試	中苗	たんねもち かむいもち	8.5	9.29	60	14.3	519	521	134	19.8	2下	1981～ 1982
			8.10	10.2	69	15.2	495	390	100	19.5	3下	
北海道農試	成苗	たんねもち かむいもち	8.7	10.3	69	17.6	405	478	105	20.2	3中	1981～ 1982
			8.8	9.29	76	15.4	425	455	100	19.4	3下	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、14—22 (1983)。  
 2) 北海道農務部編、昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項、6—10 (1984)。  
 3) 北海道農務部編、昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項、6—9 (1985)。  
 4) 佐々木多喜雄、等、北海道立農試集報、50、120—134 (1983)。

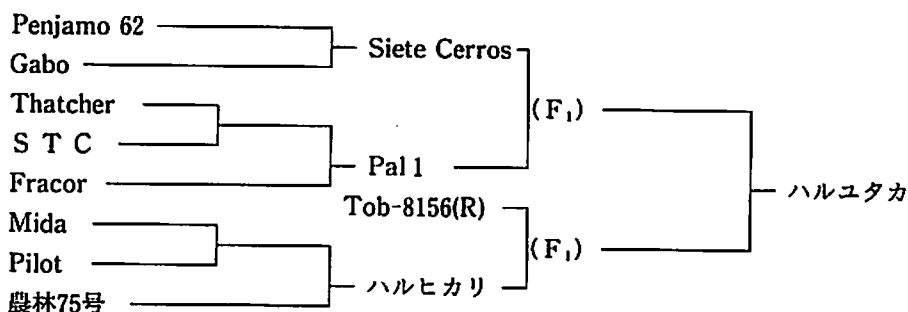
## 2. 小 麦

〈春播小麦〉

(I) ハルユタカ (旧系統名 北見春47号)

登録番号：(北海道) 小麦北海道春第10号；(農林省) 春播小麦農林130号；(稲苗法)

来歴 本品種は、1972年(昭47)に北海道立北見農業試験場において、「Siete Cerros × Pal 1」を母、「Tob-8156(R) × ハルヒカリ」を父として人工交配を行い育成したもので、1977年(昭52)より「北系春407」、1981年(昭56)以降は「北見春47号」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 株は閉じており、葉色は「ハルヒカリ」よりやや濃い。葉身は短いが葉幅が広く、葉身が立つ。
2. 稈長は「ハルヒカリ」より20cm以上短く、茎はやや太く強稈である。穂は錐状を呈して長芒があり、ふ色は黄、穂長はやや短い、粒着は「ハルヒカリ」よりやや密で、1穂の粒数はやや多い。
3. 子実は赤褐色で、長さは「ハルヒカリ」よりやや短い。「ハルヒカリ」より千粒重、1立重はやや軽い、外観品質は「ハルヒカリ」なみである。
4. 中生種に属し、出穂期は「ハルヒカリ」とほぼ同じであるが、成熟期は1～2日遅い。
5. 穂発芽性は「ハルヒカリ」のやや難に対し、本品種は中程度とみられる。
6. 赤さび病、うどんこ病には「ハルヒカリ」より強いが、黒目粒や赤かび病の発生は「ハルヒカリ」よりやや多い。また、耐倒伏性は強である。
7. 収量は「ハルヒカリ」より多いが、生育不良を起す環境下では「ハルヒカリ」より劣ることがある。
8. 粒質は硝子質で製粉性は「ハルヒカリ」よりすぐれる。粉色は「ハルヒカリ」よりやや良好で、パンとしての加工適性は「ハルヒカリ」より劣るが、めんとしての加工適性は、「ハルヒカリ」や秋播小麦「ホロシリコムギ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 適地は全道一円で、「ハルヒカリ」の大部分と、現在栽培されている「農林61号」におきかえる。栽培に当たっては、適期播種、適期収穫を励行し、ドリル播き多肥とする。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	子実重 (kg)	左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
北見農試	ハルユタカ	7. 6	8.17	78	8.1	480	303	118	761	34.0	1977～ 1984
	ハルヒカリ	7. 7	8.15	103	8.8	477	257	100	769	35.2	
中央農試	ハルユタカ	6.30	8. 8	82	7.9	504	276	104	732	34.7	1981～ 1984
	ハルヒカリ	6.29	8. 7	103	8.2	512	265	100	751	35.5	
上川農試	ハルユタカ	7. 4	8.15	64	7.3	361	124	89	723	33.0	1981～ 1984
	ハルヒカリ	7. 1	8.12	100	7.4	272	140	100	756	35.2	
十勝農試	ハルユタカ	7. 1	8.14	80	8.0	481	257	149	757	35.5	1981～ 1984
	ハルヒカリ	6.29	8.12	119	7.9	454	173	100	743	32.0	

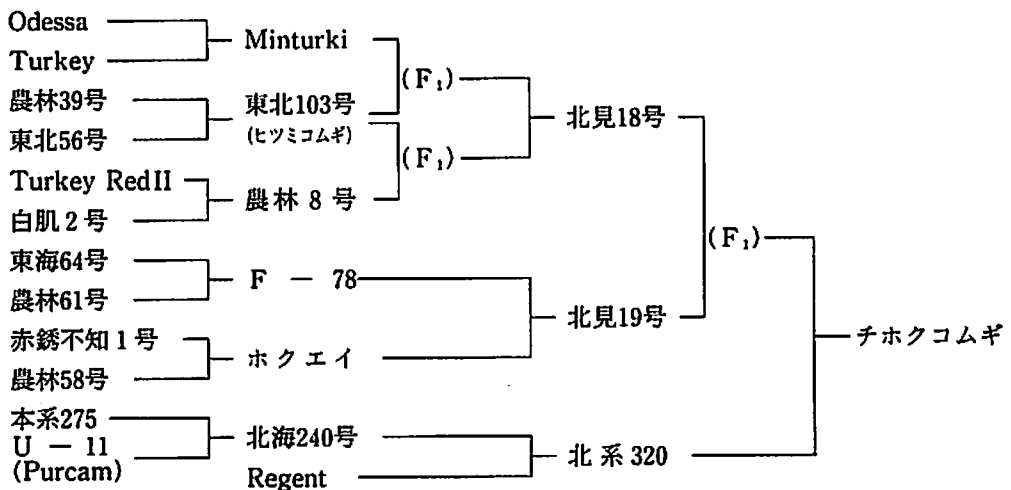
- 参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 10-15 (1985)  
 2) 牧田道夫, 等. 農業技術. 41, 27-28 (1986)

〈秋播小麦〉

(2) チホクコムギ (旧系統名 北見42号)

登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第9号; (農水省) 小麦農林126号; (種苗法) 第337号

来歴 本品種は, 1969年(昭44)に北海道立北見農業試験場において, (「北見18号」×「北見19号」F<sub>1</sub>)を母, 「北系320」を父として人工交配を行い育成したもので, 1973年(昭48)より「北系747」, 1976年(昭51)以降「北見42号」の系統名で各種の試験を行い, 1981年(昭56)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 稈長は「ホロシリコムギ」より約5 cm 短く, 穂長もやや短い, 穂数は多い。  
 2. 幼苗期の草状は直立型で, 葉身は広い。株は閉じて直立型, 葉は鮮緑色を呈し, 稈は「ホロシリコムギ」よりやや細い。穂は棍棒状を呈し, ふ色は白で芒はなく, 粒着は密である。  
 3. 子実は「ホロシリコムギ」より淡い黄褐色で, 形は短, 千粒重は「ホロシリコムギ」より軽いが大粒に属する。1立重もやや軽いが粒張り良く, 外観品質は「ホロシリコムギ」よりまさる。  
 4. 中生種に属するが, 出穂期や成熟期は「ホロシリコムギ」より1~3日遅い。  
 5. 耐寒性は, 「ホロシリコムギ」なみ, 耐雪性(小粒菌核病抵抗性)はやや弱, 赤さび病抵抗性は極強, 赤かび病にはやや弱い。うどんこ病には「ホロシリコムギ」より弱い。黒目粒の発生は極く少ない。耐倒伏性は「ホロシリコムギ」なみかややまさる。  
 6. 収量は, 網走や十勝支庁管内では「ホロシリコムギ」なみかややまさるが, 冬枯れの発生の多い多雪地帯ではその被害によって減収することがある。  
 7. 子実の灰分, 蛋白含量はともに低く, 粒質は粉状質で製粉適性は高く, 粉色はさえた白さを呈し, 製めん加工適性は極めて高い。成熟期以後の子実水分乾減が早い, 耐変質性はやや弱である。

栽培適地と奨励態度 十勝、網走管内の中でとくに積雪の多い地帯を除く地域に適する。栽培に当っては、雪腐病防除を励行し、品質保持のために適期収穫につとめる。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	子実重 (kg)	左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
北見農試	チホクコムギ	6.21	7.30	88	7.2	704	510	107	768	36.6	1976～
	ホロシリコムギ	6.20	7.29	93	8.4	557	478	100	775	42.0	1974
十勝農試	チホクコムギ	6.16	7.26	83	7.3	661	479	101	727	36.1	1977～
	ホロシリコムギ	6.15	7.27	90	8.4	553	473	100	735	42.2	1979
中央農試	チホクコムギ	6.16	7.29	80	8.2	603	373	76	720	35.0	1977～
	ホロシリコムギ	6.15	7.27	94	9.1	659	490	100	757	40.0	1979
上川農試	チホクコムギ	6.20	7.26	72	6.9	386	305	79	733	33.9	1977～
	ホロシリコムギ	6.16	7.26	87	7.6	445	385	100	769	40.9	1979
原原種農場	チホクコムギ	6.19	7.26	73	8.1	171	183	47	749	37.4	1977～
	ホロシリコムギ	6.15	7.23	86	8.7	377	389	100	776	43.1	1978

参照 1) 北海道農務部編、昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項、12～17 (1981)。  
2) 尾関幸男、農業技術、37、107—112 (1982)。

### 3. えん麦

#### (1) アキユタカ (旧系統名 北海21号)

登録番号：(北海道) えん麦北海道第5号；(農水省) えん麦農林5号；(種苗法) 第135号

来歴 本品種は、1967年(昭42)に北海道農業試験場において「カータースラクスタ」を母、「ニュートン」を父として人工交配を行い育成したものである。1974年(昭49)より「本系421」、1976年(昭51)以降「北海21号」の系統名で各種の試験を行った結果、秋播緑肥用に適するものとして1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。

- 特性概要
1. 草型は直立型で初期伸長性がすぐれ、再生力は「モイワ」なみである。
  2. 稈長は「モイワ」より長く、稈はやや細く分けつは旺盛で、穂数が多い。穂はバラ穂で芒は少ない。
  3. 出穂期は「モイワ」より約2日、成熟期も5日程度早く、早生～中生の早に属する。
  4. 耐倒伏性は「モイワ」より劣り、冠さび病に対しても「モイワ」なみで弱い。
  5. 初期生育が旺盛なため秋播緑肥用としての乾燥収量は「モイワ」よりかなり多い。しかし普通栽培での子実収量は「モイワ」より15%前後劣る。
  6. 秋播緑肥としてのすき込み時における茎葉の無機成分含有率は「モイワ」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 秋季の緑肥用として道内一円に適する。また本品種の利用に当たっては、8月中に播種することが望ましく、播種期が遅れたときは播種量を増す。倒伏に弱いので採種栽培では多肥や密植は避ける。

〈緑肥利用〉

試験場名	品 種 名	播種日 (月.日)	刈取日 (月.日)	刈取時 草 丈 (cm)	10 a 当 り				試験年次
					生草重 (kg)	左比 (%)	乾草重 (kg)	左比 (%)	
北海道農試	アキユタカ	8.25	10.30	85	3,434	143	393	131	1977~ 1979
	モ イ ワ	8.25	10.30	74	2,394	100	301	100	
中央農試	アキユタカ	8.21	10.26	81	3,555	116	393	114	1978~ 1979
	モ イ ワ	8.21	10.26	79	3,075	100	344	100	

〈普通栽培〉

試験場名	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当 り		子 実		試験年次
				穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	子実重 (kg)	左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
北海道農試	アキユタカ	7.5	8.5	111	24	317	352	83	545	36.5	1978~ 1979
	モ イ ワ	7.5	8.10	99	25	279	426	100	550	37.5	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-8 (1980).  
 2) 熊谷健, 等, 北海道農業試験場研究報告, 143, 49-64 (1985).  
 3) 熊谷健, 農業技術, 35, 509-510 (1980).

4. とうもろこし

(1) リザ (原名 Liza)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第11号

来歴 本品種は, フランスの Pioneer 社が育成したもので, 1978年 (昭53) 以降原名のまま道内で各種の試験を行い, 1981年 (昭56) に優良 (準奨励) 品種に決定した。三系交雑の一代雑種であるが, 構成系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育はほぼ「C535」なみである。  
 2. 絹糸抽出期は「C535」とほぼ同じか1日早く, 熟期も「C535」なみかやや早い早生種である。  
 3. 穂長, 着雌穂高および穂径は「C535」なみで, 早生品種としては着雌穂高がやや高い。  
 4. 耐倒伏性は「C535」なみかやや強い。  
 5. すず紋病に対する抵抗性は弱く, ほぼ「C535」なみ, ごま葉枯病に対しては「C535」より弱い。  
 6. 収量性は場所による変動はあるが, 概ね「C535」なみと考えられる。

栽培適地と奨励態度 十勝中央部の周辺, 網走の内陸とその周辺, 根釧内陸および道北の内陸など「C535」の栽培可能地帯を適地とする。また栽培上の注意は「C535」に準ずる。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	穂長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	リ ザ	8.3	230	104	黄中~後	4,554	1,284	906	104	70.4	1979~ 1980
	C 5 3 5	8.4	238	104	黄中~後	4,777	1,212	870	100	71.7	

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 雌 穂 高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	T D N (kg)	左比 (%)		
北見農試	リ ザ	8. 8	220	97	黄 後	5,255	1,483	1,054	104	70.7	1978~
	C 5 3 5	8.10	220	100	黄初~中	5,288	1,443	1,011	100	69.7	1980
根釧農試	リ ザ	8.16	202	88	黄 中	4,985	1,173	826	97	70.1	1978~
	C 5 3 5	8.17	211	92	黄 中	4,965	1,211	853	100	70.0	1980
天北農試	リ ザ	8.14	169	67	黄 初	4,437	1,034	729	104	70.4	1978~
	C 5 3 5	8.14	166	63	糊初~中	4,567	994	704	100	70.4	1980

注) 収穫時の熟度表示は次による。乳：乳熟，糊：糊熟，黄：黄熟。初：初期，中：中期，後：後期。以下これに倣う。

参照 1) 北海道農務部編，昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項，54-58 (1981)。

(2) ワセミノリ (旧系統名 SH-250)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第12号

来歴 本品種は，フランスのノースラップキング種子会社が育成したもので，1979年(昭54)以降「SH-250」の系統名で各種の試験を行い，1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。三系交雑の一代雑種であるが，構成系統名は不明である。

特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「ワセホマレ」より劣る。

2. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」なみか1~2日早い，熟期は「ワセホマレ」よりやや遅い。

3. 稈長は「ワセホマレ」より低く，着雌穂高は高い。稈径は「ワセホマレ」より細い。

4. 耐倒伏性は「ワセホマレ」より劣るが，折損は少ない。

5. すず紋病に対する抵抗性は弱で，「ワセホマレ」より弱い。ごま葉枯病に対する抵抗性は「ワセホマレ」なみと考えられる。

6. 収量は道北や根釧では「ワセホマレ」よりまさり，十勝や北見では「ワセホマレ」より劣る。また乾物中のT D N割合は「ワセホマレ」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 道北並びに根釧地帯を栽培適地とする。また栽培上の注意は「ワセホマレ」に準ずるが，すず紋病の多発が予想されるところではこの病害の発生に留意する。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 雌 穂 高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	T D N (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ワセミノリ	8. 5	192	75	黄中~後	3,615	945	679	92	71.5	1979~
	ワセホマレ	8. 4	215	71	黄 後	3,744	1,054	742	100	70.3	1981
北見農試	ワセミノリ	8. 9	182	81	黄初~中	4,005	1,002	713	93	71.2	1980~
	ワセホマレ	8.11	201	72	黄 中	4,412	1,104	765	100	69.4	1981
根釧農試	ワセミノリ	8.23	171	69	黄 初	4,035	931	663	109	71.3	1979~
	ワセホマレ	8.23	176	57	黄 初	3,633	867	607	100	70.0	1981
上川農試	ワセミノリ	7.29	194	86	黄 後	4,695	1,307	950	103	72.7	1981
	ワセホマレ	7.30	210	82	完 熟	3,991	1,264	918	100	72.6	
天北農試	ワセミノリ	8.20	137	52	糊 中	3,504	743	532	110	71.4	1979~
	ワセホマレ	8.20	146	45	糊 中	3,415	693	482	100	68.9	1981

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 穂 高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
天北農試	ワセミノリ	8. 6	159	65	黄 中	3,944	1,023	740	116	72.5	1980～
天塩支場	ワセホマレ	8. 8	176	57	黄中～後	3,249	900	640	100	70.7	1981

参照 1) 北海道農務部編, 昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-39 (1982).

(3) ニューデント・85日 (旧系統名 SH-10)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第13号

来歴 本品種は, フランスのノースラップキング種子会社が育成したもので, 1978年(昭53)以降「SH-10」の系統名で各種の試験を行い, 1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑の一代雑種であるが, 両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 絹糸抽出期は「C535」より1～2日早く, 熟期は「C535」とほぼ同じの早生種である。
2. 稈長, 着穂穂高は「C535」より低い。
3. 耐倒伏性は「C535」なみかややまさる。
4. すず紋病に対しては「C535」と同様に弱く, ごま葉枯病に対しては「C535」よりやや弱い。また不稔個体を発生する場合がある。
5. 収量性は場所によって異なるが, 道北地帯では「C535」よりややまさる。

栽培適地と奨励態度 道北地域の中で「C535」が栽培できる地帯を適地とする。また栽培上の注意は「C535」に準ずるが, すず紋病やごま葉枯病の多発が予想される場所では, これらの病害発生に留意する。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 穂 高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ニューデント・85日	8. 4	216	89	黄 中	4,492	1,141	806	97	70.1	1978～
	C535	8. 5	230	101	黄 中	4,458	1,170	833	100	70.9	1981
北見農試	ニューデント・85日	8.10	190	81	黄 初	4,910	1,273	903	95	70.5	1978～
	C535	8.12	213	95	黄 初	5,265	1,359	947	100	69.3	1981
根釧農試	ニューデント・85日	8.20	182	76	黄 初	4,816	1,058	748	95	70.3	1978～
	C535	8.21	195	83	黄初～中	4,756	1,126	787	100	69.4	1981
上川農試	ニューデント・85日	8. 1	196	82	完 熟	5,153	1,350	967	95	71.6	1981
	C535	7.31	211	91	完 熟	5,403	1,437	1,021	100	71.1	
天北農試	ニューデント・85日	8.18	161	62	糊 中	4,682	956	670	106	69.5	1978～
	C535	8.18	161	63	糊 中	4,340	906	634	100	69.4	1981
天北農試	ニューデント・85日	8. 7	171	66	黄 後	4,672	1,156	813	106	70.0	1978～
天塩支場	C535	8. 8	177	68	黄 後	4,395	1,078	770	100	71.3	1981

参照 1) 北海道農務部編, 昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-44 (1982).

(4) ブルータス(旧系統名 MTC-1)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第14号

来歴 本品種は、フランスのニッカーソン社とUCOPACが共同で育成したもので原名を Brutus という。1978年(昭53)以降「MTC-1」の系統名で各種の試験を行い、1982(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。三系交雑(フロント種×デント種)の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽に要する日数は「C535」なみであるが、初期生育は若干劣る。  
 2. 絹糸抽出期は「C535」より1~2日早く、熟期も「C535」より若干早い早生種である。  
 3. 稈長、着雌穂高とも「C535」よりやや低いが、稈はやや太い。  
 4. 耐倒伏性は「C535」なみかやや劣る。  
 5. すず紋病、ごま葉枯病に対する抵抗性は「C535」なみである。  
 6. 収量性は「C535」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 十勝中央部の周辺、網走の内陸とその周辺、根釧内陸および道北の内陸など、「C535」の栽培可能地帯を適地とする。また、栽培上の注意は「C535」に準ずる。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ブルータス	8.4	205	86	黄 中	4,360	1,163	825	99	70.5	1978~
	C535	8.5	230	101	黄 中	4,458	1,170	833	100	70.9	1981
北見農試	ブルータス	8.14	191	83	糊 後	4,575	1,096	747	99	68.1	1980~
	C535	8.16	206	90	糊 中	4,949	1,119	755	100	67.5	1981
根釧農試	ブルータス	8.25	168	70	黄 初	4,494	1,002	691	102	68.8	1979~
	C535	8.27	187	78	糊 後	4,531	986	675	100	68.3	1981
天北農試	ブルータス	8.23	148	59	糊 初	3,861	776	533	102	68.4	1979~
	C535	8.22	154	58	糊 初	3,973	762	522	100	68.4	1981
天北農試 天塩支場	ブルータス	8.8	165	66	黄	4,513	1,170	827	115	70.6	1979~
	C535	8.9	172	66	黄	4,230	1,011	717	100	70.9	1981

参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。45-47 (1982)。

(5) バッファロー(旧系統名 SH-145)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第15号

来歴 本品種は、アメリカのPAG Seed社が育成したもので、1976年(昭51)以降「SH-145」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 初期生育は中程度で、「ホクユウ」よりやや劣る。  
 2. 絹糸抽出期は「ホクユウ」とほぼ同じであるが、熟期は「ホクユウ」よりやや遅い。  
 3. 稈長は「ホクユウ」よりやや長く、着雌穂高も高い。また分けつの発生はない。  
 4. 耐倒伏性は強に属し、「ホクユウ」より明らかにまさる。



5. すず紋病抵抗性は中～やや弱で「ホクユウ」なみかやや劣り、ごま葉枯病に対してはやや弱～弱で「ホクユウ」なみである。

6. 収量性は「ホクユウ」なみかややまさる。また乾物中の雌穂重割合は「ホクユウ」より高い。

栽培適地と奨励態度 十勝，網走管内で気象条件の良好な地帯，道央北部とこれに類する地帯を栽培適地とする。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが，初期生育がやや劣り，熟期も「ホクユウ」よりやや遅いので，早期播種と初期除草につとめる。またすず紋病やごま葉枯病には弱いので注意を要する。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫期 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	バッファロー	8.12	248	112	糊後	4,602	1,183	822	109	69.0	1976～ 1981
	ホクユウ	8.11	236	101	黄初	4,273	1,108	754	100	68.0	
北見農試	バッファロー	8.16	228	112	黄初	5,445	1,433	989	105	68.6	1977～ 1981
	ホクユウ	8.17	225	96	黄中	5,485	1,405	938	100	66.9	
上川農試	バッファロー	8.7	228	115	黄中	5,092	1,311	901	105	68.7	1980～ 1981
	ホクユウ	8.7	232	103	黄後	4,697	1,268	860	100	67.8	
天北農試	バッファロー	8.11	213	92	黄	5,220	1,395	960	111	68.8	1978
天塩支場	ホクユウ	8.11	198	76	黄	4,820	1,265	865	100	68.4	

参照 1) 北海道農務部編，昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項，48—51 (1982)。

#### (6) ダイヘイゲン (旧系統名 道交S4号)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道交第16号

：(農水省)とうもろこし農林交23号；(種苗法)第602号

来歴 本品種は，1972年(昭47)に北海道立十勝農業試験場において，「To9×To15」(フリント種)を母，「W79A×RB262」(デント種)を父として作出した複交雑の一代雑種である。1975年(昭50)より「十交131」，1977年(昭52)以降「道交S4号」の系統名で各種の試験を行い，1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。

なお本品種の構成自殖系統の来歴は次のとおりである。

To9：十勝地方の在来種「山本種」から育成したフリント種

To15：「黄早生」×「坂下種と山本種の混合花粉」の自殖によって育成したフリント種

W79A：アメリカのウィスコンシン大学より導入したデント種

RB262：フランスのリマグラン社より導入したデント種

特性概要 1. 出芽や初期生育は，既存品種中最も良好な「ワセホマレ」に匹敵する。

2. 稈長，着雌穂高は「ワセホマレ」より高く，稈径は「ワセホマレ」よりやや細い。

3. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」より1～2日遅く，「C535」と同じか1日早い早生種である。

登熟は早く，道東，道北の内陸部では9月中～下旬，山麓，沿海部では9月下旬～10月上旬

に黄熟期に達する。

4. 雌穂の諸形質は「ワセホマレ」に類似し、粒列数は12行前後、1列粒数は33粒前後と多く、子実粒はデントがかったフリント種である。
5. 耐倒伏性は「ワセホマレ」なみで「C535」よりやや強い。
6. すず紋病抵抗性は弱で、「ワセホマレ」より劣り「C535」なみである。ごま葉枯病に対しては「ワセホマレ」なみで、「C535」よりやや弱い。
7. 生総重、乾総重、TDN収量は「ワセホマレ」より明らかに多い。また「C535」より乾雌穂収量が多く、TDN収量はまさる。乾物中のTDN割合は「ワセホマレ」なみに高く、サイレージ用原料としてすぐれている。
8. 採種栽培では両親の同時播種が可能で、採種量も多い。

栽培適地と奨励態度 道東、道北ならびに道央北部において、「ワセホマレ」の一部と「C535」におきかえる。また栽培上の注意は「ワセホマレ」に準ずるが、すず紋病抵抗性が劣るので、肥培管理には留意する。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ダイハイゲン	8.3	233	88	黄後	3,999	1,102	800	104	72.4	1977~
	ワセホマレ	8.2	215	69	黄後	3,641	1,079	771	100	71.3	1982
北見農試	ダイハイゲン	8.7	213	81	黄後	4,862	1,328	955	111	71.8	1977~
	ワセホマレ	8.6	203	67	黄後	4,391	1,208	860	100	71.2	1982
根釧農試	ダイハイゲン	8.20	198	78	黄初~中	4,570	1,099	775	107	70.2	1977~
	ワセホマレ	8.18	193	66	黄中~後	4,055	1,021	726	100	70.9	1982
上川農試	ダイハイゲン	7.29	220	85	完熟	3,825	1,244	902	113	72.5	1977~
	ワセホマレ	7.28	206	69	完熟	3,250	1,104	799	100	72.3	1982
天北農試	ダイハイゲン	8.21	170	63	糊初~中	4,333	924	645	109	69.2	1977, 1979~
	ワセホマレ	8.20	157	46	糊中~後	4,028	844	594	100	69.9	1982
天北農試 天塩支場	ダイハイゲン	8.8	184	70	黄中~後	4,014	1,132	820	106	72.2	1977~
	ワセホマレ	8.7	176	55	黄後~完	3,582	1,068	777	100	72.6	1982
北海道農試	ダイハイゲン	8.3	180	65	黄初~中	4,064	1,139	823	110	72.3	1977~
	ワセホマレ	8.2	166	49	黄中	3,681	1,031	748	100	72.6	1982

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、27-32 (1983)。

(7) R X 42 (原名 R X 42)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第16号

来歴 本品種は、アメリカのアスグロ種子会社が育成したもので、1979年(昭54)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デ

ント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。  
 2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より2～3日遅く、熟期も「ホクユウ」より遅い。  
 3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」より高い。  
 4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強い。  
 5. すず紋病抵抗性は「ホクユウ」と同じで中～やや弱、ごま葉枯病抵抗性も「ホクユウ」なみである。  
 6. 不稔個体の発生率は場所による変動はあるが、「ホクユウ」とほぼ同じと考えられる。  
 7. 収量性は「ホクユウ」よりまさるが、気象条件の良い所では「ホクユウ」より劣る。  
 また乾総重中の雌穂重割合は「ホクユウ」より高く、乾物中のTDN割合も「ホクユウ」より高い。しかし収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」より低い。

栽培適地と奨励態度 十勝中部ならびに道央北部を適地とするが、より温暖な地域では、晩生品種との配合利用も考えられる。また栽培上の注意としては、「ホクユウ」より初期生育が劣り、熟期もやや遅いので、適期播種や初期除草につとめ、すず紋病の多発が予想される地域では肥培管理に留意する。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
十勝農試	R X 42	8.15	253	130	糊 後	5,006	1,254	863	117	68.1	1979～
	ホクユウ	8.13	240	99	黄 中	4,415	1,151	779	100	67.3	1982
北見農試	R X 42	8.23	227	113	糊中～後	4,982	1,276	861	88	67.5	1981～
	ホクユウ	8.20	226	86	黄 中	5,569	1,444	980	100	67.9	1982
上川農試	R X 42	8. 8	250	132	黄 中	5,598	1,512	1,052	120	69.6	1980～
	ホクユウ	8. 8	234	102	黄 後	4,650	1,284	879	100	68.5	1982

参照 1) 北海道農務部編. 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項. 57-61 (1983).

(8) J X 92 (原名 J X 92)

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第17号

来歴 本品種は、アメリカの Jacques Seed 社が育成したもので、1976年(昭51)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。  
 2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より1～2日遅く、登熟の進みも遅い。  
 3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」より高い。  
 4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強い。  
 5. すず紋病およびごま葉枯病に対する抵抗性は「ホクユウ」とほぼ同程度である。

6. 不稔個体の発生率は「ホクユウ」なみである。

7. 生総重、乾総重、TDN収量はいずれも「ホクユウ」よりまさるが、気象条件のあまり良くない所では「ホクユウ」より劣る。また乾物中のTDN割合は「ホクユウ」より高いが、収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度 道央ならびに十勝中部地域など気象条件の良好な地域に適する。また栽培上の注意は初期生育と熟度の進みが遅いため適期播種と初期除草につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
中央農試	J X 92	8. 6	232	108	黄 中	5,451	1,462	1,037	107	70.2	1979
	ホクユウ	8. 5	229	92	黄 後	5,040	1,392	965	100	69.4	1980 1982
上川農試	J X 92	8. 8	246	126	黄 後	5,591	1,376	951	109	69.1	1981~
	ホクユウ	8. 8	232	99	黄 後	4,570	1,280	876	100	68.4	1982
十勝農試	J X 92	8.18	237	115	糊中~後	4,220	1,013	677	109	66.3	1981~
	ホクユウ	8.16	220	84	黄 中	3,810	922	623	100	67.1	1982
北見農試	J X 92	8.22	233	109	糊 中	5,639	1,291	865	93	67.0	1976~ 1977
	ホクユウ	8.19	221	86	黄 初	5,782	1,390	934	100	67.2	1981~ 1982

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、62—66 (1983)。

### (9) デントン (旧系統名 MTC-1C)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準給第18号

来歴 本品種は、アメリカの North American Plant Breeders 社が育成したもので、1980年(昭55)以降「MTC-1C」の系統名で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。

2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より2~3日遅く、登熟の進みも遅い。

3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」より高い。

4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強い。

5. すず紋病およびごま葉枯病に対する抵抗性は「ホクユウ」なみである。

6. 不稔個体の発生率は「ホクユウ」なみである。

7. 乾物収量、栄養収量とも「ホクユウ」より多いが、気象条件のよくない所では「ホクユウ」よりやや劣る。また収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度 道央北部を除く道央地域ならびに道南地域に適する。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが、初期生育や登熟の進みが「ホクユウ」よりやや劣るので、適期播種や初期除草につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (%)	左比 (%)		
中央農試	デントン	8.10	229	110	黄初	5,682	1,555	1,085	113	69.8	1980～
	ホクユウ	8.8	219	92	黄中～後	5,015	1,387	964	100	69.5	1983
道南農試	デントン	8.11	214	99	糊後～黄初	4,288	1,352	921	113	68.1	1981～
	ホクユウ	8.7	196	83	黄中	4,167	1,201	816	100	68.0	1982
上川農試	デントン	8.10	247	122	黄後	5,551	1,416	964	110	68.1	1980～
	ホクユウ	8.8	234	102	黄後	4,650	1,284	879	100	68.5	1982
十勝農試	デントン	8.20	245	108	糊初	4,475	980	646	107	65.2	1981～
	ホクユウ	8.18	221	86	黄初	3,932	901	605	100	66.8	1983

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。44—45 (1984)。

(10) P3906 (原名 P3906)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第19号

来歴 本品種は、アメリカの Pioneer 種子会社が育成したもので、1980年(昭55)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。  
 2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より1～2日遅く、天候不良の場合はさらに遅れる。また登熟の進みも「ホクユウ」より遅い。  
 3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」とほぼ同じである。  
 4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強いが、強風による折損は「ホクユウ」より多い。  
 5. すず紋病およびごま葉枯病に対する抵抗性は「ホクユウ」なみである。  
 6. 不稔個体の発生率は「ホクユウ」なみ～やや低い。  
 7. 生総重、乾総重は「ホクユウ」よりまさり、乾物中のTDN割合も「ホクユウ」より高いため、TDN収量は「ホクユウ」より多い。しかし気象条件の良い所では生総重、乾総重が「ホクユウ」より劣る。また収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」より低い。

栽培適地と奨励態度 北部地方を除く道央地域に適する。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが、初期生育や登熟の進みが「ホクユウ」よりやや劣るので、適期播種や初期除草につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
中央農試	P3906 ホクユウ	8.12	202	85	黄中～後	5,459	1,554	1,137	116	73.2	1982～
		8.11	209	87	黄 後	4,918	1,365	979	100	71.7	1983
上川農試	P3906 ホクユウ	8.11	232	101	黄 中	5,516	1,402	977	113	69.7	1981～
		8.10	232	101	黄 後	4,885	1,262	861	100	68.2	1983
十勝農試	P3906 ホクユウ	8.18	236	96	糊 後	4,861	1,111	763	115	68.2	1980～
		8.16	231	95	黄初～中	4,183	991	661	100	66.5	1983
北見農試	P3906 ホクユウ	8.29	205	80	乳 後	4,735	1,089	725	87	66.6	1981～
		8.24	220	79	糊 中	5,208	1,261	836	100	66.2	1983

参照 1) 北海道農務部編, 昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項, 46—47 (1984).

(II) ヒノデワセ (旧系統名 道交S8号)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 北海道交第17号

: (農水省) とうもろこし農林交25号: (種苗法) 第1209号

来歴 本品種は, 1976年(昭51)に北海道立十勝農業試験場において, 「N19×To38」(フリント種)を母, 「W41A×W79A」(デント種)を父として作出した複交雑の一代雑種である。1979年(昭54)に「十交S27」, 1980年(昭55)以降「道交S8号」の系統名で各種の試験を行い, 1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。

なお, 本品種の構成自殖系統の来歴は次のとおりである。

N19: 元優良品種「坂下」から育成したフリント種(「ヘイゲンワセ」, 「ワセホマレ」の構成系統)

To38: 「黄早生」×「坂下種と山本種の混合花粉」の自殖によって育成したフリント種

W41A: アメリカのウイスコンシン大学より導入したデント種(「ヘイゲンワセ」の構成系統)

W79A: 同上(「ヘイゲンワセ」, 「ダイヘンゲン」の構成系統)

- 特性概要
1. 低温発芽性がまさり, 出芽や初期生育は「ワセホマレ」と同様に良好である。
  2. 稈長は「ワセホマレ」より低いが, 着雌穂高はやや高く, 稈径はやや細い。
  3. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」より2日早い早生種。登熟も「ワセホマレ」より良好で, とくに雌穂の乾物率が高い。
  4. 雌穂の諸形質は「ワセホマレ」に類似し, 粒列数は10～12行, 1列粒数は「ワセホマレ」なみで子実千粒重は「ワセホマレ」よりやや重い。子実粒はデントがかったフリント種である。また子実重は「ワセホマレ」よりやや高い。
  5. 耐倒伏性は「ワセホマレ」よりややまさる。
  6. すず紋病に対しては「ワセホマレ」より弱く, ごま葉枯病に対しては「ワセホマレ」よりやや強い。
  7. 道東, 道北においては乾総重, TDN収量は「ワセホマレ」なみであるが, 登熟が良く乾

総重中の雌穂率が高いため、気象的に不良な条件下ではこれらの収量は「ワセホマレ」よりもさり、安定性も高い。

8. 乾物中のTDN割合が「ワセホマレ」より高く、サイレージ原料としてすぐれている。

9. 採種栽培では両親の同時播種が可能で、採種量多く、雌穂の登熟が良好であるため収穫後の乾燥も容易である。

栽培適地と奨励態度 道東、道北の山麓、沿岸地帯で、早生の中に属する品種の登熟が不十分なところを適地とする。栽培に当たってはすす紋病抵抗性が劣るので、適期播種と適正な肥培管理を行う。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (%)	左比 (%)		
十勝農試	ヒノデワセ	7.31	183	62	黄後～完	3,185	929	682	91	73.5	1977～
	ワセホマレ	8. 3	201	65	黄 後	3,503	1,052	750	100	71.3	1984
北見農試	ヒノデワセ	8. 7	184	68	黄中～後	4,171	1,101	786	95	71.3	1979～
	ワセホマレ	8.10	197	64	黄中～後	4,483	1,170	824	100	70.4	1984
根釧農試	ヒノデワセ	8.21	176	67	黄 初	3,527	826	584	99	69.4	1979～
	ワセホマレ	8.23	186	61	黄後～黄初	3,460	840	587	100	68.4	1984
上川農試	ヒノデワセ	7.28	197	76	完	3,679	1,080	786	105	72.7	1979～
	ワセホマレ	7.29	209	73	完	3,446	1,045	751	100	71.8	1984
天北農試	ヒノデワセ	8.19	153	54	糊中～後	3,625	824	591	106	70.8	1979～
	ワセホマレ	8.21	156	49	糊 中	3,441	789	556	100	68.9	1984
天北農試 天塩支場	ヒノデワセ	8. 6	171	59	黄 後	3,175	943	691	102	73.4	1980～
	ワセホマレ	8. 8	180	55	黄 後	3,367	944	677	100	71.7	1982
北海道農試	ヒノデワセ	8. 1	163	57	黄 後	3,555	1,013	738	91	72.9	1979～
	ワセホマレ	8. 3	170	52	黄中～後	3,754	1,115	807	100	72.5	1984

参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 40-43 (1985).

2) 長谷川寿保, 農業技術, 41, 26-27 (1986).

## (12) P3732 (原名 P3732)

登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第20号

来歴 本品種は、アメリカの Pioneer 種子会社が育成したもので、1982年(昭57)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

特性概要 1. 初期生育は「P3715」よりもさるが「ホクユウ」より劣る。

2. 稈長、着雌穂高は「ホクユウ」より高く、「P3715」なみかやや高い。

3. 絹糸抽出期は「ホクユウ」と「P3715」の中間で、中生種の中に属する。

4. 耐倒伏性は「P3715」なみで、「ホクユウ」より強い。

5. すず紋病に対しては「P3715」より強く、ごま葉枯病に対しては「P3715」なみで「ホクユウ」より強い。また不稔個体発生率は「P3715」や「ホクユウ」よりやや少ない。

6. 乾総重、TDN収量はともに「P3715」、「ホクユウ」より多い。

7. 乾総重中の雌穂重割合やTDN割合はいずれも「P3715」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 道央及び道南地域に適する。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが、初期生育や登熟が「ホクユウ」よりやや劣るので、適期播種と適正な肥培管理につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
北海道農試	P 3 7 3 2	8.13	209	104	黄 後	5,505	1,619	1,166	114	72.0	1983～
	P 3 7 1 5	8.16	209	101	黄 後	5,292	1,441	1,025	100	71.1	1984
中央農試	P 3 7 3 2	8.11	219	83	黄 中	5,619	1,603	1,156	107	72.1	1982～
	P 3 7 1 5	8.14	217	97	黄 中	5,774	1,527	1,080	100	70.7	1984
上川農試	P 3 7 3 2	8. 8	251	126	黄 中	5,303	1,469	1,007	114	68.6	1982～
	P 3 7 1 5	8.11	250	123	黄 初	5,169	1,316	885	100	67.2	1984

参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 52-53 (1985).

(13) ロイヤルデント85 (旧系統名 LG5)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第21号

来歴 本品種は、フランスのリマグラン社が育成したもので、1981年(昭56)以降「LG5」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(準奨励)品種に決定した。複交雑の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。

特性概要 1. 初期生育は「ワセホマレ」よりやや劣る。

2. 稈長は「ワセホマレ」なみで、着雌穂高は「ワセホマレ」より高い。

3. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」なみ～1日早い早生種である。登熟は「ワセホマレ」よりやや遅い。

4. 耐倒伏性は「ワセホマレ」なみ～やや強い。

5. すず紋病抵抗性は「ワセホマレ」より劣り、ごま葉枯病に対しては「ワセホマレ」よりやや弱い。

6. 乾総重, TDN収量は場所によって多少のふれがあるが、ほぼ「ワセホマレ」なみである。

栽培適地と奨励態度 道北, 網走及び根釧地域の内陸, 並びに十勝の山麓, 沿海で気象条件の良い地帯を適地とし, 栽培上の注意は, 他の早生品種に準ずる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ロイヤルデント85	8. 6	198	77	黄 中	3,369	863	623	95	71.9	1981～
	ワセホマレ	8. 6	200	64	黄中～後	3,305	903	657	100	72.7	1984
北見農試	ロイヤルデント85	8.10	185	73	黄 中	3,985	1,098	785	97	71.0	1982～
	ワセホマレ	8.11	195	58	黄中～後	4,301	1,148	810	100	70.2	1984
根釧農試	ロイヤルデント85	8.23	197	82	糊 後	3,304	864	610	108	67.5	1982～
	ワセホマレ	8.22	196	66	糊 後	3,286	812	566	100	66.8	1984



試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
上川農試	ロイヤルデント85	8.4	213	96	黄後～完	4,779	1,178	832	120	70.6	1982～
	ワセホマレ	8.5	214	78	糊 後	3,771	980	692	100	70.6	1983
天北農試	ロイヤルデント85	8.22	166	68	糊中～後	3,365	861	619	98	69.4	1982～
	ワセホマレ	8.23	165	53	糊中～後	3,466	885	630	100	68.8	1984

参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 54-55 (1985).

#### (14) エマ (旧系統名 PH1201)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第22号

来歴 本品種は、フランスの Pioneer 社が育成したもので、1982年 (昭57) 以降「PH1201」の系統名で各種の試験を行い、1986年 (昭61) に優良 (準奨励) 品種に決定した。変形単交雑 (フロント種×デント種) の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。なお本品種は、品種名「EMA」で、1982年 (昭57) OECD に登録されている。

特性概要 1. 出芽は「ワセホマレ」なみに良好で、初期生育は「ワセホマレ」よりやや劣るが、「ワセミノリ」より優れる。

2. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」より約2日早く、熟期も「ワセホマレ」より若干早い早生の早に属する。

3. 稈長は「ワセホマレ」より短いが、着雌穂高は「ワセホマレ」よりやや高い。雌穂は短く、円錐型を呈する。

4. 耐倒伏性は「ワセホマレ」「ワセミノリ」よりまさる。

5. すず紋病抵抗性は「ワセホマレ」より弱く、ごま葉枯病抵抗性は「ワセホマレ」と同程度である。

6. 道東、道北地域における本品種のTDN収量は、「ワセホマレ」なみ～ややまさるが、十勝ではやや劣る。乾物中のTDN割合は「ワセホマレ」よりやや高く、「ワセミノリ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は、道北および根釧地域で、栽培上の注意は他の早生品種に準ずる。ただし、すず紋病の発生軽減のために適正な肥培管理を行う。また初期生育が劣るので、肥料やけや初期雑草の対策を十分に行う。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
天北農試	エ マ	8.18	159	63	糊 後	3,556	918	658	104	69.6	1983～
	ワセホマレ	8.21	167	52	糊中～後	3,511	891	633	100	68.9	1985
根釧農試	エ マ	8.22	185	74	糊 後	3,168	835	593	108	67.7	1983～
	ワセホマレ	8.23	205	65	糊中～後	3,345	790	549	100	66.7	1985
十勝農試	エ マ	8.3	176	64	黄中～後	3,120	854	624	93	73.2	1982～
	ワセホマレ	8.5	206	66	黄 中	3,257	920	673	100	73.1	1985

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着 穂 穂高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生 穂 重 (kg)	乾 穂 重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
北見農試	エ マ	8.25	165	56	黄 初	3,833	902	619	99	68.6	1983
	フセホマレ	8.30	174	48	糊 中	4,722	934	627	100	67.1	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-33 (1986).

(15) ディア (旧系統名 PH2202)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 単輪交第23号

来歴 本品種は, フランスの Pioneer 社が育成したもので, 1982年 (昭57) 以降「PH2202」の系統名で各種の試験を行い, 1986年 (昭61) に優良 (準奨励) 品種に決定した。単交雑 (デント種×フリント種) の一代雑種であるが, 構成系統名は不明である。なお本品種は, 品種名「DEA」で, 1980年 (昭55) OECDに登録されている。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「C535」なみかやや劣る。  
 2. 絹糸抽出期は「C535」より1~2日遅く, 熟期も「C535」よりやや遅い早生の晩に属する品種である。  
 3. 稈長は「C535」なみで, 着穂穂高は「C535」よりやや高い。  
 4. 耐倒伏性は「C535」よりまさる。  
 5. すず紋病抵抗性は「C535」と同様に弱く, ごま葉枯病抵抗性は「C535」よりやや弱く, 「ホクユウ」なみである。  
 6. TDN収量は「C35」よりややまさり, 乾物中のTDN割合は「C535」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は十勝, 網走 (ただし, 気象条件の不良な地帯を除く) および道央北部で, 栽培上の注意は「C535」に準ずる。初期生育が劣るので適正な肥培管理を行う。また, すず紋病の発生に留意する。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着 穂 穂高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生 穂 重 (kg)	乾 穂 重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
十勝農試	デ ィ ア	8. 8	230	93	黄初~中	4,216	1,126	810	107	71.8	1982~ 1985
	C 5 3 5	8. 7	213	85	黄 中	4,136	1,041	754	100	72.3	
北見農試	デ ィ ア	8.12	201	78	黄 初	4,561	1,229	874	101	70.3	1983~ 1985
	C 5 3 5	8.13	191	81	黄 初	4,844	1,227	865	100	69.7	
上川農試	デ ィ ア	8. 5	230	103	黄 後	4,665	1,317	941	114	71.5	1983 1985
	C 5 3 5	8. 4	209	92	黄後~完	4,563	1,168	829	100	70.9	
根釧農試	デ ィ ア	9.24			未 乳	2,874	384	223	134	58.2	1983
	C 5 3 5	9.24			未 乳	2,424	287	167	100	58.2	
天北農試	デ ィ ア	9.22	141	54	未 乳	2,546	379	230	94	60.7	1983
	C 5 3 5	9.19	136	54	未 乳	2,975	400	244	100	61.0	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-35 (1986).

(16) ソロ100H (旧系統名 TH211A)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交第24号

来歴 本品種は、西ドイツのKWS社が育成したもので、1982年(昭57)以降「TH211A」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×フリント種)の一代雑種であるが構成系統名は不明である。なお本品種は、品種名「S O L O」で、1982年(昭57)OECDに登録されている。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「バッファロー」よりやや劣る。  
 2. 絹糸抽出期は「バッファロー」より1日程度遅いが、熟期は「バッファロー」なみかやや早く、中生の中に属する。  
 3. 稈長は「バッファロー」より高いが、着雌穂高は「バッファロー」なみである。  
 4. 耐倒伏性は「バッファロー」よりやや弱く、「ホクユウ」より強い。  
 5. すず紋病抵抗性は「バッファロー」なみ、ごま葉枯病抵抗性は「ホクユウ」なみで「バッファロー」より強い。  
 6. TDN収量は「バッファロー」なみで、乾物中のTDN割合は「バッファロー」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は道央地域。栽培に当たっては、初期生育がやや劣るので、肥料やけや初期雑草の対策を十分に行い、生育促進に努める。また収穫時の乾物率がやや低いので適正な栽植密度を保つ。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
中央農試	ソロ100H	8. 8	233	106	黄 後	5,535	1,633	1,180	103	72.3	1983～ 1985
	バッファロー	8. 7	227	108	黄 中	5,240	1,579	1,142	100	72.3	
上川農試	ソロ100H	8.10	262	119	黄 後	5,531	1,391	981	101	70.5	1983 1985
	バッファロー	8.10	251	120	黄中～後	5,245	1,391	967	100	69.3	
十勝農試	ソロ100H	8.14	271	117	糊 後	4,915	1,120	776	95	69.0	1983～ 1985
	バッファロー	8.12	249	113	糊中～後	4,779	1,167	819	100	69.9	
北見農試	ソロ100H	8.19	237	100	糊 後	5,013	1,336	927	105	68.1	1983～ 1985
	バッファロー	8.17	214	95	糊中～後	4,626	1,261	886	100	69.0	

参照 1) 北海道農務部編、昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項、36-37 (1986)。

(17) P3747 (旧系統名 PH3201)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交第25号

来歴 本品種は、アメリカのPioneer社が育成したもので、1982年(昭57)以降「PH3201」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。なお本品種は1981年(昭56)にOECDに登録されている。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「ホクユウ」「バッファロー」より劣る。



4. 開花期は「ユウヅル」より約6日早く、成熟期も12日前後早い中生種である。
5. 耐倒伏性は「ユウヅル」より強く、裂莢性はほぼ「ユウヅル」なみである。
6. マメシクイガの被害は「ユウヅル」なみで多く、ダイズわい化病、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性はない。
7. 収量は「ユウヅル」と同程度であるが、熟期が早いので収量の安定性は「ユウヅル」より高い。
8. 子実の粗蛋白含有率は「ユウヅル」よりやや低く、粗脂肪含有率は「ユウヅル」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 空知支庁管内の中南部，石狩，後志，胆振，日高の各支庁管内ならびにこれらに類似する地帯において、「ユウヅル」「北見白」「キタムスメ」「トヨスズ」などにおきかえる。また栽培上の注意は「ユウヅル」に準ずる。

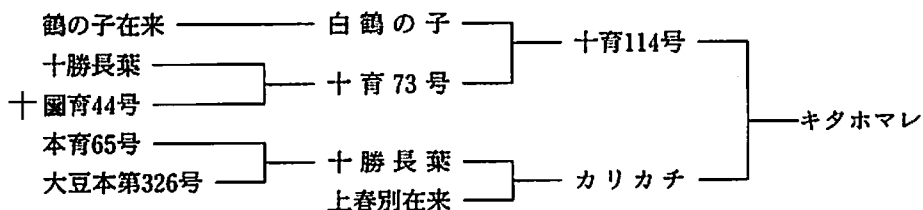
試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主莖長 (cm)	主莖節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実数 (実/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	ユウヒメ	7.23	10. 1	48	12.1	5.3	53.5	341	105	410	上中	1975～
	ユウヅル	7.29	10.13	61	14.7	4.1	56.4	324	100	418	上下	1978
道南農試	ユウヒメ	7.23	9.24	62	13.1	5.2	61.9	354	104	410	中上	1975～
	ユウヅル	7.28	10. 6	75	14.5	3.9	56.3	342	100	419	中上	1978
原原種農場	ユウヒメ	7.21	9.26	51		6.9	56.9	284	86	368	上中	1975～
	ユウヅル	7.26	10. 5	63		4.9	56.8	330	100	418	上中	1978
十勝農試	ユウヒメ	7.27	9.30	48	12.2	5.6	46.3	241	83	372	上下	1975～
	ユウヅル	8. 1	10.15	65	13.9	6.0	51.5	290	100	403	上下	1978

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項。1—4 (1979)。  
 2) 後木利三。農業技術。34, 512—514 (1979)。  
 3) 谷村吉光。北海道立農試集報。45, 70—78 (1981)。

(2) キタホマレ (旧系統名 十育171号)

登録番号：(北海道) 大豆北海道第24号；(農水省) だいず農林70号；(種苗法) 第200号

来歴 本品種は、1965年(昭40)に北海道立十勝農業試験場において、「十育114号」を母、「カリカチ」を父として人工交配を行い育成したもので、1972年(昭47)に「十系479号」、1973年(昭48)以降「十育171号」の系統名で各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主莖長は「キタムスメ」より短く、主莖節数、分枝数は「キタムスメ」なみ～やや少、最下着莢位置は「キタムスメ」よりやや低い。
2. 初期生育は「キタムスメ」よりやや劣る。胚軸色は緑、小葉の形は円葉、花色は白、毛茸色は褐、熟莢は褐色を呈する。
3. 子実はやや扁球形、種皮色は黄白、臍色は暗褐、千粒重は約300gで「キタムスメ」より重く、外観品質は「キタムスメ」なみである。
4. 開花期は「キタムスメ」なみ、成熟期は「キタムスメ」より5～6日遅く、中生の晩に属する。
5. 耐倒伏性は「キタムスメ」なみであるが、多肥や密植条件では「キタムスメ」より倒伏がやや多い。ク
6. マメシンヌイガの被害は「キタムスメ」なみ、ダイズシストセンチュウ、ダイズわい化病に対する抵抗性はない。またほ場ではダイズべと病の発病が認められない。
7. 収量は「キタムスメ」より約15%多収を示し、耐冷性も強で「キタムスメ」なみである。しかし熟期がやや遅いため、冷涼な地域での収量性は不安定である。
8. 子実の粗蛋白含有率は「キタムスメ」よりやや高く、粗脂肪含有率は「キタムスメ」なみである。

栽培適地と奨励態度 道央中部ならびに道央南部で、「キタムスメ」「北見白」におきかえる。また栽培上の注意は「キタムスメ」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主莖長 (cm)	主莖節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実実数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	キタホマレ	7.24	10.6	51	11.6	5.6	68.4	328	112	317	中上	1973～
	キタムスメ	7.23	10.1	60	12.0	5.7	61.6	293	100	305	中上	1979
中央農試	キタホマレ	7.20	10.2	43	11.3	4.6	72.7	340	113	305	中上	1975～
	キタムスメ	7.20	9.29	54	11.9	4.2	60.8	300	100	289	中上	1979
原原種農場	キタホマレ	7.19	9.28	43	—	5.6	77.0	333	114	284	中上	1973～
	キタムスメ	7.19	9.25	53	—	5.3	66.4	292	100	281	中上	1979
上川農試	キタホマレ	7.20	10.2	60	11.7	6.2	90.4	332	117	302	中中	1973～
	キタムスメ	7.20	9.28	70	12.1	6.1	80.5	310	100	294	中上	1977
北見農試	キタホマレ	7.29	10.9	64	11.8	4.9	71.0	330	115	306	中上	1973～
	キタムスメ	7.28	10.4	70	12.3	5.1	66.4	288	100	284	中上	1976

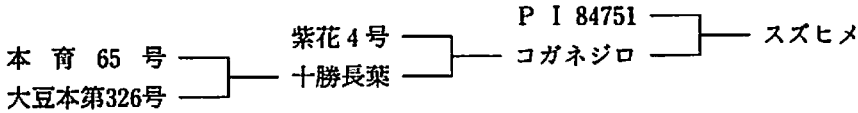
- 参照 1) 北海道農務部編。昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項。9—13 (1980)。  
 2) 砂田喜与志, 等。北海道立農試集報。45, 79—88 (1981)。  
 3) 砂田喜与志, 等。農業技術。35, 455—458 (1980)。

(3) スズヒメ (旧系統名 十育182号)

登録番号: (北海道) 大豆北海道第25号; (農水省) だいが農林71号; (種苗法) 第199号

来歴 本品種は、1960年(昭35)に北海道立十勝農業試験場において、ダイズシストセンチュウ抵抗性品種の育成を目的として、「P I 84751」(アメリカより導入した中国産大豆)を母、「コ

ガネジロ」を父として人工交配を行い育成したものである。1969年（昭44）に「十系421号」の系統名を付し、以後交配母本として利用したが、1975年（昭50）に納豆原料用として本系統利用の可能性に着目し、再度系統選抜を行い、1977年（昭52）以降「十育182号」の系統名で各種の試験を行い、1980年（昭55）に優良（奨励）品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は「トヨスズ」よりやや長く、主茎節数も「トヨスズ」より1～2節多い。分枝は「トヨスズ」より多く、基部で開張したのち直立し、主茎頂部の高さ程度に伸長する。
2. 初期生育は「トヨスズ」より劣る。胚軸色は紫、小葉の形は長葉、花色は赤紫、毛茸色は白、熟莢は淡褐色を呈する。
3. 子実はやや扁球形、種皮色は黄、臍色は黄～極淡褐、千粒重は130～150gで小粒の中に属し、外観品質は良いが、粒揃いはやや劣る。
4. 開花期は「トヨスズ」より1～2日遅いが、成熟期は4～5日早く、中生の早に属する。
5. 耐倒伏性、耐冷性は「トヨスズ」なみ、裂莢性は「トヨスズ」より難である。
6. マメシンクイガ、菌核病の被害は「トヨスズ」なみ、ダイズシストセンチュウ抵抗性は「トヨスズ」より強い。
7. 収量は「トヨスズ」より15%前後劣るが、密植による増収率は「トヨスズ」よりやや高い。
8. 子実の粗蛋白含有率は「トヨスズ」なみで、粗脂肪含有率は「トヨスズ」よりやや低い。納豆としての加工適性はすぐれている。

栽培適地と奨励態度 十勝中部地域で「トヨスズ」の一部におきかえる。また栽培に当たっては、密植栽培とし、納豆原料であるため、とくに収穫、乾燥、調整には子実品質を損わないよう注意する。

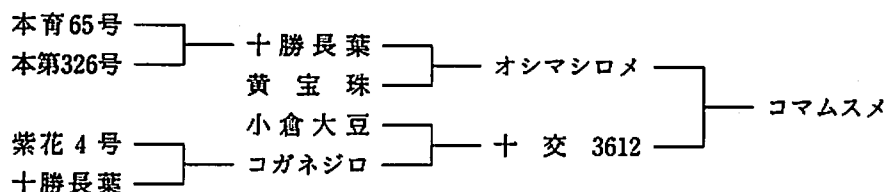
試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	珍実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	スズヒメ	7.25	9.27	45	11.7	6.3	85	230	80	130	上下	1976～ 1979
	トヨスズ	7.21	10.6	44	10.6	4.5	53	286	100	319	上下	
北見農試	スズヒメ	7.26	9.28	59	13.2	6.5	113	243	82	121	中上	1978～ 1979
	トヨスズ	7.20	10.6	58	10.8	4.2	67	296	100	307	中中	
上川農試	スズヒメ	7.20	9.20	55	13.4	6.3	108	250	82	114	中下	1977～ 1979
	トヨスズ	7.15	9.29	51	11.0	3.6	63	305	100	301	中上	
中央農試	スズヒメ	7.22	9.24	43	12.0	3.8	83	254	90	141	上下	1977～ 1979
	トヨスズ	7.19	10.1	39	10.2	3.7	53	281	100	319	上中	
原原種農場	スズヒメ	7.18	9.16	41		6.0	93	225	76	127	中上	1977～ 1979
	トヨスズ	7.15	9.27	40		5.0	65	297	100	293	中上	

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項、14-19 (1980).  
 2) 砂田喜与志、等、北海道立農試集報、45, 89-100 (1981).  
 3) 砂田喜与志、等、農業技術、35, 458-461 (1980).

(4) コマムスメ (旧系統名 中育9号)

登録番号：(北海道) 大豆北海道第26号；(農水省) だいで農林75号；(種苗法) 第343号

来歴 本品種は、1968年(昭43)に北海道立中央農業試験場において、「オシマシロメ」を母、「十交3612」を父として人工交配を行い育成したもので、1973年(昭48)より「中系27号」、1975年(昭50)以降「中育9号」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 主茎長は「ユウヅル」より短く、主茎節数も少ない。分枝数、着実数は「ユウヅル」より多い。

2. 胚軸色は紫、小葉の形は円葉、花色は紫、毛茸色は白、熟莢は淡褐色を呈する。

3. 子実扁球形、種皮色は黄白、臍色は黄、千粒重は370g程度で「ユウヅル」より小さいが、大の中に属する。しわ粒や裂皮粒の発生は「ユウヅル」なみかやや少ない。粒揃い良く、外觀品質は「ユウヅル」なみに良好である。

4. 開花期は「ユウヅル」より3～5日早い、成熟期は「ユウヅル」よりやや遅い晩生種である。

5. 耐倒伏性は「ユウヅル」よりやや強く、マメシンクイガの被害は「ユウヅル」なみで多い。ダイズわい化病、ダイズウィルス病、ダイズシストセンチュウなどに対する抵抗性はない。

6. 収量は「ユウヅル」より12～22%多収を示す。収量に対する増肥効果は小さいが、密植効果は大きい。

7. 子実の粗蛋白含有率は「ユウヅル」なみで、粗脂肪含有率は「ユウヅル」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 道南(渡島、桧山支庁管内)およびこれに準ずる地帯(胆振、日高支庁管内の一部)に適する。また栽培上の注意は「ユウヅル」に準ずるが、やや密植にすることが望ましい。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実数 (実/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	コマムスメ	7.27	10.16	58	13.2	5.2	60.7	334	112	373	上下	} 1975 1977 1981
	ユウヅル	7.31	10.16	65	15.1	4.6	57.6	299	100	417	上下	
道南農試	コマムスメ	7.26	10.5	65	13.2	6.5	79.3	343	122	363	中上	
	ユウヅル	7.29	10.2	70	14.8	5.1	61.5	281	100	399	中上	
十勝農試	コマムスメ	7.30	(10.18)	61	12.3	7.3	55.4	282	105	333	中上	} 1975 1977 1978 1980 1981
	ユウヅル	8.1	(10.15)	64	13.9	6.0	50.1	269	100	388	中上	
原原種農場	コマムスメ	7.25	10.14	64		6.8	66.7	358	120	368	中上	
	ユウヅル	7.27	10.7	68		4.9	53.8	298	100	414	中上	

注) 十勝農試の成熟期は、コマムスメが成熟期に達しなかった1980年を除く4カ年平均。

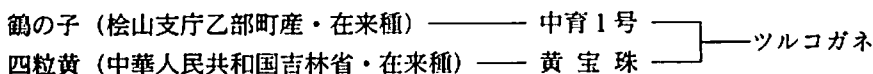


- 参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。8-12 (1982)。  
 2) 番場宏治, 等。北海道立農試集報。48, 85-94 (1982)。

(5) ツルコガネ (旧系統名 中育14号)

登録番号：(北海道) 大豆北海道第27号；(農水省) だいが農林79号；(種苗法) 第895号

来歴 本品種は、1971年(昭46)に北海道立中央農業試験場において、「中育1号」を母、「黄宝珠」を父として人工交配を行い育成したもので、1978年(昭53)に「中系67号」、1981(昭56)以降「中育14号」の系統名で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は、「トヨスズ」より長く「ユウヅル」なみ、主茎節数も「トヨスズ」より多いが、「ユウヅル」より少なく、分枝数は「ユウヅル」なみで、伸育型は無限である。  
 2. 胚軸色は緑、小葉の形は円葉、花色は白、毛茸色も白で、熟莢は淡褐色を呈する。  
 3. 子実は球形、種皮色は黄白で、臍色は極淡褐。千粒重は「トヨスズ」と「ユウヅル」の中間で大に属し、外観品質は良好である。  
 4. 出芽の状態は「ユウヅル」よりも良く、開花期は「トヨスズ」より1日遅く、「ユウヅル」より10~12日早い。成熟期は「トヨスズ」より3日遅く、「ユウヅル」より6~10日早い中生種である。  
 5. 耐倒伏性は「ユウヅル」よりやや強く、土壤湛水処理試験による耐湿性は「ユウヅル」より強く、「トヨスズ」なみの中程度であった。  
 6. ダイズわい化病に対しては圃場抵抗性を有し、本病の多発地帯でも発病率は従来の品種よりかなり低く、また発病による減収程度も低い。しかし、ダイズモザイク病、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性は弱く、またマメシンクイガの被害も「ユウヅル」なみに多い。  
 7. 収量は「トヨスズ」より明らかに多く、「ユウヅル」をも凌駕する。とくにダイズわい化病多発地帯では「トヨスズ」や「ユウヅル」との収量差が大きくなる。また収量に対する増肥効果はほとんどないが、密植効果は大きい。  
 8. 子実の粗蛋白ならびに粗脂肪含有率は「ユウヅル」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 ダイズわい化病の発生が極めて多い日高、胆振、桧山北部、渡島北部で、「トヨスズ」「キタムスメ」「ユウヅル」などにおきかえる。また栽培に当っては、ダイズわい化病に対して圃場抵抗性を有するとはいえ、無防除では減収するので、従来の品種と同様の防除が必要である。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実収量 (g/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	ツルコガネ	7.26	10.13	65	14.6	5.5	58.3	286	108	352	上下	1981~ 1983
	ユウヅル	8.5	10.20	67	15.2	5.7	56.0	265	100	398	上下	
	トヨスズ	7.25	10.10	42	10.2	3.4	50.1	245	92	328	中上	

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
道南農試	ツルコガネ	7.25	10.4	62	13.8	5.6	62.8	248	102	323	中上	1981~
	ユウヅル	8.3	10.7	65	14.4	4.6	54.6	242	100	390	上下	1983
十勝農試	ツルコガネ	7.30	10.13	68	14.6	6.5	50.7	201	83	290	中中	1981~
	トヨスズ	7.28	10.11	46	13.5	3.7	45.2	243	100	304	上下	1983
原原種農場	ツルコガネ	7.24	10.9	68	16.0	7.7	62.2	333	114	345	中上	1981~
	トヨスズ	7.19	10.5	47	15.3	3.9	53.3	291	100	334	中中	1983

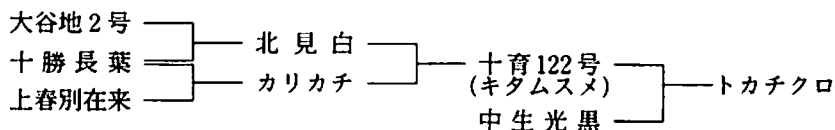
注) 原原種農場の主茎節数は、昭和58年のみである。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-14 (1984).  
 2) 番場宏治, 等, 北海道立農試集報, 52, 53-64 (1985).  
 3) 谷村吉光, 等, 農業技術, 39, 26-28 (1984).

(6) トカチクロ (旧系統名 十育184号)

登録番号: (北海道) 大豆北海道第28号; (農水省) だいず農林80号; (種苗法) 第896号

来歴 本品種は、1967年(昭42)に北海道立十勝農業試験場において、「十育122号」(のちのキタムスメ)を母、「中生光黒」を父として人工交配を行い育成したもので、1976年(昭51)に「十系567号」、1977年(昭52)以降「十育184号」の系統名で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は「中生光黒」なみで、主茎節数は「中生光黒」よりやや多く、分枝数も「中生光黒」より多い。伸育型は有限である。  
 2. 胚軸色、花色は紫、小葉の形は円葉で、毛茸は褐色、熟莢は褐色を呈する。  
 3. 子実は「中生光黒」と同様の扁球形で、子葉は黄色であるが種皮は黒色で光沢が強い。臍色も黒で千粒重は「中生光黒」よりやや重く、粒大は大に属し、外観品質は「中生光黒」なみである。  
 4. 開花期は「中生光黒」より約4日早く、成熟期も7日前後早い中生種である。  
 5. 耐倒伏性は「中生光黒」なみの中で、マメシンクイガ、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性も「中生光黒」と同様の弱である。また裂莢の難易、耐冷性も「中生光黒」と差がない。しかし種皮に発生する裂皮が「中生光黒」より多い。  
 6. 収量は「中生光黒」より多く、ほぼ「キタムスメ」なみである。中生種であるため低温年における減収程度は「中生光黒」より少ない。  
 7. 子実の粗蛋白含有率は「中生光黒」より低く、粗脂肪含有率は高い。煮豆としての適性は「中生光黒」と差がない。

栽培適地と奨励態度 十勝中部ではとくに地味豊かな沖積土地帯を除く地域において「中生

光黒」にかえて栽培する。山麓および沿海では特に気象条件不良な地帯を除く。また栽培上の注意は「中生光黒」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	総実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	トカチクロ	7.26	10.3	55	12.9	6.0	56.8	287	107	358	中上	1977~ 1983
	中生光黒	7.30	10.11	51	12.3	4.7	50.3	267	100	349	中上	
北見農試	トカチクロ	8.1	10.9	58	12.3	5.9	58.1	244	130	356	中中	1980~ 1983
	中生光黒	8.3	10.13*	62	12.7	4.9	53.3	188	100	340	中中	
上川農試	トカチクロ	7.23	10.2	68	13.4	5.0	60.1	268	101	346	中上	1979~ 1983
	中生光黒	7.28	10.14	79	14.6	3.9	56.5	265	100	355	中中	
中央農試	トカチクロ	7.27	10.7	57	13.0	5.9	59.5	307	122	414	中中	1980~ 1983
	中生光黒	7.29	10.16	60	13.8	3.9	59.0	252	100	412	中中	
原原種農場	トカチクロ	7.23	9.29	70		6.4	69.1	359	105	356	中上	1980~ 1982
	中生光黒	7.25	10.10	70		4.6	62.3	341	100	398	上下	

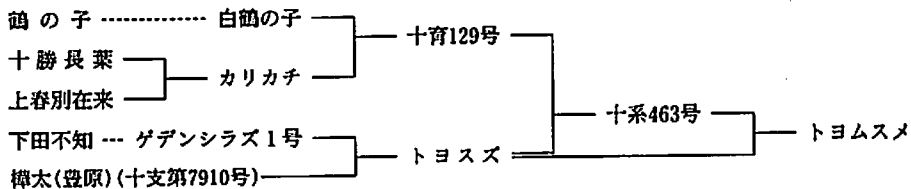
\* 未成熟の2カ年を除く。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-19 (1984).  
 2) 佐々木紘一, 等, 北海道立農試集報, 51, 113-124 (1984).  
 3) 土屋武彦, 等, 農業技術, 39, 407-409 (1984).

(7) トヨムスメ (旧系統名 十育191号)

登録番号: (北海道) 大豆北海道第29号; (農水省) だいで農林81号; (種苗法) 第1216号

来歴 本品種は, 1971年(昭46)に北海道立十勝農業試験場において, 「十系463号」を母, 「トヨスズ」を父として人工交配を行い育成したもので, 1978年(昭53)より「十系600号」, 1980年(昭55)以降「十育191号」の系統名で各種の試験を行い, 1985年(昭60)年に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 胚軸色, 花色は紫, 小葉の形は円葉で, 毛茸は白色, 熟莢は淡褐色を呈する。  
 2. 主茎長, 主茎節数は「トヨスズ」なみで, 分枝数は「トヨスズ」より多い, 伸育型は有限である。  
 3. 子実は扁球形で, 大きさは「トヨスズ」と同じ大の小, 種皮色は黄白, 臍色は黄で, いずれも「トヨスズ」と同じである。外観品質は「トヨスズ」よりややまざる。  
 4. 開花期は「トヨスズ」と同じであるが, 成熟期は「トヨスズ」より4~8日早い中生種である。

5. 耐倒伏性は「トヨスズ」なみの強、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性も「トヨスズ」なみの強である。また黒根病に対する抵抗性を有し、耐冷性や裂莢の難易は「トヨスズ」と差がなく、各々中および易である。
6. 収量は「トヨスズ」より5%前後多い。「トヨスズ」より熟期が早いため、低温などによる生育遅延の被害は「トヨスズ」より少ない。
7. 子実の粗蛋白含有率は「トヨスズ」よりやや低く、粗脂肪含有率は「トヨスズ」なみである。また煮豆、味噌、豆腐としての加工適性は「トヨスズ」と差がない。
- 栽培適地と奨励態度 十勝地方とこれに類似の地帯で「トヨスズ」におきかえて奨励する。また栽培上の注意は「トヨスズ」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月,日)	成熟期 (月,日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	トヨムスメ	7.23	10.2	51	10.2	4.6	52.6	275	102	325	上下	1980~ 1984
	トヨスズ	7.23	10.7	48	10.4	3.8	48.2	269	100	315	中上	
北見農試	トヨムスメ	7.25	10.4	50	10.1	5.1	61.0	247	97	301	中中	1980~ 1984
	ヒメユタカ	7.30	10.8	65	11.4	4.7	58.6	255	100	332	中中	
上川農試	トヨムスメ	7.17	9.29	58	9.9	4.2	60.0	273	108	317	中上	1980~ 1984
	キタコマチ	7.16	9.23	59	10.5	3.9	49.9	253	100	280	中中	
中央農試	トヨムスメ	7.25	10.2	50	10.8	4.5	62.4	307	115	351	上下	1980~ 1984
	トヨスズ	7.24	10.8	45	10.4	3.7	54.0	266	100	330	中上	
原原種農場	トヨムスメ	7.21	9.30	50	10.1*	5.1	56.7	311	109	340	上中	1980~ 1984 (*:1983 ~1984)
	トヨスズ	7.19	10.3	49	10.0*	4.3	53.2	285	100	325	中上	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-22 (1985).  
2) 紙谷元一, 等, 農業技術, 40, 547-548 (1985).

## 6. 小 豆

### (I) ホッカイシロショウズ (旧系統名 十育93号)

登録番号:(北海道)小豆北海道第12号:(農水省)あずき農林3号

来歴 本品種は, 1966年(昭41)に北海道立十勝農業試験場において, 「白小豆(川西)」(白色在来種)を母, 「茶般早生」を父として人工交配を行い育成したもので, 1971年(昭46)より「6003」, 1975年(昭50)以降「十育93号」の系統名で各種の試験を行い, 1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 主茎長は「宝小豆」より5cm程度短く, 主茎節数, 分枝数は「宝小豆」とほぼ同じで, 着莢数はやや多い。
2. 小葉の形は円葉, 葉色は緑で「宝小豆」よりややうすい。花色は黄, 毛茸の形は鈍, 熟莢は白色を呈する。
3. 子実短円筒形, 種皮色は黄白, 千粒重は140g程度で「宝小豆」よりやや大きい。粒揃いはやや不良で, 外観品質は「宝小豆」よりやや劣る。

4. 開花期は「宝小豆」なみであるが、成熟期は「宝小豆」より2～3日遅く、中生の晩に属する。
5. 耐倒伏性は「宝小豆」よりやや強く、アズキ落葉病、莖疫病の被害は「宝小豆」なみである。種子の発芽能力に多少問題があり、低温や多肥条件では発芽率が低下する。また耐冷性は「宝小豆」より劣る。
6. 収量は、道東や道北では「宝小豆」より劣るが、道央や道南では「宝小豆」なみである。
7. 白あん原料としての適性には問題がない。

栽培適地と奨励態度 道央および道南の気象条件の良好な地帯およびこれに準ずる地帯に適し、栽培に当たっては必ず種子消毒を行い、適正な栽植株数確保のため播種量をやや多めにする。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	株実数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	ホッカイシロショウズ	7.30	(9.19)	38	2.9	41	206	80	142	中下	1975～ 1977
	宝 小 豆	7.31	(9.18)	44	3.0	38	259	100	134	中上	
中央農試	ホッカイシロショウズ	7.28	9.24	32	1.7	45	273	109	140	中下	1976～ 1977
	宝 小 豆	7.28	9.16	34	1.8	39	250	100	114	中上	
上川農試	ホッカイシロショウズ	7.21	(9.24)	46	3.2	29	209	84	142	中	1975～ 1979
	宝 小 豆	7.22	(9.9)	47	3.4	33	249	100	125	上下	
原原種農場	ホッカイシロショウズ	7.23	9.22	39	2.6	45	284	114	147	中上	1975～ 1979
	宝 小 豆	7.25	9.15	37	2.1	34	250	100	124	上下	

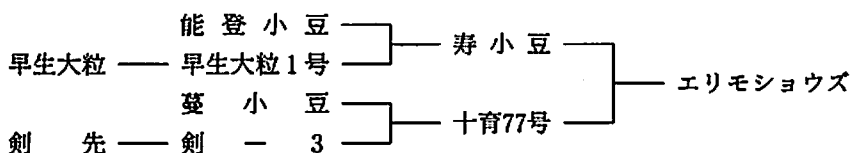
注) 十勝農試の成熟期は1975年のみ、上川農試は1975年と1977年の2カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編. 昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項. 5-10 (1979).  
 2) 足立大山, 等. 北海道立農試集報. 43, 80-87 (1980).  
 3) 村田吉平. 農業技術. 35, 21-22 (1980).

## (2) エリモショウズ (旧系統名 十育97号)

登録番号: (北海道) 小豆北海道第13号; (農水省) あずき農林4号; (種苗法) 第340号

来歴 本品種は、1971年(昭46)北海道立十勝農業試験場において、「寿小豆」を母、「十育77号」を父として人工交配を行い育成したもので、1976年(昭51)に「十系123号」、1977年(昭52)以降「十育97号」の系統名で各種の試験を行い、1981(昭56)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は「宝小豆」より短く、主茎節数もやや少ない。分枝数は「宝小豆」なみで、株当り莢数は「宝小豆」より多い。  
 2. 小葉の形は円葉、花色は黄、毛茸の形は鈍、熟莢の色は褐で、形は「宝小豆」と同様に長

く、先端がわずかに湾曲する。

3. 子実はやや長円筒形，種皮色は「宝小豆」よりやや明るい赤色を呈し，千粒重は「宝小豆」より5g程度重い。外観品質は「宝小豆」なみで良好である。
4. 開花期は「宝小豆」とほぼ同じ，成熟期は「宝小豆」よりやや早い中生種である。
5. 耐倒伏性は「宝小豆」より強く，耐冷性も「宝小豆」よりややまさる。アズキ落葉病に対しては「宝小豆」なみで弱い。
6. 収量は「宝小豆」より6～9%多い。
7. 製あん適性は「宝小豆」なみかややまさる。

栽培適地と奨励態度 十勝中部ならびに道央・道南地域で，「宝小豆」「ハヤテショウズ」におきかえる。また栽培上の注意は「宝小豆」に準ずる。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当たり		子 実		試験年次
				主莖長 (cm)	分枝数 (本/株)	粒実数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	エリモショウズ	7.25	(9.17)	58	3.5	50	329	109	138	中上	1977～
	宝 小 豆	7.26	(9.19)	64	3.4	45	302	100	132	中上	1980
中央農試	エリモショウズ	7.26	9.9	32	2.7	39	254	109	119	上下	1977～
	宝 小 豆	7.26	9.10	35	2.7	39	232	100	110	中上	1980
上川農試	エリモショウズ	7.21	9.4	46	3.8	31	253	108	127	上下	1977～
	宝 小 豆	7.21	9.4	49	3.8	31	235	100	124	上下	1980
北見農試	エリモショウズ	7.28	(9.14)	44	2.1	39	242	106	138	上	1978～
	宝 小 豆	7.28	(9.15)	53	2.6	37	228	100	131	上	1980
原原種農場	エリモショウズ	7.20	9.3	40	3.0	38	264	106	123	上	1977～
	宝 小 豆	7.21	9.4	43	2.8	38	250	100	119	上	1980

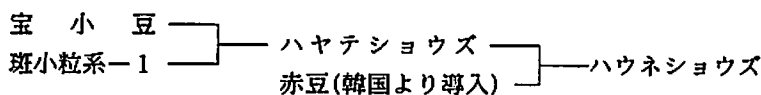
注) 十勝農試と北見農試の成熟期は1980年を除く3カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編，昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項，18—23 (1981)。  
 2) 村田吉平，等，北海道立農試集報，53，103—113 (1985)。  
 3) 成河智明，等，農業技術，37，31—33 (1982)。

### (3) ハツネショウズ (旧系統名 十育116号)

登録番号：(北海道) 小豆北海道第14号；(農水省) あずき農林6号；(種苗法) 第1212号

来歴 本品種は，1976年(昭51)に北海道立十勝農業試験場において，アズキ落葉病抵抗性品種の育成を目標として「ハヤテショウズ」を母，韓国から導入した「赤豆」を父として人工交配を行い選抜育成したものである。1981年(昭56)に「十系275号」，1982年には「十育116号」の系統名を付し，以後各種の試験を行い，1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 主茎長は「エリモショウズ」とほぼ同じ、主茎節数、分枝数ならびに着莢数は「エリモショウズ」よりやや少ない。

2. 小葉の形は円葉、花色は黄、毛茸の形は鈍、熟莢は褐色を呈し、莢長は「エリモショウズ」よりやや短い。

3. 子実短円筒形、種皮色は「ハヤテショウズ」と同じやや濃赤で、「エリモショウズ」よりやや濃い。千粒重は「エリモショウズ」よりやや軽く、外観品質は「エリモショウズ」よりやや劣る。

4. 開花期は「エリモショウズ」なみか1～2日早く、成熟期は「エリモショウズ」と同じで中生種に属する。

5. アズキ落葉病に対する抵抗性が強く、茎疫病に対しても「エリモショウズ」よりやや強い。開花期前後の低温には「エリモショウズ」よりやや弱く、耐倒伏性も若干劣る。

6. 収量については、アズキ落葉病が発生しない畑では「エリモショウズ」よりやや劣るが、本病の発生ほ場では「エリモショウズ」より明らかに多収となる。

7. 子実の種皮歩合は「エリモショウズ」よりやや高いが、製あんや製菓原料としての適性には問題がない。

栽培適地と奨励態度 十勝、網走、道央ならびに道南で中生種の栽培が可能な地帯を適地とし、アズキ落葉病の発生が中程度以上のほ場で栽培を奨励する。また栽培に当たっては連作を避け、6年以上の輪作を前提とする。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	穂実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	ハツネショウズ	8. 3	( 9.11)	48	1.8	33	172	92	111	中	1982～ 1984
	エリモショウズ	8. 5	( 9.10)	52	2.1	34	187	100	117	中上	
中央農試	ハツネショウズ	7.31	9.14	44	1.6	38	212	81	108	中	1982～ 1984
	エリモショウズ	7.31	9.14	44	2.2	45	263	100	121	上	
上川農試	ハツネショウズ	7.25	9. 9	45	2.3	35	214	97	111	下	1982～ 1984
	エリモショウズ	7.27	9. 9	50	4.0	41	220	100	115	中上	
北見農試	ハツネショウズ	8.10	( 9.22)	28	1.1	30	151	85	122	上下	1982～ 1984
	エリモショウズ	8.10	( 9.23)	29	1.3	32	177	100	132	上下	
原原種農場	ハツネショウズ	7.29	9.12	41	2.4	35	234	88	123	中	1982～ 1984
	エリモショウズ	7.29	9.10	41	3.3	38	266	100	130	上	

注) 十勝農試と北見農試の成熟期は、1983年を除く2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編、昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項、22—27 (1985)。

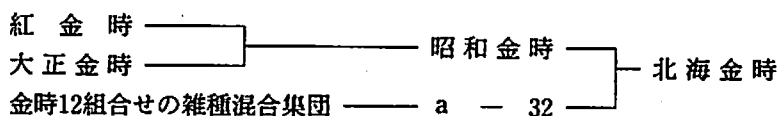
2) 原 正紀、等、農業技術、41、120—122 (1986)。

## 7. 菜豆

### (I) 北海金時 (旧系統名 十育B-32号)

登録番号：(北海道) 菜豆北海道第20号；(種苗法) 第198号

来歴 本品種は、1967年(昭42)に北海道立十勝農業試験場において、「昭和金時」を母、「a-32(F7)」を父として人工交配を行い育成したもので、1973年(昭48)に「十系B-6号」、1974年(昭49)以降、「十育B-32号」の系統名で各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 草丈は45cm前後で「大正金時」よりやや高く、主莖節数は6節の矮性、分枝数は「大正金時」なみで、株当たりの着莢数は「大正金時」より少ない。
2. 胚軸色は淡赤紫、花色は淡紅、若莢は緑色の硬莢で、熟莢は黄白色を呈する。
3. 子実はやや長楕円形、種皮色は赤紫で「大正金時」よりやや濃い。大きさは「大正金時」より大きく、千粒重は約20%重い。外観品質は「大正金時」と大差ない。
4. 開花始は「大正金時」とほぼ同じで、成熟期は「大正金時」より3～5日遅い早生種である。
5. 各種の病害による被害や倒伏の程度は「大正金時」と同じである。
6. 収量は「大正金時」より約20%多い。
7. 種皮の厚さは「大正金時」よりやや厚いが、種皮歩合は低い。煮熟時の肉質は「大正金時」よりやや粘質であるが、食味は「大正金時」と差がない。

栽培適地と奨励態度 十勝、網走、上川支庁管内の畑作地帯で、「大正金時」におきかえる。栽培上の注意は「大正金時」に準ずるが、子実が大きいいため脱穀時の子実の損傷に留意する必要がある。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				草 丈 (cm)	分枝数 (本/株)	穂莢莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	北海金時	7.14	9.6	44	3.6	13.2	242	119	749	上下	1974～
	大正金時	7.13	9.1	39	3.6	15.3	204	100	603	中上	1978
北見農試	北海金時	7.12	9.9	45		15.5	281	119	765	中上	1975～
	大正金時	7.12	9.4	41		18.6	237	100	634	中	1978
上川農試	北海金時	7.4	8.21	38		9.5	190	112	721	中上	1975～
	大正金時	7.4	8.14	31		11.1	170	100	585	中上	1978
中央農試	北海金時	7.9	8.30	42		14.1	201	101	667	中	1975～
	大正金時	7.9	8.26	36		14.4	200	100	568	中	1978
原原種農場	北海金時	7.3	8.17	34		9.8	174	112	726	中上	1975～
	大正金時	7.3	8.12	28		10.9	155	100	580	上	1978

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項、11-15 (1979)。  
2) 成河智明、等、北海道立農試集報、43、72-79 (1980)。



(2) 改良早生大福 (旧系統名 中育F-1号)

登録番号：(北海道) 菜豆北海道第21号

来歴 本品種は、1969年(昭44)に北海道立中央農業試験場が収集した在来種「北見市豊地産」を素材として純系分離を行い育成したもので、1977年(昭52)に「中育F28A号」、1978年(昭53)以降「中育F1号」の系統名で各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草丈は「大福」よりやや短い、約3mとなるつる性種。株当たりの分枝数や着莢数は「大福」と大差ない。

2. 胚軸色は緑、葉はやや淡緑色を呈し、大きくて皺が多い。花は白色。硬莢種で成熟前の莢色は淡緑地に微細な紫紅斑を生じ、熟莢は淡褐色を呈する。

3. 子実は扁平なじん臓型で、色は白。千粒重は「大福」より15~20%軽い中粒種で、子実の外観品質は「大福」より劣る。

4. 開花期は「大福」より約6日、成熟期は7~14日早く、中生の晩に属する。

5. 炭そ病、輪紋病、インゲンモザイク病、黄化病等の被害は、「大福」なみである。

6. 収量は「大福」より劣る。

7. 種皮の厚さや種皮歩合は「大福」と大差なく、甘納豆や煮豆としての加工適性も「大福」と差がない。

栽培適地と奨励態度 根釧、道北地域を除く全道一円で「大福」の早生系在来種におきかえる。栽培上の注意は「大福」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当り		子実		試験年次
				草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	改良早生大福	7.18	9.10	291	3.2	35.8	236	111	658	中上	1977~ 1979
	大福	7.24	9.24	329	2.9	36.0	298	141	822	上	
	大福(北見早生系)	7.18	9.11	285	3.2	35.2	212	100	627	中上	
北見農試	改良早生大福	(7.17)	9.6	347		30.9	348	108	684	上下	1978
	大福(北見早生系)	(7.17)	9.5	354		29.6	323	100	662	上下	

注1) 品種欄の「大福(北見早生系)」は在来系統。

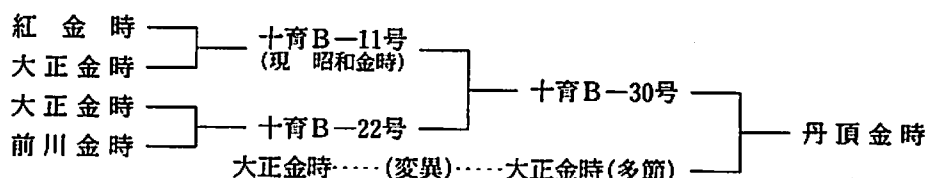
2) 北見農試の開花期は開花始を示す。

参照 1) 北海道農務部編、昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項、20-24 (1980)。

(3) 丹頂金時 (旧系統名 十育B-50号)

登録番号：(北海道) 菜豆北海道第22号

来歴 本品種は、1973年(昭48)に北海道立十勝農業試験場において「十育B-30号」を母、「大正金時(多節)」を父として人工交配を行い育成したもので、1979年(昭54)に「十系B-72号」、1980年(昭55)以降「十育B-50号」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要**
1. 草丈は「大正金時」よりやや高く、主莖節数は約6節のわい性、1株当たりの分枝や着莢数は「大正金時」よりやや少ない。
  2. 胚軸色は淡赤紫、花色は淡赤紫、若莢は緑色の硬莢で、「大正金時」に見られるような赤紫色の斑紋はない。熟莢は黄白色を呈する。
  3. 子実は長楕円体、種皮色は赤紫で「大正金時」よりやや濃い。大きさは「大正金時」より大きく、千粒重は「大正金時」より約20%重い。また外観品質は「大正金時」よりやや優る。
  4. 開花期は「大正金時」と同じで、成熟期は「大正金時」より1日程度い早生種である。
  5. インゲン炭そ病に対する抵抗性は、「大正金時」がC13菌系統に弱であるのに対して本品種は強である。このほかの病害に対する抵抗性や耐倒伏性は「大正金時」と差がない。
  6. 子実収量は「大正金時」より5～10%多い。
  7. 種皮の厚さは「大正金時」よりやや厚く、種皮歩合もやや高い。煮熟時の肉質は「大正金時」よりやや粉質であるが、煮豆、甘納豆などの加工適性は「大正金時」と差がない。
- 栽培適地と奨励態度** 十勝、網走、上川支庁管内で、「大正金時」の一部におきかえる。栽培上の注意は「大正金時」に準じ、とくに脱穀時の子実の損傷に留意する。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				草 丈 (cm)	分枝数 (本/株)	総実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	丹頂金時	7.16	9.7	45	4.0	13.4	221	107	840	上下	1980～ 1985
	大正金時	7.16	9.6	43	4.2	14.6	207	100	705	中中	
北見農試	丹頂金時	7.19	9.9	38	4.1	15.3	235	108	748	上下	1982～ 1985
	大正金時	7.18	9.7	35	5.2	16.4	218	100	634	中上	
上川農試	丹頂金時	7.7	8.24	45	4.8	13.3	196	113	679	中上	1982～ 1985
	大正金時	7.7	8.23	39	4.8	13.6	173	100	576	中下	
原原種農場	丹頂金時	7.7	8.17	35	4.7	11.5	163	87	640	中上	1982～ 1985
	大正金時	7.7	8.17	34	5.0	12.7	187	100	581	中中	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項. 6-10 (1986).

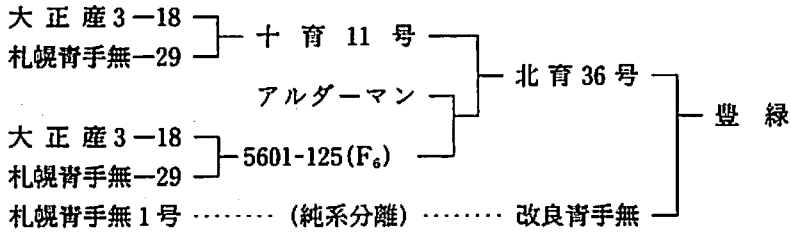
## 8. えん豆

### (1) 豊 緑 (旧系統名 北育43号)

登録番号：(北海道) えん豆北海道第5号；(種苗法) 第1022号

**来歴** 本品種は、1972年(昭42)に北海道立北見農業試験場において、「北育36号」を母、「改良青手無」を父として人工交配を行い育成したもので、1978年(昭53)から「3001」、1980年(昭

55) 以降「北育43号」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 草丈は「改良青手無」より低く、わい性に属する。節間長が短く、分枝は下位節から発生し、その数は「改良青手無」程度である。

2. 小葉の大きさは中、形は楕円、葉色は濃緑で「改良青手無」より濃い。莖は「改良青手無」より細く、花は白色で大きさはやや大である。

3. 莢は濃緑色で、「改良青手無」に比し長さはやや短く、幅もやや狭い。1莢内粒数は「改良青手無」より約25%多く、子実の形や色は「改良青手無」に類似し、千粒重は「改良青手無」よりやや重い。

4. 開花期や成熟期は「改良青手無」より2~3日遅く、晩生種に属する。

5. 耐倒伏性や細菌病に対する抵抗性は「改良青手無」なみで、肩豆の発生は「改良青手無」より若干多い。

6. 収量は「改良青手無」より35%程度多い。

7. 子実の外観品質は「改良青手無」よりやや劣るが、煮豆が甘納豆としての加工適性は「改良青手無」と差がない。

栽培適地と奨励態度 道内のえん豆栽培地域を対象として「改良青手無」のすべてと、「大緑」の一部におき替える。また栽培上の注意は「改良青手無」に準ずる。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				草 丈 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
北見農試	豊 緑	7.5	8.18	86	2.9	35.0	326	135	350	3上	1980~ 1984
	改良青手無	7.3	8.15	103	3.2	38.3	241	100	334	2下	
上川農試	豊 緑	7.1	8.4	69	3.8	33.6	304	135	321	2下	1980~ 1984
	改良青手無	6.29	8.2	94	3.9	41.4	225	100	313	2下	
十勝農試	豊 緑	6.27	8.10	98	2.5	24.6	192	122	325	3中	1980~ 1984
	改良青手無	6.24	8.9	123	1.9	26.0	157	100	320	3中	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 27-30 (1985).

2) 農林水産技術会議事務局編. 新しい技術. 23, 40-44 (1986).

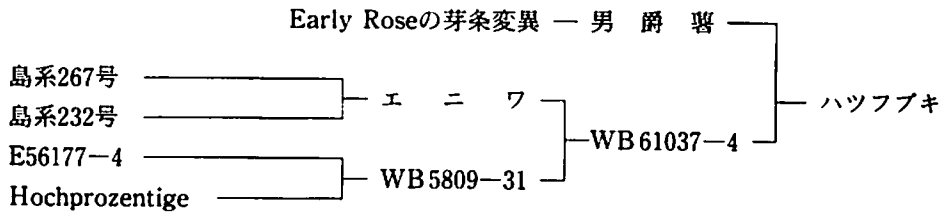
3) 成田秀雄, 等. 北海道立農試集報. 55, 63-73 (1986).

## 9. 馬鈴しよ

### (I) ハツフブキ (旧系統名 北海57号)

登録番号：(北海道) ばれいしよ北海道第15号；(農水省) ばれいしよ農林24号

来歴 本品種は、1966年(昭41)に北海道農業試験場において、「男爵薯」を母、「WB61037-4」を父として人工交配を行い育成したもので、1974年(昭49)に「島系508号」、1975年(昭50)以降「北海57号」の系統名で各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 茎長は「農林1号」よりやや短く、茎数、分枝数は中位、茎の太さも中で草型はやや直立である。

2. 茎色は緑で紫色を帯び、葉色も萌芽時には緑で紫色を帯びるが、生育が進むと緑色になる。小葉はやや大きく、花は淡紫色で、大きさや花数は中、花粉量が少なく自然結果は認められない。
3. いもは扁卵形、皮色は淡黄色でネットはなく、目の深さや数は中。肉色は白で、肉質は中である。いもの大きさはやや小さく、着生の粗密やストロンの長さは中で、いも離れは良い。
4. 萌芽、初期生育は整一で、「農林1号」並かやや遅い。茎葉黄変期および枯凋期は「農林1号」より20日以上早く、「男爵薯」より数日遅い早生種に属する。
5. いもの肥大速度は「紅丸」並で「農林1号」より遅いが、でん粉価の上昇はかなり早い。また普通掘り時のでん粉価は「農林1号」より約1%高い。
6. いも収量は、8月中旬までは「農林1号」より優り、「紅丸」並に経過するが、8月下旬には「農林1号」並となり、「紅丸」より劣る。また普通掘りの収量は「農林1号」より約7%、「紅丸」より約20%劣る。
7. でん粉収量は、8月中旬の早掘りでは「農林1号」「紅丸」より多く、本品種の茎葉黄変期においても、その時期に収穫した「紅丸」のでん粉収量と同等か上まわる。
8. 疫病抵抗性遺伝子 R<sub>1</sub>をもつ。疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は「農林1号」並で、Xモザイク病、Yモザイク病、葉巻病などに対する抵抗性はない。軟腐病抵抗性は中、粉状そうか病抵抗性は「農林1号」よりやや弱く、青枯病にもやや弱い。またジャガイモシストセンチュウ抵抗性はない。
9. いもに褐色心腐れや中心空洞は見られないが、水煮後の黒変が多く、食用には不適である。また休眠はやや長い。

栽培適地と奨励態度 全道に適し、早生のでん粉原料用品種として、中晩生品種に配合して栽培する。また栽培上の注意は「農林1号」に準ずるが、早期収穫用であるため初期生育の促進を図ることが必要である。

〈普通掘り〉

試験場名	品 種 名	茎 葉 枯 凋 期 (月.日)	茎 長 (cm)	10 a 当 り				でん粉価 (%)	平 均 1 個 重 (g)	試 験 年 次
				いも重 (kg)	左 比 (%)	でん粉重 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	ハツブキ	9.9	62	3,038	83	522	86	19.2	87	1971~ 1978
	農林1号	10.2	66	3,643	100	608	100	17.5	122	
中央農試	ハツブキ	9.16	64	3,607	96	538	108	14.5	104	1976~ 1978
	農林1号	9.28	66	3,743	100	498	100	13.9	99	
上川農試	ハツブキ	(9.16)	65	3,619	86	634	89	18.5	112	1975~ 1978
	農林1号	(10.3)	69	4,222	100	712	100	17.8	120	
十勝農試	ハツブキ	9.5	78	3,549	100	601	111	18.1	76	1974~ 1978
	農林1号	9.20	70	3,557	100	540	100	16.2	89	
北見農試	ハツブキ	(9.15)	81	4,567	91	755	96	17.5	101	1974~ 1978
	農林1号	(10.1)	93	4,994	100	784	100	16.7	128	
根釧農試	ハツブキ	9.23	75	3,661	102	601	108	17.5	85	1974~ 1978
	農林1号	10.5	78	3,596	100	556	100	16.5	105	

注) 上川農試の茎葉枯凋期は1977年を、また北見農試は1975年、1976年を除く平均。

〈早掘り〉

試験場名	品 種 名	10 a 当 り				でん粉価 (%)	平 均 1 個 重 (g)	試 験 年 次
		いも重 (kg)	左 比 (%)	でん粉重 (kg)	左 比 (%)			
十勝農試	ハツブキ	3,721	111	618	124	17.6	71	1978
	農林1号	3,356	100	497	100	15.8	94	
北見農試	ハツブキ	4,292	97	719	107	17.8	(126)	1977~ 1978
	農林1号	4,432	100	674	100	16.2	(127)	

注1) 収穫日は、十勝農試9月4日、北見農試1977年は8月30日、1978年は8月30日と9月7日の平均。

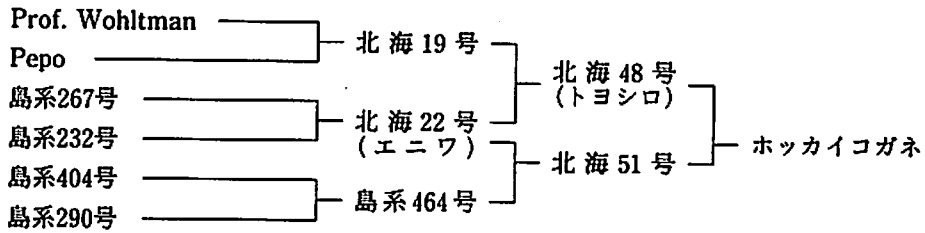
2) 北見農試の平均一個重は1977年の調査。

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項、16-21 (1979)。  
2) 農林水産省技術会議事務局編、新しい技術、第17集、166-168、(1980)。

(2) ホッカイコガネ (旧系統名 北海60号)

登録番号：(北海道) ばれいしょ北海道第16号；(農水省) ばれいしょ農林25号  
：(種苗法) 第197号

来歴 本品種は1970年(昭45)に北海道農業試験場において、「北海48号」(のちのトヨシロ)を母、「北海51号」を父として人工交配を行い育成したもので、1976年(昭51)に「島系516号」、1977年(昭52)以降「北海60号」の系統名で各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系統は次のとおりである。



特性概要 1. 茎長は「トヨシロ」より長く、茎数、分枝数、茎の太さなどは中位で、草型はやや直立である。

2. 茎色、葉色はともに緑色を呈するが、萌芽時の葉色は紫色を帯びる。小葉は「トヨシロ」よりやや大きく、花は淡紫色で先端部は白色を呈する。花数や花粉量は多く、自然結果は多い。
3. いもの形は長楕円、皮色は淡褐で僅かにネットを帯びる。目の数は中位で浅く小さい。肉色は淡黄で、肉質はやや粘質である。いもは大きく、着生の粗密やストロンの長さは中、いも離れは良い。
4. 萌芽や初期生育は「トヨシロ」よりやや遅い。茎葉黄変期および枯凋期は「農林1号」並で、「トヨシロ」より20日程度遅い晩生種である。またいもの肥大速度は「農林1号」や「トヨシロ」より劣る。
5. 疫病抵抗性遺伝子  $R_1$  をもち、ほ場での疫病の発生は「農林1号」より遅れる場合が多い。塊茎腐敗に対しては強～やや強、Xモザイク病、Yモザイク病、葉巻病などに対する抵抗性はなく、粉状そうか病に強いが、軟腐病にはやや弱、青枯病には弱い。またジャガイモシストセンチュウ抵抗性はない。
6. いも収量は「農林1号」並で「トヨシロ」より25%程度多く、61g（中いも）以上のいも収量は「トヨシロ」より約30%多い。
7. いもに褐色心腐れや中心空洞は見られず、調理後黒変も生じない。還元糖含量低く、低温貯蔵後の加温処理による還元糖含量の減少も容易で、油加工原料としての適性にすぐれ、食味も良好である。

栽培適地と奨励態度 全道に適し、食品加工原料用として栽培されている「農林1号」や「男爵薯」におきかえる。また栽培に当たっては初期生育の促進を図り、小さいもの発生抑制のためやや疎植とする。

試験場名	品 種 名	茎 葉 枯凋期 (月.日)	茎 長 (cm)	10 a 当 り				平 均 1個重 (g)	でん粉価 (%)	試験年次
				いも重 (kg)	左 比 (%)	中以上 いも重 (kg)	左 比 (%)			
北海農試	ホッカイコガネ	(9.29)	67	3.687	128	3.481	133	124	18.5	1975～ 1980
	トヨシロ	(9.3)	50	2.873	100	2.621	100	107	18.3	
中央農試	ホッカイコガネ	9.30	71	5.125	121	4.178	104	91	15.7	1977, 1979 1980
	トヨシロ	9.14	64	4.242	100	4.026	100	148	14.8	
上川農試	ホッカイコガネ	(9.24)	69	3.314	112	2.767	113	102	19.6	1977, 1979 1980
	トヨシロ	(9.28)	55	2.966	100	2.449	100	95	20.1	
十勝農試	ホッカイコガネ	9.25	84	4.244	123	3.840	125	111	17.5	1976～ 1980
	トヨシロ	9.3	68	3.462	100	3.070	100	98	17.1	

試験場名	品種名	茎葉枯凋期 (月.日)	茎長 (cm)	10 a 当 り				平均 1個重 (g)	でん粉価 (%)	試験年次
				いも重 (kg)	左 比 (%)	中以上 いも重 (kg)	左 比 (%)			
北見農試	ホッカイコガネ	(10. 2)	95	5,454	111	5,169	112	153	16.8	1976～
	トヨシロ	( 9.18)	69	4,927	100	4,631	100	127	16.9	1980
根釧農試	ホッカイコガネ	(10. 4)	83	4,521	103	4,180	107	124	17.0	
	トヨシロ	( 9.18)	69	4,396	100	3,906	100	106	16.4	

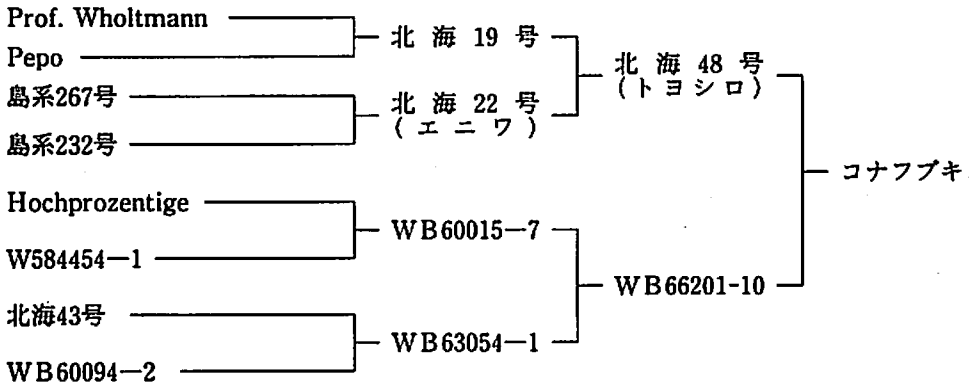
注) 茎葉枯凋期は、次の年次を除く平均を示す：北海道農試 1977年，上川農試 1980年，北見農試 1976年，1977年，1979年，1980年，根釧農試 1976年，1980年。

- 参照 1) 北海道農務部編. 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項. 24—28 (1981).  
2) 西部幸男. 農業技術. 36, 557—559 (1981).

### (3) コナフブキ (旧系統名 根育19号)

登録番号：(北海道) ばれいしょ北海道第17号；(農水省) ばれいしょ農林26号；(種苗法) 第338号

来歴 本品種は、1971年(昭46)に北海道農業試験場において、「北海48号」(のちのトヨシロ)を母、「WB66201—10」を父として人工交配を行い、その交配種子を北海道立根釧農業試験場が譲りうけ以後選抜育成したものである。1977年(昭52)から「根系54号」、1979年(昭54)以降「根育19号」の系統名で各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 茎長は「紅丸」並。茎数，分枝数は中位で，茎の太さは「紅丸」並かやや細く，草型は中である。  
2. 茎色は緑，葉は濃緑色を呈するが，萌芽時の葉色はうすい紫色を帯びる。小葉は小さく，花は淡い赤紫色で，先端部は白色を呈する。花数多く，花粉量もやや多めで，自然結果は多い。  
3. いもの形は偏球，皮色は淡黄褐色で，目に淡い紅色の着色がある。目の数は多く，やや浅い。肉色は白で肉質は固い。いもはやや小さく，着生の粗密は中で，いもの揃いはやや良い。  
4. 萌芽は「紅丸」よりやや遅いが，初期生育は整一である。茎葉黄変期は「紅丸」並であるが，茎葉枯凋期は「紅丸」より数日遅れることが多い晩生種である。  
5. 疫病抵抗性遺伝子  $R_1R_3$  をもち，疫病菌による塊茎腐敗に対しては強。葉巻病抵抗性はなく，

Yモザイク病には極めて強い。粉状そうか病には強く、軟腐病にもやや強いが、青枯病には弱い。またジャガイモシストセンチュウに対する抵抗性はない。

6. いも収量は「紅丸」より劣るが、でん粉価が「紅丸」より約5%高く、でん粉収量は「紅丸」より10~20%多い。

7. でん粉粒子は「紅丸」に比べ大粒のものがやや少ないが、糊化時の最高粘度は高い。いもの肉質は固く、水煮すると煮くずれが多いため食用には適さない。

栽培適地と奨励態度 全道に適し、でん粉原料用として「紅丸」「農林1号」に配合して栽培する。また栽培上の注意は「紅丸」や「農林1号」に準ずる。

試験場名	品 種 名	茎 葉 枯 凋 期 (月.日)	茎 長 (cm)	10 a 当 り				でん粉価 (%)	平 均 1 個 重 (g)	試験年次
				いも重 (kg)	左 比 (%)	でん粉重 (kg)	左 比 (%)			
根 釧 農 試	コナフブキ 紅 丸	10. 7	80	4,457	100	928	135	22.5	108	1976~ 1980
		9.30	81	4,438	100	688	100	16.4	112	
北 海 道 農 試	コナフブキ 紅 丸	9.30	73	3,478	83	805	107	24.1	114	1978~ 1980
		10. 1	66	4,199	100	755	100	19.0	109	
上 川 農 試	コナフブキ 紅 丸	9.21	64	3,054	93	751	123	25.6	93	1979~ 1980
		9.18	52	3,285	100	611	100	19.7	101	
十 勝 農 試	コナフブキ 農 林 1 号	9.29	83	3,551	85	752	111	22.2	80	1977~ 1980
		9.21	71	4,188	100	675	100	17.1	105	
北 見 農 試	コナフブキ 紅 丸	10. 4	89	4,902	88	1,013	116	21.7	116	1977~ 1980
		10. 5	92	5,559	100	874	10	16.7	124	

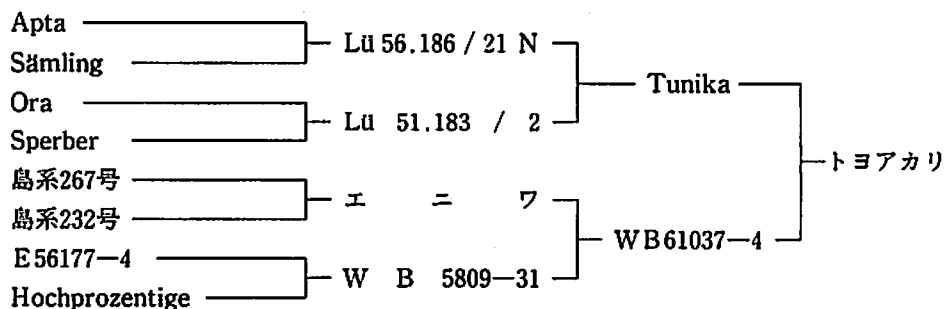
参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。29-34 (1981)。

2) 浅間和夫等。北海道立農試集報。48, 75-84 (1982)。

#### (4) トヨアカリ (旧系統名 北海67号)

登録番号：(北海道) ばれいしょ北海道第18号：(農水省) ばれいしょ農林27号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道農業試験場において、「Tunika」を母、「WB61037-4」を父として人工交配を行い育成したもので、1982年(昭57)に「島系534号」、1983年(昭58)以降「北海67号」の系統名で各種の試験を行い、1986年に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。





- 特性概要 1. 莖長は「紅丸」「農林1号」より5cm程度長い。莖数、分枝数ともに「紅丸」並の中で、莖の太さも中、莖翼はやや波状で、草型はやや直立型である。
2. 莖の色は緑を基調に赤紫色の斑点がある。葉色は、萌芽時には赤紫色を帯び、生育が進むと緑色となるが、「農林1号」に比べるとやや淡い。小葉の大きさは中、花は赤紫色で「紅丸」より大きく、花数、花粉量ともに多く、自然結果も多い。
3. いもは扁球形、皮色は黄褐色で、目に赤紫色の着色がある。表皮はやや粗で、目の数や深さは中。肉色は淡黄色、肉質はやや粘質である。またいもの大きさは「農林1号」より小さく、「紅丸」より大きい。いもの着生はやや疎、ふく枝の長さは中で、いも離れは良い。
4. 萌芽、初期生育ともに「農林1号」並で、莖葉黄変期および枯凋期は「農林1号」や「紅丸」並の晩生種に属する。
5. いもの肥大開始期はやや遅いが、後期の肥大が旺盛で、平均一個重は「農林1号」より小さいが、「紅丸」より大きい。またでん粉価は、いもの肥大初期から高く推移し、最終的には20~22%となり、「紅丸」より5%前後高い。
6. 上いも収量は、「紅丸」の80%、「農林1号」の90%程度であるが、でん粉価が高いため、でん粉収量では「紅丸」「農林1号」より約10%多い。
7. ジャガイモシストセンチュウに対する抵抗性を有し、疫病に対する抵抗性も強である。塊莖腐敗抵抗性は「紅丸」並の中、粉状そうか病には強いが、塊莖の軟腐病抵抗性はやや弱、青枯病抵抗性は弱である。またウィルス病には、従来の品種と同様に抵抗性はない。
8. いもに中心空洞はみられないが、褐色心腐れは「農林1号」程度に発生する。また休眠は「紅丸」とほぼ同じでやや短い。
9. でん粉粒子の大きさは、「農林1号」より大きい「紅丸」より小さい。でん粉の白度は「紅丸」並に優れ、最高粘度は「紅丸」より高く、品質は優れている。

栽培適地と奨励態度 北海道のでん粉原料用馬鈴しょ栽培地帯の全域に適し、とくにジャガイモシストセンチュウ発生地帯に普及を優先する。また栽培上の注意は「ツニカ」に準ずるが、塊莖形成が遅く初期肥大が劣るので、浴光催芽、早植により生育の促進をはかる。

試験場名	品種名	莖葉枯凋期 (月.日)	莖長 (cm)	10 a 当 り				でん粉価 (%)	上いも平均 1個重 (g)	試時年次
				上いも重 (kg)	左比 (%)	でん粉重 (kg)	左比 (%)			
北海道農試	トヨアカリ	9.27	69	3.162	79	655	103	21.5	112	1980~ 1985
	紅丸	9.29	64	3.991	100	634	100	16.8	106	
中央農試	トヨアカリ	9.21	77	4.429	77	789	109	19.1	110	1983~ 1958
	紅丸	9.26	73	5.752	100	725	100	13.6	106	
上川農試	トヨアカリ	10.9	70	3.543	77	776	114	22.9	109	1983~ 1958
	紅丸	10.8	59	4.591	100	680	100	16.1	94	
十勝農試	トヨアカリ	10.9	88	4.399	84	858	113	20.5	103	1982~ 1985
	紅丸	10.6	85	5.080	100	744	100	15.6	97	
北見農試	トヨアカリ		95	4.269	87	838	122	20.6	132	1982~ 1985
	紅丸		101	4.909	100	685	100	14.9	111	
根釧農試	トヨアカリ	10.12	86	3.778	76	765	101	21.3	121	1982~ 1985
	紅丸	10.9	90	4.966	100	760	100	16.4	136	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導書参考事項. 10-15 (1986).

## II 特 用 作 物

### 1. てん菜

#### (1) モノミドリ (旧系統名 T1021)

登録番号：(北海道) てん菜北海道交第15号：(農水省) てん菜農林交9号

来歴 本品種は、てん菜研究所において「モノホープ」の採種特性向上を目標として、1970年(昭45)に「TK-76mm-CMS」×「TK-105mm-0-2」を母、「NK-176」を父として交配した三系交配の三倍体単胚一代雑種である。1972年(昭47)に「T1021」の系統名を付して適応性検定試験に供試し、1973年(昭48)以降は北海道農試験場がこれを引き継いで各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の育成経過の概要は次のとおりである。

TK-76mm-CMS：単胚細胞質雄性不稔集団「Tmm-1-CMS」に、米国系単胚種「Tmm-14」から発見したO型系統「TK-76mm-O」を連続戻交配して育成した単胚細胞質雄性不稔系統。

TK-105mm-0-2：「Tmm-14」から発見したO型系統の1つで回復型の淘汰を行ったもの。

NK-176：欧州系の材料から選抜した四倍体集団「T4n-38」からの育成系統。

特性概要 1. 葉長および葉数は中位で、草姿はやや開張型である。

2. 葉はやや淡緑色を呈し、形は楕円形。葉面積は中程度で、葉柄の長さや太さも中程度である。クラウンはやや小さく根は円錐形を呈し、長さは中、露肩および分岐根は少ない。

3. 熟期は中生種に属し、当年抽苔は少ない。

4. 褐斑病抵抗性は「モノホープ」なみのやや強、根腐病や葉腐病には弱い。

5. 根収量は「モノヒル」におよばないが、「モノホープ」なみの多収品種である。

6. 根中糖分は「モノホープ」と同程度で、「モノヒル」や「ソローベ」より高い。

7. 根中の有害性非糖分は「モノホープ」と同様に低く、製糖歩留まりは高い。

8. 採種性は「モノホープ」より明らかにまきり、種子は「モノホープ」より大きく、発芽率は高い。

栽培適地と奨励態度 全道に適するが、とくに高糖分を考慮すると道央、道南地域での適応性が大きい。また栽培上の注意は「モノホープ」に準ずる。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当 . り				根 中 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	モノミドリ	4.58	102	746	102	16.44	100	1972~1979
		モノホープ	4.47	100	732	100	16.51	100	
中央農試 (沖積土)	移 植	モノミドリ	6.04	102	947	100	15.66	98	1972~1976 1978
		モノホープ	5.93	100	945	100	15.92	100	

試験場名	栽培法	品種名	10 a 当り				根中分 (%)	左比 (%)	試験年次
			根重 (t)	左比 (%)	糖量 (kg)	左比 (%)			
中央農試 (洪積土)	移植	モノミドリ	4.84	100	827	100	17.07	100	1975~1978
		モノホープ	4.84	100	831	100	17.14	100	
上川農試	直播 および 移植	モノミドリ	4.69	99	809	99	17.22	100	1972~1978
		モノホープ	4.73	100	819	100	17.27	100	
十勝農試	直播 および 移植	モノミドリ	3.70	101	609	100	16.36	100	1972~1978
		モノホープ	3.68	100	607	100	16.35	100	
北見農試	直播 および 移植	モノミドリ	4.18	98	713	98	17.09	99	1972~1978
		モノホープ	4.27	100	731	100	17.18	100	
根釧農試	移植	モノミドリ	4.11	100	671	99	16.34	98	1972~1978
		モノホープ	4.12	100	681	100	16.60	100	
天北農試	直播 および 移植	モノミドリ	4.02	98	680	97	16.88	99	1972
		モノホープ	4.10	100	698	100	17.09	100	1974~1978

注) 上川農試の栽培法は1972~1974年が直播, 1975年は移植。天北農試は1972年が直播で他は移植栽培。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-29 (1979).  
2) 佐々木正剛, 農業技術, 34, 552-555 (1979).

(2) ハイラーベ (旧系統名 HKE-48)

登録番号: (北海道) てん菜輪第16号

来歴 本品種は, オランダのファンデルハーフェ種子会社が育成したもので, 1973年(昭48)に我が国に輸入された。1974年(昭49)以降「HKE-48」の系統名で各種の試験を行い, 1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。三倍体の単胚一代雑種であるが, 構成系統は不明である。

- 特性概要 1. 葉長はやや短く, 葉数はやや多く, 草姿はやや開張型である。  
2. 葉は緑色を呈し, 形は楕円, 葉面積は中程度, 葉柄の長さや太さも中程度である。クラウンはやや小さく, 根は円錐形でやや長, 露肩は中程度で分岐根は少ない。  
3. 初期生育はかなり旺盛で, 熟期は「ソロラーベ」と同じ早生種に属する。抽苔耐性は強く, 当年抽苔はない。  
4. 褐斑病に対しては「ソロラーベ」と同様に弱く, 根腐病や葉腐病にも弱い。  
5. 根収量は「ソロラーベ」「モノミドリ」よりやや多く, 根中糖分は「ソロラーベ」よりやや高いが「モノミドリ」よりやや低い。  
6. 根中の有害性非糖分は「ソロラーベ」なみで, 「モノミドリ」よりやや多い。

栽培適地と奨励態度 網走地域で「ソロラーベ」におきかえる。また栽培上の注意は「ソロラーベ」に準ずる。なお試験の結果1981年(昭56)に栽培適地として十勝, 根釧地域が追加された。

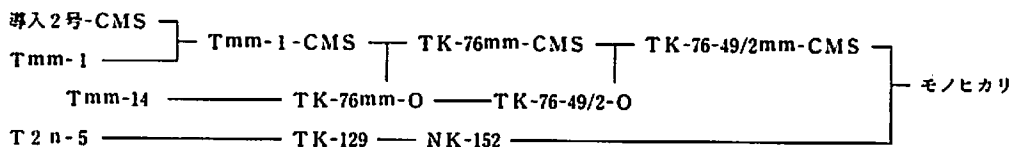
試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当 り				根 中 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	ハイラーベ	4.43	103	706	104	15.83	102	1974, 1975
		ソロラーベ	4.31	100	680	100	15.59	100	1978, 1979
中央農試	移 植	ハイラーベ	6.63	109	1,001	106	15.11	97	1979
		ソロラーベ	6.08	100	948	100	15.60	100	
上川農試	移 植	ハイラーベ	4.28	97	672	99	15.69	103	1978~1979
		ソロラーベ	4.43	100	677	100	15.27	100	
十勝農試	直 播	ハイラーベ	4.28	103	723	103	16.55	100	1975
		ソロラーベ	4.14	100	699	100	16.53	100	1978~1980
北見農試	直 播	ハイラーベ	4.67	103	823	105	17.69	103	1975
		ソロラーベ	4.55	100	782	100	17.22	100	1977~1979
根釧農試	移 植	ハイラーベ	5.12	102	842	103	16.34	101	1978~1980
		ソロラーベ	5.01	100	818	100	16.20	100	
天北農試	移 植	ハイラーベ	4.16	94	701	93	16.90	99	1979
		ソロラーベ	4.41	100	752	100	17.00	100	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 25—35 (1980).  
 2) 北海道農務部編, 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項, 71—76 (1981).

(3) モノヒカリ (旧系統名 北海41号)

登録番号: (北海道) てん菜北海道交第17号: (農水省) てん菜農林交10号: (種苗法) 第399号

来歴 本品種は, 北海道農業試験場において, 「TK-76-49/2mm-CMS」を母, 「NK-152」を父として交配した二倍体の単胚一代雑種である。1977年 (昭52) より「K1019」, 1979年 (昭54) 以降, 「北海41号」の系統名で各種の試験を行い, 1982年 (昭57) に優良 (奨励) 品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりであるが, 母に用いた「TK-76-49/2mm-CMS」は細胞質雄性不稔系統である。



- 特性概要 1. 葉長は長く, 葉数は中位で, 草姿は直立型である。  
 2. 葉はやや濃緑色を呈し, 形は皮針形で大きさはやや小, 葉面積は中程度である。葉柄はやや長く, やや細い。クラウンは小さく, 根は円錐形を呈し, 長さは中, 露肩も中程度で分岐根は少ない。

3. 抽苔耐性は「モノミドリ」よりやや弱く、年により当年抽苔することがある。
4. 褐斑病抵抗性は「モノミドリ」と同様にやや強であるが、根腐病や葉腐病には弱い。また炭そ病に対しては一般栽培品種に比べて弱い傾向がある。
5. 根収量は概して「モノミドリ」より多く、「ハイラーベ」や「カーベメガモノ」と同程度かそれ以上の収量を示す。
6. 根中糖分は現在栽培されているすべての品種より高い。
7. 根中の有害性非糖分は「モノミドリ」より低く、製糖歩留りは高い。

栽培適地と奨励態度 道央、道南地域に適し、とくに褐斑病や低糖分が問題となる地帯で従来の品種すべてにおきかえる。また、栽培上の注意は「モノミドリ」に準ずる。なお試験の結果、栽培適地として1985年(昭60)に直播栽培用として十勝中央地域とこれに類似する地域が追加された。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	モノヒカリ	5.15	117	905	120	17.59	103	1979～ 1981
		モノミドリ	4.40	100	752	100	17.14	100	
中央農試 (沖積土)	移 植	モノヒカリ	7.06	110	1,209	112	17.15	102	1979～ 1980
		モノミドリ	6.44	100	1,079	100	16.78	100	
中央農試 (洪積土)	移 植	モノヒカリ	5.62	105	908	106	16.21	101	1979～ 1980
		モノミドリ	5.37	100	857	100	16.00	100	
上川農試	移 植	モノヒカリ	5.31	119	936	122	17.52	102	1979～ 1981
		モノミドリ	4.45	100	770	100	17.18	100	
十勝農試	直 播	モノヒカリ	5.35	116	992	118	18.51	102	1979～ 1981
		モノミドリ	4.63	110	843	100	18.21	100	
北見農試	直 播	モノヒカリ	4.50	111	828	112	18.39	102	1979～ 1981
		モノミドリ	4.07	100	740	100	18.09	100	
根釧農試	移 植	モノヒカリ	5.03	110	889	111	17.59	101	1979～ 1981
		モノミドリ	4.57	100	801	100	17.49	100	
天北農試	移 植	モノヒカリ	4.29	114	744	116	17.35	102	1979～ 1981
		モノミドリ	3.77	100	643	100	17.02	100	

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。13—16 (1982)。  
2) 北海道農務部編。昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項。31—33 (1985)。

#### (4) モノホート (旧系統名 H K E -20)

登録番号：(北海道) てん菜輸交第18号

来歴 本品種は、オランダのファンデルハーフェ種子会社が育成したもので、1963年(昭38)に我が国に輸入された。1968年(昭43)以降「H K E -20」の系統名で各種の試験を行った結果、根中糖分は高いが、根収量が劣ることが明らかとなり、1972年(昭47)に試験を中止した。その後本道におけるてん菜栽培面積の急増により、製糖工場の原料処理期間延長のため早期収穫用品種が必要となり、高糖性の本品種に注目し、1979年(昭54)より再び試験を行った。その

結果1982年（昭57）に早期収穫用品種として優良（奨励）品種に決定した。なお本品種は三倍体の単胚一代雑種であるが、構成系統は不明である。

- 特性概要 1. 葉長は中位で葉数やや多く、草姿は開張型である。  
 2. 葉はやや濃緑色を呈し、形は楕円、葉面積は中程度、葉柄の長さや太さも中程度である。クラウンはやや小さく、根は円錐形でやや長、露肩はやや少なく、分岐根は少ない。  
 3. 抽苔耐性は強く、当年抽苔はない。  
 4. 褐斑病に対しては「ハイラーベ」と同様に弱く、根腐病や葉腐病にも弱い。  
 5. 普通収穫期における根収量は「ハイラーベ」より劣り、早期収穫でもほぼ同様の傾向を示す。  
 6. 根中糖分は、普通収穫、早期収穫とも根重型の「ハイラーベ」より高く、中間型の「モノミドリ」よりも高い。  
 7. 根中の有害性非糖分は「ハイラーベ」より低く、「モノミドリ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 全道を対象とし、早期収穫を必要とする地帯で栽培する。また栽培に当っては根中糖分の低下や、有害性非糖分の増加を防ぐため、多肥や疎植栽培は避ける。

試験場名	栽培法	品 種 名	早期収穫				普通収穫			
			10 a 当り		根 中 糖 分 (%)	試験 年次	10 a 当り		根 中 糖 分 (%)	試 験 年 次
			根 重 (%)	糖 量 (%)			根 重 (%)	糖 量 (%)		
北海道農試	直 播	モノホート ハイラーベ	84	89	106	1981	89	91	102	1979～ 1981
			100 (3.63)	100 (542)	100 (14.95)		100 (4.74)	100 (808)	100 (17.08)	
中央農試 (沖積土)	移 植	モノホート ハイラーベ					97 100 (6.35)	101 100 (1.057)	104 100 (16.66)	1979
中央農試 (洪積土)	移 植	モノホート ハイラーベ					96 100 (6.63)	99 100 (1.001)	104 100 (15.11)	1979
上川農試	移 植	モノホート ハイラーベ					94 100 (4.09)	98 100 (683)	104 100 (15.57)	1979
十勝農試	直 播	モノホート ハイラーベ	88	90	102	1980	91	95	104	1979～ 1980
			100 (461)	100 (772)	100 (16.74)	～ 1981	100 (5.21)	100 (932)	100 (17.91)	
北見農試	直 播	モノホート ハイラーベ	82	84	102	1980	92	94	102	1979～ 1980
			100 (4.01)	100 (654)	100 (16.35)	～ 1981	100 (4.44)	100 (826)	100 (18.61)	
根釧農試	移 植	モノホート ハイラーベ					89 100 (5.35)	92 100 (933)	104 100 (17.44)	1979～ 1980
天北農試	移 植	モノホート ハイラーベ					98 100 (4.44)	101 100 (756)	102 100 (17.04)	1979～ 1980

- 注 1) 早期収穫は10月1日またはその前後（9月29日～10月3日）に収穫したもの。  
 2) ハイラーベの（ ）内は実数値を示し、根重は ton、糖量はkg、根中糖分は%である。

参照 1) 北海道農務部、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、17-20 (1982)。

(5) ノバヒル (原名 Novahill)

登録番号：(北海道) てん菜輸第19号

来歴 本品種はスウェーデンのヒレスヘーグ種子会社が育成したもので、1972年(昭47)に我が国に輸入された。同年以降原名を用いて各種の試験を行った結果、「モノヒル」に比較して根中糖分はやや高いが、根収量がやや劣ることから、1977年(昭52)に試験を中止した。その後水田転換畑でのてん菜栽培面積の増加にともない、過湿ほ場で根腐れの少ない品種の要望が高まったため本品種に注目し、1980年(昭55)以降再度試験を行った。その結果1982年(昭57)に耐湿性がまさる品種として優良(奨励)品種に決定した。なお本品種は三倍体の単胚一代雑種であるが、構成系統は不明である。

- 特性概要 1. 葉長はやや短く、葉数は中位で、草姿は開張型である。  
 2. 葉は緑色で、形は楕円、葉面積は中程度。葉柄はやや短く、太さは中位である。クラウンの大きさは中で、根は円錐形で長さは中位、露肩はやや少なく、分岐根は少ない。  
 3. 抽苔耐性は強く、一般栽培で当年抽苔はほとんどない。  
 4. 褐斑病抵抗性は「モノヒル」なみで弱く、根腐病や葉腐病にも弱い。しかし過湿ほ場における根腐症状は「モノヒル」より少ない。  
 5. 根収量は、道央や道南では「モノヒル」と同程度であるが、道東ではやや劣る傾向を示す。  
 6. 根中糖分は「モノヒル」より3%程度高く、「モノミドリ」と同程度である。  
 7. 根中の有害性非糖分は「モノヒル」なみで、「モノミドリ」よりやや多い。

栽培適地と奨励態度 道東以外の全地域に適し、とくに湿害が発生しやすい水田転換畑などで「モノヒル」におきかえる。また栽培に当っては根中糖分を低下させるような多肥栽培は避ける。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 分 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	ノバヒル	4.51	97	747	98	16.52	102	1973~1977
		モノヒル	4.67	100	761	100	16.23	100	1980~1981
中央農試 (沖積土)	移 植	ノバヒル	6.29	100	980	102	15.56	102	1973~1976
		モノヒル	6.31	100	961	100	15.20	100	1980
中央農試 (洪積土)	移 植	ノバヒル	5.74	104	921	106	16.21	101	1973~1976
		モノヒル	5.52	100	869	100	16.02	100	1980
上川農試	直 播 および 移 植	ノバヒル	5.24	101	920	103	17.57	103	1973~1977
		モノヒル	5.21	100	893	100	17.11	100	1980~1981
十勝農試	直 播	ノバヒル	3.98	96	680	98	16.73	102	1973~1977
		モノヒル	4.15	100	694	100	16.39	100	1980~1981
北見農試	直 播	ノバヒル	3.94	94	692	96	17.57	103	1973~1977
		モノヒル	4.21	100	719	100	17.09	100	1980~1981
根釧農試	移 植	ノバヒル	4.35	96	725	98	16.67	102	1973~1977
		モノヒル	4.51	100	740	100	16.40	100	1980~1981
天北農試	移 植	ノバヒル	4.46	100	775	102	17.37	102	1975~1977
		モノヒル	4.44	100	759	100	17.10	100	1980~1981

注) 上川農試の栽培法は1973~1974は直播、他は移植栽培。

参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。21-24 (1982)。

(6) ダイヒル (原名 Dihill)

登録番号：(北海道) てん菜輸第20号

来歴 本品種はスウェーデンのヒレスヘーグ種子会社が育成したもので、1978年(昭53)に我が国に輸入された。当初は「Hill mono 829」の系統名で試験を行ったが、1982年(昭57)からは「Dihill」の品種名で試験を継続し、1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種は二倍体の単胚一代雑種であるが、構成系統は不明である。

特性概要 1. 葉長はやや短で、葉数やや多く、草姿はやや開張型である。

2. 葉はやや淡緑色を呈し、形はやや皮針形、葉面積は中程度で、葉身の大きさはやや小さい。葉柄はやや細くて長さは中程度である。

3. クラウンは小さく、根は円錐形で長さは中、露肩はやや少なく分岐根も少ない。

4. 抽苔耐性は強く、一般栽培で当年抽苔することはほとんどない。

5. 褐斑病に対しては「モノヒル」と同様に弱く、過湿ほ場における湿害による根腐症状株の発生は「モノヒル」より多い。その他の病害については「モノヒル」と差がない。

6. 根収量は「モノヒル」なみであるが、過湿ほ場では根収量の低下が大きい。

7. 根中糖分は「モノヒル」より4%前後高く、「モノミドリ」なみかやや高い。

8. 根中の有害性非糖分は「モノヒル」より低く、「モノミドリ」に近い。

栽培適地と奨励態度 上川・留萌を除く道央、根釧地方を除く道東ならびに道南地域のうち湿害の恐れのない地帯を適地とする。栽培に当たっては根中糖分低下を起すような多肥栽培は避ける。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	ダイヒル	5.59	93	991	96	17.68	103	1980
		モノヒル	6.02	100	1,036	100	17.18	100	1982~1983
中央農試	移 植	ダイヒル	6.88	92	1,120	95	16.26	103	1980
		モノヒル	7.45	100	1,178	100	15.85	100	1982~1983
上川農試	移 植	ダイヒル	5.62	97	1,021	101	18.14	104	1980~1983
		モノヒル	5.79	100	1,007	100	17.36	100	
十勝農試	直 播	ダイヒル	5.10	95	927	99	18.13	104	1980~1983
		モノヒル	5.36	100	940	100	17.51	100	
北見農試	直 播	ダイヒル	4.28	99	778	103	18.09	104	1980~1983
		モノヒル	4.34	100	756	100	17.32	100	
根釧農試	移 植	ダイヒル	4.41	92	767	96	17.39	104	1980~1983
		モノヒル	4.79	100	803	100	16.74	100	
天北農試	移 植	ダイヒル	4.43	92	756	95	17.06	103	1980~1983
		モノヒル	4.79	100	796	100	16.62	100	

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。20-25 (1984)。



(7) モノエース (旧系統名 Kawe J137)

登録番号：(北海道) てん菜輸交第21号

来歴 本品種は、西ドイツのクラインヴァンツレーベン種子会社が1971年(昭46)から1976年(昭51)に選抜育成した二倍体単胚雄性不稔系統「MS-OA-0047」と四倍体多胚系統「PS-54-124-F」を1977年(昭52)に交配して作出した三倍体単胚一代雑種である。北海道へは1980年(昭50)に日本甜菜製糖会社が輸入した。当初「MC-80-22」の系統名が付けられていたが、1981年(昭56)に「Kawe J137」と命名された。道内では1980年(昭55)以降各種の試験が行われ、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 葉長、葉数は中位、草丈は「カーベメガモノ」よりやや高く、草姿はやや開張型である。

2. 葉は緑色で、形は楕円、葉面積は中程度、葉身の大きさ並びに葉柄の長さや太さも中位である。

3. クラウンはやや大きく、根は短円錐形でやや短い。露肩は中で分岐根は少ない。

4. 抽苔耐性は強く、一般栽培で当年抽苔することはほとんどない。

5. 褐斑病に対する抵抗性は弱く、根腐病や葉腐病に対しても弱い。

6. 根収量は「カーベメガモノ」と同程度である。

7. 根中糖分は高く、高糖性品種といわれている「モノホート」や「モノヒカリ」なみである。

8. 根中の有害性非糖分は「カーベメガモノ」より低く、「モノヒカリ」に次ぐ低さである。

栽培適地と奨励態度 道内全域を対象として「カーベメガモノ」におきかえる。栽培に当たっては根中糖分低下の原因となる多肥栽培は避け、褐斑病の防除を徹底する。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	モノエース	5.78	101	1,057	105	18.28	105	1982~ 1983
		カーベメガモノ	5.75	100	1,009	100	17.56	100	
中央農試	移 植	モノエース	6.75	98	1,168	106	17.27	108	1982~ 1984
		カーベメガモノ	6.91	100	1,103	100	15.97	100	
上川農試	移 植	モノエース	5.01	101	933	107	18.61	106	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.96	100	870	100	17.50	100	
十勝農試	直 播	モノエース	4.88	98	888	104	18.19	106	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.98	100	856	100	17.12	100	
北見農試	直 播	モノエース	4.30	101	796	106	18.43	106	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.26	100	748	100	17.45	100	
根釧農試	移 植	モノエース	4.15	100	757	107	18.17	107	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.13	100	706	100	17.05	100	
天北農試	移 植	モノエース	4.89	96	850	101	17.32	105	1982~ 1984
		カーベメガモノ	5.11	100	843	100	16.43	100	

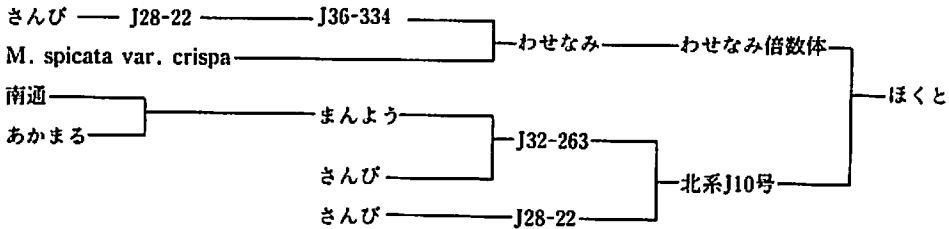
参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-36 (1985).

## 2. はっか

### (1) ほくと (旧系統名 北海J20号)

登録番号：(北海道) はっか北海道第5号；(農水省) はっか農林11号；(種苗法) 第347号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道農業試験場において「わせなみ倍数体」を母、「北系J10号」を父として人工交配を行い育成したもので、1979年以降「北海J20号」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 草丈は「わせなみ」より高く、分枝数、葉数は「わせなみ」より少ない。草姿は開張型で、茎はやや太くてやや硬く、淡赤紫色を呈する。

2. 葉は緑色を呈し、長卵形で巾がやや広く、しわが少なく、葉縁の鋸歯の切れ込みは深い。

3. 花序は「わせなみ」と同様に中間状で、花は大きく、雄ずいは正常で種子の稔性は中程度である。

4. 開花始は9月10日前後で、「わせなみ」より遅く「さやかぜ」と同じ中生の晩に属する。

5. さび病抵抗性は「わせなみ」と同程度の強。ネグサレセンチュウやピンセンチュウにも比較的強い。耐倒伏性は中程度で「わせなみ」よりやや弱い。

6. 生草収量は「わせなみ」よりやや多い程度であるが、収油率が極めて高いため取卸油の収量は「わせなみ」より38%前後多い。

7. 取卸油の採脳率は44%前後、総メントール含量は73%前後で、中脳分の低い品種に属する。またはつか脳の品質は「さやかぜ」よりやや劣り「わせなみ」と同程度、はっか油の品質も「さやかぜ」よりやや劣るが、「わせなみ」よりまさる。

8. 種根量は多く、耐冬性が強く萌芽は極めて良好である。

栽培適地と奨励態度 本道のはっか栽培地帯で、「さやかぜ」以外の品種すべてにおきかえる。また種根量が多く、萌芽が良好なため、連作畑では過度の密植になりやすいので注意し、多肥栽培は避ける。

試験場名	品種名	開花始 (月.日)	刈取期における			10 a 当り				収油率 (%)	採脳率 (%)	試験年次
			草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	葉数 (枚/株)	生草重 (kg)	乾草重 (kg)	取卸油重 (kg)	左比 (%)			
北海道農試	ほくと	9.13	94	34	710	3,880	1,180	18.21	123	0.47	47	1979~ 1981
	わせなみ	8.31	85	36	1,210	3,680	1,160	14.83	100	0.40	52	
北見農試	ほくと	(9.2)	113	23		4,574		16.75	152	0.37	42	1980~ 1981
	わせなみ	(9.10)	107	24		4,523		11.05	100	0.24	49	

注) 北見農試の開花始は開花期を示す。

参照 北海道農務部編、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、25—29 (1982)。

### III 果 樹

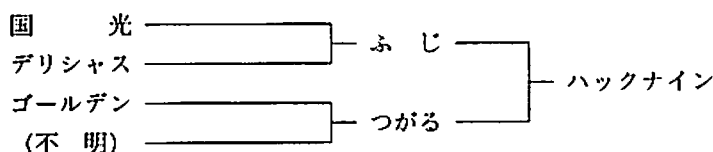
#### 1. リンゴ

##### (1) ハックナイン (旧系統名 HAC 9)

登録番号：(北海道) りんご北海道第8号：(種苗法) 第1237号

来歴 本品種は、1971年(昭46)に北海道立中央農業試験場において「ふじ」を母、「つがる」を父として人工交配を行い育成したもので、1980年(昭55)以降「HAC 9」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。(注：HACはHOKKAIDO APPLE CLONEの略)

なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 樹勢は「ふじ」より強く、樹の大きさは「ふじ」より大きく、樹姿は開張性である。枝しょうは「ふじ」より太く、葉は「ふじ」より大きく丸味を呈する。蕾の色は淡桃色で「ふじ」よりやや濃く、花は「ふじ」よりやや大きい。
2. 発芽期、展葉期、開花期、落花期などは「ふじ」とほぼ同じで、「スターキングデリシャス」よりやや早い。
3. 花芽の着生は「ふじ」なみで、早期結果性も「ふじ」と同等で良好ある。
4. 果実は長円形で「ふじ」よりやや長く、果皮は黄緑色の地色に「ふじ」より鮮明な縞状の赤色で被われる。果実の大きさは250～300gで「ふじ」より大きく、果肉は黄色味の濃い黄白色を呈する。
5. 熟期は10月下旬で「ふじ」より早く、「スターキングデリシャス」なみである。
6. 収量性については、着果数は「ふじ」なみで、果実肥大が良好なことから収量は多い。
7. 果肉は極めて多汁で、甘味多く適度な酸味もあり食味は極めて良い。また果肉がやわらかく、貯蔵性は「ふじ」より劣るが適食期に入るのが早く、冷蔵貯蔵で可食期は11月上旬～2月末とみられる。
8. 各種の病害虫に対する抵抗性は「ふじ」や「スターキングデリシャス」と差がない。
9. 三倍体品種であるため花粉の発芽率は極めて低い。

栽培適地と奨励態度 道央及び道南地域において「デリシャス系」の50%程度を本品種におきかえる。また栽培に当たっては、樹が開張性で大きくなるので栽植距離は「ふじ」より広めとし、花粉の発芽率が極めて低いので、授粉樹として使用しない。

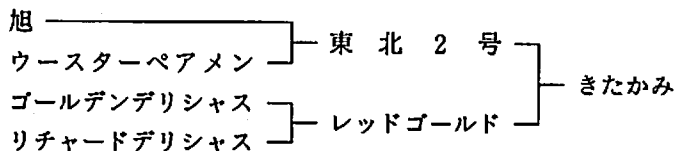
試験場名	品 種 名	展葉期 (月.日)	満開期 (月.日)	1果重 (g)	果 実 品 質			試験年次
					硬 度 (ボンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	
中央農試	ハックナイン	5.7	5.30	271	13.8	14.4	0.58	1981~1984
	ふ じ	5.8	5.30	233	18.7	14.2	0.44	

参照 1)北海道農務部。昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項。37-39(昭和60年3月)。

(2) きたかみ (旧系統名 盛岡15号)

登録番号：(北海道)りんご準第7号；(農水省)りんご農林4号；(種苗法)第366号

来歴 本品種は、1959年(昭34)に東北農業試験場園芸部(現、果樹試験場盛岡支場)において、「東北2号」を母、「レッドゴールド」を父として人工交配を行い育成したもので、1981年(昭56)に「きたかみ」(りんご農林4号)として農水省に登録された。本道では、1968年(43)より「4814-18」、その後「盛岡15号」、さらに1982年(昭57)以降は「きたかみ」として各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 樹姿は、若木時代は直立性であるが、樹齢が進むに従い開張性となる。しかし枝の節間が短かく、樹全体としてはコンパクトになる。樹勢はやや強い。葉は大きさが中、先端が尖り、鋸歯は鈍鋸歯で浅い。花色は、蕾のときは淡桃色で、満開時には白色が強くなる。

2. 発芽期、展葉期、開花期などは「祝」とほぼ同じである。また熟期は9月中～下旬で、「祝」より約7日遅い。
3. 結実樹齢に達するのが早い。また短果枝の着生が多く、結果性は良好である。
4. 果実は扁円形で「旭」に類似し、果皮は全面濃赤色で縞は入らない。大きさは150～200gでやや小さいが、玉ぞろいは良い。
5. 収量性については、結実性が良いため「祝」より明らかにまざる。
6. 果肉は黄味の強い黄白色を呈し、硬さや肉質は中位で、果汁が多い。糖度は13%前後、酸度は0.5g/100ml前後と、甘酸ともに中位で、この時期の品種としては食味が極めて良い。
7. 収穫直後から適食期に入り、貯蔵性は、普通貯蔵で約2週間、冷蔵で約1か月である。また収穫が遅れると果肉の軟化が起り、貯蔵性が低下しやすくなる。
8. 生理的な早期落果や後期落果はともに少ない。
9. 赤星病に対して抵抗性を有し、他の病害虫についても一般的な管理でとくに問題はない。
10. 「レッドゴールド」との間では相互に交配親和性が低い。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は、道内のりんご栽培可能地全域で、「祝」などにおきかえる。

栽培に当たっては、無袋栽培を基本とし、果実品質の向上を図るため着果数を適正とする。収穫が遅れると貯蔵性が低下するので、適期収穫に努める。また「レッドゴールド」との混植は避ける。

試験場名	品種名	台木	展葉期 (月.日)	満開期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収量 (14年生) (kg/1樹)	1果重 (g)	果実品質			試験年次
								硬度 (ポンド)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	
北海道農試	きたかみ	ミツバ	5.6	5.25	9.27	115.7	155	13.7	13.0	0.53	1980～ 1985
	祝	〃	〃	〃	9.17	65.7	187	14.5	12.3	0.53	
中央農試	きたかみ	M26	5.9	6.1	9.21	19.9	178	14.7	13.3	0.55	1980～ 1985
	祝	〃	5.10	〃	9.16	4.3	200	15.0	13.7	0.55	

参照 1) 吉田義雄, 等, 果樹試験場報告, C (盛岡) 9, 1—13 (1982).

2) 北海道農務部編, 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 29—31 (1986).

### (3) つがる (旧系統名 青り2号)

登録番号: (北海道) りんご準第8号

来歴 本品種は、1930年(昭5)に青森県りんご試験場において「ゴールデンデリシャス」を母として人工交配を行ったものから育成したもので、父に使用した品種は不明である。1970年(昭45)に「青り2号」と仮りに命名した。1973年(昭48)「つがる」と命名して、農産種苗法による名称登録を出願し、1975年(昭50)に「つがる」として名称登録された。道内では1974年(昭49)より各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 樹姿は、若木では直立性であるが、樹齢が進むに従い開張性となる。樹勢は中位、葉は楕円形で先端は鋭く尖り、鈍鋸歯である。花色は蕾のときは濃桃色で、満開時には淡桃色となる。

2. 発芽期は「祝」と差がないが、展葉期や開花期は「祝」より2日前後遅い。また熟期は9月下旬～10月上旬で、「祝」より遅く、「旭」より約10日早い。
3. 結実樹齢に達するのが早い。花芽の着生は「ゴールデンデリシャス」よりやや劣るが、「祝」より良い。また花芽は長果枝に多く着生する。
4. 果実は長円形で、果皮は、黄緑色の地に濃赤色の太い縞が入る。大きさは約250gと大きく、玉ぞろいは良い。
5. 収量性は「祝」や「旭」よりまさり、この時期に北海道で収穫できる品種としては収量性が最も高い方である。
6. 果肉は黄白色を呈し、硬さは中、肉質はち密で、果汁が多い。完熟するとわずかに蜜が入る。糖度は14%前後、酸度は0.4g/100mlと、甘味多く酸味の少ない食味の良い品種である。
7. 収穫直後から適食期となり、貯蔵性は、普通貯蔵で約1か月である。貯蔵中果面に脂質の発生がある。
8. 早期落果は少なく、栽培上問題とならないが、収穫期近くの後期落果は多いので、落果防止剤の散布が必要である。
9. 斑点落葉病には強い方であり、他の病虫害についても一般管理でとくに問題はない。
10. 花粉量が多く、花粉稔性率も高いので、授粉樹としても利用価値が高い。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は、道内のりんご栽培可能地全域である。栽培に当たっては、無袋栽培を基本とし、結果母枝は側枝が出にくく、裸枝になりやすいので、整枝せん定に注意する。また、後期落果が多いので、落果防止剤の散布を行う。

試験場名	品 種 名	展葉期 (月.日)	満開期 (月.日)	収穫期 (月.日)	1果重 (g)	果 実 品 質			試験年次
						硬 度 (ボンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	
北海道農試	つが 祝	5.8	5.31	10.2	234	14.0	13.9	0.38	1980~ 1985
		5.6	5.29	9.17	187	14.5	12.3	0.53	
中央農試	つが 祝	5.11	6.4	10.3	243	15.4	14.2	0.41	"
		5.10	6.1	9.16	200	15.0	13.7	0.55	

- 参照 1) 山田三智穂, 等. 青森県りんご試験報告, 18, 1—10 (1980).  
2) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 27—28 (1986).

## 2. ナ シ

### (1) 北 甘 (旧系統名 14号)

登録番号：(北海道) なし北海道第12号；(農水省) なし農林9号

来歴 本品種は、1956年(昭31)に北海道農業試験場において「甘玉」を母、「二十世紀」を父として人工交配を行い、実生樹を育成し選抜した。1964年(昭39)に「14号」の系統名を付し、1967年(昭42)から接ぎ木による増殖を行い、以降各種の試験を行ってきたもので、1979年(昭54)11月に新品種として農林水産省に登録され、1980年(昭55)に北海道の優良(奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 樹勢は強く、樹姿は若木時代はやや直立するが、果実が結実するとやや開張性になる。
2. 枝の発生および太さは中程度で伸長力は強い。短果枝の着生は「初日」より少なく、中果枝の着生は多い。
3. 若葉は淡紅色で細毛多く、成葉は細長い長楕円形で大きさは中位、鋸歯は小さく密である。
4. 花芽の大きさは中位で着生は多く、えき花芽は「長十郎」より少なく中程度である。
5. 蕾は極淡紅色、花の大きさは中位で、花卉は5枚が主で6枚のものも混在する。花粉は多く、自然状態での結実歩合は極めて高い。また交配親和性はほとんどの主要品種と親和性で、自家受精もある程度行われる。
6. 果実は円形で、1果重は「初日」よりかなり重く、約240gである。果皮は黄緑色を呈し、外観や玉崩れは良いが、条溝を生ずるものが僅かある。果肉は白色で肉質はやや密、酸味が少なく甘味が多く、食味は良い。
7. 催芽期は5月7日前後で「初日」より4日程度遅く、開花始も「初日」より2日程度遅いが、開花盛期や終りは「初日」とほぼ同じである。また落葉期は遅い方である。
8. 収穫適期は、札幌付近では9月下旬で、早生種の晩に属する。
9. 収量性は、早生種としては多収である。また貯蔵性は約30日で、早生種としては日持ちが良い。

10. 耐寒性は「身不知」より劣るが、「長十郎」より強く、中の強に属する。

栽培適地と奨励態度 渡島，後志，石狩，胆振支庁管内に適し，栽培に当たっては有袋栽培とし，着果過多や早期収穫は避ける。

試験場名	品種名	催芽期 (月.日)	開花期 (月.日)	1樹当り(5~9年生平均)			平均 1果重 (g)	糖度 (%)	試験年次
				総果数	総果重 (kg)	左比 (%)			
北海道農試	北甘	5.7	5.26	474	113	217	237	11.4	1973~ 1979
	初日	5.3	5.26	324	52	100	162	12.2	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項. 45-46 (1980).

2) 中島二三一, 農業技術. 35, 26-28 (1980).

3) 中島二三一, 等. 北海道農業試験場研究報告. 141, 43-55 (1985).

## (2) 北 豊 (旧系統名 77号)

登録番号: (北海道) なし北海道第13号; (農水省) なし農林10号

来歴 本品種は, 1953年(昭28)に北海道農業試験場において, 「身不知」を母, 「長十郎」を父として人工交配を行い, 実生樹を育成し選抜した。1966年(昭41)に「77号」の系統名を付し, 1967年(昭42)から接ぎ木による増殖を行い, 以降各種の試験を行ってきたもので, 1979年(昭54)11月に新品種として農林水産省に登録され, 1980年(昭55)に北海道の優良(奨励)品種に決定した。

- 特性概要
1. 樹勢は強く, 樹姿はやや開張性, 樹の生育が良好で成木に達するのが早い。
  2. 枝の発生密度は中程度で, 太く伸長力も強い。短果枝の着生は多いが, 中果枝は中程度で「北甘」より少ない。
  3. 若葉は淡褐色で細毛少なく, 成葉は長楕円形で大きさは中位, 鋸歯は大きい。
  4. 花芽は多いがやや小さく, えき花芽の着生は中程度である。
  5. 蕾は淡紅色, 花は白色でやや小さく, 花弁は5枚。花粉が多いものの, 自然状態での結実歩合は高くないが収量には影響しない。自家受精はほとんど行わず, 交配親和性は主要品種では「初日」以外と親和性である。
  6. 果実是不整な短楕円形で, 1果重は290g前後で玉揃いはやや良。果皮は黄緑褐色, 果肉は白色で肉質はやや粗く, 果心はやや大きい。果汁の酸味は少なく, 甘味が多く, 香気もあって食味は良い。
  7. 催芽期は5月3日前後で「初日」と差がなく, 開花時期も「初日」と同じである。また落葉期は「初日」より遅いが, 「北甘」より早い。
  8. 収穫適期は, 札幌付近では9月中~下旬で, 早生種に属する。
  9. 収量は極めて多い。また日持ち性は15~20日で「北甘」より短く, 「初日」より長い。
  10. 耐寒性は極めて強く, 日本ナシの中で最も強い「身不知」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 石狩, 空知, 上川, 網走支庁管内に適す。管理に当たっては, 果実の肥大にともない枝が開くので, せん定はできるだけ枝を上げるように心掛ける。また極端に小さい果実をつけることがあるので, 仕上げ摘果が必要である。

試験場名	品 種 名	催芽期 (月.日)	開 花 期 (月.日)	1樹当り(5~9年生平均)			平 均 1 果 重 (g)	糖 度 (%)	試 験 年 次
				総果数	総果重 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	北 豊	5. 3	5.26	661	190	365	288	12.4	1973~ 1979
	初 日	"	"	324	52	100	162	12.2	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-44 (1980).  
2) 中島二三一, 農業技術, 35, 29-31 (1980).

### 3. ブドウ

#### (1) ミュラー トルガウ (原名 Müller-Thurgau)

登録番号: (北海道) ぶどう準輸第3号

来歴 本品種は, 1882年(明15)にドイツの王立ガイゼンハイム果樹・ワイン園芸学校において, 「リースリング」を母, 「ジルバーナー」を父として交配し, スイスの誓約団ワイン・果樹栽培試験教育施設で選抜育成したものである。1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場が, 西ドイツ国立バインスベルクぶどう・果樹栽培教育試験場から導入し, 1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い, 1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は白ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢は中～やや弱で, 垣根仕立て栽培に適合する。
3. 果皮は黄緑色から緑黄色となる。果房は円筒形で粒着は密であり, 200g程度である。果粒は短楕円形で2.0~2.5gである。花振り, 裂果はほとんどない。
4. 中央農試での展葉期は5月末, 開花期は7月上～中旬である。熟期は中央農試では10月上旬, 仁木町では9月下旬~10月上旬である。
5. 耐寒性はやや弱く, 灰色かび病に対してもやや弱い。またフィロキセラに対する抵抗性はない。
6. 収量性は高い方で, 中央農試や仁木町では10a当たり1トンあるいはそれ以上の収量を得ることが可能である。しかし富良野市では凍害のため収量は少なかった。
7. 果汁の糖度は17%程度で, 酸度は, 中央農試では1.1~1.2g/100ml, 仁木町ではそれよりやや低い。またワインとしての醸造適性についてはとくに問題がない。

栽培適地と奨励態度 空知以南およびそれに準ずる地帯に適す。栽培に当たっては, 凍害防止, 樹勢維持のため, 冬期間枝伏せを実施し, 着果過多は避ける。また早採りでは品質が劣るので, 完熟した果実の収穫に心掛ける。

(試験成績は「ツバイゲルトレーベ」の項に記載)

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-40 (1981).  
2) 松井文雄, 等, 北海道園芸研究談話会報, 14, 50~51 (1981).



(2) セイベル 5279 (原名 Seibel 5279)

登録番号：(北海道) ぶどう準輸第4号

来歴 本品種は、フランスのアルバート・セイベル氏がフィロキセラ耐性品種の育成を主目的として、「Seibel 788」を母、「Seibel 29」を父として交配し育成した種間交雑品種である。1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場が富良野市から導入し、1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は白ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢はやや強いが、垣根仕立て栽培が可能である。
3. 果皮は黄緑色から黄白色となる。果房は円筒形で、粒着は中程度であるが、花振いがやや多い。果房重は150～200gである。果粒は扁円形で、2.0g前後である。果皮がうすく、裂果することがある。
4. 中央農試での展葉期は5月下旬、開花期は7月上旬。熟期は早く、中央農試や富良野市では9月下旬～10月上旬。仁木町では9月下旬に成熟する。
5. 耐寒性はやや強く、灰色かび病の被害は中程度である。
6. 収量性は高く、10a当たり1トンあるいはそれ以上の収量が得られる。年により花振いの多発で収量をやや低下させることがある。
7. 果汁の糖度は16%程度、酸度は1.3～1.5g/100mlで、ワイン醸造上とくに問題はない。

栽培適地と奨励態度 上川以南およびそれに準ずる地帯に適す。栽培に当たっては、凍害の危険を避けるため冬期間枝伏せを行い、着果過多にならないよう注意する。また花振いを起こしやすいので、適切な肥培管理を行う。早採りでは品質が劣るので、完熟した果実の収穫に心掛ける。

(試験成績は「ツバイゲルトレーベ」の項に記載)

参照 1) 北海道農務部編、昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項、41—43(1981)。

(3) セイベル 13053 (原名 Seibel 13053)

登録番号：(北海道) ぶどう準輸第5号

来歴 本品種は、フランスのアルバート・セイベル氏がフィロキセラ耐性品種の育成を主目的として、「Seibel 7042」を母、「Seibel 5409」を父として交配し育成した種間交雑品種である。1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場が富良野市から導入し、1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は赤ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢は中位で、垣根仕立て栽培に適合する。
3. 果皮は黒色となる。果房は円錐形で、粒着は中程度であるが、花振いがやや多い。果房重は150g程度である。果粒は円形で、2.0g程度である。
4. 中央農試での展葉期は5月下旬、開花期は6月下旬～7月下旬。熟期は中央農試や富良野市では9月下旬～10月上旬。仁木町では9月下旬である。
5. 耐寒性は強く、灰色かび病の被害は中程度である。
6. 収量性は高く、10a当たり1トン程度の収量を得ることが可能である。年により花振いの多発で収量を低下させることがある。

7. 果汁の糖度は16%前後で、年によるふれがやや大きい。酸度は約1.5g/100mlで、ワイン醸造上とくに問題はない。

栽培適地と奨励態度 上川以南およびそれに準ずる地帯に適し、栽培上の注意は「セイベル5279」に準ずる。

(試験成績は「ツバイゲルトレーベ」の項に記載)

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。44-46 (1981)。

#### (4) ツバイゲルトレーベ (原名 Zweigeltrebe)

登録番号：(北海道) ぶどう準給第6号

来歴 本品種は、オーストリアの高等連邦立クロスターノイブルグワイン・果樹栽培学校において、「ブラウフレンキッシュ」(リンベルガー)を母、「サンローラン」を父として交配し育成した品種である。1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場が、オーストリアのクロスターノイブルグ修道院ワイン部から導入し、1975年(昭50)にほ場に栽植して以来各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 本品種は赤ワイン用の醸造専用品種である。

2. 樹勢は中位で、葉が大きく、垣根仕立て栽培によく適合する。

3. 果皮は紫黒色となる。果房は円錐形で、粒着は極密であり、300~350gである。果粒は円形で、2.0~2.5gである。花振り、裂果はほとんどない。

4. 中央農試での展葉期は5月末、開花期は7月上~中旬、熟期は10月上旬である。

5. 耐寒性は中位で、灰色かび病の被害は中程度である。フィロキセラに対する抵抗性はない。

6. 収量性は高く、中央農試や仁木町では10a当たり1トン以上の収量が得られる。しかし富良野市での収量はやや少ない。

7. 果汁の糖度は18%程度、酸度は1.3g/100ml程度で、ワイン醸造上問題になる点はない。

栽培適地と奨励態度 空知以南およびそれに準ずる地帯に適し、栽培上の注意は「ミュラートルガウ」に準ずる

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収 量 (kg/樹)	平均果房重 (g)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ミュラー トルガウ	7.12	10.4	5.3	184	17.3	1.16	1978~1980
	セイベル 5279	7.7	9.30	5.2	173	16.2	1.46	
	セイベル 13053	7.4	9.30	6.8	148	16.0	1.51	
	ツバイゲルトレーベ	7.11	9.30	5.4	321	18.1	1.36	

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。47-49 (1981)。

2) 松井文雄, 等。北海道園芸研究談話会報。14, 52-53 (1981)。

## IV 野 菜

### 1. キャベツ

#### (1) 金系201号 (原名 金系201号)

記録番号：(北海道) キャベツ準移第12号

来歴 本品種は坂田種苗株式会社が、「富士早生」系を中心に親系統の分系を続け、これらの交配群からの自家不和合性利用によって作出した1代雑種で、1965年(昭40)に発表されたものである。

1979年(昭54)より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は開張型で、外葉はやや濃い緑色を呈し、葉縁は波うち、葉面は縮葉でこれが球葉にも及ぶ縮葉種である。外葉数は平均17枚、そのうち収穫時の生葉数は約9枚で「CM」よりかなり少ない。

2. 4月下旬播種で収穫期は7月中旬となり、生育日数は100日を越え、「CM」とほぼ同じである。

3. 初夏どりの球形指数(球高/球径)はほぼ1.0で球形を呈するが、作期が遅くなるとやや扁平化する傾向がある。球外側10枚の葉重が結球重に占める割合は70%と高く、葉重型に属する。球芯高は球高の50%以下で、太さも「CM」より細く、球芯部は小さい。また一球重は「CM」より重い。

4. 裂球しやすく、収穫期より5日程度で裂球が始まることがある。また年によって小球や病害球が発生することがある。

5. 収量は「CM」より明らかに多い。

6. 肉質は「CM」よりやわらかで、生食としては歯切れも良く、また品質も良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。栽培法は北海道の栽培基準に準ずるが、裂球しやすいので収穫適期をのがさないこと。また良質品生産のためやや密植することが望ましい。

試験場名	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試 験 年 次
				総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	金系201号	6.18	7.13	5.72	5.63	134	1,176	0.99	1979~1982
	C M	6.22	7.12	4.38	4.21	100	987	0.97	

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、47-52 (1983)。

## (2) 北ひかり (原名 北ひかり)

登録番号：(北海道) キャベツ準移第13号

来歴 本品種はタキイ種苗株式会社が、「春風2号」×「中野早生系」の後代から選抜した強勢で高温結球性の系統と、「富士早生」の分系から選抜した締まりの良い良質早生系統を用いて作出した一代雑種で、1978年(昭53)に育成を完了した。1980年(昭55)より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿や外観性状は「金系201号」に類似する縮葉種である。

2. 4月上旬播種で収穫期は7月中旬となり、生育日数は100日を越え、「CM」とほぼ同じである。

3. 初夏どりで球形指数は1.0前後で球形を呈するが、作期が遅くなるとやや扁平化する傾向がある。「金系201号」と同じ葉重型に属し、球芯部は小さく、1球重は「CM」よりやや重い。

4. 裂球しやすく、収穫期より5日程度で裂球が始まることがある。また年によって小球や病害球が発生することがある。

5. 収量は「CM」より明らかに多い。

6. 肉質は「CM」よりやわらかく、生食として歯切れも良く、品質は良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。また栽培法ならびに栽培上の注意は「金系201号」に準ずる。

試験場名	品種名	結球始 (月・日)	収穫期 (月・日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	試験年次
				総結球重 (g)	上物重 (g)	左(%)比			
中央農試	北ひかり	6.18	7.12	5.32	5.17	123	1,093	0.93	1980~1982
	C M	6.22	7.11	4.58	4.48	100	1,053	0.97	

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編. 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項. 47-52 (1983).

## (3) スピードボール (原名 スピードボール)

登録番号：(北海道) キャベツ準移第14号

来歴 本品種は株式会社渡辺採種場において、「アラスカ」×「デトマシュフォーシング」の後代と、「マリオンマーケット」×「ゴールドエンター」の後代の極早生系を親として育成したもので、1965年(昭40)に育成を開始し、1972年(昭47)に発表された。

1979年(昭54)より北海道中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿はやや立性、外葉はやや淡緑色を呈し、外葉面や球葉面は平滑な普通種である。外葉数は平均20枚、そのうち収穫時の生葉数は13枚で「CM」より少ない。

2. 4月上旬播種で収穫適期は7月上旬となり、生育日数は95日前後で「CM」よりやや短い極早生種である。

3. 球形指数は1.0前後でほぼ球形。球外側10枚の葉重が結球重に占める割合は約50%で「CM」

- より高い。一球重は「CM」よりやや重く、球芯高は球高の40%以下で「CM」より短い。
4. 裂球しやすく、収穫期から2～3日後に裂球が始まることもある。また年によって小球や軟球が発生することもあるが、その程度は「CM」より低い。
  5. 収量は「CM」より明らかに多い。
  6. 生食としてのやわらかさ、甘さ、肉質等は「CM」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「CM」に準ずる。

試験場名	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試験年次
				総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	スピードボール	6.17	7.8	5.20	5.17	123	1,100	1.00	1979～
	C M	6.22	7.12	4.38	4.21	100	987	0.97	1982

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、48—52 (1983)。

#### (4) アーリーボール (原名 アーリーボール)

記録番号：(北海道) キャベツ準移第15号

来歴 本品種は坂田種苗株式会社において、「富士早生」×「ゴールデンエーカー」から選抜した良質の早生系統と、「コペンハーゲンマーケット」×「ウイスコンシンYR系」から選抜した黒葉の小型で早生のYR系統を親として育成したもので、1969年(昭44)に育成を完了した。

1980年(昭55)より北海道中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 草姿や外観性状は「スピードボール」に類似する普通種である。外葉数は平均21枚、そのうち収穫時の生葉数は11枚で「CM」より少ない。
2. 4月上旬播種で収穫適期は7月上～中旬となり、生育日数は100日前後で「CM」なみかやや早い。
  3. 球形指数は1.0を越えるがほぼ球形、球外側10枚の葉重が結球重に占める割合は約50%で「CM」より高い。1球重は「CM」より重く、球芯高は球高の約50%で「CM」より短い。
  4. 裂球はしやすい方で、年によって小球や軟球が発生することもあるが、その程度は低い。
  5. 収量は「CM」より明らかに多い。
  6. 生食としての品質や食味は「CM」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりのほか、夏どりや秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「CM」に準ずる。

試験場名	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (g)	球 形 指 数	試験年次
				総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	アーリーボール	6.19	7.10	5.38	5.33	119	1,137	1.05	1980～
	C M	6.22	7.11	4.58	4.48	100	1,050	0.97	1982

注) 平均播種日は4月1日、同定植日は5月2日。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項, 48—52 (1983).

(5) デリシャス (原名 デリシャス)

記録番号: (北海道) キャベツ準移第16号

来歴 本品種は, 1968年 (昭43) に株式会社渡辺採種場において「SEクロス」の後代と, 「川崎葉深」の後代の極上質系統との組合せで作出し, 1971年 (昭46) に発表されたものである。

1977年 (昭52) より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い, 1983年 (昭58) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は開張型で, 外葉は緑色, 外葉面や球面は共に平滑である。

2. 5月上旬播種で生育日数は105日前後となり, 収穫期は「SE」より若干早い。

3. 球形指数は栽植密度によって異なるのがおよそ0.65~0.70で, 「SE」とほぼ同じ偏球形である。1球重は「SE」と大差なく, 球芯高は球高の40%前後で「SE」より短い。

4. 裂球はやや難で, 収穫期後裂球期まで期間は「SE」よりやや長い。年によって小球や病害球が発生するが, その程度は低い。

5. 収量は「SE」なみの多収を示す。

6. 生食としてのやわらかさ, 甘さ, 肉質等はいずれも「SE」よりまさり良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で夏どり栽培のほか, 秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「SE」に準ずる。

試験場名	栽培法	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平均 1球重 (kg)	球 形 指 数	試験年次
					総結球重 (t)	上物重 (t)	左 (%) 比			
中央農試	標 植	デリシャス	7.19	8.20	7.70	7.56	97	2.32	0.67	1977~
		S E	7.16	8.21	7.93	7.76	100	2.40	0.65	1980
	密 植	デリシャス	7.22	8.19	7.37	7.28	99	1.53	0.72	1979~
		S E	7.22	8.21	7.76	7.35	100	1.71	0.70	1982

注1) 平均播種日は標植, 密植共5月7日, 同定植日標植が6月3日, 密植は6月4日。

2) 標植は60cm×50cm, 密植は50cm×40cm。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項, 49—52 (1983).

(6) 初秋穫 (原名 初秋穫)

記録番号: (北海道) キャベツ準移第17号

来歴 本品種は野崎採種場において, 「野崎夏時」から分系した極早生系統と, 「葉深」×「野崎夏時」の後代から選抜した耐暑性の系統との組合せで作出した自家不適合性利用の一代雑種で, 1960年 (昭35) に発表されたものである。

1977年 (昭52) より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い, 1983年 (昭58) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は中間型で, 外葉は緑色, 外葉縁はやや波状を呈するが, 外葉面や球面

は平滑である。

2. 生育日数は、5月上旬播種で107日前後となり「SE」とほぼ同じである。
3. 球形指数は0.7前後で「SE」なみ～やや甲高な偏球形を呈する。1球重は「SE」と大差なく、球芯高は球高の約50%で、「SE」と同等である。
4. 裂球は難、小球や病害球の発生も「SE」なみで少ない。
5. 収量は「SE」なみの多収を示す。
6. 生食としてのやわらかさ、甘さ、肉質等はいずれも「SE」よりまさり良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で夏どり栽培のほか、秋どり栽培にも適する。また栽培法や栽培上の注意は「SE」に準ずる。

試験場名	栽培法	品 種 名	結球始 (月.日)	収穫期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1 球 重 (kg)	球 形 指 数	試験年次
					総結球重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)			
中央農試	標 植	初 秋 穫	7.17	8.21	7.85	7.28	94	2.48	0.69	1977～
		S E	7.16	8.21	7.93	7.76	100	2.42	0.65	1980
	密 植	初 秋 穫	7.23	8.22	8.56	8.28	113	1.71	0.72	1979～
		S E	7.22	8.21	7.76	7.35	100	1.59	0.70	1982

注1) 平均播種日は標植、密植共5月7日、同定植日は標植が6月3日、密植は6月4日。

2) 標植は60cm×50cm、密植は50cm×40cm。球形指数は球高/球径。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、49—52 (1983)。

## 2. ダイコン

### (1) 天 春 (原名 天春)

記録番号：(北海道) だいこん準移第7号

来歴 本品種は、坂田種苗株式会社が、晩抽性の「時無」と、低温肥大性で耐病良質の「黒葉系みの早生」を用い、その後代系統の選抜と組合わせ検定を経て、1979年(昭54)に発表したものである。同年より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿はやや立性で、「四月早生」より葉長は長く、葉数も多い。葉色はやや濃緑で、葉縁には欠刻がみられる。

2. 抽台時期は「四月早生」よりやや早く、4月下旬播種では年によって抽台が問題となるが、5月下旬以後の播種では問題とならない。生育日数は「四月早生」と同じである。
3. 根の地上抽出部の長さは「四月早生」より短く、やや緑色を帯び、いわゆる青首種に近い。根形は中央部より先細りとなり、根長は30～40cm、根径が6～8cmで、「四月早生」より短く、太めで、側根は太く、多い方である。
4. 根重は600～1,200gで「四月早生」とほぼ同じ。夏どりに比べ初夏どりでは根重が軽くなる。
5. 収量は、初夏どりでは「四月早生」よりまさり、夏どりではほぼ同等である。
6. す入りの発生は「四月早生」なみで遅い方である。
7. 生食としての味は「四月早生」とほぼ同じであるが、やや辛味がある。

栽培適地と奨励態度 道内全域で、初夏どりおよび夏どり栽培に適する。栽培法は北海道栽培基準に準拠するが、5月以前の播種では抽台や収量性からマルチやトンネル栽培が望ましい。またす入りは遅い方であるが、時期的には発生し易いので適期収穫に留意する。

試験場名	作型 (栽培法)	品種名	収穫期 (月.日)	根長 (cm)	根径 (cm)	抽出根長 (cm)	10 a 当り			平均 1根重 (g)	試験年次
							総根重 (t)	上物重 (t)	左比 (%)		
中央農試	初夏どり (露地)	天春	7.9	29.4	7.0	10.3	4.60	3.46	120	718	1979~
		四月早生	7.9	35.0	6.9	14.1	4.57	2.97	100	670	1982
	初夏どり (マルチ)	天春	7.5	40.1	7.5	15.3	6.65	5.96	106	1,069	1979~
		四月早生	7.5	45.2	6.7	17.6	6.78	5.63	100	1,035	1981
	夏どり (露地)	天春	7.28	33.1	7.5	13.8	5.94	5.13	109	983	1980~
		四月早生	7.28	36.6	6.3	18.3	5.39	4.70	100	821	1982

注) 平均播種日は、初夏どり(露地)4月28日、同「マルチ」4月28日、夏どり(露地)6月2日。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、52-53 (1983)。

## (2) 耐病総太り(原名 耐病総太り)

登録番号:(北海道)だいこん準移第8号

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社が、病害多発ほ場で選抜した「宮重長太」の晩す系と、熟期はやや遅いが耐病性で、す入りが比較的遅く根形の整った「黒葉みの」との雑種集団から選抜固定した耐病長太系を片親にし、「宮重総太り」の良質で形の良い早太り系を一方の親に用いた交配種で、1974年(昭49)に発表された。

1978年(昭53)より北海道立中央農業試験場ならびに現地において試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草姿は立性で、葉長は「大蔵」より短く、葉数は20~30枚、葉は緑色を呈し、葉縁に欠刻はない。

2. 生育日数は「大蔵」とほぼ同じで、秋どり栽培(8月播種)では抽台は問題とならない。
3. 根の地上抽出部は緑色を帯びる青首種である。抽出部は13~20cmと長く、根長の40~50%を占める。根形は総太り型で、根長30~40cm、根径7cm前後で、「大蔵」と同じかやや長く太めである。側根は細く、数も少ない。
4. 根重は600gから1,000gを越え、「大蔵」より重い。
5. 収量は「大蔵」より多い。
6. す入りの少ない品種で、その程度も「大蔵」より軽い。年によって肩根や岐根が発生するが、裂根や病害根の発生は少ない。
7. 肉質良く、生食としての味は良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域で秋どり栽培に適するが、道央では7月上旬播種も可能である。栽培法は北海道の栽培基準に準拠するが、良質生産のためには疎植を避け、適期収穫に留意する。



試験場名	品 種 名	収穫期 (月.日)	根 長 (cm)	根 径 (cm)	抽 出 長 (cm)	10 a 当 り			平 均 1 根 重 (g)	試 験 年 次
						総根重 (t)	上物重 (t)	左 比 (%)		
中央農試	耐病総太り	10.22	33.8	6.5	17.8	6.35	5.67	154	1.037	1978~1982
	大 蔵	10.22	28.0	6.5	11.5	4.97	3.69	100	873	

注) 平均播種日は8月15日。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。53-54 (1983)。

### 3. アスパラガス

#### (1) 北海100 (旧系統名 優勢系統)

登録番号：(北海道) アスパラガス準北海道第3号

来歴 本品種は北海道農業試験場，北海道立中央農業試験場，同道南農業試験場，北海道大学農学部，北海製缶株式会社ならびに北海道アスパラガス協会が共同で育成したものである。

1970年(昭45)に岩内町，留寿都村，喜茂別町および夕張市において，20年以上経過した「瑞洋」の栽培ほ場から優良株約750株と，15年以上経過した「MW」(Merry Washington)または「MW500W」(Merry Washington 500W)栽培ほ場から優良株約250株を選抜。さらに1971年(昭46)に岩内町，乙部町，由仁町，湧別町および士別市において，20年以上経過した「瑞洋」の栽培ほ場から優良株約1,000株を選抜し，前年選抜したものと同一ほ場に定植した。定植後は生育不良株を淘汰しながら集団採種を行い，それに「優勢系統」の系統名を付して各種の試験を行い，1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 萌芽期は「MW500W」と同程度で早生に属する。

2. 若茎の太さや緑色度は「MW500W」と同程度で中位，頭部のしまりや形も良い。

3. 規格内茎数は「MW500W」よりやや多いが，1本茎重は「MW500W」と大差ない。

4. 規格内収量は「MW500W」と同程度かややまさる。

5. 若茎のうち，開頭や曲りを除く上物の比率は「MW500W」と大差なく，品質は良好である。

栽培適地と奨励態度 道内全域においてホワイトおよびグリーン栽培用に適する。また栽培上の注意は「MW500W」に準ずる。

試験場名	品 種 名	10 a 当 り 規 格 内				1 本 茎 重 (g)	試 験 年 次
		重 量 (kg)	左 比 (%)	茎 数 (本)	左 比 (%)		
北海道農試	北 海 100	290	126	13,083	110	19.9	1978~1980
	MW500W	231	100	11,913	100	19.4	
中央農試	北 海 100	350	99	21,110	104	16.5	"
	MW500W	352	100	20,273	100	17.5	
道南農試	北 海 100	338	114	16,993	104	20.0	"
	MW500W	297	100	16,317	100	18.1	

注) 各試験場共1975年4月定植。

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。50-53 (1981)。

## 4. タマネギ

### (1) フラヌイ (旧系統名 月交1号)

登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第2号；(農水省) たまねぎ農林交2号

来歴 本品種は、1975年(昭50)に北海道農業試験場において「W202A」を母、「F316」を父として作出した細胞質雄性不稔利用による一代雑種である。1976年(昭51)に「月交1号」の系統名を付し、以後各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の来歴は次のとおりである。

W202A：アメリカのWisconsin大学で、「Southport Yellow Globe」と「Trapps Downing」との交雑集団から選抜育成した乾腐病抵抗性の細胞質雄性不稔系統で、北海道農業試験場が1974年(昭49)に雄性不稔維持系「W202B」とともに導入した。

F316：富良野市の乾腐病多発ほ場において、「札幌黄」の自殖系統から選抜した乾腐病抵抗性の系統。

- 特性概要 1. 鱗茎の形は「札幌黄」よりやや扁平であるが、揃いは良い。外皮は「札幌黄」よりやや厚く、色は黄褐色、鱗茎の締まりは良いが、裂皮の発生がやや多い。
2. 倒伏期は「札幌黄」よりやや早く、「北見黄」とほぼ同じである。
3. 乾腐病に対する抵抗性を有し、ほ場での乾腐病発病率は「札幌黄」の1/3程度、軟腐病にもやや強いが、ボトリチス属菌による腐敗病は「札幌黄」と同程度である。
4. 鱗茎の肥大は「札幌黄」なみかやや劣るため、全収量では「札幌黄」より劣ることがあるが、長球や分球の発生が少なく、L及びM球の比率が高いため、規格内収量は一般に「札幌黄」よりまさる。
5. 貯蔵中の萌芽や発根は「札幌黄」より遅く、貯蔵性は「札幌黄」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 タマネギ乾腐病多発地帯で、従来の品種におきかえる。また栽培上の注意は、「札幌黄」の移植栽培に準ずる。

試験場名	品種名	倒伏期 (月.日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	腐敗率(%)		貯蔵中		試験年次
			全収量 (t)	規格内 収量 (t)	左比 (%)			乾腐病	軟腐病	発根 萌芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試 (月寒)	フラヌイ	8.19	4.25	4.25	117	152		2.9	0.4			1976
	札幌黄	9.6	4.04	3.63	100	206		11.6	4.6			
北海道農試 (富良野)	フラヌイ	8.3	5.85	5.81	179	215	0.91	13.5	—	0	30.3	1976~ 1978
	札幌黄	8.6	3.85	3.25	100	204	0.99	37.2	—	3.2	27.4	
中央農試	フラヌイ	8.5	4.59	4.56	109	151	0.95	7.4	—			1978
	札幌黄	8.4	4.23	4.18	100	168	0.95	22.2	—			
北見農試	フラヌイ	8.12	5.38	5.07	107		0.91	1.8	0	0	2.1	1976, 1978
	札幌黄	8.17	5.28	4.73	100		0.96	8.0	4.6	14.9	8.8	

注) 北海道農試(富良野)は、北海道農試が富良野市の乾腐病多発ほ場で試験を実施。

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項。30—34 (1979)。  
2) 小餅昭二。農業技術。35, 19—21 (1980)。

(2) 月 輪 (旧系統名 試交4701)

登録番号：(北海道) たまねぎ準移第5号

来歴 本品種は、株式会社渡辺採種場において、「札幌黄」から選抜育成した細胞質雄性不稔系統を母、「Encore」から選抜育成したやや早生の系統を父として作出した一代雑種である。1977年(昭52)～1978(昭53)に北海道農業試験場で試作検定し、1979年(昭54)以降各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 種子の大きさ及び発芽の速さは「札幌黄」なみであり、発芽後の生育も旺盛である。
2. 草丈、葉数は「札幌黄」と差がなく、葉鞘径は「札幌黄」よりやや太い場合が多い。草姿は「札幌黄」よりやや立性である。
3. 鱗茎は「札幌黄」より明らかに大きく、形はやや甲高の球形である。裂皮や皮むけの発生は「札幌黄」なみであるが、鱗茎の締まりは「札幌黄」より劣り、やや軟質である。
4. 倒伏期や枯葉期は、道央では「札幌黄」と大差ないが、道東では「札幌黄」より遅い。
5. 乾腐病抵抗性は「札幌黄」より劣るものと思われるが、他の病害及び貯蔵中の灰色腐敗病に対する抵抗性は「札幌黄」なみである。抽台耐性は「札幌黄」より劣るものと思われる。
6. 一球重は「札幌黄」より大きく、規格外品の発生は「札幌黄」とほぼ同等である。
7. 貯蔵中の萌芽および発根は、「札幌黄」より早く、貯蔵可能期間は「札幌黄」より2週間程度短いが、食味は軟質多肉で良好である。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯を適地とするが、とくに道央地域における短期貯蔵早期出荷向に好適する。栽培に当たっては、病害の多発や品質低下を防ぐため窒素肥料の多用や密植栽培は避ける。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 率 (%)	腐敗 率 (%)	
北海道農試	月 輪	8.22	9. 2	4.64	4.38	135	179		15.6	2.4	1980～ 1981
	札 幌 黄	8.21	9. 4	3.45	3.25	100	144		(6.1)	(1.4)	
中央農試	月 輪	8.20			4.91	105	188	1.06	59	6	1979～ 1981
	札 幌 黄	8.19			4.66	100	174	1.06	49	1	
北見農試	月 輪	8.23	9.15	8.63	6.67	104		0.90	57.7	2.7	1979～ 1980
	札 幌 黄	8.22	9.16	7.35	6.39	100		0.91	47.2	2.7	

注) 貯蔵中の発根・萌芽、腐敗は、北海道農試は1979～1980年の2カ年平均で、( )内は「北見黄」。中央農試は1980年の成績。

参照 1) 北海道農務部編、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、33—35 (1982)。

(3) ひぐま

登録番号：(北海道) たまねぎ準移第6号

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社において、「札幌黄」から選抜育成した細胞質雄性不稔系統を母、「北見在来」から選抜育成した極早生、耐病、晩抽の系統を父として作出した一代雑

種である。1978年(昭53)～1979年(昭54)に北海道で試作検定し、1980年(昭55)以降各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 種子の千粒重は5g前後で「札幌黄」より重い。発芽の速さや良否は「札幌黄」なみで、発芽後の生育はやや旺盛である。

2. 草姿はやや立性、葉色はやや濃緑で、草勢は「北見黄」よりすぐれ、「札幌黄」なみである。
3. 鱗茎の形は「札幌黄」と同じやや甲高で、締まりも「札幌黄」なみである。外皮色は「札幌黄」より僅かに淡い。
4. 道央地域では、鱗茎の肥大期、倒伏期は「札幌黄」なみであるが、枯葉期は「札幌黄」なみかやや早い。北見地方では生育が早まり、肥大期、倒伏期、枯葉期ともに「北見黄」より早い。
5. 生育中の葉枯性病害に対しては「札幌黄」より強く、軟腐病に対しても「札幌黄」や「北見黄」より強い。灰色腐敗病には「札幌黄」より強いが、「北見黄」なみかやや弱い。乾腐病に対しては「札幌黄」なみで、「北見黄」より弱い。
6. 平均一球重が重く、L玉中心の玉揃いとなるため、規格内収量は「北見黄」よりかなり多く、とくに天候不良年には「北見黄」や「札幌黄」に対する増収率が大きくなる。屑小玉は少ないが、長玉がやや多く、皮むけや裂皮の発生もやや多い。
7. 貯蔵中の萌芽の早さは「札幌黄」なみであるが、発根は「札幌黄」より早く、貯蔵性はやや劣る。また貯蔵中の病害の発生や皮むけなどは「札幌黄」なみである。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯を適地とする。栽培に当たっては、乾腐病に弱いので多発地あるいは多発させるような栽培は避ける。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	ひぐま	8.16	9.2	4.47	3.87	143	135		23.5	3.5	1981～ 1982
	北見黄	8.16	9.1	3.36	2.73	100	108		15.9	3.3	
中央農試	ひぐま	8.18	9.12	6.14	4.37	126	204	1.11	30.3	4.0	1980～ 1982
	北見黄	8.17	9.12	4.64	3.69	100	176	1.08	37.5	2.5	
北見農試	ひぐま	8.10	9.6	6.87	6.08	143	234	0.96	30.3	2.7	1981～ 1982
	北見黄	8.17	9.11	5.59	4.23	100	202	0.92	—	—	

注) 貯蔵中の発根・萌芽、腐敗は、北海道農試と北見農試は1981年、中央農試は1980～1981年の2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、35—39(1983)。

#### (4) そらち黄〔旧系統名 札幌黄(岩見沢系)〕

登録番号：(北海道)たまねぎ準移第7号

来歴 本品種は、岩見沢市たまねぎ採種組合が「札幌黄」から選抜し育成したものである。岩見沢市たまねぎ採種組合は、たまねぎの生産安定と品種の統一を図るため、1972年(昭47)に岩見沢市内で栽培されていた「札幌黄」の系統を収集して比較検討し、その中から最もすぐれた系統として「森本系」を選定した。この「森本系」を基本集団として、その後さらに選抜を重ねて育成した系統に、1975年(昭50)より「平井系」の名を付して検討を続け、1980年(昭

55) からは「札幌黄(岩見沢系)」と改称して、特性を維持しつつ種子増殖を行い普及を図った。北海道立中央農業試験場は1980年(昭55)に本系統をとりあげ、以後各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 種子の大きさや発芽の速さは「札幌黄」なみであるが、発芽後の生育は「札幌黄」よりまさる。
2. 草姿は「札幌黄」と同様やや開張型で、草勢は「札幌黄」なみかややまさる。
3. 鱗茎の形は「札幌黄」と同じ地球型、平均1球重も「札幌黄」なみで、外皮色は「札幌黄」より若干赤味を帯びる。
4. 鱗茎肥大期は「札幌黄」と同じであるが、倒伏期は「札幌黄」より2~4日遅く、枯葉期は「札幌黄」と同じである。
5. 生育中の葉枯性病害の被害は「札幌黄」なみで、灰色腐敗病、軟腐病、乾腐病などによる被害球の発生は「札幌黄」より少ない。
6. 一球重及び規格内収量は「札幌黄」なみである。
7. 貯蔵中の腐敗や萌芽の発生程度は「札幌黄」と差がないが、発根がやや少なく、貯蔵性はややまさる。

栽培適地と奨励態度 空知支庁管内で「札幌黄」におきかえる。栽培上の注意は「札幌黄」に準ずる。

試験場名	品種名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	貯蔵中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収量 (t)	左比 (%)			発根 率 (%)	腐敗 率 (%)	
中央農試	そらち黄	8.19	9.13	5.16	4.11	99	180	1.06	31.0	1.5	1980~
	札幌黄	8.17	//	4.95	4.17	100	193	1.06	28.0	2.5	1982

注) 貯蔵中の発根・萌芽、腐敗は、1980、1981年の2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。40-46 (1983)。

(5) せきほく(旧系統名 北見交3号)

登録番号:(北海道)たまねぎ北海道交第3号:(種苗法)第908号

来歴 本品種は、1980年(昭55)に北海道立北見農業試験場において、細胞質雄性不稔系統「W420(78-1)A」を母、「KMS7320-12M<sub>3</sub>」を父として作出した単交配一代雑種である。1981年(昭56)以降、「北見交3号」の系統名で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の来歴は次のとおりである。

W420(78-1)A:1978年(昭53)に北海道立北見農業試験場が、アメリカのWisconsin大学から導入した細胞質雄性不稔系統「(RBW101B M BRB)A3」(のちに「W420A」と命名)を早生化する目的で、戻し交雑を行い選抜したもので、晩生であるが貯蔵性高く、乾腐病、紅色根腐病に対する抵抗性を有する。また同時に雄性不稔維持系統「(RBW101B M BRB)-1-3M」(のちに「W420B」と命名)を導入し、自殖によって「W420(78-1)B」を選抜した。

KMS7320-12M<sub>3</sub>:「札幌黄(竹中系)」「札幌黄(黒川系)」から選抜を北見農業試験場に

において自殖を2回繰り返して選抜したもので、軟腐病にやや強いやや早生の系統である。

- 特性概要 1. 種子の大きさは「北見黄」なみで、幼苗期の生育も「北見黄」と差がない。
2. 初期生育は旺盛で、草姿は直立し、生育最盛期においても葉折れしにくい。草丈、葉色、葉鞘の太さなどは「北見黄」と差がない。また「北見黄」に認められる葉のねじれや波うちは皆無に近い。
3. 鱗茎の形は地球型であるが「北見黄」よりやや扁平で、大きさや形の揃いは北見黄よりまさる。外皮の色は「北見黄」より濃い黄銅色を示し、厚さが「北見黄」より厚いため皮むけはしにくい。
4. 鱗茎の肥大が旺盛で、肥大期は「北見黄」より2日程度早い。一般に倒伏期、枯葉期は「北見黄」より5日程度遅いが、生育の遅れる年や場所では「北見黄」より枯葉や10日程度遅れることがある。
5. 乾腐病に対しては「フラヌイ」程度の抵抗性を示し、軟腐病に対しても「北見黄」より強い。紅色根腐病に対しても抵抗性を有し、白斑葉枯病に対する抵抗性は「北見黄」なみである。
6. 平均一球重は「北見黄」なみかややまさり、全収量は「北見黄」より約20%多い。L球比率が高く、規格内収量は「北見黄」より約30%多収である。
7. 鱗茎貯蔵中の萌芽や発根は「北見黄」よりかなり少なく、貯蔵性はかなり高い。貯蔵中の灰色腐敗病の発生は「北見黄」程度である。

栽培適地と奨励態度 全道のタマネギ栽培地帯に適する。また栽培上の注意は「北見黄」に準ずるが、晩生種であるため生育が遅れる年や場所では、倒伏揃い後15日頃に根切り処理を行い枯葉促進をはかる。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 率 (%)	腐敗 率 (%)	
北 見 農 試	せきほく	8.18	9.12	6.60	6.11	135	225	0.91	14.1	5.6	1981～ 1985
	北 見 黄	8.13	9. 6	5.51	4.53	100	206	0.95	52.6	4.1	
中 央 農 試	せきほく	8.12	9. 9	4.89	4.43	115	158	1.01	4.6	0.5	1983～ 1985
	フラヌイ	8.11	9.11	4.52	3.84	100	145	0.99	8.5	2.5	

注) 北見農試における貯蔵中の発根、萌芽、腐敗は1981～1984年の4カ年平均。  
中央農試における貯蔵中の発根、萌芽、腐敗は1983、1984年の2カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。24—26 (1984)。  
2) 宮浦邦晃, 等。北海道立農試集報。53, 115—125 (1985)。  
3) 北海道農務部編。昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項。20—22 (1986)。

#### (6) 北もみじ

登録番号：(北海道) たまねぎ準移交第8号

来歴 本品種は、株式会社七宝が作出した細胞質雄性不稔利用による一代雑種である。1979年(昭54)より北見地方で試作検定し優秀と認めて「オホーツク3号」の系統名を付し、さら

に1983年(昭58)に「北もみじ」に改名された。道内の試験機関では1981年以降各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。なお構成系統の育成経過は次のとおりである。

母系統(種子親):「札幌黄」×「Early yellow globe」の後代から貯蔵性の高い系統を選抜し、それを雄性不稔維持系統として、雄性不稔個体に戻し交雑して母系統を選抜育成した。

父系統(花粉親):「札幌黄」を自殖し、乾腐病に強く肥大性のすぐれた系統を選抜育成した。

特性概要 1. 種子の千粒重は5g前後で大粒種であり苗の生育は旺盛である。

2. 草姿はやや立性、葉色はやや濃緑で草勢は「フラヌイ」よりまさる。

3. 鱗茎は「フラヌイ」より大きく、形は地球型で「フラヌイ」よりやや甲高である。球のしまりは「フラヌイ」なみで硬く、外皮の色は黄銅色であるが若干赤味を帯びる。

4. 倒伏期は「フラヌイ」よりやや遅いが、枯葉期は「フラヌイ」より若干早い。

5. 乾腐病に対する抵抗性は「フラヌイ」なみに強い。

6. 平均一球重が「フラヌイ」より重く、規格内球数率が「フラヌイ」なみに高いので、規格内収量は「フラヌイ」より多収である。

7. 貯蔵中の萌芽、発根、腐敗等は少なく、貯蔵性は「フラヌイ」なみに高い。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯に適する。また栽培上の注意は従来の品種に準ずる。

試験場名	品種名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	貯蔵前(%)		貯蔵中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収量 (t)	左比 (%)			乾腐病	その他 腐敗	発根 萌芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	北もみじ	8.16	9.5	5.05	4.64	118	151	0.98	0	5.9	5.9	1.8	1981~ 1983
	フラヌイ	8.17	9.6	4.26	3.93	100	127	1.03	0	2.7	8.1	1.1	
中央農試	北もみじ	8.12	9.9	5.43	4.63	119	177	1.03	0.9	3.0	13.5	1.5	1981~ 1983
	フラヌイ	8.11	9.10	4.47	3.88	100	153	1.03	1.7	2.4	16.5	1.5	
北見農試	北もみじ	7.29	9.16	6.61	5.87	112	220	0.98	1.1	0.9	11.5	2.0	1981~ 1983
	フラヌイ	8.2	9.17	5.84	5.22	100	200	0.92	0.8	2.2	14.9	1.4	

注) 貯蔵中の発根、萌芽、腐敗は、1981、1982年の2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。29-30(1984)。

## (7) レオ

登録番号:(北海道)たまねぎ準移交第9号

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社とホクレン農業協同組合連合会が共同で育成したもので、「札幌黄」の晩生系と、「Early Yellow Globe」の耐乾腐病系との交雑によって育成した雄性不稔系統を母、「北見黄」からの選抜系統を父として作出した一代雑種である。1982年(昭57)以降各種の試験を行い、1980年(昭60)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 種子千粒重は「北もみじ」よりやや軽い。幼苗期の生育は「北もみじ」と差がない。

2. 草姿はやや開張型で生育はやや旺盛である。葉色や葉鞘の太さなどは「北もみじ」と差が

ない。

3. 鱗茎は「北もみじ」よりやや大きく、形や外皮色は「北もみじ」とほぼ同じである。
4. 倒伏期は「北もみじ」なみで、枯葉期は「北もみじ」より若干遅い中生種に属する。
5. 乾腐病に対しては「北もみじ」より弱く、その他の病害の被害程度は「北もみじ」と差がない。
6. 一球重は「北もみじ」より大きいが取量は同程度である。
7. 球のしまり、硬さ、皮むけ等は「北もみじ」なみに良く、機械収穫に適する。
8. 貯蔵中の萌芽や発根が「北もみじ」より早く、貯蔵性は若干劣る。

栽培適地と奨励態度 全道のたまねぎ栽培地帯を適地とし、栽培上の注意は従来の品種と同様である。

試験場名	品種名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当り			平均 1球重 (g)	球形 指数	貯蔵前(%)		貯蔵中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収量 (t)	左比 (%)			乾腐病	その他 腐敗	発根 率 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	レ オ	8.13	9.4	5.33	5.11	107	162	0.93	0.6	2.2	47.3	2.8	1982～ 1984
	北もみじ	8.12	9.3	4.95	4.78	100	157	0.95	0	1.6	20.5	2.9	
中央農試	レ オ	8.9	9.10	5.53	4.82	95	195	1.03	5.7	2.3	35.5	2.5	1982～ 1984
	北もみじ	8.8	9.9	5.80	5.07	100	182	1.02	1.7	1.6	3.5	3.0	
北見農試	レ オ	8.14	9.12	6.77	5.82	104	238	0.96	5.7	2.7	43.1	12.5	1982～ 1984
	北もみじ	8.15	9.9	6.32	5.57	100	209	0.98	1.5	1.7	6.0	13.6	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 47-48 (1985).

(8) ツキヒカリ (旧系統名 月交7号)

登録番号: (北海道) たまねぎ北海道交第4号; (農水省) たまねぎ農林交3号

来歴 本品種は、1980年(昭55)に北海道農業試験場において「W202A」を母、「S6010」を父として作出した細胞質雄性不稔利用による一代雑種である。1982年(昭57)に「月交7号」の系統名を付し、以後各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の来歴は次のとおりである。

W202A: 1974年(昭49)にアメリカの Wisconsin 大学から導入した乾腐病抵抗性を有する貯蔵性の高い細胞質雄性不稔系統で、雄性不稔維持系統「W202B」も同時に導入した。本系統は「フラヌイ」の種子親として利用されている。

S6010: 1976年(昭51)に「札幌黄・坂野系」から選抜、育成したもので、乾腐病抵抗性を有し、鱗茎の肥大性、表皮特性が優れた系統である。

特性概要 1. 種子は3.7~4.2g/1,000粒で「フラヌイ」なみの小粒。発芽勢や発芽率は「フラヌイ」と差がないが、初期生育は「フラヌイ」より若干劣る。

2. 草姿、葉形、葉色、葉折れ、ブルーム等は「フラヌイ」と差がない。

3. 倒伏期は「フラヌイ」より2日前後遅く、枯葉期は、道央では「フラヌイ」と差がないが、道東では「フラヌイ」より5日前後遅い。総じて本品種の早晩性は、「フラヌイ」を中生とすれば、中生の晩に相当する。



4. 乾腐病に対する抵抗性は、「フラヌイ」なみに強く、軟腐病に対しては「フラヌイ」なみで、「札幌黄」よりやや強い。
5. 鱗茎の肥大性が優れ、平均1球重は「フラヌイ」より約10%重い。そのためL L, L球率が高く、全収量、規格内収量ともに「フラヌイ」より10%程度多い。
6. 鱗茎の形は、「フラヌイ」より甲高の地球型で層の張りが良好である。表皮の厚さは「フラヌイ」よりやや厚く、裂皮や皮むけがしにくい。表皮の色は濃い黄銅色で、色や光沢は「フラヌイ」よりまさる。
7. 貯蔵中の萌芽、発根、茎盤部突出などは「フラヌイ」と同程度で、通常の貯蔵施設でも4月上旬まで貯蔵が可能である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は全道一円で、主に道央地域において普及する。栽培上の注意は「フラヌイ」に準ずる。なお種子が小さいので、苗床播種に当たっては、密播にならないよう注意する。また採種栽培では、種子親系統の開花が花粉親系統より4～7日遅いため、種子親系統の萌芽を促進する必要がある。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月.日)	枯葉期 (月.日)	10 a 当 り			平 均 1球重 (g)	球 形 指 数	貯 蔵 中		試験年次
				全収量 (t)	規格内 収 量 (t)	左 比 (%)			発 根 芽 (%)	腐敗 (%)	
北海道農試	ツキヒカリ	8.15	9.1	5.59	5.46	105	174	0.90	19.4	15.3	1983～ 1985
	フラヌイ	8.13	9.2	5.38	5.18	100	168	0.88	13.7	14.9	
中央農試	ツキヒカリ	8.13	9.11	4.73	4.39	114	147	0.99	4.5	1.5	1983～ 1985
	フラヌイ	8.11	9.11	4.52	3.84	100	145	0.98	8.5	3.0	
北見農試	ツキヒカリ	8.17	9.10	6.05	5.34	105	218	0.94	36.3	14.6	1983～ 1985
	フラヌイ	8.13	9.5	5.47	5.07	100	196	0.90	38.5	11.9	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項. 16—19 (1986).

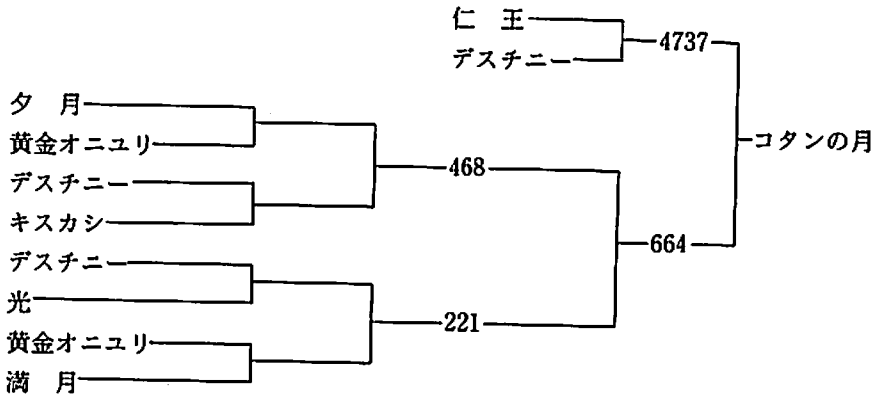
# V 花 卉

## 1. 花ゆり

### (1) コタンの月 (旧系統名 5226)

登録番号：(北海道)花ゆり北海道第6号

来歴 本品種は、1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場において「4737」(仁王×デスチニー)を母、「664」(栗山町藤島氏育成系統)を父として人工交配を行い育成したもので、1977年(昭52)以降「5226」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 萌芽期は「岩内黄金」、「金扇」と同じで、その後の生育は旺盛である。出蕾期は「金扇」より5日程度遅く、蕾着色期や開花期は「金扇」より12~13日遅く、極晩生種に属する。

2. 開花の向きは上方からやや斜上方(受咲き)である。花弁は「金扇」に似た鮮明な黄色で、外花被がやや反転する。花径は「金扇」よりやや小さいが、1花茎あたりの花蕾数は「岩内黄金」より明らかに多く、「金扇」に比べてもやや多い。
3. 草丈は「金扇」より高く、葉数も多い。葉巾、葉長は「金扇」より大きく、ややテリ葉である。また止め葉下節間長が「金扇」より短く、草姿のバランスが良い。
4. 一般栽培で葉枯れ症状は「岩内黄金」より明らかに少なく、「金扇」と同程度である。
5. 木子の着生数は「岩内黄金」や「金扇」より多く、大きさも「金扇」よりは明らかに大きく、「岩内黄金」なみである。従って増殖率はこれらの品種より高いと考えられる。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は全道一円で、露地栽培の切花用として奨励する。栽培に当たっては、暑い時期の開花となるので、浅植えとならないよう注意するほか、敷わらなどを行い土壤水分の保持につとめる。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月.日)	出蕾期 (月.日)	開花期 (月.日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	花蕾数 (個/株)	花 径 (cm)	木子数 (個/株)	試験年次
中央農試	コタンの月	4.26	6.17	7.24	87	98	5.9	15.9	5.5	1979~ 1985
	金 扇	4.25	6.11	7.14	68	77	4.6	16.6	1.8	

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月.日)	出蕾期 (月.日)	開花期 (月.日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	花蕾数 (個/株)	花 径 (cm)	木子数 (個/株)	試験年次
道南農試	コタンの月	5.10		7.26	62		4.2	16.2		1984～
	金 扇	5.13		7.12	58		4.6	16.9		1985

参照 1) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項. 23 (1986).

## VI 飼 料 作 物

### 1. アカクローバ

#### (1) ハヤキタ (旧系統名 ジャンボ)

登録番号：(北海道) アカクローバ準第3号：(種苗法) 第133号

来歴 本品種は、ホクレン農業協同組合連合会がオランダの Van der Have 種子会社の協力を得て育成したものである。1965年(昭40)に Van der Have 種子会社で「サッポロ」種子をコルヒチン処理し、以後倍数性の検定と選抜を行い、1975年(昭50)以降道内の試験機関で各種の試験を行った結果、1979年(昭54)に優良(準奨励)品種に決定した。当初「ジャンボ」と命名したが、1981年(昭56)に「ハヤキタ」と改名した。

特性概要 1. 葉形はやや円く、葉長は中位、葉幅は中～やや広く、葉斑はやや不鮮明である。

2. 4倍体品種であるが「レッドヘッド」のような巨大性はなく、草丈、茎の太さは中位である。

3. 開花始は「サッポロ」より2～3日、開花期は3～4日早い早生種である。

4. 草丈は「サッポロ」より高いが、倒伏が少なく、春の草勢もやや弱～中で競合力は中位であるため、チモシーとの混播利用にすぐれると共に、オーチャードグラスやメドーフェスクの中～晩生品種との混播にも適する。

5. 冬枯れは道東では少かったが、道央、道北では3年次に顕著であった。

6. 茎割病、さび病に対する抵抗性は「サッポロ」なみかやや弱い、そばかす病、輪紋病、黒葉枯病、すす点病および菌核病に対する抵抗性は強い。

7. 根刈農試では、生草収量、乾物収量とも「サッポロ」よりまさったが、他の農試では生草収量はほぼ「サッポロ」なみ、乾物収量は「サッポロ」よりやや劣った。

栽培適地と奨励態度 根刈地域において、採草地におけるチモシーとの混播用として奨励する。

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り 乾 物 収 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
北海道農試	ハヤキタ		75	557	648	159		1,364	98	1975～ 1977
	サッポロ		68	556	651	179		1,386	100	
中央農試	ハヤキタ	6.13	94	621	1,198	659	170	2,648	91	1975～ 1978
	サッポロ	6.14	82	615	1,233	735	320	2,903	100	
北見農試	ハヤキタ	6.22	86	503	1,191	992	886	3,572	94	1975～ 1978
	サッポロ	6.25	82	540	1,253	1,068	947	3,808	100	
根刈農試	ハヤキタ	7. 2	92	50	1,165	773	943	2,931	101	1975～ 1978
	サッポロ	7. 3	87	96	1,133	772	894	2,895	100	
天北農試	ハヤキタ	6.21	50	495	868	589	654	2,606	91	1975～ 1978
	サッポロ	6.23	50	480	894	688	788	2,850	100	

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り 乾 物 取 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
新得畜試	ハヤキタ		77	382	1,086	711	661	2,840	92	
	サッポロ		76	511	1,129	736	723	3,099	100	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項. 35—37 (1979).

(2) ハミドリ4n

登録番号：(北海道) アカクロバ準第2号

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社において1966年(昭41)に「ハミドリ」種子をコルヒチン処理して染色体を倍数化し、母系集団選抜法によって育成したものである。1975年(昭50)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(準奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 葉は「サッポロ」よりやや大きく、葉斑はやや不鮮明である。  
 2. 草丈は「サッポロ」より高いが、4倍体品種としての巨大性は顕著でなく、競合性は中位で、混播適応性は高い。  
 3. 開花始は「サッポロ」より1～2日、開花期も2日ほど早い早生種である。  
 4. 春、秋の草勢は「サッポロ」と同様にすぐれ、再生も良い。  
 5. 越冬性は全道的に「サッポロ」なみかややまさり、とくに冬枯れの甚だしい道央地帯では「サッポロ」よりまさる。  
 6. 葉の病害に対しては「サッポロ」と同程度の抵抗性を示し、とくにうどんこ病に対する抵抗性は強い。  
 7. 生草収量は「サッポロ」よりややまさる。乾物収量は道東や道北では「サッポロ」よりやや劣るが、道央では「サッポロ」なみかややまさる。  
 8. 道央地帯では3、4年目の収量が「サッポロ」よりまさり、永続性は良好である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は十勝地域を除く全道一円で、採草地の混播用として奨励する。

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り 乾 物 取 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
北海道農試	ハミドリ4n		78	509	687	277		1,473	106	1975～ 1977
	サッポロ		68	556	651	179		1,386	100	
中央農試	ハミドリ4n	6.12	92	522	1,169	830	414	2,935	101	1975～ 1978
	サッポロ	6.14	82	615	1,233	735	320	2,903	100	
北見農試	ハミドリ4n	6.24	84	506	1,184	1,020	915	3,625	95	1975～ 1978
	サッポロ	6.25	82	540	1,253	1,068	947	3,808	100	
根釧農試	ハミドリ4n	7.3	91	67	1,110	775	967	2,919	101	1975～ 1978
	サッポロ	7.3	87	96	1,133	772	894	2,895	100	
天北農試	ハミドリ4n	6.22	48	485	868	621	710	2,682	94	1975～ 1978
	サッポロ	6.23	50	480	894	688	788	2,850	100	

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り乾物収量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
新得畜試	ハミドリ4n		75	409	993	640	699	2,741	88	1975～
	サッポロ		76	511	1,129	736	723	3,099	100	1978

参照 北海道農務部編、昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項、37—39 (1979)。

## 2. アルサイクロローバ

### (1) テトラ (原名 Tetra 4n)

登録番号：(北海道) アルサイクロローバ準第1号

来歴 本品種は、スエーデンの W. Waibull 社が地方在来種「Balingsta」の早生系50個体を基礎とし、倍数性育種法によって育成した4倍体品種である。1978年(昭53)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1981年(昭56)優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種はO E C Dに登録されている。

特性概要 1. 発芽性は良好で、定着時の草勢も概して良好である。

2. 春季の草勢は、道東、道北では良好であるが、道央ではやや劣る。

3. 越冬性は中庸で、株の持続性は比較的良い。

4. 開花期はアカクロローバの「サッポロ」より1～3日遅い。

5. さび病、輪紋病、そばかす病、ウドンコ病などに対する耐病性は中である。

6. 道東、道北では1番草の収量は多いが、2番草ではやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道東および道北地域に適する。アルサイクロローバは一般に不良環境条件によく耐性を示すことから、気象や立地条件の厳しいところでアカクロローバを補完する草種として期待できる。またチモシーとの混播がのぞましい。(試験成績は「エルモ」の項に記載)

### (2) エルモ (原名 Ermo Øtofte)

登録番号：(北海道) アルサイクロローバ準第2号

来歴 本品種は、デンマークの Denmark 植物育種会社が、スエーデンの母材に「Øtofte」を交配し、集団選抜法によって育成したものである。1978年(昭53)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1981年(昭56)優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種は1970年(昭45)にO E C Dに登録されている。

特性概要 1. 発芽性は良好で、定着時の草勢も良好である。

2. 春季の草勢はすぐれている。

3. 越冬性並びに株の持続性もすぐれている。

4. 開花期は「テトラ」より1～3日早く、アカクロローバの「サッポロ」とほぼ同時期である。

5. さび病、輪紋病、そばかす病、ウドンコ病などに対する耐病性は強い。

6. 道央においては1番草、2番草ともに「テトラ」より多収を示すが、道東、道北では「テトラ」よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道央地域に適し、アカクローバを補完する草種として期待できる。またテモシーとの混播がのぞましい。

試験場名	品種名	1 番 草		越 冬 状 態	10a 当り乾物収量 (kg)				試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)		1年次	2年次	3年次	計	
北海道農試	テトラ	6.19	45	1.9	397	404	89*	890	1978~1980
	エルモ	6.16	55	1.0	388	608	220*	1,216	
中央農試	テトラ	(6.23)	59	1.0	129*	605	324	1,058	1978~1980
	エルモ	(6.21)	60	1.0	113*	786	372	1,271	
根釧農試	テトラ	6.28	59	3.5	224*	325	121*	670	1978~1980
	エルモ	6.27	58	2.9	213*	330	95*	638	
天北農試 天塩支場	テトラ	7. 3	68		300*	609	511	1,420	1978~1980
	エルモ	6.30	53		286*	538	485	1,309	

注1) 中央農試の開花始は開花期を示す。

2) 草丈は2年次、3年次の平均。

3) 10a 当り乾物収量欄の\*印は1回刈り、他は2回刈りの合計。

参照 1) 北海道農務部編。昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項。59—60 (1981)。

### 3. アルファルファ

#### (1) キタワカバ (旧系統名 月系0201)

登録番号：(北海道)アルファルファ北海道合第3号；(農水省)アルファルファ農林合3号；(種苗法)第744号

来歴 本品種は1966年(昭41)より北海道農業試験場において、収量性、耐病性、永続性、採種性等の改良を目的として育成してきたものである。同農試では1966年(昭41)以降国内、国外から広く育種素材を収集し、1977年(昭52)まで育種目標に従って選抜を続けた。選抜した14栄養系(北海道在来7, 東北地方在来2, Du Puits 由来1, WL-305由来1, Narragansett 由来2, Telent 由来1)を用いて1973年(昭53)に放任授粉によって採種し、それに「月系0201」の系統名を付した。その後1975年(昭55)より道内の試験機関において各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草型は立性種に属するがやや開張する。茎は細く、草丈はやや高く、葉色はやや濃緑を呈する。花は淡紫色で雑色花の割合が若干高い。

2. 早春の萌芽性や草勢は良好で、再生性は各番草とも良好である。越冬・越夏後の欠株発生程度は低く、越冬性、永続性はすぐれるものとみられる。

3. 開花始は「ソア」より1~2早く、早生種に属する。

4. 耐倒伏性は「ソア」なみかやや弱く、いぼ斑点病には強いが、そばかす病に対しては「ソア」なみとみられる。なお、パーティシリウム萎ちよう病への抵抗性はやや弱い。

5. 収量は「ソア」より10%前後多い。

6. 飼料成分は「ソア」と差がない。

7. 採種性は極めてすぐれている。

栽培適地と奨励態度 道内のアルファルファの栽培適地全域に適し、採草用として利用する。耐倒伏性にやや難点があるので、やや早刈するか、イネ科牧草との混播により倒伏が軽減される。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り乾物収量 (kg)					試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	計	左比(%)	
北海道農試	キタワカバ	6.29	112	635*	1,198	1,438	3,271	108	1980~1982
	ソ ア	7.1	106	561*	1,054	1,402	3,017	100	
北見農試	キタワカバ		101	430*	1,168	1,291	2,889	96	1980~1982
	ソ ア		108	504*	1,230	1,290	3,024	100	
天北農試	キタワカバ	7.11	96	333*	855*	768	1,956	109	1980~1982
	ソ ア	7.11	93	329*	751*	711	1,791	100	
新得畜試	キタワカバ		89	319*	683	881	1,883	120	1980~1982
	ソ ア		84	286*	518	771	1,575	100	

注1) 開花始、草丈は2年次と3年次の平均。

2) 乾物収量欄の\*印は2回刈り、他は3回刈りの合計。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。24-27 (1983)。

2) 植田精一、等。北海道農試研究報告。143, 1-21 (1985)。

3) 植田精一、北農。52 (7), 1-18 (1985)。

4) 我有満、等。北海道草地研究会報。20, 223-226 (1986)。

5) 植田精一、等。北海道草地研究会報。20, 231-234 (1986)。

## (2) サイテーション (原名 Citation)

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸第5号

来歴 本品種は、アメリカの North American Breeder's 社が育成したもので、我が国へは、三井東圧化学株式会社が導入した。7 栄養系 (Du Puits に由来するもの 2 栄養系, Alfa 由来 1, Saranac 由来 1, Vernal 由来 2, Narragansett 由来 1) を用いた合成品種で、1981年 (昭56) 以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1984年 (昭59) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 開花始や開花期は「ソア」より1~2日早く、早生種に属する。また花色は雑色花の割合がやや高い。

2. 萌芽期は「ソア」と大差はないが、早春の草勢は良好である。また再生性、秋の草勢は「ソア」と大差はない。

3. 越冬性は「ソア」なみかややすぐれる。

4. 耐倒伏性は「ソア」なみとみられる。葉枯病 (輪紋病) には強いが、そばかす病やいぼ斑点病にはやや弱い。また、パーティリウム萎ちよう病への抵抗性もやや弱い。

5. 収量は、道東では「ソア」より多収を示すが、道央、道北ではほぼ「ソア」なみである。



栽培適地と奨励態度 道内のアルファルファの栽培適地全域に適し、採草利用を主とする。耐倒伏性が「ソア」なみでやや弱いため、刈遅れないようにすることが必要である。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り乾物収量 (kg)					試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)	1 年次	2 年次	3 年次	計	左比(%)	
北海道農試	サイテーション	6.29	113	360**	1,193	1,371	2,924	93	1981~1983
	ソ ア	6.30	116	396**	1,358	1,405	3,159	100	
中央農試	サイテーション	(7.5)	111		1,183	1,662	2,845	113	1981~1983
	ソ ア	(7.7)	134		1,143	1,376	2,519	100	
滝川畜試	サイテーション	6.30	114	241**	1,003	1,238	2,482	98	1981~1983
	ソ ア	6.30	113	241**	982	1,302	2,525	100	
新得畜試	サイテーション		88	236**	909	807	1,952	105	1981~1983
	ソ ア		85	200**	862	804	1,866	100	
根釧農試	サイテーション	7. 8	88		1,005**	792**	1,797	108	1981~1983
	ソ ア	7. 9	87		894**	772**	1,666	100	
北見農試	サイテーション	7.10	89	317**	888	1,075	2,280	106	1981~1983
	ソ ア	7. 9	89	295**	818	1,045	2,158	100	
天北農試	サイテーション	7. 6	94	243*	865	1,160	2,268	101	1981~1983
	ソ ア	7. 6	92	240*	860	1,149	2,249	100	

注1) 開花始、草丈は2年次、3年次の平均、但し中央農試の( )内は開花期を示す。

2) 乾物収量欄の\*印は1回刈り、\*\*印は2回刈り、他は3回刈りの合計。

参照 1) 北海道農務部編、昭和59年普及奨励からびに指導参考事項、41—43 (1984)。

2) 植田精一、北農、52 (7)、1—18 (1985)。

### (3) リユテス (原名 Lutèce)

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸6号

来歴 本品種は、フランスの Institute National de La Recherche Agronomique で育成したもので、我が国へはホクレン農業協同組合連合会が導入した。1977年 (昭52) 以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1985年 (昭60) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 草型は直立型で、葉色は緑で「ソア」よりやや濃い。花は紫色で雑色花の割合は低く、「ソア」に近い花色を呈する。

2. 春の草勢は「ソア」なみであるが、2番草の再生や秋の草勢は良好である。

3. 早生種に属し、開花始は「ソア」より3~5日早い。

4. パーティシリウム萎ちょう病に対する抵抗性を有し、そばかす病、葉枯病、いぼ斑点病などに対しても強い。また茎は他品種より太いため耐倒伏性も流通品種中で最も強い。

5. 収量は「ソア」や「サイテーション」よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道内のパーティシリウム萎ちょう病の発生地域で栽培を奨励する。また栽培に当たっては早生種であるため刈り遅れないよう注意する。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り乾物収量 (kg)					試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1 年次	2 年次	3 年次	計	左比(%)	
北海道農試	リュテス	6.27	112	367	1,108	1,261	2,736	87	1981~1983
	ソ ア	6.30	116	396	1,358	1,405	3,159	100	
中央農試	リュテス	6.29	116		858	1,266	2,124	84	1981~1983
	ソ ア	7. 4	134		1,143	1,376	2,519	100	
滝川畜試	リュテス	6.24	99	153	808	1,176	2,137	85	1981~1983
	ソ ア	6.30	113	241	982	1,302	2,525	100	
新得畜試	リュテス		87	153	740	736	1,629	87	1981~1983
	ソ ア		85	200	862	804	1,866	100	
根釧農試	リュテス	7. 5	87		715	613	1,328	80	1981~1983
	ソ ア	7. 9	87		894	772	1,666	100	
北見農試	リュテス	7. 5	89	233	761	934	1,928	89	1981~1983
	ソ ア	7. 9	89	295	818	1,045	2,158	100	
天北農試	リュテス	7. 5	92	231	776	996	2,003	89	1981~1983
	ソ ア	7. 6	92	240	860	1,149	2,249	100	

注 1) 1 番草開花始は 2 年次と 3 年次の平均。但し、中央農試は 3 年次のみ、根釧、天北農試は 2 年次のみ。  
2) 1 番草草丈は 2 年次と 3 年次の平均。

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項、49—51 (1985)。  
2) 佐藤倫造、北海道農試研報、143, 65—74 (1985)。  
3) 植田精一、北農、52 (7), 1—18 (1985)。

#### 4. チモシー

##### (I) クンプウ (旧系統名 北見11号)

登録番号：(北海道) チモシー北海道第 6 号；(農水省) チモシー農林 4 号；(種苗法) 第369号

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において極早生品種の育成を目的として、1972年(昭47)に「北海道在来日高系」、「同北見系」と米国からの導入品種「Clair」の3材料4,409個体からなる選抜基礎集団を養成した。以後熟期を主体に各種形質を対象として選抜を重ね、1976年(昭51)に最終選抜を行った17系統211個体(日高系2母系29個体、北見系2母系34個体、Clair13母系148個体)の放任授粉によって得た種子を混合し、「北見11号」の系統名を付した。1977年(昭52)以降、各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草型は直立型で、出穂時の草丈は「センボク」並かやや低く、茎は太い。止

葉直下の葉は短く、穂は太くて短い。葉部割合は「センボク」と同程度である。

2. 1番草の出穂始、出穂期は「センボク」より7～8日早く、極早生種に属する。また3番草でも出穂が見られる。
  3. 採草用品種で、1番草の収量は「センボク」より劣るが、2番草、3番草の収量は「センボク」より勝り、年間の合計収量は「センボク」並かやや勝る。
  4. 黒さび病、斑点病、雪腐病に対しては「センボク」並かやや弱い、栽培上問題になるほどの差はなく、越冬性は「センボク」並である。
  5. 飼料価値は「センボク」と大差はない。
  6. 採種性は「センボク」並かやや劣る。種子は「センボク」より大きく、発芽は良好である。
- 栽培適地と奨励態度 採草用の極早生品種として全道に適応し、栽培上の注意は「センボク」に準ずる。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り 乾物収量 (kg)					試験年次
		出穂期 (月・日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	計	左比(%)	
北見農試	クンプウ	6.18	92	642	1,127	919	2,688	105	1977～1979
	センボウ	6.26	93	616	1,062	891	2,569	100	
根釧農試	クンプウ	6.20	87	605	1,273	847	2,725	102	1977～1979
	センボク	6.26	89	520	1,110	1,031	2,661	100	
天北農試	クンプウ		78	420	1,455	1,094	2,969	108	1977～1979
	センボク		77	423	1,339	994	2,756	100	
新得畜試	クンプウ	6.18	84		1,310	986	2,296	99	1977～1979
	センボク	6.26	84		1,285	1,032	2,317	100	
北海道農試	クンプウ	6.16	87		1,042	814	1,856	108	1977～1979
	センボク	6.24	80		1,004	713	1,717	100	

注) 乾物収量は1年次は2回刈り、2、3年次は3回刈りの合計。

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項。36—42 (1980)。  
 2) 増谷哲雄。等。北海道立農試集報。45, 101—113 (1981)。  
 3) 増谷哲雄。農業技術。35, 410—412 (1980)。

(2) ホクセン (旧系統名 ホクセン2号A)

登録番号：(北海道) チモシー準北海道合第3号

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社中央研究農場で育成したものである。同農場では道内で収集した在来種1,000個体を供試し、1967年(昭42)～1969年(昭44)に中生、耐病、多収と思われる15個体を選抜した。それを株分けによって増殖し、栄養系評価試験を行って1971年(昭46)に4個体を選抜して母株とし、1972年(昭47)にそれらの交雑によって得た種子に「ホクセン2号A」の系統名を付した。

1973年(昭48)から同農場において、また1979年(昭54)から道立北見農業試験場で、さらに1981年(昭56)以降は道内各地の試験機関で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草型は直立型で、出穂期の草丈は「ノサップ」よりやや高い。

2. 1番草の出穂始、出穂期は「ノサップ」より7～8日遅く、「ホクシュウ」より11～12日早く、中生種に属する。2番草における出穂は「ノサップ」より少ない。

3. 採草用品種で、1番草の収量は「ノサップ」より勝るが、2番草、3番草の収量は「ノサップ」より劣り、年間の合計収量は「ノサップ」並かやや勝り、「ホクシュウ」より劣る。

4. 斑点病に対しては「ノサップ」よりやや弱い。越冬性も「ノサップ」より若干劣る。

栽培適地と奨励態度 採草用の中生種として全道に適応し、栽培上の注意は「ノサップ」に準ずるが、斑点病にやや弱いので施肥に留意する。

試験場名	品種名	1 番 草		10 a 当り 乾 物 収 量 (kg)					試験年次
		出穂期 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	計	左比(%)	
中央農試	ホクセン	6.28	96		③ 1,092	③ 1,292	2,384	104	1981～1983
	ノサップ	6.23	97		1,080	1,209	2,289	100	
北見農試	ホクセン	7.10	115	② 444	③ 1,087	③ 969	2,500	96	1981～1983
	ノサップ	7.1	108	535	1,127	952	2,614	100	
根釧農試	ホクセン	7.12	112	① 23	② 1,099	② 1,082	2,204	108	1981～1983
	ノサップ	7.2	105	52	1,018	972	2,042	100	
天北農試	ホクセン	7.13	93	② 370	③ 939	② 945	2,254	103	1981～1983
	ノサップ	7.3	91	383	911	900	2,194	100	
滝川畜試	ホクセン	7.1	122	② 231	③ 1,347		1,578	103	1982～1983
	ノサップ	6.22	109	203	1,325		1,528	100	
新得畜試	ホクセン		113	② 265	③ 996	③ 1,131	2,392	92	1981～1983
	ノサップ		111	386	1,125	1,078	2,589	100	

注) 乾物収量欄の○内数字は刈取回数。

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。31—35 (1984)。

## 5. メドーフェスク

### (1) バンディ (原名 Bundy)

登録番号：(北海道) メドーフェスク準北海道第5号

来歴 本品種は、オランダの van der Have 社が同国北部の古い放牧草地から採取したものと、保存品種との多交配後代検定によって選抜した複数の栄養系を用いて育成したものである。1973年(昭48)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種はOECD登録品種である。

- 特性概要 1. 葉色は濃緑～中。出穂期における草型は「タミスト」と同様に開張型を示す。  
 2. 刈取適期における草丈は「タミスト」とほぼ同じで、「トレーダー」より低い。  
 3. 出穂始は「タミスト」、「トレーダー」とほぼ同じで、「ファースト」より約3日遅いやや晩生種である。  
 4. 網斑病などの葉枯性病害の被害は「タミスト」、「トレーダー」よりやや多い。  
 5. 越冬性は、道央では実用上問題ないが、道東、道北では「タミスト」より劣る。  
 6. 1番草収量はやや低く、夏秋の収量は「トレーダー」並で「タミスト」より勝ることが多いが、年間合計では道東、道北で「タミスト」や「トレーダー」よりやや劣る。道央の採草利用では「タミスト」よりやや勝る。  
 7. 栄養価については特に欠点は認められない。

栽培適地と奨励態度 道央、道南地域において、放牧用、採草用及び放牧採草兼用種として利用する。

#### 〈採草利用〉

試験場名	品 種 名	出穂始 (月・日)	越 冬 状 態	10 a 当り 乾物 収 量 (kg)					試験年次
				1年次	2年次	3年次	計	左比(%)	
北海道農試	バンディ		0.5	488	641	421	1,550	105	1975～1977
	タミスト		0.5	③ 492	④ 589	③ 389	1,470	100	
中央農試	バンディ			496	1,169	840	2,505	106	1975～1977
	タミスト			② 434	③ 1,153	③ 781	2,368	100	
北見農試	バンディ	6.8	4.0	517	824	782	2,123	108	1985～1977
	タミスト	6.8	3.0	② 482	③ 729	③ 753	1,964	100	
根釧農試	バンディ	6.10	3.0	224	982	960	2,166	104	1985～1977
	タミスト	6.13	1.5	① 207	③ 949	③ 927	2,083	100	
天北農試	バンディ		4.0	429	599	668	1,696	100	1985～1977
	タミスト		2.0	② 434	③ 569	③ 687	1,690	100	
新得畜試	バンディ	6.11	3.3	427	706	752	1,885	105	1985～1977
	タミスト	6.11	2.7	② 340	④ 697	④ 752	1,789	100	

注) 1) 出穂始は2年次の1番草。

2) 越冬状態は3年次のもので、1:良～5:不良。

3) 10a 当り乾物収量は年間合計を示し、○内数字は刈取回数。

〈放牧利用〉

試験場名	品 種 名	越 冬 状 態	草 量				計	左比(%)	試験年次
			2年次	3年次	4年次	5年次			
中央農試	バンディ タミスト		541	585	472	494	2,092	98	1973~1977
			⑥ 526	⑥ 616	⑤ 447	⑤ 542			
根釧農試	バンディ タミスト	2.4	529	361	417	301	1,608	93	1973~1977
		3.1	⑤ 524	④ 365	④ 444	④ 403			
天北農試	バンディ タミスト	2.4	616	605	542	340	2,103	84	1973~1977
		1.5	⑥ 711	⑥ 632	⑤ 593	⑥ 571			
新得畜試	バンディ タミスト	1.9	365	278	311		954	106	1973~1976
		1.6	⑥ 332	⑤ 259	⑥ 313				
滝川畜試	バンディ タミスト		709	709	499	314	2,231	99	1973~1977
			⑤ 749	⑤ 689	⑥ 482	④ 345			

注 1) 越冬状態は2~5年次の4カ年平均で、1:良~5:不良。  
 2) 草量は、中央農試、根釧農試、天北農試は乾物収量の年間合計(kg/10a)を示し、○内数字は刈取回数。新得畜試、滝川畜試は放牧前の草量計による計測値の年間合計で、○内数字は放牧回数。

参照 1) 北海道農務部編、昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項、61-67 (1981)。

## 6. ハイブリッドライグラス

### (I) テトリライト (原名 Tetrelite)

登録番号：(北海道) ハイブリッドライグラス準給第5号

来歴 本品種は、アメリカのミシガン農試においてイタリアンライグラスとペレニアルライグラスの交雑種にコルヒチン処理を行い、4倍体のものを選抜育成したものである。

本道へは1971年(昭46)に北海道農業試験場が導入し、以後各種の試験を行い1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種は1972年にOECDに登録された。

特性概要 1. 初期生育は「マンモスイタリアンB」(イタリアンライグラス)と「フレンド」(ペレニアルライグラス)の中間、草型は直立型で草丈は90~100cmに達し、「マンモスイタリアンB」並かやや高い。

2. 出穂期は道南で5月下旬、道央では6月中旬で「マンモスイタリアンB」より5日程度遅く、「フレンド」並かやや遅い。

3. 越冬性は道南では良、道央では良~中。萌芽期は道南では4月1~2日で「マンモスイタリアンB」より5~6日早い、道央では4月5~7日で他の品種との差はない。また春季の草勢は良~中で、刈取り後の再生は良好である。

4. 耐倒伏性は「フレンド」と同程度である。

5. 収量は、単播では「マンモスイタリアンB」より勝るが、「フレンド」とほぼ同等、アカクローバとの混播でもほぼ類似の傾向を示すが、道南では「フレンド」より多収を示す。

栽培適地と奨励態度 道南地域の冬枯れの少ない地帯に適する。栽培に当たってはアカクローバと混播し、利用期間は2年を目途とする。

〈秋播き・混播試験〉

試験場名	品 種 名	越冬性	1 番 草		10 a 当 り 乾 物 収 量 (kg)				試験年次
			出穂期 (月.日)	草丈 (cm)	1年次	2年次	計	左比(%)	
北海道農試	テトリライト			86	659(1,111)	370( 928)	1,029(2,039)	70( 88)	1981～ 1983
	マンモスイタリアンB			90	751(1,144)	12( 690)	763(1,834)	52( 49)	
	フレンド			79	822(1,271)	653(1,045)	1,475(2,316)	100(100)	
中央農試	テトリライト	2.1	6.16	103	850(1,161)	760( 963)	1,610(2,124)	107(105)	1981～ 1983
	マンモスイタリアンB	3.6	6.10	96	600(1,043)	49( 625)	649(1,668)	43( 82)	
	フレンド	1.2	6.16	88	882(1,151)	620( 875)	1,502(2,026)	100(100)	
道南農試	テトリライト	2.0	(5.29)	85	1,326(1,606)	1,412(1,446)	2,738(3,052)	115(108)	1981～ 1983
	マンモスイタリアンB	4.0	(5.23)	88	651(1,320)	914(1,212)	1,565(2,532)	66( 90)	
	フレンド	1.5	(5.31)	66	1,124(1,528)	1,255(1,294)	2,379(2,822)	100(100)	

- 注 1) 混播にはアカクローバ「ハミドリ」を使用。  
 2) 「マンモスイタリアンB」はイタリアンライグラス、「フレンド」はペレニアルライグラス。  
 3) 越冬性は2か年平均で、1：良～5：不良。  
 4) 出穂期間の( )内は出穂始。  
 5) 10a当り乾物収量欄の( )外はライグラス、( )内はライグラスとアカクローバの合計を示す。

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。36-40 (1984)。

# 北海道登録品種一覽

## I 普通作物

### I 水稲

- 注 1. 農林水産省登録品種には、\*印をつけた。  
 2. 系統名の欄には、系統名、祖苗台帳番号、原名をあてた。  
 3. 登録年の( )は、優良品種決定年である。

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登 録 年	廃 止 年	育 成 場 所	育 成 方 法	主 要 特 性
農 林 20 号*	北海 86号	水稲 北海道うるち第1号	1971 (1941)	1975	上川支場	「農林1号」×「胆 振早稲」	早生、多収
栄 光	上育B18号	水稲 北海道うるち第2号	1971 (1942)	1974	上川支場	「鶴亀」×「早生富 国」	多収、良質、良味
巴 ま さ り	渡育120号	水稲 北海道うるち第3号	1971 (1951)		渡島支場	「東北14号」×「北 海87号」	晩生、分けつ多く、多収、食 味良
南 栄	渡育129号	水稲 北海道うるち第4号	1971 (1951)	1972	渡島支場	「巴錦」×「農林20 号」	晩生、長稈、食味良、冷水抵 抗性強
ユ ー カ ラ*	北海 182号	水稲 北海道うるち第5号	1971 (1962)		北海道農試	「関東53号」×「栄 光」	初期生育旺盛、強稈、良質多 収、多肥栽培で増収、いもち 病N菌に強
し お か り	上育 234号	水稲 北海道うるち第6号	1971 (1963)	1985	上川支場	(「目黒榮精」×「共 和」)F <sub>1</sub> ×「共和」	早生、登熟良、いもち耐病性 中、耐倒伏中、障害型耐冷性 やや弱
ほ う り ゅ う	空育 24号	水稲 北海道うるち第7号	1971 (1964)	1981	空知支場	「新栄」×「照錦」	中生、中肥で多収、食味・品 質良好
う り ゅ う	空育 22号	水稲 北海道うるち第8号	1971 (1965)	1983	中央農試	「石狩白毛」×「曉」	短稈、耐冷性・耐病性强、良 質、中生の早、初期生育不良
き よ か ぜ	上育 254号	水稲 北海道うるち第9号	1971 (1965)	1986	上川農試	「新栄」×「水稲農 林15号」	極早生、良質、いもち耐病性 弱、耐倒伏性やや弱、障害型 耐冷性やや強
ひ め ほ な み	空育 39号	水稲 北海道うるち第10号	1971 (1966)	1974	中央農試	「空系26号」×「ヤ チミノリ」	中生の晩、穂数型、いもち耐 病性やや強、良質、多収、初 期生育旺盛
ほ く せ つ	上育 265号	水稲 北海道うるち第11号	1971 (1966)	1972	上川農試	「新栄」×「上育161 号」(大田早生×福 稲)	中生、登熟良、いもち耐病性 中、耐倒伏性やや強、障害型 耐冷性強
そ ら ち	空育 51号	水稲 北海道うるち第12号	1971 (1967)	1982	中央農試	「空育12号」×「み まさり」	中生の中、安定多収
は や ゆ き	北育 33号	水稲 北海道うるち第13号	1971 (1968)	1975	北見農試	「新栄」×「水稲農 林19号」	耐冷性極強、いもち耐病性弱
か ち ほ な み	十育 12号	水稲 北海道うるち第14号	1971 (1968)	1982	十勝農試	(「豊光」×「大 雪」)×「上育161 号」	中生、安定多収、倒伏し難い
な る か ぜ	上育 314号	水稲 北海道うるち第15号	1971 (1970)	1979	上川農試	「北海182号」×「さ さほなみ」	早生、良質、いもち耐病性中、 耐倒伏性中、障害型耐冷性や や強
マ ツ マ エ*	北海 222号	水稲 北海道うるち第16号	1971 (1970)		北海道農試	「ふ系51号」×「北 海183号」	晩生、偏穂数型、強稈、食味 やや強、良質多収、食味 やや良好
ゆ う な み	空育 87号	水稲 北海道うるち第17号	1971	1980	中央農試	「ユウカラ」×「さ さほなみ」F <sub>1</sub> ×「さ さはなみ」	中生の早、短稈穂数型、いも ち耐病性やや強、障害型耐冷 性中、耐倒伏性やや強
イ シ カ リ*	道北 1号	水稲 北海道うるち第18号	1971	1987	上川農試	「北海182号」×「空 育4号」	多収、良質、草姿良、いもち 耐病性强、耐倒伏性强、耐冷 性やや強
ユ キ モ チ*	北海 125号	水稲 北海道もち 第19号	1971 (1951)		上川支場	「大田早生」×「福 稲」	中生、中稈、穂数型、稀短芒、 良質、多収
か む い も ち	上育 266号	水稲 北海道もち 第20号	1971 (1965)	1985	上川農試	「新栄」×「上育161 号」	極、早生、良質、いもち耐病 性中、耐倒伏性やや強、障害 型耐冷性やや強



草 型	茎		穂						玄 米			品 質	食味	搗精歩合	栽 培 適 地
	長短	強弱	長短	粒着密度	浮色	浮先	芒の有無	芒の長短	形状	大小	色 沢				
中間型	長	や強	中	密	淡黄白	赤褐	無	—	中	中	皓良	上の下	上	—	道北、道東北地方、これに準ずる山間地の中生種、道央の早生種
穂数型	や短	や強	中	や密	黄白	黄白	有	短少	中	中	皓白	上の中	上の下	—	道中央部
穂数型	や長	中	中	や密	黄白	赤	無	—	中	中	淡皓良	中の中	上	—	道南の温暖地帯、特に日本海沿岸
穂重型	や長	強	中	や密	黄白	赤褐	無	—	中	中	濃皓良	中の下	上	—	道南温暖地帯
穂数型	短	強	中	や疎	黄白	黄白	無	—	や長	や大	淡皓	極良	良	—	道央部、これに準ずる肥沃地
偏穂数型	中	中	や短	や密	黄白	黄白	有	中の中	や円	や小	や銀白	中の上	良	—	上川、留萌および網走
穂数型	中	中	や長	や密	黄白	暗褐色	無	—	中	中	純白	良	良	89.0	石狩、空知、胆振、日高の「栄光」の栽培されている地帯
中間型	短	中	中～や長	や密	黄白	黄白	無	—	中	中	鈍銀白	良	良	88.8	空知中央部、上川北部およびこれに準ずる地帯
中間型	中	や弱	中	や密	黄白	黄白	極稀	極短	中	中	や皓	上の下	良	—	上川、留萌の北部および中央部の山間地帯、ならびにこれに類似の地帯
穂数型	短	中	短	密	黄白	黄白	無	—	や円	や小	鈍銀白	良	良	86.5	空知、石狩、上川の道央部および類似の地帯でとくにいもち病発生地帯
穂数型	中	や強	短	中	黄白	黄白	有稀	稀短	中	中	や皓	上の下	良	—	上川中南部、留萌南部、空知全域およびこれと類似の地帯
穂数型	や短	中	や長	中	黄白	黄白	無	—	中	中	鈍銀白	や良	—	—	中生種の作付されている道内各地帯、ならびに中晩生種地帯の冷水田
中間型	長	や弱	中	中	黄白	黄白	少	短	中	中	や鈍白	中の中	—	—	網走の「農林20号」栽培地帯および十勝、上川北部、留萌北部の類似地帯
穂数型	や短	中～や弱	短	や密	黄白	黄白	無	—	や円	や小	や良	中の上	—	93.0	十勝、網走の全域、上川北部ならびにこれに準ずる地帯
穂数型	や短	や強	中	中	黄白	黄白	無	—	中	中	や良	上の下	良	89.4	網走、十勝の良地帯、上川、留萌の山間部、道央部の早生地帯
偏穂数型	中	剛	長	中	黄白	淡褐色	有極稀	極短	中	や大	淡皓	良	や良	91.0	渡島半島南部良地帯
穂数型	短	や剛	や長	や密	黄白	黄白	無	—	中	中	鈍銀白	上の下	や良	91.0	空知、石狩の「ほうりゅう」の安全栽培良地帯、ならびに類似地帯
偏穂数型	短	剛	長	中	黄白	黄白	無	—	や長	や大	や皓	上の下	良	90.5	上川、留萌のやや良～良地帯、空知、石狩、後志、松山のやや良地帯
穂数型	中	や強	中	や密	黄白	黄白	有	稀短	中	中	白	上の下	良	—	道央部
偏穂数型	や短	や強	や短	中	黄白	黄白	や少	や短	中	中	白	上の下	良	—	上川中央部、留萌全域、空知北部

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
工 藤 餅		水稲 北海道もち 第21号	1971 (1965)		道南農試	「南糯」×「多福糯」	中生の晩、中稈、稈重型、いもち耐病性強
おんねもち	北育糯47号	水稲 北海道もち 第22号	1971 (1970)		北見農試	「北海182号」×「上育230号」	良質、「もち」良質、多収、耐冷性やや強、いもち耐病性やや弱～弱
きたこがね	北育 51号	水稲 北海道うるち第23号	1973	1982	北見農試	「北海182号」×「上育230号」	やや良質、耐冷性やや強、多収。いもち耐病性弱
さ ち ぼ	空育 97号	水稲 北海道うるち第24号	1974	1982	中央農試	「ささほなみ×空系1号」F <sub>1</sub> ×「北海190号」	良質、登熟早い、いもち病ほ場抵抗性強、強稈性
キタヒカリ	北海 230号	水稲 北海道うるち第25号	1975		北海道農試	「しおかり」×「ユーカラ」	中生、偏穂数型、良質、食味良好、少肥瘠地栽培で少収、機械化栽培に適する
ともゆたか	空育 103号	水稲 北海道うるち第26号	1977		中央農試	「北海222号」×「道北1号」	中生の早、短稈数型、初期生育良好、多収、粒揃良好、割れ初多
はやこがね	北育 64号	水稲 北海道うるち第27号	1977		北見農試	「北斗」×「上育272号」	良質、耐冷性強、いもち耐病性中～やや弱
しまひかり	渡育 214号	水稲 北海道うるち第28号 第324号	1981		道南農試	「コシホマレ」×「そらち」	晩生の早、良質・良食味、いもち耐病性やや強～強、障害型耐冷性やや弱
みちこがね	空育 110号	水稲 北海道うるち第29号 第331号	1982		中央農試	「空育99号」×「北海230号」	中生、良質、耐倒伏性強、障害型耐冷性やや強～強
ともひかり	空育 111号	水稲 北海道うるち第30号 第591号	1983		中央農試	(「北海230号」×「巴まさり」)F <sub>1</sub> ×「空育99号」	良質、良食味、早熟性
キタアケ	道北 36号	水稲 北海道うるち第31号 水稲農林268号 第594号	1983		上川農試	「永系7361」×「道北5号」	早生の晩、耐冷性強、多収、大粒、良質、良食味
たんねもち	上育糯381号	水稲 北海道もち 第32号 第593号	1983		上川農試	「道北22号」×「道北糯18号」	早生の晩、良質、強稈、多収
ゆきひかり	空育 114号	水稲 北海道うるち第33号 第936号	1984		中央農試	(「北海230号」×「巴まさり」)F <sub>1</sub> ×「空育99号」	良質、良食味、障害型耐冷性強、耐倒伏性中、登熟性やや劣る

## 2 大 麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
春 星	6 号	大麦 北海道春 第1号	1971 (1953)	1975	北見農試	「ハルビン2条」×「ポヘミヤ8号」	2角直立頤、子実は穀皮やや厚し、醸造用に適する
ほしまさり	訓系 16号	大麦 北海道春 第2号	1972		北見農試	「春星」×「女系8号」	大粒、良質で極めて多収、醸造用に適する

## 3 裸 麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
マリモハダカ	北海春裸 13号	裸麦 北海道春 第1号	1971 (1966)		北見農試	「サナダ麦」×「北統3号」	強稈、良質、耐病性強、多収、多条播適応性大

草 型	茎		穂						玄 米			品 質	食味	揚精歩合	栽 培 適 地
	長短	強弱	長短	粒着密度	稈色	稈先色	芒の有無	芒の長短	形状	大小	色 沢				
穂重型	中	剛	長	や密	黄白	黄白	無	—	中	小	白	や良	良	—	渡島, 松山南部, 胆振沿岸地帯
穂数型	や短	や強	中	中	黄白	黄白	や少	短	中	中	白	中の上 ~上	良	—	網走, 十勝および上川, 留萌の北部で「はよもち」, 「双登網」の作付け地帯
偏穂数型	や短	や強	中	中	黄白	黄白	中	中	中	や大	白	上の中	中~ や良	—	網走, 十勝の中生種が作付けされている地帯
偏穂数型	や短	強	中	や密	黄白	黄白	極稀	極短	長	や大	良	上の中	や良	89.0	空知, 石狩, 後志, 胆振, 日高, 道南北部, 上川南部の中 生種地帯
偏穂数型	や短	や強	や長	中	黄白	黄白	無	—	中	中	淡白	良	良	90.0	留萌南部, 上川中南部, 道央部, 道南北部の移植栽培, 中央部良地帯の機械移植栽培
穂数型	短	や剛	や長	や密	黄白	黄白	極稀	極短	や長	や大	や淡白	上の中	や良	91.0	道央部, 道南北部, 上川・留萌の中南部の平坦地
穂数型	短	中	短	中	黄白	黄白	極稀	極短	や円	中	淡白	上の中	中~ や良	—	網走, 十勝, 上川北部, 留萌中北部および類似の早生種の作付け地帯
穂数型	中	や強	中	や密	黄白	黄白	無	—	中	や小	や淡白	上下	上中	90.3	渡島中南部, 松山南部
偏穂数型	や短	剛	中	や密	黄白	黄白	無	—	中	中	や淡白	上中	上下	90.5	石狩, 空知, 後志, 胆振, 日高および上川中央部の良地帯ならびに渡島, 松山北部
偏穂数型	や短	や剛	中	や密	黄白	黄白	無	—	中	中	や淡白	上中	上下	90.7	空知, 石狩, 後志, 胆振, 日高, 上川, 留萌および渡島, 松山北部
穂数型	短	や剛	短	中	黄白	黄白	稀	極短	中	や大	や淡白	上下	上下	90.7	上川, 留萌, 網走, 十勝, 空知, 石狩, 後志, 胆振, 日高および渡島, 松山の北部
偏穂数型	や短	剛	や長	や密	黄白	黄白	少	極短	中	中	白	上下上	上下	90.6	上川, 留萌, 網走, 十勝, 空知, 石狩, 後志, 胆振, 日高および松山, 渡島北部
偏穂数型	や短	や柔	中	や疎	黄白	黄白	中	短	中	中	や淡白	上中	上中	90.9	空知, 石狩, 後志, 胆振, 日高, 渡島, 松山および上川と留萌の中南部

幼 苗 の 色	穂 の			芒 の			子実の		耐倒伏性	栽 培 適 地
	型	粒着密度	下垂度	有無	長短	色	大小	色		
濃緑	二条矢羽根型	や密	や垂	多	長	黄	大	黄白	や弱	全道の二条大麥を栽培している地域
濃緑	二条矢羽根型	や密	中	多	長	黄	大	黄白	や弱	全道の二条大麥を栽培している地域

穂 の 型	粒着密度	芒 の			子実の		耐倒伏性	栽 培 適 地
		有無	長短	色	大小	色		
6条 (4角)	疎	多	長	黄	中	白	強	網走, 上川

#### 4 ライ麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ペトクーザ		ライ麦 北海道輪第1号	1971 (1939)		ドイツ	ドイツより輸入した種子を供試	長稈、多けつ、耐倒伏、良質、多収、耐寒性、赤さび病や赤かび病にやや弱い。

#### 5 小麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ハルヒカリ*	北見春2号	小麦 北海道春第1号	1971 (1965)		北見農試	(「Mida」×「Pilot」)×「春播小麦農林75号」	各種さび病に強く、品質はすこぶる良い
ハルミノリ*	北見春17号	小麦 北海道春第2号	1971 (1969)	1981	北見農試	「硬質小麦農林42号」×「北育1号」	さび病以外の病害には比較的強く、安定多収である
ホクエイ	本系 331	小麦 北海道秋第3号	1971 (1954)	1978	北見農試	「赤穂不知1号」×「東北67号」	耐寒、耐病性強く安定、粉質劣る、多収
改良伊達早生		小麦 北海道秋第4号	1971 (1957)	1975	渡島支場	伊達町広瀬弘夫氏栽培の「伊達早生小麦」から選抜	極早生、短稈、耐倒伏耐病性強、間作に適する。耐冬性劣る
ムカコムギ*	北見 11号	小麦 北海道秋第5号	1971 (1968)	1984	北見農試	(「Kanred」×「ナンブコムギ」)×「北成9号」	黒目粒発生少、原粒性状・小麦粉性状ともにすぐれ、やや多収
イービス	(IBIS)	小麦 北海道秋第6号	1971 (1970)	1987	北見農試	オランダより導入	晩生、耐倒伏性極強、耐冬性弱、アミロ粘度高い
ホロシリコムギ*	北見 23号	小麦 北海道秋第7号	1974		北見農試	「北系8」×「北海240号」	短強稈、耐倒伏性強、穂重型、多収、多肥密植で増収
タクネコムギ*	北見 30号	小麦 北海道秋第8号	1974		北見農試	「東北118号」×「北系221」	早生、短稈、耐倒伏性強、粒の外見品質良、アミロ粘度高い
チホクコムギ*	北見 42号	小麦 北海道秋第9号	1981		北見農試	(「北見18号」×「北見19号」)×「北系320」	良質、多収
ハルユタカ	北見春47号	小麦 北海道春第10号	1985		北見農試	(「Siete Cerros」×「Pal.」)×(「Tob-8156(R)」×「ハルヒカリ」)	短強稈、多収

#### 6 えん麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
前 進	(原名) オンワード	えん麦 北海道輪第1号	1971 (1942)		北海道農試	—	早熟、草丈やや低く、強稈、穂は長く中間型過熟になると穂首から折れ易い、収率は高く、多収
ホ ナ ミ*	「本系68号」	えん麦 北海道 第2号	1971 (1959)	1987	北海道農試	「黒実」×「ピクトリー1号」	草丈低く強稈、収率は「前進」より少ない
オ ホ ー ツク*	北海 1号	えん麦 北海道 第3号	1971 (1966)		北海道農試	「ホナミ」×「前進」	やや晩生、散穂、強稈、耐倒伏性強
モ イ ワ*	北海 7号	えん麦 北海道 第4号	1973	1987	北海道農試	「S84」×「Milford」×「前進」	散穂、やや早生、やや短稈、多収良質
ア キ ュ タカ*	北海 21号	えん麦 北海道 第5号	1980		北海道農試	「カーターズラクス」×「ニュートン」	初期伸長性がすぐれ、秋播緑肥用として生草及び乾草収量多い

稈の強弱	穂型	芒の		粒の		製粉歩合 (%)	越冬歩合 (%)	栽培適地
		長短	多少	大小	色			
強	短大	長	多	大	灰青緑	91.4	92.0	全道一円に適する

稈性	株の開閉	穂の		芒の		稈色	粒の			粒質	製粉性	耐病性		耐倒伏性	栽培適地
		型	粒着密度	有無多少	色		形	大小	色			赤さび病	うどんこ病		
	閉	錐	中	長多	白	白	長	大	赤褐	硝子	や良	や強	中	中	全道栽培可能、硬質小麦としての特性上主に網走、上川
	中	錐	中	長多	白	白	長	大	赤褐	硝子	中	中	中～や強	中	網走、上川およびこれに準ずる地域
中間	閉	紡錐	中	無	—	褐	短	大	赤	中間	—	強	中	中	十勝、網走支庁管内の肥沃地
直立	閉	紡錐	中	無	—	黄白	中	大	赤	中間	—	や強	—	強	道南地方の限定
中間	閉	錐	や粗	短頂芒	褐	褐	中	大	赤	中間	や良	や強	中	中	道南の極早生地帯を除く全道、とくに網走・十勝
匍匐	閉	棒	密	無		白	短	大	赤	粉状～中間	や良	中	や強	極強	斜里郡、網走郡(美幌、津別を除く)網走市南網走、その他冬枯少地帯
直立	閉	棒	密	無		白	短	大	赤	中間	中	中	中	強	道南の極早生地帯除き全道、とくに肥沃地
中間	や開	錐	中	無		褐	短	大	赤	硝子	中	中	中	や強	早生品種として全道、とくに道央以南
直立	閉	棍棒	密	無	—	白	や円	や大	黄褐	粉状	良	極強	や弱	強	十勝、網走管内
	閉	錐	や密	多	黄	黄	中	や大	赤褐	硝子	良	強	強	強	全道の春播小麦栽培地帯

幼苗の			稈		芒の有無 長短	穂		粒		耐倒伏性	栽培適地
姿勢	葉色	葉幅	細太	剛柔		型	粒着密度	大小	色		
直立	や濃緑	中	や太	強	多長	中間	密	中	淡灰	強	全道一円
直立	濃緑	中	中	強	少中	散穂	密	中	淡黄白	強	さび病多発地帯を除く、全道一円
直立	濃緑	中	中	剛	中長	散穂	密	中	淡黄	強	宗谷、留萌、根釧のほか道内の倒伏頻発地帯
直立	緑	中	中	中	無	散穂	や密	中	淡黄	中	全道
直立	緑	中	中	中	少中	散	中	中	淡黄白	中	秋季の緑肥用、全道一円

7 どうもろこし

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ゴールドクロスパンダム*	ゴールドクロスパンダム	どうもろこし(音) 北海道 第1号	1971 (1956)		米 国 (北海道良試)	「P39」×「P51B」	中生の晩, 生食加工用, 極良質
イエロースイート	札交 5207	どうもろこし(音) 北海道 第2号	1971 (1959)	1975	北海道立良試	「(C13×C30)」× (セルポア)	早生, 生食用, 良質
タナバタワセ	札交 5322	どうもろこし(音) 北海道 第3号	1971 (1959)	1975	北海道立良試	「黄早生」×「C13」	極早生, 生食用
ゴールドビューティ*	ゴールドビューティ	どうもろこし(音) 北海道 第4号	1971 (1963)		米 国 (北海道良試)	「C13」× 「Ma21547」	極早生, 生食加工用
ホワイトワキシ-	マンモスホワイトワキシ-	どうもろこし(音) 北海道 第5号	1971 (1966)	1975	北海道立良試	「(S339×マンモスホワイト) ×「(D102×マンモスホワイト) ×「(D102×マンモスホワイト) ×「(D102×マンモスホワイト)」	加工用, 糯種
複交4号	W275	どうもろこし(飼) 北海道 第6号	1971 (1957)	1975	北海道立良試	「(W9×WM13R)」× 「(W49×WH)」	早生, デント子実用, 多収
交4号*	月交 193号	どうもろこし(飼) 北海道 第7号	1971 (1957)	1978	北海道農試	「(N21×N19)」× 「T6」	早生, フリント子実用, 初期生育良
交6号*	月交 431号	どうもろこし(飼) 北海道 第8号	1971 (1962)	1986	北海道農試	「(D403×D405)」× 「(T102×T107)」	中生, セミデント, 耐倒伏性
ジャイアンツ	本文 3304	どうもろこし(飼) 北海道 第9号	1971 (1962)	1978	北海道立良試	「(WF9-1×W22)」× 「青森エローデント」	晩生, デント, 採播易
交8号*	長交 347号	どうもろこし(飼) 北海道 第10号	1971 (1968)	1979	長 野 野 (十勝農試)	「岩手エローデント」× 「W531- (455×466)」	晩生, 初期生育良
ヘイゲンワセ*	道交 16号	どうもろこし(飼) 北海道 第11号	1973		十勝農試	「(N19×CM7)」× 「(W41A×W79A)」	早生, 強稈, 機械化向
ホクユウ*	北交 22号	どうもろこし(飼) 北海道 第12号	1974	1986	北海道農試	「(N85×N21)」× 「(T23×T24)」	初期生育, 登熟良
ピリカスイート	十生 7号	どうもろこし(音) 北海道 第13号	1975		十勝農試	「V574」× 「Ma21547」	早生, 缶詰加工用
北 缶 3 号	HLC 145	どうもろこし(音) 北海道 第14号	1976		北海道 (十勝農試)	「Mel23」× 「Ma21547」	早生, 穂型良, 軸付冷凍用
ワセホマレ*	道交S1号	どうもろこし(飼) 北海道 第15号	1978		十勝農試	「N19×To15」× 「CM37×CMV3」	早生, 初期生育良, 強稈
ウイスコンシン 573	W573	どうもろこし(飼) 準輸交 第1号	1971	1986	米 国 (中央良試)		晩生, デント, 強稈
バイオニア3620	P3620	どうもろこし(飼) 準輸交 第2号	1971	1975	米 国 (中央良試)		晩生, 強稈
エローデント コ ー ン	本第1951号	どうもろこし(飼) 準交 第3号	1971 (1923)	1975	北海道 農事試		晩生, デント
マンモスホワイト デントコーン	本第2520号	どうもろこし(飼) 準交 第4号	1971 (1923)	1975	北海道 農事試		極晩生, デント, 未成熟
P 3 7 1 5		どうもろこし(飼) 準輸交 第5号	1974	1986	米 国 (北海道良試)		晩生, 耐倒伏性
J X 1 8 8		どうもろこし(飼) 準輸交 第6号	1976	1986	米 国 (北海道良試)		晩生, 耐倒伏性
C 5 3 5		どうもろこし(飼) 準輸交 第7号	1976		オランダ (北海道良試)		早生
P 3 3 9 0		どうもろこし(飼) 準輸交 第8号	1976	1986	米 国 (北海道良試)		晩生, 耐倒伏性

初 期 生 育	分けつ の多少	稈 長 の 短	耐倒伏性	着 穂 高	粒の顔別	粒 色	糊 糸 色		栽 培 適 地
							苞皮外	苞皮内	
中	多	中	弱	中	S	黄	無	無	道中央、道南
中	多	短	弱	低	S	黄	紅	紅	ゴールドンクロスバンタム栽培地帯
良	中	極短	中	低	F.S混	黄	淡紅	無	都市近郊の早出し生食用
や良	微	極短	中	低	S	黄	淡紅	無	全道
—	—	長	中	高	WX	白	—	—	道央、道南
や不良	無	中	中	中	D	黄	—	—	早生、道東道北の「坂下」に代る子実用デント
良	多	中	弱	中	F	橙黄	—	—	道東、道北部における子実用として「坂下」におきかえる
中	微	中	強	高	F.D	橙黄			道央以南子実用、道東北サイレージ用
中	無	長	弱	高	D	黄			全道の「エローデントコーン」におきかえる
良	無	長	弱	高	D	黄			十勝、網走サイレージ用
中	微	短	強	中	F.D	黄			十勝、網走、上川北部、サイレージ用
良	多	中	弱	や高	F	黄褐			十勝、網走、釧路、サイレージ用
中	少	極短	弱	低	S	黄	無	無	全道
中	中	極短	弱	低	S	黄	無	無	全道
良	微	短	強	や低	F.D	黄			道東北、サイレージ用
や不良	無	や長	や強	や高	D	黄			道央・十勝、サイレージ用
や不良	無	長	や強	中	D	黄			十勝、サイレージ用
—	微	長	中	高	D	黄			北部、東部の冷涼地を除く道内一円
—	無	長	弱	高	D	白			道央以南
や不良	無	長	強	高	D	黄			道央・道南、サイレージ用
や不良	無	長	や強	高	D	黄			道南、サイレージ用
中	無	短	中	中	F.D	黄			十勝・網走・根別内陸、サイレージ用
や不良	無	長	や強	高	D	黄			道南、サイレージ用

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
P 3 5 7 5		とうもろこし (飼) 準輸交 第9号	1976	1986	米 国 (北海道農試)		晩生, 耐倒伏性
J X 1 6 2		とうもろこし (飼) 準輸交 第10号	1977	1986	アメリカ Jacques Seed 社	単交雑	晩生, デント
リ ザ	Liza	とうもろこし (飼) 準輸交 第11号	1981		フランス Pioneer 社	三系交雑	早生, セミデント
ワセミノリ	SH-250	とうもろこし (飼) 準輸交第12号	1982		フランス ノースラップ 種 子 会 社	三系交雑	早生, セミデント
ニューデント 85日	SH-10	とうもろこし (飼) 準輸交第13号	1982		フランス ノースラップ 種 子 会 社	単交雑	早生, セミデント
ブルータス	MTC-1	とうもろこし (飼) 準輸交第14号	1982		フランス ニッカーソン社 UCOPAC	三系交雑	早生, セミデント
バッファロー	SH-145	とうもろこし (飼) 準輸交第15号	1982		アメリカ PAGSeed 社	単交雑	中生, デント, 耐倒伏性
ダイハイゲン*	北海道交S 4号	とうもろこし (飼) 北海道交第16号	1983		十勝農試	複交雑	早生, セミデント, 初期生育良
R X 4 2	RX 42	とうもろこし (飼) 準輸交第16号	1983		アメリカ アスグロ 種 子 会 社	単交雑	中生, デント
J X 9 2	JX 92	とうもろこし (飼) 準輸交第17号	1983		アメリカ Jacques Seed 社	単交雑	中生, デント
デントン	MTC-1C	とうもろこし (飼) 準輸交第18号	1984		アメリカ North American Plant Breeders 社	単交雑	中生, デント, 耐倒伏性
P 3 9 0 6	P3906	とうもろこし (飼) 準輸交第19号	1984		アメリカ Pioneer 種 子 会 社	単交雑	中生, デント, 多収
ヒノデワセ*	道交S 8号	とうもろこし (飼) 北海道交第17号	1985		十勝農試	複交雑	早生, セミデント, 耐倒伏性
P 3 7 3 2	P3732	とうもろこし (飼) 準輸交第20号	1985		アメリカ Pioneer 種 子 会 社	単交雑	中生, デント, 耐倒伏性
ロイヤルデント 85	LG 5	とうもろこし (飼) 準輸交第21号	1985		フランス リマグラン社	複交雑	早生, セミデント
エ マ	PH1201	とうもろこし (飼) 準輸交第22号	1986		フランス Pioneer	単交雑	早生, セミデント
デ イ ア	PH2202	とうもろこし (飼) 準輸交第23号	1986		フランス Pioneer	単交雑	早生, セミデント, 多収
ソ ロ 100 H	TH211A	とうもろこし (飼) 準輸交第24号	1986		西ドイツ KWS 社	単交雑	中生, セミデント
P 3 7 4 7	PH3201	とうもろこし (飼) 準輸交第25号	1986		アメリカ Pioneer	単交雑	中生, デント, 多収, 耐倒伏性

## 8 大豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
吉 岡 大 粒	本第2065号	大豆 北海道 第1号	1971 (1914)	1981	北海道 農事試	品種比較	枝豆用, 食味佳良, 扁球, 大粒, 黄緑色粒, 臍黒色



初 期 生 育	分けつ の多少	稈 の 短 長	耐倒伏性	着 穂 高	粒の種別	粒色	絹 糸 色		栽 培 適 地
							苞皮外	苞皮内	
や不良	無	長	や強	高	D	黄			道南、サイレージ用
や不良	無	長	中	高	D	黄			道央・道南、サイレージ用
中	無	や短	中	中	F.D	黄	桃	緑	十勝、網走、根釧・道北の内陸
や不良	無	短	や弱	中	F.D	黄	桃	緑	道北、根釧、サイレージ用
中	無	や短	中	中	F.D	黄	桃	緑	道北でC535の栽培地帯
や不良	無	や短	中	中	F.D	黄	桃	緑	十勝・網走、根釧・道北の内陸
中	無	や長	強	や高	D	黄	緑	緑	十勝・網走の内陸、道央北部
良	微	中	や強	中	F.D	黄	緑	緑	道東・道北・道央北部でC535の栽培地帯
中	無	や長	中	高	D	黄	緑	緑	十勝中部・道央北部
中	無	や長	中	高	D	黄			道央、十勝中央
中	無	や長	や強	や高	D	黄	桃	緑	道央（北部を除く）、道南
中	無	や長	や強	や高	D	黄	緑	緑	道央地域（北部を除く）
良	微	短	や強	や低	F.D	黄	緑	緑	道東・道北で早生品種の登熟が不十分な地帯
中	無	や長	強	高	D	黄	桃	緑	道央・道内地域
中	無	短	や強	中	F.D	黄	桃	緑	道北・網走、根釧の内陸、十勝中央部周辺
良	無	短	や強	中	F.D	黄	緑	緑	道北・根釧地域
中	無	中	や強	中	F.D	黄	紺	緑	十勝・網走の気候条件の良い地帯・道央北部
や不良	無	や長	中	や高	F.D	黄	緑	緑	道央地域
や不良	無	や長	や強	や高	D	黄	桃	緑	道央・道南地域

子葉の色	胚軸色	草姿	葉形	毛 茸		花色	熟莢色	粒 の				栽 培 適 地
				有無	色			形	大小	色	臍部の色	
黄	紫	直立	円葉	有	褐	赤紫	褐	扁球	大	黄緑	黒	子実用としては気候寒冷な地方に適し、枝豆用としては全道各地の栽培に適する

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登 録 年	廃 止 年	育 成 場 所	育 成 方 法	主 要 特 性
中 生 光 黒	十支第963号 本第2085号	大豆 北海道 第2号	1971 (1933)		十勝支場	品種比較	中生種の晩、煮豆用、食味佳良、淡褐色、白花、大粒、黒色粒、多収
白 鶴 の 子	渡支 第1939号	大豆 北海道 第3号	1971 (1934)		渡島支場	「鶴の子」在来種から純系分離	長程、極晩生、白目極大粒の良質品種
奥 原 1 号	十育 51号	大豆 北海道 第4号	1971 (1940)	1984	十勝支場	純系分離	早生種、耐冷性強、マメシンクイガ被害多、褐色、赤紫花、黄白色中粒
早 生 緑	北支 第4014号	大豆 北海道 第5号	1971 (1954)		北見支場	在来種から系統選抜	早生種の晩、枝豆用、食味佳良、白花、着莢密、淡黄緑色、大粒、臍黒色
坂 本 早 生	大野 在来-B	大豆 北海道 第6号	1971 (1954)	1981	渡島支場	在来種(大野村、坂本重太郎氏栽培)	極早生、極短程の莢掛け(淡黄色地に黒色斑)種で、食味良好な枝豆用品種
北 見 白	系50-A	大豆 北海道 第7号	1971 (1956)		北見支場	「十勝長葉」×「大谷地2号」	中生種、耐冷性強、強莖、多収、褐色、赤紫色、黄白色中粒、臍暗褐色
イ ス ズ	系83-B	大豆 北海道 第8号	1971 (1957)	1981	北見支場	「十勝長葉」×「大谷地2号」	中生種の早、耐冷性強、強莖、長莖、褐色、赤紫色、やや黄白色粒
ホッカイハダカ	十育 77号	大豆 北海道 第9号	1971 (1958)	1975	十勝支場	「十勝長葉」×「中生種」	中生種、黄色、小粒、マメシンクイガ被害少、良質
カ リ カ チ	十育 87号	大豆 北海道 第10号	1971 (1959)	1975	十勝支場	「十勝長葉」×「上春別在来」	中生種、黄色、中粒、耐冷性強
コガネジロ	十育 95号	大豆 北海道 第11号	1971 (1961)	1984	十勝支場	「紫花4号」×「十勝長葉」	晩生種の早、強莖、多収、半無限型、長莖、白毛、黄色小粒、臍黄色
アサミドリ	大袖振-1	大豆 北海道 第12号	1971 (1962)	1981	十勝支場	品種比較	中生種、枝豆用、多収、長莖、赤紫花、褐色、淡黄緑大粒、臍黒色
ワセコガネ	十育 97号	大豆 北海道 第13号	1971 (1964)	1984	十勝農試	「紫花4号」×「十勝長葉」	早生種の晩、機械他栽培向、強莖、半無限型、主莖型、密植適応性大
オシロマメ	札育 12号	大豆 北海道 第14号	1971 (1964)	1975	北海道農試	「十勝長葉」×「黄宝珠」	長莖(無限伸育型)で円莢の極晩生種、白目中粒の良質多収品種
ホウライ	十育 109号	大豆 北海道 第15号	1971 (1965)	1978	十勝農試	「下田不知1号」×「十育71号」	晩生種、ダイズシストセンチュウ抵抗性強、長莖、分枝数多、白目中粒
トヨスズ	十育 118号	大豆 北海道 第16号	1971 (1966)		十勝農試	「下田不知1号」×「十支第7910号」	中生種の晩、ダイズシストセンチュウ抵抗性強、短強莖、白目大粒、良質
キタムスメ	十育 <sup>122号</sup> ×12号	大豆 北海道 第17号	1971 (1968)		十勝農試	「カリカチ」×「北見白」	中生種、耐冷性強、多収、中莖、褐色、赤紫色、黄白色中粒、臍暗褐色
ユウヅル	中育 3号	大豆 北海道 第18号	1971		中央農試	「鶴の子」在来種から系統分離	やや長莖で円莢の晩生種、白目極大粒(鶴の子種)の良質多収品種
白 千 石	十育 63号	大豆 北海道 第19号	1971 (1954)	1975	十勝支場	「裸大豆」×「早生黒千石」	晩生種、黄色、小粒、青刈用
茶 小 粒	本第2429号	大豆 北海道 第20号	1971 (1926)	1984	北海道農事試	品種比較	極晩生種、緑肥および青刈飼料用、莖葉の繁茂旺盛で生草収量多い
ヒメユタカ	十育 161号	大豆 北海道 第21号	1976	1987	十勝農試	「十育129号」×「カリカチ」	中生種、中莖、結上の良、赤紫花、白毛、白色大粒、白目、多収
キタコマチ	十育 167号	大豆 北海道 第22号	1978		十勝農試	「十育129号」×「トヨスズ」	早生種、短強莖、分枝数少、草姿は「トヨスズ」に類似し、白目中粒
ユウヒメ	中育 8号	大豆 北海道 第23号	1979		中央農試	「奥原1号」×「木造在来」	中生種、白目、極大粒の良質、多収品種
キタホマレ	十育 171号	大豆 北海道 第24号	1980		十勝農試	「十育114号」×「カリカチ」	中生種の晩、耐冷性強、多収、中粒種(秋田銘種)、臍暗褐色

子葉の色	胚軸色	草姿	葉形	毛茸		花色	熟莢色	粒の				栽培適地
				有無	色			形	大小	色	臍部の色	
黄	緑	や開張	円葉	有	淡褐	白	褐	扁球	大	黒光沢強	黒	根室、釧路、宗谷支庁等の寒冷地を除き、全道各地の栽培に適する
黄	緑	有限	円葉	有	白	白	淡褐	扁球	極大	黄白	濃黄	道南(渡島、桧山)に適する限定優良品種
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	赤紫	暗褐	球	中	黄白	暗褐	道東部および北部の初霜が白く、生育期間の短い地帯の栽培に適する
黄	緑	開張	円葉	有	褐	白	褐	扁球	大	淡黄緑	黒	道北、道東における子実用として「青岡大粒」に比べて完全に収穫できる。枝豆用としては全道各地に適する
黄	紫緑	有限	円	有	褐	赤紫	淡褐	扁楕円球	中	淡緑地に黒のクラカケ斑	黒	早生種であるため適地の範囲は広いが、都市近郊あるいは道南地方の蔬菜地帯に栽培する
黄	紫	開張	円葉	有	褐	赤紫	褐	球	中	黄白	暗褐	上川の北部、十勝、網走支庁管内等の道東、道北地帯および道央の山麓地帯
黄	紫	直立	長葉	有	褐	赤紫	褐	球	小	や黄	褐	道東、道北地帯の冷害に遭遇しやすい地方、および降霜の早い地方、道央の山麓地帯で前者に類似の地帯
黄	紫	直	長楕円	無	—	紫	褐	球	小	黄	黒褐	十勝内陸地帯
黄	紫	直	楕円	有	褐	紫	褐	球	中	黄	黒褐	道南および極端な冷涼地を除いた全道一円
黄	紫	直立	長葉	有	白	赤紫	淡褐	球	小	黄光沢強	黄	「北見白」の栽培されている十勝、上川南部の中晩生地帯
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	赤紫	褐	扁球	大	淡黄緑	黒	子実用は道東地帯、枝豆用は全道各地
黄	紫	直立	円葉	有	白	赤紫	淡褐	球	小	黄光沢強	黄	十勝の山麓、沿海、網走のオホーツク沿海とそれに類似の早生地帯
黄	緑	無限伸育型	円	有	白	白	淡褐	球	中	黄	黄	道央部以南(石狩南部、後志、渡島、桧山)
黄	紫	開張	円葉	有	白	赤紫	淡褐	や扁球	中	黄白	黄	全道のシストセンチュウの被害が認められる中晩生地帯
黄	紫	直立	円葉	有	白	赤紫	淡褐	や扁球	大	黄白	黄	十勝、網走のダイズシストセンチュウの被害地帯、とくに中央部で倒伏する地帯
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	赤紫	褐	球	中	黄白	暗褐	十勝・上川および網走中央部
黄	緑	有限伸育型	円	有	白	白	褐	や扁球	極大	黄白	濃黄	石狩、空知の中南部、後志南西部、胆振、日高、渡島、桧山の各地
黄	紫	直	小楕円	有	褐	紫	褐	球	小	黄	褐	十勝地方および類似の地帯の青刈用
黄	紫	開張	円葉	有	褐	赤紫	黒褐	扁球	極小	褐	褐	緑肥および青刈飼料用としては全道各地の栽培に適する。採種栽培は道南地方に限定される
黄	紫	や開張	円葉	有	白	赤紫	淡褐	球	大	黄白	黄	十勝、網走、上川中南部とこれに類似の地帯、十勝中央部は除く
黄	紫	直立	円葉	有	白	赤紫	淡褐	や扁球	中	黄白	黄	上川および胆振、乾燥時の天候がこれに類似する地帯
黄	紫	や開張	円	有	白	紫	淡褐	球	極大	黄白	黄	空知支部以南、石狩、胆振、日高支庁
黄	緑	直立	円葉	有	褐	白	褐	や扁球	大の小	黄白	暗褐	道央中部(空知中部以南、石狩、後志、ただし平路山麓を除く)ならびに道央南部(胆振、日高)地域

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
スズヒメ*	十育 182号	大豆 北海道 第25号	1980		十勝農試	「P184751」×「コガネジロ」	中生の早、白目小粒、強蒸、 圃場では裂莢弱、ダイズシスト トセンチュウ抵抗性極強、納 豆加工適性
コマムスメ*	中育 9号	大豆 北海道 第26号	1982		中央農試	「オシマシロメ」× 「十交3612」	晩生種、白目、大粒の多収品 種
ツルコガネ*	中育 14号	大豆 北海道 第27号	1984		中央農試	「中育1号」×「黄 宝珠」	中生の晩、大粒、極淡褐色目、 ダイズわい化病抵抗性
トカチクロ*	十育 184号	大豆 北海道 第28号	1984		十勝農試	「十育122号(キタ ムスメ)」×「中生 光黒」	中生種、安定多収、黒大豆(光 黒銘柄)
トヨムスメ*	十育 191号	大豆 北海道 第29号	1985		十勝農試	「十系463号」×「ト ヨスズ」	中生、ダイズシストセンチュ ウおよび黒根病抵抗性、短強 茎、白目中～大粒

## 9 小 豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
早生大納目	本第98号	小豆 北海道 第1号	1971 (1914)	1975	不 明	品種比較	晩生種、熟莢は淡褐色、子実 は暗赤色、粒形はやや不整で あるが大粒
茶殻早生	本第2336号	小豆 北海道 第2号	1971 (1914)		不明(十勝地 方の在来種)	在来種品比較	極早生種、草丈低く、葉は円 形、熟莢は褐色、子実は赤色 で小樽である
早生大粒1号	十育 5号	小豆 北海道 第3号	1971 (1930)	1981	十勝支場	純系淘汰(「早生大 粒」より)	中生種、草丈中位で葉は円形、 熟莢は灰白色、子実は大粒で 濃赤色
円葉1号	十育 42号	小豆 北海道 第4号	1971 (1937)	1975	十勝支場	「円葉」の純系淘汰	中生種、熟莢は黒褐色、子実 は赤色、中粒、品質良好
宝小豆	小豆 W45	小豆 北海道 第5号	1971 (1959)		十勝支場	保存品種の比較試 験により選出	中生種、草丈は中位で葉は円 形、熟莢は褐色、子実は赤色 で小粒
光小豆	十育 7号	小豆 北海道 第6号	1971 (1964)	1975	十勝農試	「茶殻早生」×「早 生大粒1号」	中生種、草丈はやや高く葉は 円形、熟莢は淡褐色、子実小 粒でやや淡赤色
晩大納目	十育 62号	小豆 北海道 第7号	1971 (1970)	1984	十勝農試	「能登小豆」×「早 生大粒1号」	熟期は中生の晩、草丈はやや 高く葉は円形、熟莢は灰白色 で子実は大粒
寿小豆	中育 1号	小豆 北海道 第8号	1971		中央農試	「能登小豆」×「早 生大粒1号」	中生種、草丈やや高く分枝は 少ない、葉はやや剣、子実は中 粒で赤色
栄小豆	十育 70号	小豆 北海道 第9号	1973	1987	十勝農試	「3407」×「早生大 粒1号」	中生種、草丈は高く草勢は強、 葉は円形、熟莢は褐色、子実 は小粒で赤色
アカネダイナゴン*	十育 69号	小豆 北海道 第10号	1974		十勝農試	「能登小豆」×「早 生大粒1号」	中生種、草丈は中位、葉は円 形、熟莢は灰白、子実大粒で 濃赤色
ハヤテショウズ*	十育 85号	小豆 北海道 第11号	1976		十勝農試	「宝小豆」×「斑小 粒系-1」	早生種、草丈やや低く葉は円 形で、熟莢は褐色、子実はや や濃赤で小粒
ホツカイ シロショウズ*	十育 73号	小豆 北海道 第12号	1979		十勝農試	「川西(白小豆)」× 「茶殻早生」	中生の晩、莖長やや低く、莢 数はやや多、熟莢は白色でや や太い、子実は短円、黄白色 で大きさは中
エリモショウズ*	十育 97号	小豆 北海道 第13号	1981		十勝農試	「寿小豆」×「十育 77号」	中生の早、莖長やや低く、莢 数はやや多、子実は大きさ中、 やや長円筒形で濃赤色、粒揃 いよく良質、多収
ハツネショウズ*	十育 116号	小豆 北海道 第14号	1985		十勝農試	「ハヤテショウ ズ」×「赤豆」	中生の早、アズキ落葉病抵抗 性、子実は短円筒、やや濃赤 で大きさ中の小

子葉の色	胚軸色	草姿	葉形	毛茸		花色	熟葉色	粒の				栽培適地
				有無	色			形	大小	色	腋部の色	
黄	紫	直立	長葉	有	白	赤紫	淡褐	や扁球	小の中	黄	黄~極淡褐	十勝中部およびこれに類似の地域に適する
黄	紫	や開張	円	有	白	紫	淡褐	扁球	大の中	黄白	黄	渡島, 松山支庁
黄	緑	や開張	円	有	白	白	淡褐	球	大	黄白	極淡褐	日高, 胆振, 松山北部, 渡島北部
黄	紫	直立	円葉	有	褐	紫	褐	扁球	大	黒	黒	十勝地方, ただし中部の沖積地帯と山麓沿海部のうち特に気象条件の不良の地帯を除く
黄	紫	直立	円葉	有	白	紫	淡褐	扁球	大の小	黄白	黄	十勝およびこれに類似の地帯

子葉の色	莖色	葉形	毛茸の色	花色	熟葉の		粒の			栽培適地
					形	色	形	大小	色	
	緑	円葉	鋭	黄	太く長い	淡褐		大	暗赤	南部温暖地帯
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	円筒	や小	赤	道東, 道北などにおいて極早生種を必要とする地帯に適する
緑	緑	円葉	鈍	黄	短, 太, や湾曲	灰白色	烏帽子形	大	濃赤	本道中央部以北および以東に適する
	緑	円葉	鋭	黄	長太	黒褐	円筒	中	赤	道中央部
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	円筒	小	赤	道東, 道北および道央南部に適する
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	淡褐	や烏帽子型	や小	や淡赤	全道一円, 特に冷涼な地帯は除く
緑	緑	円葉	鈍	黄	短, 太, や湾曲	灰白	烏帽子型	大	濃赤	道央, 道南部
緑	緑	円葉・葉緑くびれ	鈍	黄	長, や太 や湾曲	褐	円筒形	中	赤	道央, 道東北
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	円筒形	小	赤	十勝, 上川の中南部, 冷涼な地帯はさける
緑	緑	円葉	鈍	黄	短, 太, や湾曲	灰白	烏帽子型	大	濃赤	十勝中央部, 上川中南部, 道央, 道南
緑	緑	円葉	鈍	黄	や細, 長, 先端や湾曲	褐	短円筒形	や小	や濃赤	十勝, 網走, 上川
緑	緑	円葉	鈍	黄	や太 や短	白	短円筒	中	黄白	道央, 道南の気象条件のよい地帯
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	や長円筒	中	淡赤	十勝中央, 道央, 道南
緑	緑	円葉	鈍	黄	や短	褐	短円筒	中の小	や濃赤	十勝中央部およびこれに類似の地帯で落葉病の常発地

10 菜豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
金 時	本第2850号	菜豆 北海道 第1号	1971 (1905)	1984	北海道 農事試	品種比較	中生の早, 矮性, 軟荚種, 良質
大 福	本第6599号	菜豆 北海道 第2号	1971 (1905)		北海道 農事試	品種比較	晩生のつる性硬荚種, 高級菜豆として食味が良く多収, 子実の色は白
大 手 亡	十支 第455号	菜豆 北海道 第3号	1971 (1927)	1984	十勝支場	品種比較	中生, 半蔓性, 硬荚種, 子実は白色小粒, 播種期, 早晚による収量影響少なし
丸 長 鶴	本第 11840号	菜豆 北海道 第4号	1971 (1939)	1981	北海道 農事試	品種比較	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬で長柄類中最も早い極早生種
虎 豆	本第 11304号	菜豆 北海道 第5号	1971 (1939)	1987	北海道 農事試	品種比較	晩生のつる性半硬荚種, 良質で菜豆品種中最も食味が良い
大 正 金 時	十支 第8390号	菜豆 北海道 第6号	1971 (1957)		十勝支場	純系分離	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬~中旬で早生の矮性硬荚種
大 正 白 金 時	十支 第9007号	菜豆 北海道 第7号	1971 (1960)	1981	十勝支場	純系分離	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬の早生矮性硬荚種で炭そ病に強い
改 良 大 手 亡	十支第3848号 大手亡(清水)	菜豆 北海道 第8号	1971 (1961)	1975	十勝支場	品種選抜	開花始は7月下旬, 成熟期は9月上旬の半蔓性硬荚の晩生種
改 良 中 長	十支第9010号 中長鶴	菜豆 北海道 第9号	1971 (1961)	1975	十勝支場	純系分離	開花始は7月下旬, 成熟期は9月上旬の中生の早に属する半蔓性硬荚種
新 金 時	十育B-1号	菜豆 北海道 第10号	1971 (1964)	1975	十勝農試	「紅金時」×「大正金時」	開花期は7月上旬, 成熟期は9月上旬の早生矮性良質多収品種
昭 和 金 時	十育 B-11号	菜豆 北海道 第11号	1971 (1966)	1978	十勝農試	「紅金時」×「大正金時」	開花期は7月中旬, 成熟期は9月中旬で矮性硬荚の中生種
北 原 紅 長	十支 第9839号 紅長2号	菜豆 北海道 第12号	1971 (1966)	1975		交雑育種	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬の早生, 矮性硬荚種
大 正 大 手 亡	十支 第514号 大正大手亡	菜豆 北海道 第13号	1971 (1969)	1975	十勝農試	品種選抜	開花期は7月中旬, 成熟期は9月中旬半蔓性硬荚種の中生種
十 勝 白 金 時	十育 E-6号	菜豆 北海道 第14号	1971 (1970)	1978	十勝農試	「大正白金時」×「白丸鶴」	開花始は7月中旬, 成熟期は9月中旬の半蔓性硬荚の中生種
銀 手 亡	十育 A-22号	菜豆 北海道 第15号	1971	1987	十勝農試	「大手亡(網走)」×「大手亡(清水)」	開花始は7月下旬, 成熟期9月中旬の半蔓性硬荚の中生種
福 粒 中 長	十育 D-7号	菜豆 北海道 第16号	1972		十勝農試	「大正金時」×「改良中長」	開花始は7月中旬, 成熟期9月上旬の半蔓性の中生種
福 白 金 時	十育 E-10号	菜豆 北海道 第17号	1973		十勝農試	「十育B-11号」×「5823-C-B-4」	開花始7月下旬, 成熟期9月上旬の早生矮性硬荚種
短 手 亡	十育 A-29号	菜豆 北海道 第18号	1976		十勝農試	「十育A-19号」×「Improved White Navy」	開花始は7月下旬, 成熟期9月中旬の矮性硬荚の中生種
改 良 虎 豆	中育 A-29号	菜豆 北海道 第19号	1977		中央農試	虎豆在来種(洞爺村産)より純系分離	晩生, つる性, 半硬荚種「虎豆」より着実数多く多収, 食味良好
北 海 金 時	十育 B-32号	菜豆 北海道 第20号	1979		十勝農試	「昭和金時」×「a-32(F)」	開花始は7月中旬, 成熟期は9月上旬~中旬の早生, 矮性, 硬荚種, 大粒, 多収
改 良 早 生 大 福	中育F1号	菜豆 北海道 第21号	1980		中央農試	大福在来種(北見市豊地産)より純系分離	中生の晩, つる性, 硬荚種, 甘納豆, 煮豆に適する
丹 頂 金 時	十育 B-50号	菜豆 北海道 第22号	1986		十勝農試	「十育B-30号」×「大正金時(多節)」	開花始は7月中旬, 成熟期は9月上旬~中旬の早性, 矮性硬荚種, 大粒, 多収

草性	幼茎の色	花色	莢色		莢の軟硬	粒の			栽培適地
			若莢	熟莢		形	大小	色	
矮性	淡赤紫	淡紅	淡緑	淡黄	軟	楕円	中	赤紫	根室、御路、宗谷等の寒冷地帯を除く全道、莢煮食用としては全道
つる性	緑	白	湖緑、まれに淡紅飛沫斑	淡褐		扁平じん環形	大	白	本道中部の温暖地帯および南部の地帯
半蔓	緑	白	暗緑、成熟前に暗紫色	淡黄褐	硬	短楕円臍部がやや突起する	小	白	寒冷地を除く全道一円
矮性	淡緑	淡紅	淡緑地に鮮紅色の条斑	淡黄褐地に斑紋の痕跡	硬	やや扁平な長楕円	中	淡肉色地に赤紫色の斑	全道に適するが、特に北部の極冷涼な地帯
つる性	淡緑	微紅色を帯びた白色	淡緑	淡黄白	半硬	や長い球	大	白色地に臍部周囲のみ黄褐色の紫赤斑	本道中部の温暖な地帯および支那地帯
矮性	淡赤紫	淡緑、成熟前に淡紅色の斑紋	淡緑、成熟前に淡紅色の斑紋	淡黄白	硬	楕円	や大	淡赤紫	特に寒冷な地帯を除く全道
矮性	緑	白	淡緑	淡黄白	硬	や長楕円	や大	白に極く淡い飴色網斑	特に寒冷な地帯を除く全道
半蔓性	緑	白	淡緑、成熟前に暗紫色となる	淡黄褐	硬	短楕円	小	白	上川、空知の菜豆栽培地帯および十勝、網走の山麓を除く畑作地帯
半蔓性	淡緑	紅	淡緑地に紫赤色の斑紋	淡褐地に斑紋の痕跡	硬	短円筒	中	淡褐地に紫赤色の斑紋	特に冷涼な地帯を除く全道
矮性	極淡赤紫	淡紅	緑	黄白	硬	や長楕円	や大	紅	特に冷涼な地帯を除く全道
矮性	淡赤紫	淡紅	緑	黄白	硬	長楕円	や大	や暗紅	十勝、網走の中央部および上川の無霜期間のやや長い地帯
矮性	淡赤紫	淡紅	や濃緑	黄白	硬	腎臓	や大	淡赤紫	特に冷涼な地帯を除く全道
半蔓性	緑	白	淡緑、成熟前に暗紫色となる	淡黄褐	硬	短楕円	小	白	十勝、網走などの道東畑作地帯
半蔓性	緑	白	淡緑	淡黄白	硬	や長楕円	や大	白に極く淡い飴色網斑	十勝、網走、上川の無霜期間のやや長い地帯
半蔓性	緑	白	淡緑	淡黄褐	硬	楕円	小	白	十勝、網走、上川などの畑作地帯
半蔓性	淡緑	紅	淡緑地に紫赤色斑紋	淡黄褐地に斑紋の痕跡	硬	や長楕円	や大	淡褐地に紫赤色斑紋	特に冷涼な地帯を除く全道
矮性	緑	白	淡緑	淡黄白	硬	や長楕円	や小	白に極く淡い飴色斑紋	十勝、網走、上川などの菜豆栽培地帯
叢性	緑	白	淡緑、成熟前に暗紫色となる	淡黄褐	硬	楕円	小	白	十勝、上川、網走などの畑作地帯
つる性	淡緑	帯微紅の白	淡緑	淡黄白	半硬	や長球形	大	白地に臍部の周り淡肉色地に赤褐色の斑紋	胆振地方を中心とした道央部
矮性	淡赤紫	淡赤紫	緑	黄白	硬	や長楕円	大	赤紫	十勝、網走、上川地方の畑作地帯
つる性	緑	白	淡緑地に微細な紫斑	淡褐	硬	扁平じん環形	中	白	根釧、道北地域を除く全道一円
矮性	淡赤紫	淡赤紫	緑	黄白	硬	長楕円体	や大	赤紫	十勝、網走、上川支庁管内

## 11 花豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
大 白 花	中育M5号	花豆 北海道 第1号	1976		中央農試	白花豆(杜管町産) より系統分離	晩生のつる性花豆、子実は白色で極めて大きく、多収で良質

## 12 えん豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
改良青手無	札幌青手無 1号-40	えん豆 北海道 第1号	1971 (1958)		十勝支場	純系分離	緑色大粒、良質、多収、半蔓性、晩生
小 緑	十育 14号	えん豆 北海道 第2号	1971 (1965)	1984	十勝農試	「アラスカ」×「グリーンピース」	緑色小粒、良質、多収、矮性、晩生、缶詰用
大 緑	北育 37号	えん豆 北海道 第3号	1975		北見農試	「十育11号」× 「6202(F <sub>1</sub> )」	緑色大粒、良質、多収、半蔓性、晩生
北海赤花	北育 B-2号	えん豆 北海道 第4号	1978		北見農試	「十育16号」×在来 種赤えんどう(中 札内)	褐色中粒、多収、矮性、晩生
豊 緑	北育 43号	えん豆 北海道 第5号	1985		北見農試	「北育36号」×「改 良青手無」	緑色大粒、多収、良質、矮性、晩生

## 13 ばれいしょ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
男 爵 薯		ばれいしょ 北海道輸第1号	1971 (1928)		米 国	「Early Rose」の 芽条変異?	早生種、粒ぞろいよく、いも着は密、食味良、各種調理に使用可能
メークイン		ばれいしょ 北海道輸第2号	1971 (1928)		イギリス	不明	中生種、いもは長卵形で肉色は黄、越冬後甘味を増す。生食用
紅 丸	本育 309号	ばれいしょ 北海道 第3号	1971 (1938)		北海道 農事試	「Lembke Frühe Rosen」×「ベ ンポー」	晩生種、極く多収、いも着密、皮色紅、いも偏卵形、でんぷん原料用
ばれいしょ・ 農林1号	島系 12号	ばれいしょ 北海道 第4号	1971 (1943)		北海道 農事試	「男 爵 薯」× 「Deodara」	中晩生種、多収、食味やや良、食用及びでんぷん原料用
ニ セ コ	北海 15号	ばれいしょ 北海道 第5号	1971 (1959)	1975	北海道農試	「農林1号」×「ミ ラピリス」	晩生種、いもは鮮紅色、でん粉価は高いが湿腐病に弱い
ユ キ ジ ロ	北海 30号	ばれいしょ 北海道 第6号	1971 (1961)		北海道農試	「ケネベック」× 「農林2号」	中晩生種、疫病に強く多収、調理後黒変少ない
エ ニ ワ	北海 22号	ばれいしょ 北海道 第7号	1971 (1961)		北海道農試	「島系267号」×「島 系232号」	中晩生種で疫病に強い、多収ででん粉価が高い
ホッカイアカ	北海 41号	ばれいしょ 北海道 第8号	1971 (1965)	1984	北海道農試	「2070ab (31)」× 「島系291号」	晩生種で、疫病にも強く、でん粉価が高い、いもは赤かつ色で紡錘形
シ レ ト コ	根育 3号	ばれいしょ 北海道 第9号	1971 (1967)	1981	根根農試	「北海24号」×「島 系291号」	「ホッカイアカ」程度の極晩生種、疫病に強く極多収
ビ ホ ロ	北海 45号	ばれいしょ 北海道 第10号	1971 (1969)	1984	北海道農試	「北海29号」× 「Hochpr- ozentige」	極晩生種で、でん粉価が高い、いもは小さい、疫病には強い
タ ル マ エ	北海 47号	ばれいしょ 北海道 第11号	1971 (1969)	1981	北海道農試	「オオジロ」× 「Hochpr- ozentige」	中晩生種で、でん粉価はやや高い、いもは偏長卵、軟腐病に弱い



草性	幼の莖色	花色	莢色		莢の軟硬	粒の			栽培適地
			若莢	熟莢		形	大小	色	
つる性	緑	白	緑	褐	硬	腎臓形	大	白	胆振地方を中心とした道中部および北見周辺の畑作地帯

草性	子葉の色	葉色	花色	莢色		莢の軟硬	粒の			栽培適地
				若莢	熟莢		形	大小	色	
半蔓性	淡緑	や淡緑	白	淡緑	微褐	硬	扁平球形で大皺あり	大	淡緑	全道一円
矮性	淡緑	濃緑	白	緑	微褐	硬	球	小	緑	全道の青えん豆栽培地帯
半蔓性	緑	緑	白	淡緑	微褐	硬	扁平球で大皺あり	大	緑	網走、上川の青えん豆栽培地帯
矮性	淡黄	淡緑	紫赤	緑	淡褐	硬	扁球で大皺あり	中	帯緑褐地に赤褐斑	全道の畑作地帯
矮性	緑	濃緑	白	濃緑	微褐	硬	楕円球×扁平球で大皺あり	大	白緑	全道のえん豆栽培地帯

草姿	莖色	葉色	花色	いもの						疫病耐病性	栽培適地
				形	色	表皮の粗滑	目の多少	目の深淺	肉色		
直	緑地に淡赤色が分布	濃	淡赤紫先白	球	黄白	滑	中	深	白	弱 <sub>r</sub>	全道一円
中	濃緑地に淡紫色が分布	や濃	紫(白のしほりで先白い)	長卵円形	黄白～淡黄褐	滑	少	浅	黄	弱 <sub>r</sub>	全道一円
中	緑地に赤色が分布	中	白	だ円～偏卵	紅	滑～中	中	や浅	白(紅色を分布することがある)	弱 <sub>r</sub>	全道一円
直	緑地に淡赤色が分布	濃～や濃	白	偏円～偏球	黄白	滑	中	中	白	弱 <sub>r</sub>	全道一円
	緑地に淡赤	や濃	極淡赤先白	扁卵	濃紅	滑	少	浅	白	弱	後志、宗谷管内および類似地帯のでん粉原料用
や開	緑地に淡赤	緑	淡紫	卵	黄	滑	少	浅	白	や強 <sub>R<sub>1</sub></sub>	全道、排水のよい肥沃地
や直	緑	や濃	白	偏円	淡褐	粗・全面ネット状	中	や浅	白	や強 <sub>R<sub>1</sub></sub>	全道、排水のよい肥沃地
開	淡赤紫	濃	淡赤紫	長紡錘	赤褐	や滑	多	浅	淡黄	強 <sub>R<sub>2</sub>R<sub>1</sub></sub>	全道、でん粉原料用
直	緑地に赤紫	や淡	白	卵	淡黄白	滑	中	や浅	白	強 <sub>R<sub>1</sub>R<sub>2</sub></sub>	全道、とくに道東、道北および後志
中	緑地に一部赤紫	や濃	淡青	偏球	淡褐	粗	中	中	白	強 <sub>r</sub>	天北、上川北部、網走、十勝などのでん粉原料地帯
中	緑	緑	淡紫	偏長卵	淡褐	中	中	中	白	や弱～中 <sub>r</sub>	全道、でん粉原料地帯

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ワセシロ	根育 11号	ばれいしょ 北海道 第12号	1974		根 創 農 試	「根系7号」×「北 海39号」	早生種、熟期の割に多収、「男 爵いも」より大粒で、皮色が 白い
トヨシロ	北海 48号	ばれいしょ 北海道 第13号	1976		北海道農試	「北海19号」×「エ ニワ」	中早生種、還元糖含有率低く、 油加工に適する
ツニカ	Tunika	ばれいしょ 北海道(輸) 第14号	1978	1987	ド イ ツ 民主共和国	「Lu56・186/21 N」×「Lu51-183/ 2」	中晩生種、ジャガイモシスト センチュウ寄生型Aに対し抵 抗性がある
ハツフブキ	北海 57号	ばれいしょ 北海道 第15号	1979		北海道農試	「男しゃくいも」× 「WB61037-4」	早生、でん粉工場の早期操業、 原料用として紅丸より品質、 収量ともすぐれる
ホッカイコガネ	北海 60号	ばれいしょ 北海道 第16号	1981		北海道農試	「北海48号」×「北 海51号」	中晩生、加工食品原料用、塊 茎は目深く長柄円形肉種で フレンチフライにしたときの 品質にすぐれる
コナフブキ	根育 19号	ばれいしょ 北海道 第17号	1981		根 創 農 試	「北 海 4 8 号」× 「WB66201-10」	でん粉原料用晩生種で、でん 粉価が22%前後と高く多収品 種である。シストセンチュウ 抵抗性はない。
トヨアカリ	北海 67号	ばれいしょ 北海道 第18号	1986		北海道農試	「Tunika」× 「WB61037-4」	晩生種、ジャガイモシストセ ンチュウ抵抗性強。疫病に強 く、高でん粉価、多収

## II 特 用 作 物

### 14 てん菜

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
つきさつぷ	E 6	てんさい 北海道 第1号	1971 (1964)	1975	てん菜研究所	集団育種法	晩生、極多収、褐斑病抵抗性 強
○ポリラーベ	Polyrave	てんさい 輸 第2号	1971 (1964)	1987	オランダ	一代雑種育種法	多収、褐斑病抵抗性が極めて 弱い
カーベエルタ	KW-E	てんさい 輸 第3号	1971 (1964)	1984	西ドイツ	集団育種法	多収、褐斑病抵抗性が弱い
エージェー ポリ 1	AJ Poly-1	てんさい 輸 第4号	1971 (1964)	1978	ポーランド	一代雑種育種法	適地では「導入2号」より多 収、高耐性
○カーベポリ	KW- polybeta	てんさい 輸 第5号	1971 (1964)	1987	西ドイツ	一代雑種育種法	多収、やや高耐性、褐斑病抵 抗性が弱い
台 糖 1 号	台糖1号	てんさい 北海道(輸) 第6号	1971 (1965)	1975	台 糖	集団育種法	褐斑病抵抗性が強く、高収 性である
台 糖 2 号	台糖2号	てんさい 北海道(輸) 第7号	1971 (1965)	1975	台 糖	集団育種法	
台 糖 3 号	台糖3号	てんさい 北海道(輸) 第8号	1971 (1965)	1975	台 糖	集団育種法	
○てんけん1号	T 1002	てんさい 北海道 第9号	1971 (1968)	1978	てん菜研究所	合成品種育種法	初期生育良好、多収、褐斑病 抵抗性強
きたまさり	支7号	てんさい 北海道 第10号	1971	1984	てん菜研究所	合成品種育種法	早生、極多収
○ソロラーベ	Solorave	てんさい 輸 第11号	1971	1987	オランダ	一代雑種育種法	収量、糖分が多胚の「ポリラー ベ」と同程度の単胚品種
○カーベメガモノ	Kawe- megamaro	てんさい 輸 第12号	1972		西ドイツ	一代雑種育種法	倍数体の単胚品種、根重はや 多収型
○モノヒル	Monohill	てんさい 輸 第13号	1973		スウェーデン	一代雑種育種法	単胚品種で褐斑病抵抗性は弱 いが多収性である

草姿	莖色	葉色	花色	いもの						疫病耐性	栽培適地
				形	色	表皮の粗	目の多	目の少	目の深		
や開	緑、一部淡紫	淡	紫	個卵～個球	淡黄白	滑	中	中	白	や強 R <sub>1</sub>	全道、食用
や開	緑	中	白	個球～個卵	淡黄褐	中	中	浅	白	R <sub>1</sub>	全道
や開	緑	や淡	白	球～個球	黄褐	粗	中	や深	黄		道央のジャガイモシストセンチュウ発生地帯
や直	緑(紫)	緑	淡紫	扁卵	淡黄白	や滑	中	中	白	R <sub>1</sub>	道内のでん粉原料用馬鈴しょ栽培地帯
や直	緑	緑	淡紫・先白	長楕円	淡褐	中	中	浅	淡黄	R <sub>1</sub>	道内の食品加工原料用の馬鈴しょ栽培地帯
中	緑	濃緑	淡赤紫	扁球	淡黄褐 (目に淡紅色)	や粗	多	や浅	白	R <sub>1</sub> R <sub>2</sub>	道内のでん粉原料用ばれいしょ栽培地帯
や直	緑地に赤紫色の斑点	淡緑	赤紫	扁球	黄褐	や粗	中	中	淡黄	強 R <sub>1</sub>	全道、とくにジャガイモシストセンチュウ発生地帯に普及を優先する

倍数体	胚数性	葉姿	根形	露肩の多少	分岐根の多少	褐斑病耐性	栽培適地
2倍体	多	直立	長円錐	や多	や多	強	道南部、中央部およびその他の褐斑病多発地域
倍数体	多	中間	短円錐	少	少	弱	網走、十勝地方の褐斑病発生が少ない地帯、これに準ずる地帯
2倍体	多	中間	短円錐	少	少	弱	根釧、十勝、網走の褐斑病発生が少ない地帯
倍数体	多	中間	短円錐	や多	少	や弱	網走地方の紋別、遠軽地区およびこれに準ずる地区
倍数体	多	開平	短円錐	や多	少	弱	根釧、十勝、網走の褐斑病発生が少ない地帯、これに準ずる地帯
2倍体	多	直立	長円錐	少	中	強	道南地域の褐斑病が多発する低台地帯
2倍体	多	直立	長円錐	少	中	強	道南地域の一般低台地帯
2倍体	多	直立	長円錐	少	中	強	道南地域の高台地帯
2倍体	多	直立	長円錐	多	中	強	道南、道央およびその他褐斑病多発地帯
2倍体	多	や開平	短円錐	多	少	弱	根釧、天北地帯およびこれに準ずる地帯
3倍体	単	や開平	円錐	多	少	弱	道東、道北などの褐斑病少発地帯およびこれに準ずる地帯
倍数体	単	や直立	短円錐	中	少	弱	根釧を除く道東、道北の褐斑病少発地帯、これに準ずる地帯
3倍体	単	開平	円錐	中	少	弱	道東などの褐斑病少発地帯、これに準ずる地帯

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
○モノホープ	T 1013	てんさい 北海道交第14号	1973	1987	てん菜研究所	一代雑種育種法	単胚, 多収, 良質, 褐斑病抵抗性強
モノミドリ	T 1021	てんさい 北海道交第15号	1979		北海道農試	交雑育種	中間型(根重, 根中糖分中位)
ハイラーベ	HKE-48	てんさい 輸第16号	1980		オランダ	交雑育種	中間型(根重やや多, 根中糖分やや低位)
モノヒカリ	北海 41号	てんさい 北海道交第17号	1982		北海道農試	交雑育種	中間型(根重多, やや高糖分)
モノホート	HKE-20	てんさい 輸第18号			オランダ	交雑育種	糖分型, 早期収穫に適する
ノバヒル	Novahill	てんさい 輸第19号	1982		スウェーデン	交雑育種	中間型(根重多, 根中糖分中位)
ダイヒル	Dihill	てんさい 輸第20号	1984		スウェーデン	交雑育種	中間型(根重多, 根中糖分中位)
モノエース	Kawe J137	てんさい 輸第21号	1985		西ドイツ	交雑育種	糖分型(根重中位, 高糖分)

注) ○印をつけた品種の特性は「昭和52年度 種苗特性分類調査報告表〜てん菜, さとうきび」昭和53年3月, 甘味資源振興会, よりとった。したがって, 品種決定時(農業試験会議成績書)の記載とやや異なる。その他の品種についても, 男沢(十勝農試)が前出「〜分類調査報告書」の分類基準によって訂正した形質がある。

## 15 はっか

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ほうよう	北交 8号	はっか 北海道 第1号	1971 (1965)	1978	北海道農試	種間交雑	中生種に属し, 基型は直立型で, 耐倒伏性が極めて強く, 機械化向, 高収率, 多収品種である
あやなみ	北交 12号	はっか 北海道 第2号	1971 (1968)	1984	北海道農試	種間交雑	銹病, 倒伏, 線虫などに強い安定多収型で, 機械化集団栽培に適す
わせなみ	北系 J15号	はっか 北海道 第3号	1973		北海道農試	種間交雑	早生短稈で耐倒伏, 耐病性で高収, 油率多収型で連作栽培にも適する
さやかぜ	北系 J16号	はっか 北海道 第4号	1975		北海道農試	倍数体利用 種間交雑	中生の晩で, 高糖分, 多収型品種であるが耐倒伏性は中程度
ほくと	北海 J20号	はっか 北海道 第5号	1982		北海道農試	倍数体利用 種間交雑	中生種の晩に属し, 多収型, さび病, 線虫の抵抗性は強いが, 耐倒伏性は中, 連作適正が高い

## 16 除虫菊

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
わっさむ	26S-6-1	除虫菊 北海道 第1号	1971 (1961)		北海道農試	ケニヤ導入種から の栄養繁殖系統	中生, 分枝数が多いため着花数多く多収, ピレトリン含有率もやや高い

倍数体	胚数性	葉姿	根形	露肩の多少	分岐根の多少	褐斑病耐病性	栽培適地
3倍体	単	やや開平	円錐	少	少	や強	全道一円に適応するが、特に道央および道南における適応性が大きい
3倍体	単	やや開張	円錐	少	少	や強	全道一円、特に道央、道南の適応性が大きい
3倍体	単	やや開張	円錐	中	少	弱	道東一円
2倍体	単	直立	円錐	中	少	や強	道央、道南の移植栽培、十勝中央地域とこれに類似する地域の直播栽培に適する
3倍体	単	開張	円錐	や少	少	弱	全道
3倍体	単	開張	円錐	や少	少	弱	道東を除く北海道全域
2倍体	単	やや開張	円錐	や少	少	弱	上川、留萌を除く道央、根釧地方を除く道東ならびに道南地域のうち湿害の恐れのない地帯
3倍体	単	開張	短円錐	中	少	弱	全道一円

和洋種別	花色	莖の			葉の						さび病耐病性	耐倒伏性	栽培適地
		形	色	毛茸の多少	形	葉脈の色	葉縁	葉生状態	葉柄の長短	葉色			
和種	中	四角柱状	赤紫	無	旋紡錐	明緑	鋸歯	中	短	緑	や強	強	全道の薄荷栽培地帯
和種	濃	四角柱状	赤紫	少	や旋紡錐	淡赤紫	鈍鋸歯	垂	短	濃緑	強	強	全道の和種薄荷栽培地帯
和種	濃	四角柱状	淡赤紫	少	皮針		鈍鋸歯	垂	中	淡緑	強	や強	全道の和種薄荷栽培地帯
和種	濃	四角柱状	赤紫	少	紡錐		鋸歯	垂	短	緑	強	中	全道の和種薄荷栽培地帯
和種	淡紫	四角柱状	淡赤紫	少	長卵形	淡緑	鋸歯	垂	中	緑	強	中	全道の和種薄荷栽培地帯

草姿	毛茸の多少	葉の		舌状花の				管状花の直径	栽培適地
		形	色	数	長さ	幅	着生密度		
叢生	や多	や広	白緑	や多 24枚	並 17.2mm	や狭 6mm		並 19mm	全道の除虫菊栽培地帯

注) 「北海1号」対比

### 17 ラベンダー

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
おかむらさき	遅咲1-4	ラベンダー 北海道 第1号	1971 (1964)		中央農試	在来種より系統選抜	中生、花茎極長、花色やや濃紫、花茎収量やや多、収油率中、油質良
よ う て い	早咲1-3	ラベンダー 北海道 第2号	1971 (1964)		中央農試	在来種より系統選抜	早生、花茎やや長、花色やや淡紫、花茎収量中、収油率極高、油質良
はなもいわ	中咲2-2	ラベンダー 北海道 第3号	1971 (1967)		中央農試	在来種より系統選抜	中生種、花茎長中、花色極淡紫、花茎収量多、収油率定値当初低い

### 18 なたね

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
岩 内	本 第11054号	なたね 北海道 第1号	1972 (1935)	1981	北海道農試	在来種(岩内郡地方、別名「丸菜」)	洋種の秋播晩生種、含油量多く良質、冬損に弱い
ハンブルグ1号*	本育 357号	なたね 北海道 第2号	1971 (1937)	1975	北海道農試	「ハンブルグ」から純系淘汰	洋種の秋播晩生種、含油量多、冬損に強い
タイセツナタネ*	北系 87号	なたね 北海道 第3号	1971 (1961)		北海道農試	「ハンブルグ1号」より選出	洋種の秋播晩生種、耐寒病性強、良質多収、含油率高
イワオナタネ*	MR 1号	なたね 北海道 第4号	1971 (1961)		北海道農試	「岩内」より選抜	洋種の秋播晩生種、強稈、耐寒耐病性強、多収、含油量多

## III 果 樹

### 19 りんご

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
祝	American Summer Pearmain	りんご 北海道輪第1号	1972 (1924)		米国原産	両親不明	中生種としては品質良く、樹体も強健、生理的落果が多い
旭	McIntosh Red	りんご 北海道輪第2号	1972 (1924)		カナダ(オンタリオ州)	偶発実生	結果早く年々豊産であるが、老衰は割合に早く、30年を過ぎると減収傾向
紅 玉	Jonathan	りんご 北海道輪第3号	1972 (1924)		米 国 (ニューヨーク州)	エソパススピッツェンブルクの実生	結果年齢到達早く豊産、独特の風味で品質がよい
陽 玉 (デリシャス)	Delicious	りんご 北海道輪第4号	1972		米国(アイオワ州)	偶発実生	食味は良いが、着色は良くない。結果年齢到達おそく生産力は高くない。
黄 冠 (ゴールデン デリシャス)	Golden Delicious	りんご 北海道輪第5号	1972		米国(ウェストバージニア州)	偶発実生	結果年齢到達早く豊産性、無袋では果面の錆が多い
印 度		りんご 北海道輪第6号	1972	1984	青 森 県	白龍の偶発実生と推定	果汁少なく、甘味強い独特な味、隔年結果性強い
タイズマンレッド	Tydemans Red	りんご 北海道輪第7号	1972 (1967)	1987	英国(イーストモーリントン研)	「旭」×「ウォーセスターペアーメン」	早生種としては品質は良い、収穫前の落果がやや多い
早 生 旭	Early McIntosh	127	1973		米 国 (ニューヨーク農試)	「黄冠」×「旭」	樹勢強健で、早生種としては品質優良、隔年結果性が高い
レッドゴールド	Redgold	128	1973		米国(ワシントン州)	「ゴールデンデリシャス」×「リチャードデリシャス」	結果年齢到達が早く、豊産性で貯蔵性は劣るが、風味良好である

花 基 の			花 色	花序の長短	栽 培 適 地
姿	色	硬 軟			
半平伏 先端曲	緑	や硬	や濃紫	中	現在栽培されている各地
や直立	淡緑	や硬	や淡紫	長	現在栽培されている各地
や直立	淡緑	や硬	極淡紫	中	現在栽培されている各地

和洋種の別	春秋の別	草 姿	葉 色	花 色	粒 の		冬枯歩合	栽 培 適 地
					大 小	色		
洋種	秋	IV型	濃緑	黄	大	黒褐	*21.5	北海道中部以南の気候温暖な地帯に適する
洋種	秋	IV型	淡緑色	黄	大	黒褐	*24.8	北海道東部、北部の寡雪極寒冷地帯を除く各地に適す
洋種	秋	IV型	濃緑	黄	大	黒	17.8	冬枯多発地帯、菌核病多発地帯主として道南
洋種	秋	IV型	濃緑	黄	中	黒	21.8	倒伏し易い地帯、多肥栽培に適し道南の菌核病多発地帯

注) ※印は1965～1959年4カ年平均

樹 勢	樹 姿	収量	熟 期	貯蔵性	果 形	果実の 大きさ	果皮色	肉質	風 味	栽 培 適 地
強健	や直立	中	8月下～ 9月上・中	低	長円～楕円形	160～200g	黄緑地に 紅褐の縞	ち密	果汁多く微酸、甘 味に富み、味優	全道一円
頗る強健 発育旺盛	開張、枝 下垂せず	多	9月下	中	円～扁円形	180～220g	緑黄地に 濃紅色	頗る ち密	最初酸味強いが漸 次甘味増し、味優	全道一円
中	開張しや すい	多	10月中	稍高	円～やや長円	160～230g	全面鮮紅 色	ち密	果汁やや多く、酸 味強いが味優	全道一円
強健、発育 旺盛	結実後開 張	中	10月下	稍高	長円～卵円錐	200～300g	緑黄地に 暗紅の縞	ち密	果汁多く甘味芳香 有、味秀	全道一円
強健、発育 旺盛	半開張	多	10月下	高	長卵～長円形	200～300g	鮮黄色	ち密 極めて良	果汁稍多、甘酸適 和、芳香有、味秀	全道一円
強健	結実後開 張	多	10月下～ 11月上	高	長円で頂部円 錐	200～300g	緑、緑黄 地に淡赤 褐色	ち密 甚だ堅い	果汁非常に少く芳 香強く、酸味なく 甘味強、味良	道央以南
強健	や開張	中	9月上～ 9月中	低	楕円形	180～200g	全面淡紅 色、陽向 面濃紅色	ち密	果汁多く、芳香有、 味優	全道一円
強健	半開張	中	8月中～ 下	低	扁円(円錐)	160～200g	黄緑地に 褐紅	ち密 で軟	果汁多く、やや酸 多いが味優	全道一円
強健	や開張	多	10月上～ 中	中	円	200～250g	全面鮮紅	粗	果汁多く、甘味強 く、微酸、味優	全道一円

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
陸 奥		129	1973		青森県りんご試	「ゴールデンデリシャス」×「印度」	3倍体であるため授粉樹に用いられない。隔年結果性やや強い
ふ じ	東北7号	130	1973		東北農試	「国光」×「デリシャス」	「デリシャス」に比べ生理的落果少く豊産性、食味良好で貯蔵品種として優
スターキング デリシャス	Starking Delicious	131	1973		米 国 (ニュー ジャージー州)	「デリシャス」の枝 変わり	果実の外観食味ともに優れるが、結果年齢到達おそく、生産力高くない
リチャード デリシャス	Richared Delicious	132	1793		米国(ワシ ントン州)	「デリシャス」の枝 変わり	果実の外観食味ともに優れるが、結果年齢到達遅く、生産力高くない
ハックナイン	IIAC9	りんご 北海道 第8号	1985		中央農試	「ふじ」×「つがる」	結果年齢到達早く、豊産で貯蔵性高い、3倍体品種であり、花粉の発芽率は低い
きたかみ	盛岡15号	りんご準第7号	1986		農水省果樹 試盛岡支場	「東北2号」× 「レッドゴールド」	結実樹齡が早く、豊産、食味良
つ が る	背り2号	りんご準第8号	1986		青 森 県 りんご試	「ゴールデンデリ シャス」×(不明)	結果樹齡到達が早く、豊産、食味良

## 20 りんご台木

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
E M VII	M7	33	1972		英国(イース トモーリ ング研)	在来系統を分類し 命名	各樹品種とも接木後の親和性良好で、半わい性となり「マルバ」台の2倍程度密植可
E M IX	M9	34	1972		英国(イース トモーリ ング研)	在来系統を分類し 命名	各樹品種との親和性は良好で、わい性となり「マルバ」台の3~4倍程度の密植可
M M III		35	1972		英国(イース トモーリ ング研、 ジョシイ ンクス試)	「ノザースパ イ」×「M793」	各樹品種とも接木後の親和性良好で、「マルバ」台程度の生育をし、樹体強健



樹勢	樹姿	収量	熟期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉質	風味	栽培適地
強健	半開張	中	10月下	高	長円～円	350～400g	黄緑～黄	や粗 淮	微酸、甘味も有、 2月以降味秀	全道一円
強健	開張	多	10月下～ 11月上	高	円～長円	250～300g	緑黄又は 黄の地に 暗紅縞	黄白 ち密	果汁多く、微酸、 甘味多く味秀	全道一円
強健旺盛	結実後開張	中	10月下	や高	長円～卵円雑	200～300g	満面濃暗 紅	ち密	果汁多く、甘味芳 香有り、味秀	全道一円
極旺盛	結実後開張	中	10月下	や高	長円～卵円雑	250～300g	全面鮮紅	ち密	果汁多く甘味芳香 有り、味秀	全道一円
強健發育 旺盛	開張	多	10月下	高	長円	250～300g	黄緑地に 赤色の縞	黄白 ち密	果汁多く、甘味強 く、微酸、味優	道央以南
中	開張	多	9月下 ～10月上	中	長円	230～250g	黄緑色地 に濃赤の 太い縞	黄白 ち密	果汁多く、甘味に 富み、酸味少なく、 食味良	全道一円
や強	開張	多	9月中～下	低	扁円	150～200	全面濃赤	や粗	果汁多く、甘味、 酸味とも中、食味 良	全道一円

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉質	風味	栽培適地
半わ い性	中	や開張	中	や早ま る	平常	平常	平常	やまさ る	平常	や糖度 上る	現在のりんご産地全道一円
半わ い性	中	開張	小	早まる	や劣る	平常	平常	やまさ る	平常	糖度上 る	現在のりんご産地全道一円
標準	旺盛	中	多	平常	平常	平常	平常	平常	平常	平常	現在のりんご産地全道一円

## 21 なし

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
身 不 知		なし 北海道 第1号	1972 (1936)		不 明	余市地方で実生から発見	晩生種。果実は洋ナシ形、370g内外、収量は多、品質はやや不良
長 十 郎		なし 北海道 第2号	1972 (1924)		神奈川県当麻長十郎	1895年ころ偶然実生として発見	晩生種。果実はやや同円形、280g内外、収量は多、品質は良
バートレット	Bartlett	なし 北海道輸第3号	1972 (1924)		イギリス原産	不明	中生種。果実は円すい形、250g内外、収量は多、品質は良
ブランデーワイン	Brandy-wine	なし 北海道輸第4号	1972 (1924)		不 明	不明	中生種。果実は短円すい形、180g内外、収量は中、品質は最良
日 面 紅	Flemish Beauty	なし 北海道輸第5号	1972 (1924)		ベルギー原産	不明	中生種。果実は円すい形、300g内外、収量は多、品質は良
ウィンターネリス	Winter Nelis	なし 北海道輸第6号	1972 (1924)	1987	イギリス原産	不明	晩生種。果実は短円すい形、150g内外、収量は中、品質は良
初 日		なし 北海道 第7号	1972 (1957)	1987	北海道農試	「長十郎」×「身不知」	早生種。果実は短紡錘形、180g内外、収量は多、品質はやや良
甘 玉		なし 北海道 第8号	1972 (1957)	1987	北海道農試	「長十郎」×「身不知」	中生種。果実は円形、250g内外、収量は中、無袋不可、品質はやや良
北 洋		なし 北海道 第9号	1972 (1957)		北海道農試	「二十世紀」×「長十郎」	晩生種。果実はやや不整な扁円形、250g内外、収量は多、品質は良
北 星*	北農 1号	なし 北海道 第10号	1972 (1966)		北海道農試	「身不知」×「二十世紀」	中生種。果実は紡錘形、250g内外、収量は中程度、品質は良
北 都*	北農 2号	なし 北海道 第11号	1972 (1966)		北海道農試	「二十世紀」×「身不知」	中生種。果実は短紡錘形、230g内外、収量は中程度、品質は最良
北 甘*	14号	なし 北海道 第12号	1980		北海道農試	「甘玉」×「二十世紀」	早生の晩。果実は円形で約240g。収量中位、食味良、無袋不可
北 豊*	77号	なし 北海道 第13号	1980		北海道農試	「身不知」×「長十郎」	早生種。果実は不整な短楕円形、290g内外、多収性、甘味強く食味良

## 22 ぶどう

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
キャンベルアーリー (カメルスアーリー)	Campbell Early	ぶどう 北海道輸第1号	1972 (1924)		米国 (オハイオ州)	「ムーアアーリー」の実生	黒色種。果房果粒共に大きい。極めて豊産性である
デラウェア	Delaware	ぶどう 北海道輸第2号	1972 (1924)		米国 (オハイオ州)	偶発実生、1849年発表	赤色種。果房果粒共に小さい。甘味多い。耐寒性はやや劣る
ナイヤガラ	Niagara	ぶどう 北海道輸第3号	1972 (1924)		米 国 (ニューヨーク州)	「コンコード」×「キャサディ」	白色種。豊産性で甘味多いが、熟期遅い。孤臭強い
ブライトン	Brighton	ぶどう 北海道輸第4号	1972 (1924)	1984	米 国 (ニューヨーク州)	「ダイアナハンブルグ」×「コンコード」	赤色種。甘味多く品質は良いが、自家不受精のため結実不安定
バッファロー	Buffalo	ぶどう 北海道輸第5号	1972 (1966)		米 国 (ニューヨーク農試)	「ハーバート」×「ワトキンス」	黒色種。糖酸共に多く、独特の香りがある。耐寒性はやや劣る
ポートランド	Portland	133	1973		米 国 (ニューヨーク農試)	「チャンピオン」×「ルチー」	白色種
フレドニア	Fredonia	134	1973		米 国 (ニューヨーク農試)	「チャンピオン」×「ルシール」	黒色種。熟期やや早く、酸味やや少ない。脱粒し易い

樹勢	樹姿	収量	収穫期	追熟期間	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉質	風味	品質	栽培適地
強	開張	多	10月中・下		中	円錐	370g内外	緑黄	粗	や良	や良	本道独特の品種で耐寒性強く、本道一円に栽培できるが、品質的・経済的栽培は道央以南の地域
中	直立	多	10月下		高	や扁円	280g内外	淡褐	や粗	良	良	晩生種で耐寒性に弱いことから、道央南部以南の地域
強	開張	多	9月上・中	7~10日	短	円錐	250g内外	橙黄	密軟	良	良	耐寒性は「身不知」より弱い。道央以南で最低気温が-25~-26℃以下にならない地域
強	開張	中	9月下	2週間前後	短	短円錐	180g内外	黄緑	密軟	良	最良	耐寒性は「身不知」に近い。道央以南の地域
強	開張	多	10月上	2週間前後	短	円錐	300g内外	黄緑	密軟	良	良	耐寒性は強く「身不知」に近いが、経済栽培は道央以南の地域
中	や開張	中	10月下	2~3カ月	短	短円錐	150g内外	暗緑	や粗軟	良	良	耐寒性は強く「身不知」に近い。道央以南の地域
強	や開張	多	9月中		低	短紡錘	180g内外	緑褐	や密	良	良	耐寒性が強く早生種であることから、道央以北の適品種のなかった地域の自家用栽培に適する
強	開張	中	9月下 10月上		中	円	250g内外	淡緑黄	や粗	良	良	耐寒性の点からみて、胆振以北の最低気温が-27~-28℃以下にならない地域
強	開張	多	10月下		高	不整な扁円	280g内外	淡褐	密	良	良	空知以南、胆振以北の中部地方に適する。黒草病の被害少なく、粗放栽培に耐えるので道南の一部地方にも適する
中	開張	中	9月下		中	紡錘	約250g	緑黄	や粗	良	良	「長十郎」の栽培されている地域
強	開張	中	9月下		中	短紡錘	約230g	白緑黄	密	良	最良	中生種「身不知」の栽培されている地域
強	や開張	多	9月中 ~下		低	不整な短楕円	290g内外	黄緑褐	や粗	良	中	耐寒性強く、早生種であり、道央以北(石狩、空知、上川、網走)の地域
強	や開張	中	9月下		中	円	240g内外	黄緑	や密	良	良	耐寒性の点からみて道央以南(渡島、後志、石狩、胆振)の地域

樹勢	収量	熟期	果房形	着粒の疎密	果粒形	果房の大きさ	果粒の大きさ	果皮色	肉質	風味	その他	栽培適地
中	極多	9月下 ~ 10月上	長円錐	密	円	大	や大	黒	軟	酸や多		道央南部以南
強	中	10月上	円筒	や密	円	小	小	赤褐	軟	酸味少 甘味多	GA処理により 種なし化、 熟期促進化可	道央南部以南
強	多	10月上 ~ 中	円錐	密	円	中	中	黄緑	軟	甘味多 狐臭強		道央南部以南
強	少	10月上	長円錐	中	円	中	中	暗赤	軟	甘味多	自家不受精	道央南部以南
や強	中	9月下 ~ 10月上	円錐	や疎	円	中	中	紫黒	軟	糖酸芳香	GA処理により 種なし化、 熟期促進化可	道央南部以南
中	中	9月中 ~ 下	円筒	中	円	中	中	緑黄	軟	甘味多		道央南部以南
強~中	中	9月下	短円筒	密	扁円	中	中	青黒	軟	酸や少		

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ミュラー トルガウ	Müller Thurgau	ぶどう 準輸第3号	1981		ド イ ツ (ス イ ス)	「リースリング」×「ジ ルバーナー」	白ワイン用醸造専用品種。耐 寒性はやや劣る
セイベル 5279	Seibel 5279	ぶどう 準輸第4号	1981		フ ラ ンス	「セイベル788」× 「セイベル29」	白ワイン用醸造専用品種。花 振いやや多い
セイベル 13053	Seibel 13053	ぶどう 準輸第5号	1981		フ ラ ンス	「セイベル7042」× 「セイベル5409」	赤ワイン用醸造専用品種
ツバイゲルト レ ー ベ	Zweigelt- rebe	ぶどう 準輸第6号	1981		オーストリア	「ブラウフレン キッシュ」×「サン ローラン」	赤ワイン用醸造専用品種

### 23 オウトウ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
日 の 出		その他 北海道第10号	1972 (1922)		イギリス原産	不明	極早生、果実は紫黒色でやや 小さい。多汁であるが甘味は やや乏しい。
北 光 (水 門)		その他 北海道第11号	1972 (1922)		小樽市で発見	偶発実生、1912年 (明44)	中生種、果実は中位で軟らか く、多汁である。裂果が少な い。
ナポレオン		その他 北海道第12号	1972 (1922)		欧州在来	不明、1700以前に 発表	晩生種、果実は大きく肉質は やや硬い。甘味多く、品質は 良い、加工適性有
佐 藤 錦		135	1973		山 形 県 佐藤栄助	「ナポレオン」× 「黄玉」	中生種、果実は黄赤色で中位、 甘味多く、品質は良い

### 24 ウ メ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
豊 後		その他 北海道第13号	1971		不 明	不明	耐寒性が強く、大果で果肉が 厚く加工向きだが梅干に不 適、耐病虫性弱
大 野 豊 後		153	1975		道南農試	大野町の豊後梅の 在来種中より選抜	耐寒性も強く、結果期早く、 豊産性で果実小さく梅干に向 くが、樹勢弱く樹形維持に難 点がある

### 25 スモモ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ビューティ		136	1973 (1925)		米 国	不明	極早生、豊産なるも小果で食 味不良、日焼多、黒斑病弱、 貯蔵性劣る
大 石 早 生		137	1973 (1952)		福島県大石 俊雄氏園	フォーモサ実生 (♂ビューティ)	極早生、豊産なるも、小果で 食味不良、日焼少きも黒斑病 に弱い

樹勢	収量	熟期	果房形	着粒の疎密	果粒形	果房の大きさ	果粒の大きさ	果皮色	肉質	風味	その他	栽培適地
中～や弱	中	10月上	円筒	密	短楕円	中	小	黄緑	軟			空知以南およびそれに準ずる地帯
や強	中	9月下～10月上	円筒	中	扁円	や小	小	黄白	軟			上川以南およびそれに準ずる地帯
中	中	9月下～10月上	円錐	中	円	小	小	黒	軟			上川以南およびそれに準ずる地帯
中	中	10月上	円錐	極密	円	中	小	紫黒	軟			空知以南およびそれに準ずる地帯

樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	肉色	肉質	風味	品質	裂果	栽培適地
中	直立	中	6月下	心臓	中	紫黒	紫赤	軟	甘味中 微酸	中	中	道央以南
強	半開張	多	7月上	心臓	中	赤帯黄	淡黄	軟	甘酸中 位	中	少	道央以南
強	直立	多	7月中～下	長心臓	大	赤帯淡 黄	黄白	やや硬	甘味多	上	中	道央以南
強	直立	多	7月初	短心臓	中	黄赤	黄白	軟	甘味多	上	中	道央以南

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	自家結実性	収穫期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	風味	その他	栽培適地
大	強	や直立	や多	有	8月上	有	円～長円	大(30～60g)	黄緑地暗 紅斑	中	縫合線不明 不整果多 玉揃不良	道南、道央
小	弱	開張	多	有	8月上		円	小～中	黄緑	良		道央、道南

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	自家結実性	熟期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉色	肉質	風味	その他	栽培適地
や少	良好	直立～開張	極多	有	8月中～下	劣	円錐心臓	小(100g)	鮮紅	黄色～淡紅	柔軟、多汁	少甘、少酸	黒斑病弱 日焼多	道南、道央、道東
や大	強	直立～開張	多	不良	8月中～下	劣	円錐心臓	小(100g)	鮮紅	黄	柔軟	少甘、極少酸		道南、道央、道東

## 26 モモ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
倉 方 早 生		138	1973 (1951)		東 京 都 倉 方 英 藏 氏 園	「長生種(タスカ ン×白桃)」×「実 生種」	外観美麗、食味多甘、貯蔵性 良好なるも肉質や硬で自家結 実性乏しい
白 鳳		139	1973 (1931)		神 奈 川 県 梶 野	「白桃」×「橘早生」	食味、色沢良好なるも、中果、 中産、弱勢、耐病性弱、等で 栽培管理注意
大 久 保		140	1973 (1925)		岡 山 県 大 久 保 重 五 郎 氏 園	白桃実生	果実外観優れ、貯蔵輸送性良 好なるも、弱矮開張下重性と 食味淡白
砂 子 早 生		141	1973 (1958)		岡 山 県 上 村 輝 男 氏 園	偶発実生	大果、外観美麗、食味良好、 貯蔵性良好なるも、自家結実 性なし

## 27 カーラント

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ロ ン ド ン マ ー ケ ッ ト	London Market	142	1973 (1965)		不 明 (イ ギ リ ス で 古 く か ら 栽 培)	不 明	樹は大きく開張性、ごく豊産、 熟期7月中～下旬、果実は赤 く大きい
ロ ー ズ オ ブ ホ ー ラ ン ド	Rose of Holland	143	1973 (1965)		不 明 (フ ラ ン ス で 古 く か ら 栽 培)	不 明	樹は大きく直立性、熟期7月 下旬～8月上旬、ごく豊産、 果実の大きさ中で濃赤色
レ ッ ド レ ー ク	Red Lake	144	1973 (1965)		ア メ リ カ (ミ ネ ソ タ 農 試)	不 明	樹の大きさは中、開張性、収 量中、熟期7月中旬、果実は 大きく赤い
ボ ス ク ー プ ジ ャ イ ア ン ト	Boskoop Giant	145	1973 (1965)		オ ラ ン ダ	不 明	樹は大きく開張性、収量中位、 熟期7月下旬～8月上旬、果 実は黒く大きい
レ ッ ド ダ ッ チ	Red Dutch		1973		不 明 (ヨ ー ロ ッ パ 起 源)	不 明	樹は大きく、直立性、豊産性、 熟期は7月中～下旬、果実の 大きさは中で赤色

## 28 ハイブッシュブルーベリー

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ジ ュ ー ン	June	146	1974		米 国	「(ブルックス)× (ラッセル)」× 「ルーベル」	早生種、樹姿はやや開張性で 大きく、収量が多い、凍害に 強い
ラ ン コ カ ス	Rancocas	147	1974		米 国	「(ブルックス)× (ラッセル)」× 「ルーベル」	中生種、樹姿はやや開張性で 大きく、収量が多い。凍害に 強い
ウ ェ イ マ ウ ス	Weymouth	148	1974		米 国	「ジューン」× 「キャボット」	早生種、樹姿は開張性で小さ く、収量が多い。凍害に強い
ハ ー バ ー ト	Herbert	149	1974		米 国	「スタンリー」× 「(ジャージー)× (パイオニヤ)」	中生種、樹姿は開張性で大き く、収量が多い。凍害にやや 強い

## 29 グーズベリー

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ピ ッ ク ス ウ ェ ル	Pixwell	158	1976		米 国	「リベス・ミズリエ ンシス」×「オレゴ ンチャンピオン」	熟期7月下旬、果実は大きさ 中位で円形、紫紅色、糖度高 い、ごく多収

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	肉色	肉質	核の粘澱	風味	品質	その他	栽培適地
や大	強	や開張	多	8月下	整円	中の小 (150g)	果頂紅 ほかし	白色	ち密	粘核	多甘少 酸良	良好	耐病性强、核 割少、核 周着色	渡島、松山、胆振、 日高 (中西部)
や大	中～ や弱	開張	中	9月上 ～中	円～ 長円	中 (180g)	乳白色 紅ほかし	白色	ち密や 硬	半離粘	多甘極 少酸	良好	耐病性や弱 核周淡紅、 剥皮容易	渡島、松山、胆振、 日高 (中西部)
中～小	弱	極開 張	多	9月中	円	大 (260g)	乳白紅 斑	白色	や粗	離核	甘酸共 や淡白	や良	日焼多、核 周淡紅穿孔 病弱	渡島、松山、胆振、 日高 (中西部)
大	や強	開張	多	8月下	楕円 ～円	大 (250g)	乳白色 紅ほかし	白色	ち密繊 維や少	半離粘	多甘少 酸	良好	耐病性强、 核割少、剥 皮容易	渡島、松山、胆振、 日高 (中西部)

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果房長	果形	果実の大きさ	果皮色	耐寒性	栽培適地
大	強	開張	ごく多	7月中下	や長	円	大	赤	強	全道
大	強	直立	ごく多	7月下 ～8月上	長	円	中	濃赤	強	全道
中	中	開張	中	7月中	や長	円	大	赤	強	全道
大	強	開張	中	7月下 ～8月上	短	円	大	黒	強	全道
大	中	や直立	多	7月中 ～下	中	円	中	赤	強	全道

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	風味	耐寒性	栽培適地
大	中	や開張	多	7月下 ～8月下	や扁円	中	濃藍	甘味中位	強	道央以南
大	中	や開張	多	8月上 ～8月末	や扁円	中	濃藍	甘味多	強	道央以南
小	弱	開張	多	7月下 ～8月中	や扁円	や大	濃藍	甘味多	強	道央以南
大	中	開張	多	8月中 ～9月中	扁円	大	濃藍	甘味中位	や強	道央以南

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	品質	耐寒性	栽培適地
大	強	や開張	ごく多	7月下	円	中	紫紅	良	強	全道。土壤適応性は広い が排水の良い粘質があつた 土壌が適す

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
グレンダール	Glennedale	159	1976		米 国	「グロスラリア・ミズリエンス」×「栽培種の子孫」	熟期7月下旬、果実は大きき中位で円形、紫紅色、糖度高い、ごく多収
オレゴン チャンピオン	Oregon Champion	160	1976		米 国	「クラウン・ボブ」×「ホートン」	熟期7月下旬、果実は大きき中位で円形、緑黄色、糖度高い
ホ ー ト ン	Houghton	161	1976		米 国	アメリカ種×ヨーロッパ種	熟期7月下旬、果実はやや小さく円形、暗赤色、糖度高い、多収
赤 実 大 玉			1968		不 明	不明	熟期7月下旬、果実は大で長円形、暗赤色、糖度は中位、多収、ウドンコ病に弱い、ヨーロッパ系品種
ド イ ツ 大 玉	White-smith		1968		不 明	不明 (英国起源)	熟期7月中旬、果実は大で長円形、緑白色、収量は中位、ウドンコ病に弱い、ヨーロッパ系品種

### 30 キイチゴ (ラズベリー)

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ラ ー ザ ム	Latham	その他 北海道 14号	1972 (1940)		米 国	「キング」×「ロウドン」	樹は大きく、樹勢強、豊産性、熟期は7月下旬～8月下旬、果実は円形で鮮紅色
ゴールデン・ クイーン	Golden Queen	その他 北海道 15号	1972 (1940)		米 国	「カスパート」の突然変異種	樹は大きく、樹勢は中位、やや豊産性、熟期は7月下旬～8月下旬、果実は円形で鮮黄色
カ ス パ ー ト	Cuthbert		1974		米 国	偶発実生	樹は大きく、樹勢は強、熟期は7月下旬～8月下旬、果実は円形で濃赤色
フレミング・ ジャイアント	Flaming Giant		1974		米 国	野生赤色間の交雑実生	樹の大きさと樹勢は中位、多収性、熟期は7月中旬～8月中旬、果実は短円形で鮮紅色
セブテンバー	September		1974		米 国	「マーシー」×「レーニア」	樹の大きさと樹勢は中位、豊産性、二季成りで熟期は7月中旬～8月中旬と9月中旬～終霜まで、果実は短円形で鮮紅色

## IV 花 卉

### 31 花ユリ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ハゴロモ	交配2号	花ユリ 北海道 第1号	1972 (1960)	1979	北海道立農試	「あかひらと」×「おくさんぶせん」	開花7月下旬～8月上旬、花色朱紅色、花弁反転、球芽なく下向咲、切花用
岩内透3号	146号	花ユリ 北海道 第2号	1972 (1964)	1979	北海道立農試	自生「エソスカシユリ」より選抜	開花6月上・中旬、花色鮮紅色、斑点少くコップ状で上向、促成切花用
えぞあか	岩字7号	花ユリ 北海道 第3号	1972 (1967)	1979	中央農試	「えぞ透」×「千草」	開花期6月中・下旬、花色赤橙色、斑点少、反転なく上向咲、促成切花用
えぞこがね	岩字16号	花ユリ 北海道 第4号	1972 (1967)	1979	中央農試	「えぞ透」×「透ゆり」(不明)	開花期6月中・下旬、花色黄橙色、斑点中、上向咲、稍々大輪、促成切花用
岩内黄金	4503	花ユリ 北海道 第5号	1976		中央農試	(3712)×(F系)	開花期6月下旬～7月上旬、花色濃黄色、斑点少く横向咲、促成切花用
コタンの月	5226	花ユリ 北海道 第6号	1986		中央農試	「4737」×「664」	極遅咲き、草姿良く、花数多い



樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	品質	耐寒性	栽培適地
大	強	やや開張	多	7月下	円	中	紫紅	良	強	全道。土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
中	やや強	やや開張	中	7月下	円	中	緑黄	良	強	全道。土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
中	やや強	やや開張	多	7月下	円	やや小	暗赤	良	強	全道。土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
小	中	開張	多	7月下	長円	大	暗赤	良	強	全道。土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
小	中	開張	中	7月中	長円	大	緑白	良	強	全道。土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	品質	耐寒性	栽培適地
大	強	上向開張	多	7月下～8月下	円	中	鮮紅	中	強	全道。土壌適応性は広いが、有機質に富んだ砂壤土が適す
大	中	上向開張	やや多	7月下～8月下	だ円	小	鮮黄	上	強	全道。土壌適応性は広いが、有機質に富んだ砂壤土が適す
大	強	上向開張	中	7月下～8月下	だ円	小	濃赤	中	強	全道。土壌適応性は広いが、有機質に富んだ砂壤土が適す
中	中	上向開張	多	7月中～8月中	短だ円	中	鮮紅	上	強	全道。土壌適応性は広いが、有機質に富んだ砂壤土が適す
中	中	上向開張	多	7月中～8月中旬 9月中旬	短だ円	中	鮮紅	中	強	全道。土壌適応性は広いが、有機質に富んだ砂壤土が適す

開花期	草丈	葉数	花色	花形	花序	花梗	葉毛	葉色	木子	珠芽	葉の着生	葉色	葉形	球根の色
月、日 6.10	cm 70	枚 78	鮮紅	上向	輪生	やや長	少	緑	普通	なし	密	緑	披針形	白
6.10	70	78	鮮紅	上向	輪生	やや長	少	緑	普通	なし	密	緑	披針形	白
6.21	37	93	赤橙	上向	輪生	中	有中	緑	僅かに有	なし	水平		披針形	白
6.20	48	86	黄橙	上向	輪生	中	有中	緑	ほとんどなし	ほとんどなし	垂下		披針形	白
6月下旬～7月上旬	35～40	60	濃黄	スカン 横向	輪生	中	なし	緑	僅かに有	なし	水平		披針形	白
7月下旬	80～90	90～100	鮮黄	上向～ 斜上向		中	微～無	淡褐	多	なし		緑	披針形	白

V 野 菜

32 トマト

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	特 性						栽 培 適 地
					草勢	熟期	果形	果色	果重	耐病虫性	
あ か ぎ	25	1972	1979	東京シード	強	中	豊円	緋赤	148 <sup>g</sup>		全道一円
宝 冠 1 号	26	1972	1979	武蔵野種苗	中	早 ~中	豊円	濃桃	146		全道一円
新 登 紀	27	1972	1979	ヤマト種苗	中	早 ~中	扁円	桃	152		全道一円
登 緑	28	1972	1979	サカタ種苗	強	中	扁円	濃桃	162	F	全道一円
スーパーキング	29	1972	1979	ヤマト種苗	中 ~強	早 ~中	扁円	濃桃	177		全道一円
福 寿 2 号	50	1972 (1930)	1979	タキイ種苗	中	早	豊円	濃桃	157		全道一円
ひ か り	51	1972 (1961)	1979	園芸生産研	中	中	豊円	濃桃	172		全道一円
宝 冠 2 号	52	1972 (1963)		武蔵野種苗	中 ~強	早 ~中	豊円	濃桃	200		全道一円
栄 寿	53	1972 (1965)	1979	タキイ種苗	中 ~強	早 ~中	豊円	濃桃	171		全道一円
東 光	54	1972 (1961)		む さ し	中	早 ~中	豊円	濃桃	175		全道一円
強 力 栄 寿	55	1972	1979	タキイ種苗	強	中	豊円	濃桃	200	F.TMV CL	全道一円
強 力 五 光	56	1972	1979	む さ し	強	中	豊円	鮮桃	156	F.CL. N	全道一円
強 力 月 光	57	1972	1979	む さ し	強	中	豊円	濃桃	180	F.CL.N	全道一円
ウルバーナ	トマト北海道 道輪第1号	1972 (1965)	1979	導 入	強	早 ~晩	扁円 球 豊満	赤	100	中	全道一円
ファイヤーボール	トマト北海道 道輪第2号	1972 (1966)	1979	導 入	強	早	豊満	濃赤	100		全道一円
早生だるま	164	1977		松 永	強	早	豊満	濃赤	70		道央以南

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	特 性						栽培適地
					草勢	熟期	果形	果色	果重	耐病虫性	
交 1 号	165	1977	1984	北海道農試	強	早	登満	赤	110		道央以南
れいぎょく	166	1977	1984	長野農試	強	早	登満	濃赤	120	F	道央以南

注1)果重として北農試のデータ(1970年)

2)耐病虫性 F(萎ちょう病)TMV(タバコモザイク病)CL(はかび病)N(根こぶ線出)の略

### 33 ナス

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	草姿	熟期	分枝	果形	果色	収量	栽培適地
金井新交鈴成	58	1973 (1960)	1979	金 井	開張	早	多	長卵	濃黒紫	多	全道一円
新 橋 真	59	1973 (1960)	1979	ヤマト種苗	開張	早	多	長卵	濃黒紫	多	全道一円
郡 真 5 号	60	1973 (1970)	1979	群 馬	や立	早	多	長卵	漆黒	多	全道一円
金 井 早 真	61	1973 (1970)	1979	金 井	立	極早	多	中長	濃黒紫	多	全道一円
千 岡	62	1973		タキイ種苗	半開張	早	多	長卵	漆黒	多	全道一円
長 岡 長	63	1973	1979	タキイ種苗	半開張	極早	多	長	漆黒	多	全道一円

### 34 ビーマン

品 種 名	登録名	決定年	廃止年	育成場所	特 性						栽培適地
					草勢	熟期	分枝性	果形	果重	果内の厚さ	
緑 王	64	1973 (1963)	1979	む さ し	開張	極早	多	4角 長果	40g	中	全道一円
エ ー ス	65	1973 (1970)		タキイ種苗	開張	極早	多	中鋸子	50	中	全道一円
に し き	66	1973 (1970)	1979	園 芸 研	半開	中早	多	長鋸子	40	厚	全道一円

### 35 キュウリ

品 種 名	登録名	決定年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地	
					草勢	葉の 大小	低温 伸長 性	着果 習性	果形	果色	いぼ の色	収量		作型
長 日 背 節 成	30	1972	1979	ヤマト種苗	強	大	良	主	長	緑	黒	多	促成用	全道一円
久留米落合II型	31	1972	1979	久留米原種 育 成 会	強	中	良	主	長	濃緑	黒	多	促成用	全道一円
夏 崎 落 3 号	32	1972	1979	埼玉原種 育 成 会	強	中	良	主	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円

品 種 名	登録名	決定年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地	
					草勢	葉の 大小	低温 伸性	着果 習性	果形	果色	いぼ の色	収量		作型
小 城 節 成	41	1973 (1956)	1979	フジイ種苗	強	中	良	主	長	濃緑	黒	中	露地用	全道一円
翠 青 2 号	42	1973 (1956)	1979	タキイ種苗	強	中	良	主	長	濃緑	黒	多	促成用	全道一円
と き わ 夏 節	43	1973 (1963)	1979	サカタ種苗	強	小	中	側	中	濃緑	白	多	露地用	全道一円
亀 交 春 秋	44	1973 (1964)	1979	渡辺農事	強	大	良	主	長	淡緑	黒	多	抑制用	全道一円
松 の み ど り	45	1973 (1965)	1979	日本園芸 生産研	強	中	良	主	長	濃緑	黒	多	促成用	全道一円
長 交 と き わ	46	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	中	中	主	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円
さ つ き み ど り	47	1973 (1970)	1979	サカタ種苗	強	小	中	側	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円
み な づ き	48	1973 (1970)	1979	カネコ種苗	強	大	良	主	中	濃緑	黒	多	促成用	全道一円
な つ み ど り	49	1973 (1970)	1979	神田育種	強	大	中	側	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円

### 36 メロン

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	分類	草勢	果形	果皮色	果肉色	果重	成熟日数	栽培適地
北海道キング系	67	1973	1979	各 社	ネット	強	長円	灰緑	桃	kg 1.8	45	全道一円
アールス フェボリット	68	1973		各 社	ネット	中	円	灰緑	緑	1.4	55	全道一円
プ リ ン ス	69	1973 (1967)		サカタ種苗	ノー ネット	強	長円	灰緑	桃	0.6	40	全道一円

### 37 スイカ

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	分類	草勢	果皮色	果肉色	果重	糖度	成熟日数	栽培適地
大 和 西 瓜	スイカ北海 道移第1号	1972	1979	大和農園	縞皮	強	鮮緑 条斑	緋赤	kg 6~7	% 11	日 40	全道一円
新 三 笠	70	1973 (1962)	1979	南都農園	縞皮	強	鮮緑 条斑	緋赤	5~6	12	40	全道一円
縞 王	71	1973 (1968)		大和農園	縞皮	強	鮮緑 条斑	緋赤	5~6	12	40	全道一円
早 生 金 剛	72	1973 (1970)	1979	み か ど	縞皮	強	濃緑 条斑	鮮黄	7	11	45	全道一円

38 カボチャ

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育 成 場 所	草 勢	果 形	果皮色	果 重	成熟 日数	取 量	栽培適地
美園デリシャス	73	1973 (1954)	1979	雪印種苗	強~中	ハート 型	暗緑	2.6 <sup>kg</sup> ~3.5	55	多	全道一円
芳香肯皮	74	1973 (1969)	1979	渡辺採種	強	扁円	帯灰緑	1.0 ~1.5	30	中	全道一円
錦 芳 香	75	1973 (1970)	1979	渡辺採種	強	扁円 尻突	濃緑 白縞斑	1.0 ~1.5	30	中	全道一円
え び な	76	1973 (1972)		タキイ種苗	強	扁円	濃緑 淡緑縞斑	0.9 ~1.2	25	中	全道一円

39 イチゴ

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育 成 場 所	特 性								栽培適地
					草 勢	葉の 大きさ	ランナー 発生数	果色	果の 大小	果形	熟期	取量	
ホ レ ラ	23	1972	1979	導 入	強	中	中	鮮紅	中	球円 錐	中	多	全道一円
盛 岡 16 号	イチゴ北海道 道移第1号	1973		野 菜 試	強	大	中	淡紅	大	円錐	中	少	全道一円
幸 玉	77	1973 (1961)	1979	玉 利 氏	強	中	多	紅赤	中	円錐	晩	多	全道一円
ダ ナ ー	78	1973 (1961)	1979	導 入	強	大	中	濃紅	中 ~大	円錐	中	中	全道一円
レ ッ ド コ ー ト	79	1973 (1965)	1979	導 入	強	中	多	濃紅	中	円錐	中	中	全道一円
キ ャ ベ リ ア	80	1973 (1965)	1979	導 入	中	中	多	紅	中	円錐	中	中	全道一円
宝 交 早 生	81	1973 (1970)		兵 庫 農 試	強	中	多	鮮紅	中 ~大	円錐	早	多	全道一円

40 キャベツ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育 成 場 所	特 性										栽培適地
					草 勢	球形	シマリ	肉質	球重	耐暑性	結球 日数	取量性	作型		
コペンハーゲン マーケット	キャベツ 北海道輸第1号	1972 (1924)	1979	導 入	中	丸	良	不良	中	中	日 90	小	早出	全道一円	
サクセッション	キャベツ 北海道輸第2号	1972 (1924)	1979	導 入	強	扁円	中	良	や大	強	120	中	秋	全道一円	
札幌甘らん	キャベツ 北海道輸第3号	1972 (1924)		各 社	強	扁円 腰高	良	中	極大	中	150	多	秋貯	全道一円	
中 村 仲 秋	82	1973 (1950)	1979	中 村 採 種	強	扁円	良	中	大	中	120	中	秋	全道一円	
ア ラ ス カ	83	1973 (1967)	1987	導 入	中	球	良	極良	小	中	90	小	早出	全道一円	
C M	84	1973 (1967)		タキイ種苗	中	球	良	良	小	中	95	小	早出	全 道	

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地	
					草勢	球形	シマリ	肉質	球重	耐暑性	結球 日数	収量性		作型
四 季 穫	85	1973 (1969)	1979	タキイ種苗	強	扁円 腰高	良	不良	大	強	120	中	夏秋貯	全道一円
晩 抽 理 想	86	1973 (1969)		タキイ種苗	強	扁円	良	中	中	強	120	中	秋貯	全道一円
S E	87	1973 (1970)		長野農試	強	扁円	良	良	中小	強	120	中	秋	全道一円
夏 蒔 理 想	88	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円 腰高	良	中	や大	強	115	中~多	秋	全道一円
2 月 穫	89	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円	良	良	中	中	120	中	秋	全道一円
初 秋	90	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円	良	良	中~ 小	極強	120	中	夏秋	全道一円
大 丸 と も え	91	1973 (1970)	1979	中村採種	強	扁円	良	良	大	中	150	多	秋貯	全道一円
長 岡 早 生	92	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円	良	良	中	強	120	中	早出	全道一円
金 系 201 号	キャベツ 準移第12号	1983		坂田種苗	強	扁円	良	良	小	中	105	中	初夏~ 秋	全道一円
北 ひ か り	キャベツ 準移第13号	1983		タキイ種苗	強	扁円	良	良	小	中	105	中	初夏~ 秋	全道一円
スピードボール	キャベツ 準移第14号	1983		渡辺採種	中	球	良	中	小	中	95	中	早出	全道一円
アーリーボール	キャベツ 準移第15号	1983		サカタ種苗	中	球	良	良	小	中	100	中	早出~ 秋	全道一円
デリシャス	キャベツ 準移第16号	1983		渡辺採種	強	扁円	良	良	中	強	105	多	夏~ 秋	全道一円
初 秋 穫	キャベツ 準移第17号	1983		野崎採種	強	扁円	良	良	中	強	105	多	夏~ 秋	全道一円

#### 41 カリフラワー

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性						栽培適地
					草 姿	花蕾色	シマリ	花蕾重	成日 熟数	収 量	
アーリー スノーボール	その他北海道 道輸第2号	1972		導 入	半開張	白	良	kg 0.8	日 45	中	全道一円

#### 42 ハクサイ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地	
					草勢	球形	シマリ	1球重	収量	結実 日数	耐病 虫性		作型
仲 秋	93	1973 (1963)		渡辺採種	強	円筒	良	kg 4	多	日 85	中	秋	全道一円
王 将	94	1973 (1963)		タキイ種苗	強	円筒	良	4	多	85	強	秋	全道一円

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草勢	球形	シマリ	1球重	収量	結球日数	耐病虫性	作型	
大 関	95	1973 (1963)	1979	タキイ種苗	強	円筒	良	kg 3~4	多	85~ 90	強	秋	全道一円
オリンピック	96	1973 (1966)		渡辺採種	強	円筒	良	4~5	多	90~ 100	強	秋	全道一円
春蒔極早生	97	1973 (1967)	1979	タキイ種苗	中	円筒	良	1.5~ 2.0	小	70	強	早出	全道一円
長交2号	98	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	中	短円筒	良	2.2~ 2.6	小	70	中	早出	全道一円
横 綱	99	1973 (1972)	1979	タキイ種苗	強	円筒	良	4	多	85	強	秋	全道一円
無 双	100	1973 (1972)		タキイ種苗	中	円筒	良	2.5~ 3.5	中	75	強	早出	全道一円
60日みどり	101	1973 (1972)	1979	タキイ種苗	中	円筒	良	2~3	中	75	強	早出	全道一円

#### 43 つけ菜

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					分類	草姿	葉形	葉色	葉柄色	辛味	収量	
白 菜 体 菜	この他北海道第3号	1972	1979	各 社	体菜	立	半球	緑	白	なし	中	全道一円

#### 44 タマネギ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草姿	抽台	乾腐病	倒伏期	球形	外皮色	球重	貯蔵性	
オータムブライド	24	1972	1987	導 入	や立	並	並	晩	球	濃黄銅	や小	良	全道一円
札 幌 黄	タマネギ北海道輪第1号	1972 (1924)		導入選抜	中	並	並	や晩	球	黄銅	や大	並	全道一円
ブーリーイエロー グローブ	123	1973 (1962)	1979	導 入	や立	並	並	晩	球	黄銅	中	並	全道一円
アンコール	124	1973 (1962)	1979	導 入	や立	並	並	晩	球	黄銅	中	並	全道一円
北 見 黄	162	1976		北見農試	中	並	並	中	球	黄銅	中	並	網 走
フ ラ ス イ	たまねぎ北海道交第2号 たまねぎ優良2号	1979		北海道農試	や立	並	強	中	や平	や淡黄	や小	良	全道の乾腐病多発地
月 輪	たまねぎ準移第5号	1982		渡辺採種	中	並	や弱	中	甲高	黄銅	大	や不良	全道一円
ひ ぐ ま	たまねぎ準移第6号	1983		タキイ種苗	中	並	や弱	中	甲高	黄銅	大	や不良	全道一円
そ ら ち 黄	たまねぎ準移第7号	1983		岩見沢市たまねぎ採種組合	中	並	並	や晩	球	黄銅	や大	並	空知地方

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草姿	抽台	乾腐病	倒伏期	球形	外皮色	球重	貯蔵性	
せ き ほ く	たまねぎ 北海道交第3号	1984		北見農試	立	並	強	や晩	や平	濃黄銅	や大	良	全道一円
北 も み じ	たまねぎ 準移交第8号	1984		七宝探種組合	や立	並	強	中	球	黄銅	中	良	全道一円
レ オ	たまねぎ 準移交第9号	1985		タキイ種苗	中	並	並	中	球	黄銅	中	並	全道一円
ツキヒカリ	たまねぎ 北海道交第4号	1986		北海道農試	や立	並	強	や晩	球	濃黄銅	中	良	全道一円

#### 45 ネギ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性									栽培適地
					分類	分けつ	葉色	葉しよ う部色	1株重	低 温 伸長性	越冬性	収量		
加 賀 太 葱	長ネギ 北海道移第1号	1972	1979	各 社	2年	中～少	濃緑	白	g 200	不良	強	中	全道一円	
札 幌 根 深	108	1973	1979	"	2年	中～少	濃緑	白	200	不良	極強	中	全道一円	
松 本	109	1973	1979	"	2年	中～少	濃緑	白	250	不良	強	中	全道一円	
石 倉	106	1973 (1967)		"	1年	少	緑	白	350	良	弱	多	全道一円	
金 長	107	1973 (1967)		協 和	1年	少	緑	白	350	極良	弱	多	全道一円	
大 雪		1973 (1906)	1979											

#### 46 ホウレンソウ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	株張	葉欠刻	葉柄	作 型	種子形	収量	
キングオブ デンマーク	ほうれん草 北海道輸第1号	1972 (1933)	1979	導 入	半匍	中	無	長	月 6.7	丸	多	全道一円
ノ ー ベ ル	ほうれん草 北海道輸第2号	1972	1979	"	半匍	中	無	短	5.8	丸	多	全道一円
ピロフレ	ほうれん草 北海道輸第3号	1972	1979	"	半匍	大	無	中	4.8	丸	多	全道一円
ミンスター ランド	ほうれん草 北海道第4号	1972		"	半匍	大	多	長	3.9	針	多	全道一円
札 幌 大 葉	ほうれん草 北海道第5号	1972 (1953)		北海道農試	半匍	中	無	短	4.8	丸	多	全道一円
伊 達 在 来	102	1973 (1954)	1987	伊達農園	半匍	大	無～小	中	2～4	丸	中	全道一円
バ イ キ ン グ	103	1973 (1954)	1987	導 入	半匍	中	無	短	5.8	丸	多	全道一円



品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	株張	葉欠刻	葉柄	作 型	種子形	収量	
ニューサッポロ	104	1973 (1970)		雪印種苗	半立	中	中	中	月 4.8	丸	多	全道一円
ニューアジア	105	1973 (1970)		永池育種	立	大	大	長	2~3 9~10	針	中	全道一円

#### 47 セルリー

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草 姿	草 長	葉 色	葉柄色	ス入り	せんい質	収 量	
コーネル 619	110	1973 (1962)		導 入	半立	長	黄 緑	黄 緑	小	小	中多	全道一円
ユ タ 系	111	1973 (1972)	1979	導 入	立	長	緑	緑	小	中	多	全道一円

#### 48 レタス

品 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					分類	球形	シマリ	球重	抽台	耐暑性	耐病性	
ワイヤーヘッド	その他 北海道輪第1号	1972	1979	導 入	半結球			中	遅	強	強	全道一円
ベンレーク	112	1973 (1964)		〃	結球	円	良	や大	遅	中	中	全道一円
グレート レークス	113	1973 (1964)	1987	〃	結球	円	良	大	遅	強	強	全道一円

#### 49 パセリ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草勢	株張	葉色	葉形	耐寒性	日持	収量	
エメラルド1号	その他 北海道輪第4号	1972	1979		強	良	濃緑	縮葉	強	良	中	全道一円

#### 50 アスパラガス

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草丈	太さ	色	先端 しまり	鱗葉	品質	収量	
カリフォルニア500	114	1973 (1966)	1987	導 入	高	太	緑	良	密	良	や多	全道一円
カリフォルニア500W	115	1973 (1966)		導 入	高	太	緑	良	密	良	多	全道一円
北 海	100	アスパラガス 準北海道第3号	1981	北海道農試 ほか	高	太	緑	良	密	良	多	全道一円

51 ダイコン

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草 姿	葉色	根色	根形	根長	収量	作 型	
練馬尻細	だいこん 北海道第1号	1972	1979	各 社	や開張	淡緑	白	円筒 尻細	cm 50	多	秋	全道一円
富 重	だいこん 北海道移第2号	1972 (1924)		"	や立	濃緑	青首	円筒 尻細	60	多	秋	全道一円
時無大根	だいこん 北海道第3号	1972 (1924)	1987	"	半開張	濃緑	白	円錐	30	小	春~夏	全道一円
みの早生系	116	1973 (1954)	1987	"	半開張	濃緑	白	円筒 中太	70	多	秋	全道一円
大 蔵	117	1973 (1970)	1987	石井泰次郎	開 張	淡緑	白	円筒 尻詰	40	多	秋	全道一円
聖 護 院	118	1973 (1970)		各 社	立	淡緑	白	長球	15	多	秋	全道一円
理 想	119	1973 (1970)		みかど	や立	濃緑	白	円筒 尻細	60	多	秋	全道一円
秋 づ ま り	120	1973 (1970)	1979	各 社	や開張	淡緑	白	円筒 尻詰	40	多	秋	全道一円
日 の 出	121	1973 (1970)	1979	各 社	半開張	濃緑	白	円筒	40	中	春~夏	全道一円
(甘日大根) ラビットレッド	その他 北海道輸第5号	1972 (1927)	1979	導 入	立	濃緑	赤	球	2	小	春~秋	全道一円
天 春	だいこん 準移第7号	1983		サカタ種苗	や立	や濃緑	や青首	円錐 中太	30~40	多	初夏~夏	全道一円
耐病総太り	だいこん 準移第8号	1983		タキイ種苗	立	緑	青首	円筒 尻細	30~40	多	秋	全道一円

52 カブ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	葉柄色	根形	根色	成熟 日数	収量	
札 罌 紫	その他 北海道輸第6号	1972 (1924)	1979	導入選抜	立	濃緑	帯紫緑	扁円	紫	50	多	全道一円
大野紅蘇菁	その他 北海道移第7号	1972 (1924)	1979	渡島支場	立	紫紅	鮮紅	扁円	鮮紅	50	多	全道一円
寄居蘇菁	その他 北海道移第8号	1972 (1924)	1979	各 社	立	鮮緑	淡緑	扁円	白	30	中	全道一円
金町小かぶ	122	1973		各 社	立	鮮緑	淡緑	扁円	白	30	中	全道一円

53 ニンジン

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	根 形	根 色	芯の 大小	成熟 日数	収量	
デーリー チャンテネー	にんじん 北海道輸第1号	1972 (1924)	1979	導 入	立	濃緑	長円錐 尻詰	橙	中	日 120	多	全道一円

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	根 形	根 色	芯の 大小	成熟 日数	収量	
中 村 鮮 紅 太	125	1973 (1950)	1979	中村採種	立	濃緑	長円難	濃橙紅	中	120	多	全道一円
5 寸 系	126	1973 (1972)	1979	導 入	立	濃緑	長円難 尻 詰	濃橙紅	中	120	多	全道一円

#### 54 ゴボウ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	根 形	根長	太さ	根色	ナ入り	
札 幌 大 長	その他 北海道第9号	1972	1979	各 社	立	緑	長	cm 80	cm 2.5	褐色	中	全道一円

#### 55 食用ユリ

品 種 名	系統名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培 適地	
						草姿	草丈	花色	球形	球色	球重	苦味		収量
角 田 百 合		ゆり根 北海道第1号	1972	1979		立	cm 80	橙紅	扁球	白	g 100	なし	中	全道一円
北 海 白 百 合	空系1号	ゆり根 北海道第2号	1972 (1965)	1979	空知支場	立	60	橙紅	扁球	白	150	なし	多	全道一円

## VI 飼 料 作 物

#### 56 オーチャードグラス

品 種 名	系統名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
北海道在来種		オーチャードグラス 北海道第1号	1971 (1914)			アメリカか ら導入	早生、茎太く、葉数が多い。 葉幅・葉長大。再生力旺盛	全道一円
フ ロ ード	Frode	オーチャードグラス 北海道第2号	1971 (1958)	1979	スウェーデン	スウェーデン から導入	晩生。多葉型で葉長・葉幅 比較的大。耐寒性大。耐病 性まさる。再生力旺盛。	オーチャード グラス 栽培地帯
キ タ ミ ド リ	月寒在来	オーチャードグラス 北海道第3号	1971 (1969)		北海道農試	集団選抜	早生。草型は中間。再生良 好。オシ葉枯病に強。莖型 病にやや弱。耐寒性。雪腐 病後病に強	全道一円
フロンティア		オーチャードグラス 北海道合第4号	1972		雪印種苗	合成品種法	中生。葉長。葉幅が大。茎 が太い。直立。オシ葉枯病 に強。莖型病にやや弱。多収	全道一円
オカミドリ	北海2号	オーチャードグラス 北海道合第5号	1976		北海道農試	合成品種法	晩生。葉長。葉幅が大。耐 病性大。耐寒性は強。	全道一円
ホクレン改良種		1	1971		ホクレン	集団選抜法	キタミドリとほぼ同様	根節地域 を除く全 道
ヘイキング	雪印 改良1号	2	1971		雪印種苗	集団選抜法	晩生。葉部率が高い。耐病 性は並。	道東地域 を除く全 道
ドリーゼ	Dorise	4	1971		オランダ	オランダか ら導入	中生。葉部率が高い。葉は 繊細。	道東地域 を除く全 道

品 種 名	系統名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
フィロックス	Phyllox Daehnfeldt	5	1971		デンマーク	デンマーク から導入	中生、葉数多、耐寒性、永 続性やや弱。	道東地域 を除く全 道
マスハーディ	Massbardy	6	1971	1986	アメリカ	アメリカか ら導入	晩生、大粒菌核病に強、異 形病に強、耐寒性大。	道東地域 を除く全 道
ケ イ	Kay	175	1978		カナダ	カナダから 導入	晩生、葉長、葉幅が大、葉 が太い、大粒菌核病および 小粒菌核病に強。	道東地域 を除く全 道

## 57 チモシー

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
クライマックス	Climax	チモシー 北海道第1号	1971 (1962)	1979	カナダ	カナダから 導入	採草型、中生、多葉性、黒 さびに強、再生良好	全道一円
北 王 (ホクオウ)	雪印 改良1号	チモシー 北海道第2号	1971 (1969)		雪印種苗	集団選抜法	採草型、早生、耐病性大、 多収	全道一円
センボク	北系 4305	チモシー 北海道第3号	1971 (1969)		北見農試	集団選抜法	採草型、早生、強悍、耐倒 伏性、多葉性、再生力良、 耐病性大、多収	全道一円
ノ サ ッ プ	北見2号	チモシー 北海道第4号	1977		北見農試	合成品種法	採草型、早生、葉が太い、 多葉性、再生良好、耐病性 大	全道一円
ホクシュウ	北見7号	チモシー 北海道第5号	1977		北見農試	集団選抜法	ほふく型、晩生、耐病性大 再生良好、採草・放牧兼用	全道一円
ホクレン改良種		7	1971		ホクレン	集団選抜法	採草型、早生、耐病性大、 多収	全道一円
ハイデミー (ノースランド)	Heidemij	8	1971		オランダ	オランダか ら導入	ほふく型、晩生、分けつ数 多い、耐病性弱	全道一円
ク ン プ ウ	北見11号	チモシー 北海道第6号	1980		北見農試	母系選抜法	極早生、直立型、再生良好、 多収	全道一円
ホクセン	ホクセン 2号A		1981		雪印種苗	合成品種法	中生、直立型、採草用	全道一円

## 58 イタリアンライグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
ビリオン	Billion	11	1971		オランダ	オランダか ら導入	春播性高い、早生、生育期 間は短い、直立型、稈は大 く、葉幅が広い、斑点病強。	全道一円
マンモス イタリアンB		12	1971		雪印種苗	倍数性育種 法 母系選抜法	春播性高い、早生、生育期 間は短い、直立型、稈は太く、 葉が大きい、冠さび病に弱	全道一円

## 59 ペレニアルライグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
リベール	Reville	168	1978		オランダ	オランダから導入	中生の晩、葉幅広く、茎は太い、耐病性强、再生良好	道北、道央 道南地域**
ピートラ	Petra	169	1978		オランダ	オランダから導入	極晩生、再生良好、耐病性强、雪ぐされ大粒菌核病には弱	道北、道央 道南地域**
フレンド*		170	1978		雪印種苗	集団選抜法	晩生、葉幅は広い、冠さび病強、雪ぐされ病弱	道北、道央 道南地域**

\*フレンドは「マンモス」を1979年に改名したもの。

\*\*ただし、土壤凍結のない冬枯れの少ない地帯に限る。

## 60 メドーフェスク

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
レトー デンフェルト	Leto Daehfeldt	13	1971	1980	デンマーク	デンマークから導入	早生、直立型、網斑病に強	全道一円
タミスト	Tammisto	171	1978		フィンランド	フィンランドから導入	出穂始は「レトー」よりやや遅い、越冬性は良、耐病性は並	全道一円
トレーダー	Trader	172	1978		カナダ	カナダから導入	出穂始は「レトー」よりやや遅い、越冬性は並、耐病性は並、再生良好	全道一円
ファースト	雪印 合成1号	173	1978		雪印種苗	合成品種法	出穂始は「レトー」並、越冬性は並、耐病性は並、再生良好	全道一円
バンディ	Bundy		1970		オランダ	オランダから導入	中晩生、開張型、採草・放牧及び兼用種	道央・道南 地域

## 61 トールフェスク

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
ホクリョウ*	農林合1号	トールフェスク 北海道合第1号	1972		北海道農試	合成品種法	晩生、草丈高く多葉性、経斑病に強、雪腐病に強、夏枯に弱、多収	全道一円
ヤマナミ*	農林合2号	トールフェスク 北海道合第2号	1972		北海道農試	合成品種法	極早生、葉の病害に強、雪腐病に弱、夏枯れに強、多収	全道一円
ケンタッキー 31	Kentucky 31	14	1971		アメリカ	アメリカから導入	早生、草質は粗剛、越冬性はやや弱	全道一円

## 62 ケンタッキーブルーグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
ケンブルー	Kenblue	15	1971		アメリカ	アメリカから導入	早生、茎が密生、さび病に弱、多収	全道一円
トロイ	Troy	174	1978		アメリカ	アメリカから導入	早生、さび病にやや強、めん羊の採食は不良、春先の草勢がすぐれ秋季の草勢低下が小	全道一円

## 63 リードカナリーグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
アイオリード		9	1971		アメリカ	アメリカから導入	草丈が高く粗剛、嗜好性は劣る。	全道一円

## 64 マウンテンブロームグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
テ イ ネ		10	1971		雪印種苗	母系選抜法	早生、病害抵抗性は強、多収	道央地域

## 65 ハイブリットライグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
テトリライト	Tetrelite		1984		アメリカ	アメリカから導入	草丈高く直立型、晩生、再生良好、多収	道南地方で越冬条件の良好な地域

## 66 アカクローバ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
サ ッ ポ ロ	月系37-1	クローバ類 北海道第1号	1971 (1966)		北海道農試	集団選抜法	早生、葉は大きく葉斑は鮮明、再生は良好、耐病性強、小粒菌核病にやや弱、多収	全道一円
ハ ミ ド リ		クローバ類 北海道第2号	1971 (1966)		雪印種苗	集団選抜法	早生、冬枯に強、葉割病にやや強、さび病抵抗性は並	全道、特に道北地域
レッドヘッド	Red Head	クローバ類 北海道輪第3号	1972		オランダ	オランダから導入	早生の晩、葉は大きく、葉斑はやや不鮮明、草姿は巨大、耐病性はやや強	道央、根釧地域
ハ ヤ キ タ			1979		ホクレン オランダ共	倍数体利用 集団選抜	早生、4倍体。草丈はやや高く葉斑はやや不鮮明。倒伏が少く、耐病性は強い。	根 釧
ハミドリ4n			1979		雪印種苗	倍数体利用 集団選抜	早生、4倍体。草丈は中位で葉は大きく、葉斑はやや不鮮明。越冬性良好、多収	十勝を除く全道

## 67 シロクローバ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
カリフォルニアラジノ	California Landino	ラジノクローバ 準輪第1号	1971		アメリカ	アメリカから導入	ほふく茎の密度が大、開花期が早い。	全道一円
ミ ル カ	Milka Pajberg	20	1971		デンマーク	デンマークから導入	冬枯に強く、放牧適性が大、コモン型	道北、道東
フ イ ア	Grasslands Huia	21	1971		ニュージーランド	ニュージーランドから導入	葉は大きく、密性、多収。耐病性強、再生力良好、コモン型	道央、道南
ロディギァノ	Ladino Gigante Lodigiano	ラジノクローバ 準輪第3号	1975	1986	イタリア	イタリアから導入	葉は大きく、葉柄は長く、ほふく茎も太い巨大型、多収、ラジノ型。	全道一円
リーガル	Regal	ラジノクローバ 準輪第3号	1975		アメリカ	アメリカから導入	耐寒性、耐旱性は強、耐病性は強、多収、ラジノ型	全道一円

## 68 アルサイク クローバ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
エ ル モ	Ermo Otofte		1981		デンマーク 植物育種会 社	集団選抜法	早生, 春の草勢は良好, 再生 は不良, 越冬性は並	道 央
テ ト ラ	Tetra		1981		スエーデン W.Waibull 社	倍数性育種 法	晩生, 春の草勢は良好, 再生 は不良, 越冬性は並	道東・道北

## 69 アルファルファ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
デュピュイ	Du Puits	アルファアルファ 北海道輪第1号	1971 (1958)	1979	フランス	フランスか ら導入	早生, 紫花種, 草型は直立, 葉部病害抵抗性大, 冬枯れ 少, 多収。	全道一円
サラナック	Saranac	アルファアルファ 北海道輪第2号	1971		アメリカ	アメリカか ら導入	中生, 草型は直立, 紫花種, 耐病性強, 冬枯れ少, 多収。	道北, 道央 のアルファ アルファ栽培 可能地帯
ウィリアムス バーグ	Williamsburg	18	1971	1978	アメリカ	アメリカか ら導入	同 上	同 上
アルファ	Alfa	17	1971	1986	スウェー デン	スウェー デンから導入	早生, 紫花種, 草型は直立。 耐病性強, 冬枯れ少, 多収。	道北・道央
ヨーロッパ	Europe	150	1975		アメリカ	フランスか ら導入	早生, 紫花種, 草型は直立, 倒伏に強い, 多収。	根拠地域を 除く全道
ソア	Thor	167	1978		アメリカ	アメリカか ら導入	中生, 紫花種, 草型は直立, 耐病性強, 冬枯れ少, 多収。	全道一円
クタワカバ	月系0201	アルファアルファ, 北 海道輪第3号, アル ファアルファ, 農研 会3号, 第214号	1983		北海道農試	多数栄養系 合成品種法	越冬性・水溶性良好, 耐倒伏性やや 弱, 耐病性良好, いぼ斑病耐病抵抗 性, パーティシウム萎ちよう病 への抵抗性はやや弱い。	全道一円
サイテーション	Citation		1984		アメリカ	合成品種法	直立型, 中生, 越冬性にやや優れ, 草勢の草勢良好, 耐倒伏性はやや 弱い, 耐病性に強いが, ソバカス 病・イボ斑病・パーティシウム萎 ちよう病にやや弱い。	全 道
リュテス	Lutèce		1985		フランス	間合せ中	早生, 直立型, 茎太く, 耐倒伏性, パーティシウム萎ちよう病に強 い, ソバカス病等の葉枯れ病害に 強い, ソアよりやや低収。	パーティシ リュウムの 萎ちよう病 発生地帯

## 70 バーズフットトレフォイル

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
バイキング	Viking	22	1971	1978	アメリカ	アメリカか ら導入		

## 71 飼料用ビート

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
シュガー マンゴールド	Sugar Nangold	飼料ビート 北海道産第1号	1971 (1939)		北 海 道	デンマークから導 入	多収、肉質ち密で乾物多く、貯 蔵性に富む

## 72 飼料かぶ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
紫 丸 蕪 菁		飼料用かぶ 北海道 第1号	1971 (1931)		北 海 道	デンマークから導 入	早生であり、比較的低温でもよく 大する。肉質は食用かぶに比して硬 いが、飼料かぶのなかでは比較的軟 かく、根部の乾物率も低い。貯蔵性も 低い。

## 73 ルタバガ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 性
ネムロルタバガ		ルタバガ 北海道 第1号	1971 (1954)		根室支場	集団選抜法	白腐病に対して強く、収量は 年次偏差少なく多収、肉質は 硬い
マゼスキック 1号		ルタバガ 北海道 第2号	1971 (1959)		根室支場	集団選抜法	白腐病にはかなり強く多収、 肉質はルタバガとしてはやや 軟かい
グリーントップ	Green top	40	1971 (1963)		オランダ スウェーデン		根部にき裂を生じやすく、白 腐病罹病性はやや高いが、根 腐病には極めて強抵抗性を示 す



草丈	葉数	根形	根色		肉色	その他	栽培適地
			地上部	地下部			
中	中	紡錘形	緑	白	白	根部4割露出	全道一円

姿勢	葉色	葉柄色	根形	根色		肉色	肉質	その他	栽培適地
				地上部	地下部				
直立	緑	淡紫色	球	紫	白	白	軟	根部4~5割露出	全道一円

姿勢	葉色	葉柄色		頸長	頸色	根形	根色		肉色	側根の多少	その他	栽培適地
		生育期	収穫期				地上部	地下部				
中間	緑	下部 淡赤紫	下部 赤紫	中	暗紫	球	赤紫	白	白	少	根部2/5~1/2露出	全道とくに根頸の内陸部の白腐病多発地帯
や直立	や淡緑	下部極 淡赤紫	下部 淡赤紫	長	暗紫	円錐	鮮赤紫	クリーム	クリーム	少	根部1/2~2/3露出	全道とくに根頸の白腐病の多発しない地帯
や開張	淡緑	黄白色	淡黄緑	短	黄緑	や球形	黄緑	クリーム	クリーム	中	根部2/5~1/2露出	根頸、天北で根腐病多発地帯に適す

# 北海道農作物優良品種認定要領

( 稲 作 第 28 号 )  
 ( 昭 和 60 年 1 月 25 日 )

## 第 1 目 的

北海道における農作物の優良な品種（以下「優良品種」という。）を選定して、その品種名及び特性を登録することにより広く周知するものとする。

## 第 2 優良品種の区分

優良品種は、奨励品種と準奨励品種に区分し、それぞれ次のものとする。

1. 奨励品種は、その育成経過が示されており、品種特性等の保持が保証されるものとする。
2. 準奨励品種は、試験箇所数、試験期間等が十分でないが緊急に普及することが必要なもの又はその育成経過が示されていないものとする。

## 第 3 優良品種の登録と公表

道は、優良品種として認定しようとする場合は、北海道種苗審議会の議を経て行うものとし、これを廃止しようとする場合も同様とする。

2. 1 により認定又は廃止したものについては、優良品種登録台帳に登載するとともに、次により公表するものとする。

- (1) 北海道公報への登載
- (2) 関係者に対する通知
- (3) 印刷物の配布

3. 前項の登録台帳の様式は、別記 1 号様式及び 2 号様式のとおりとする。

## 第 4 登録番号

登録番号は、農作物の種類ごとに次のとおりで育成地域等を示すとともに、一連番号を附するものとする。

区 分	登 録 番 号 (例)	
	奨 励 品 種	準 奨 励 品 種
道内において育成されたもの	大豆北海道第 号	大豆準北海道第 号
都府県から移入され、あるいは外国から輸入されたもの	たまねぎ移(輸)第 号	たまねぎ準移(輸)第 号
水稻における「うるち」、「もち」その他これに類する区分があるもの	水稻北海道うるち第 号	水稻準北海道うるち第 号
育種方法及び採種方法を明らかにする必要があるもの (例)		
1 1代雑種であるもの	とうもろこし北海道交 第 号	とうもろこし準北海道準交 第 号
2 合成品種であるもの	てん菜北海道合 第 号	てん菜準北海道合 第 号

## 第5 農作物の種類

農作物の種類は、別表によるものとする。

### 附 則

1. この要領は、昭和60年1月25日から施行する。
2. 北海道農作物奨励品種登録要領並びに北海道農作物準奨励品種記録要領（昭和46年3月15日付け農産第253号）を廃止する。
3. 上記要領に基づき既に認定された品種は、それぞれこの要領に基づく優良品種と見なすこととする。

## 既刊「北海道立農業試験場資料」一覧

- 第7号 昭和51年北海道水稻冷害要因の技術解析  
北海道立中央農業試験場（昭和52年8月）
- 第8号 北海道農用地の土壌成分  
北海道立中央農業試験場（昭和52年12月）
- 第9号 農作物優良品種の解説  
北海道立中央農業試験場（昭和54年3月）
- 第10号 北海道の農牧地土壌分類 第2次案，北海道土壌分類委員会編  
北海道立中央農業試験場（昭和54年7月）
- 第11号 北海道の有機性廃棄物の性状と化学成分  
北海道立中央農業試験場（昭和55年3月）
- 第12号 「昭和56年8月豪雨」の農作物被害解析  
北海道立中央農業試験場（昭和57年2月）
- 第13号 ダイスわい化病抵抗性品種の探索  
北海道立中央農業試験場（昭和57年7月）
- 第14号 北海道農業の現状と将来—試験研究からの展望—  
北海道立中央農業試験場（昭和57年9月）
- 第15号 北海道における水稻，小麦の良質品種早期開発  
北海道立中央農業試験場（昭和57年12月）
- 第16号 分析成績表（第2編）  
北海道立中央農業試験場（昭和59年3月）
- 第17号 昭和55年から58年の4年連続異常気象と水稻生育の解析技術  
北海道立中央農業試験場（昭和60年3月）

## 北海道立農業試験場資料 第18号

### 農作物優良品種の解説(1978—1986)

昭和62年2月28日 発行

編 集 北海道立中央農業試験場  
発 行 069-13 北海道夕張郡長沼町

印刷所 株式会社 共同印刷  
札幌市中央区北3条東5丁目  
(011)241-9341

ISSN 0386-6211